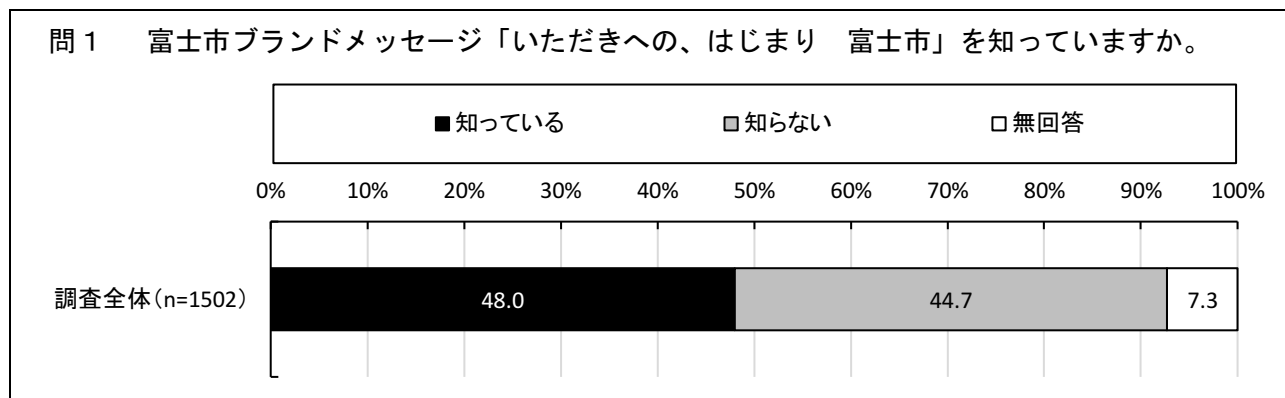


## IV 調査結果

### 「ブランドメッセージ」について

#### (1) ブランドメッセージの認知度

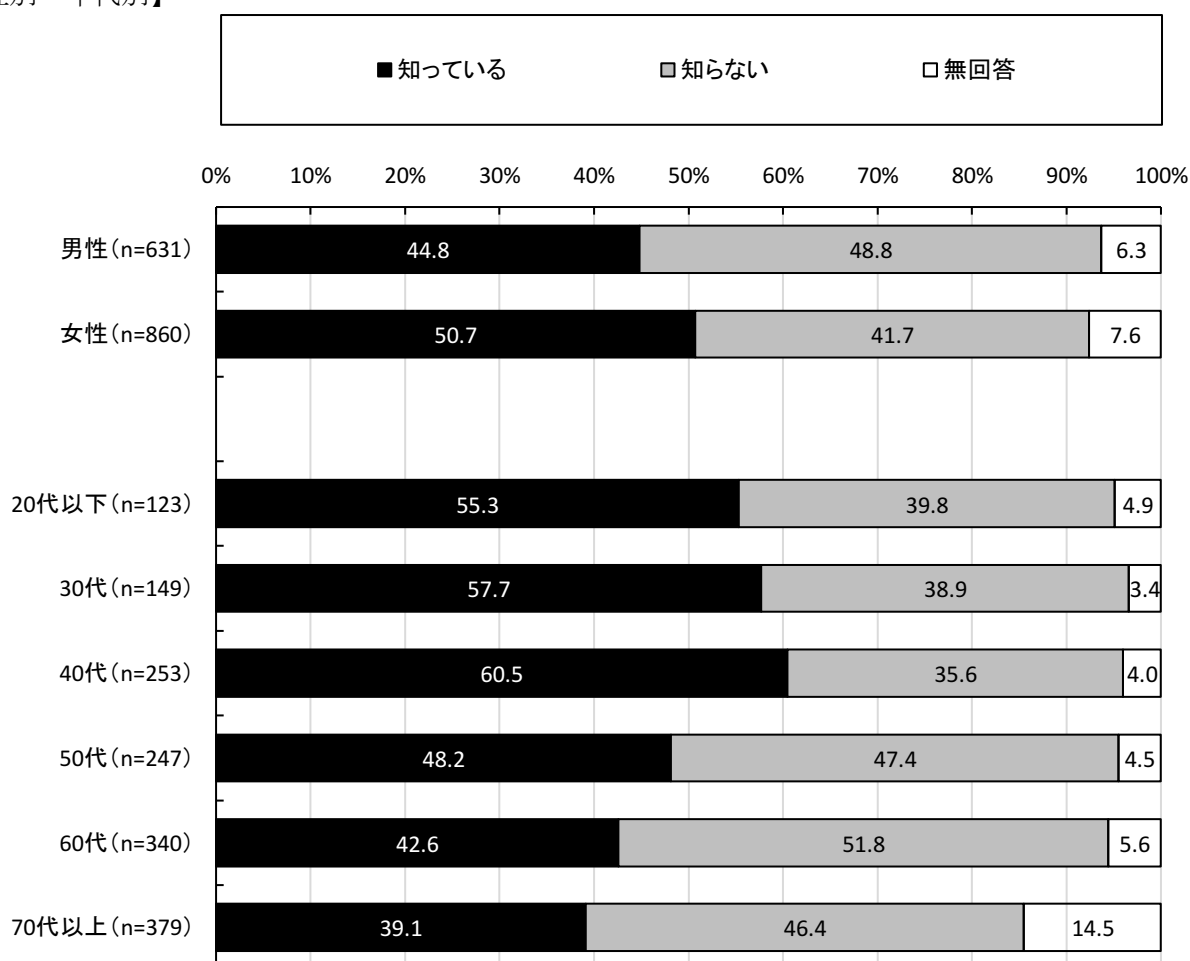


富士市のブランドメッセージの認知度について尋ねたところ、「知っている」は48.0%、「知らない」は44.7%となった。

男女別に見ると、認知度は男性が44.8%、女性が48.8%で、女性のほうがやや高い結果となった。

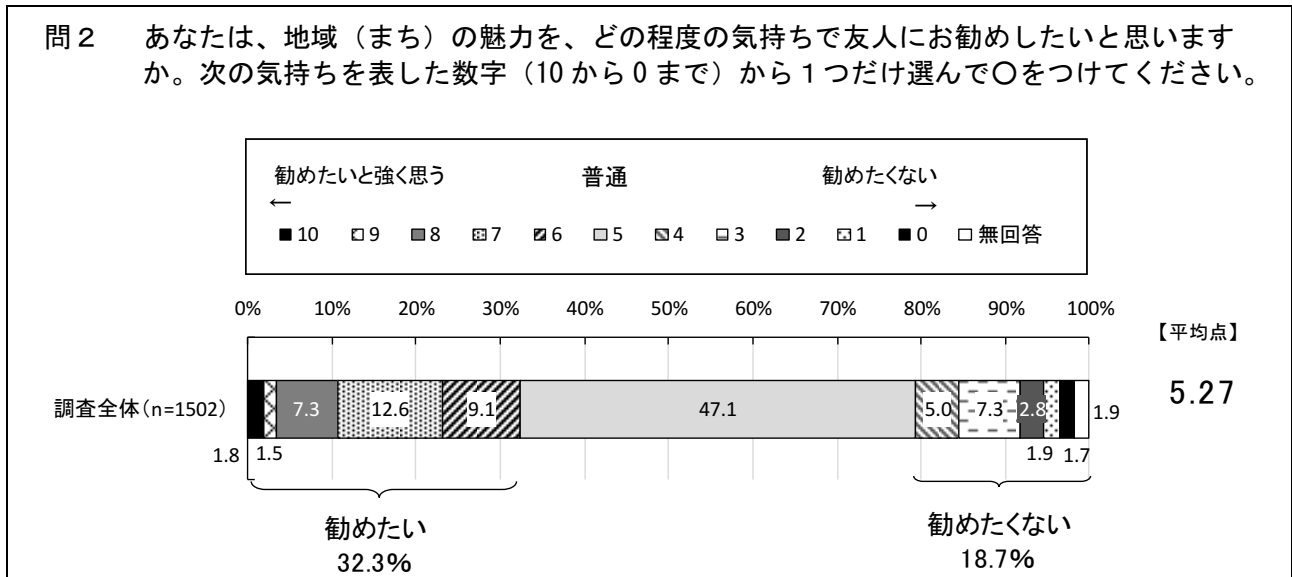
年代別に見ると、認知度は20代以下～40代で半数以上となっている一方、60代以上では「知らない」が「知っている」を上回った。

#### 【性別・年代別】



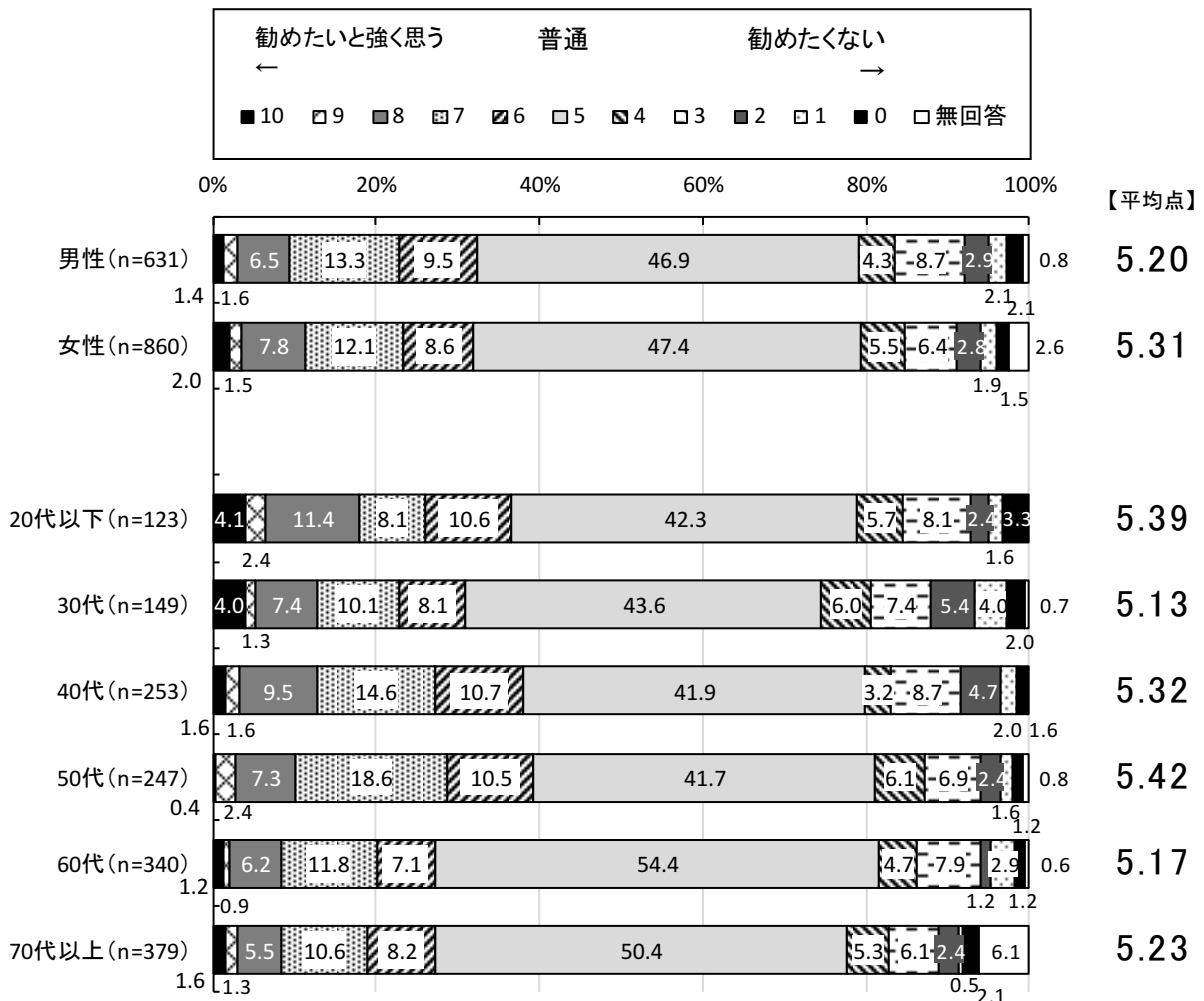
IV 調査結果

(2) 地域の魅力の推奨意欲 (10点評価)



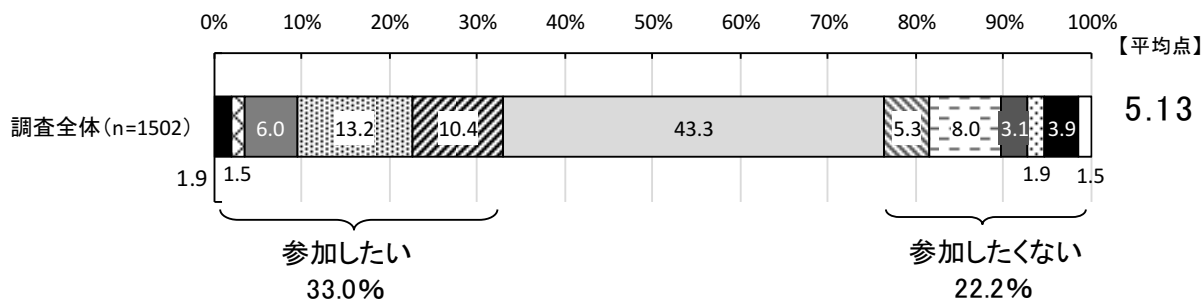
地域の魅力の推奨意欲について尋ねたところ、「10～6」の“勧めたい”割合が 32.3%、「4～0」の“勧めたくない”割合が 18.7%で、平均点は 5.27 となっている。  
男女別に見ると、平均点は男性 5.20、女性 5.31 で女性のほうが高い。  
年代別に見ると、50代の平均点が 5.42 と最も高くなっている。

【性別・年代別】



(3) 地域活動の参加意欲 (10点評価)

問3 あなたは、地域(まち)をよくする活動に、どの程度の気持ちで参加したいと思いますか。次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。

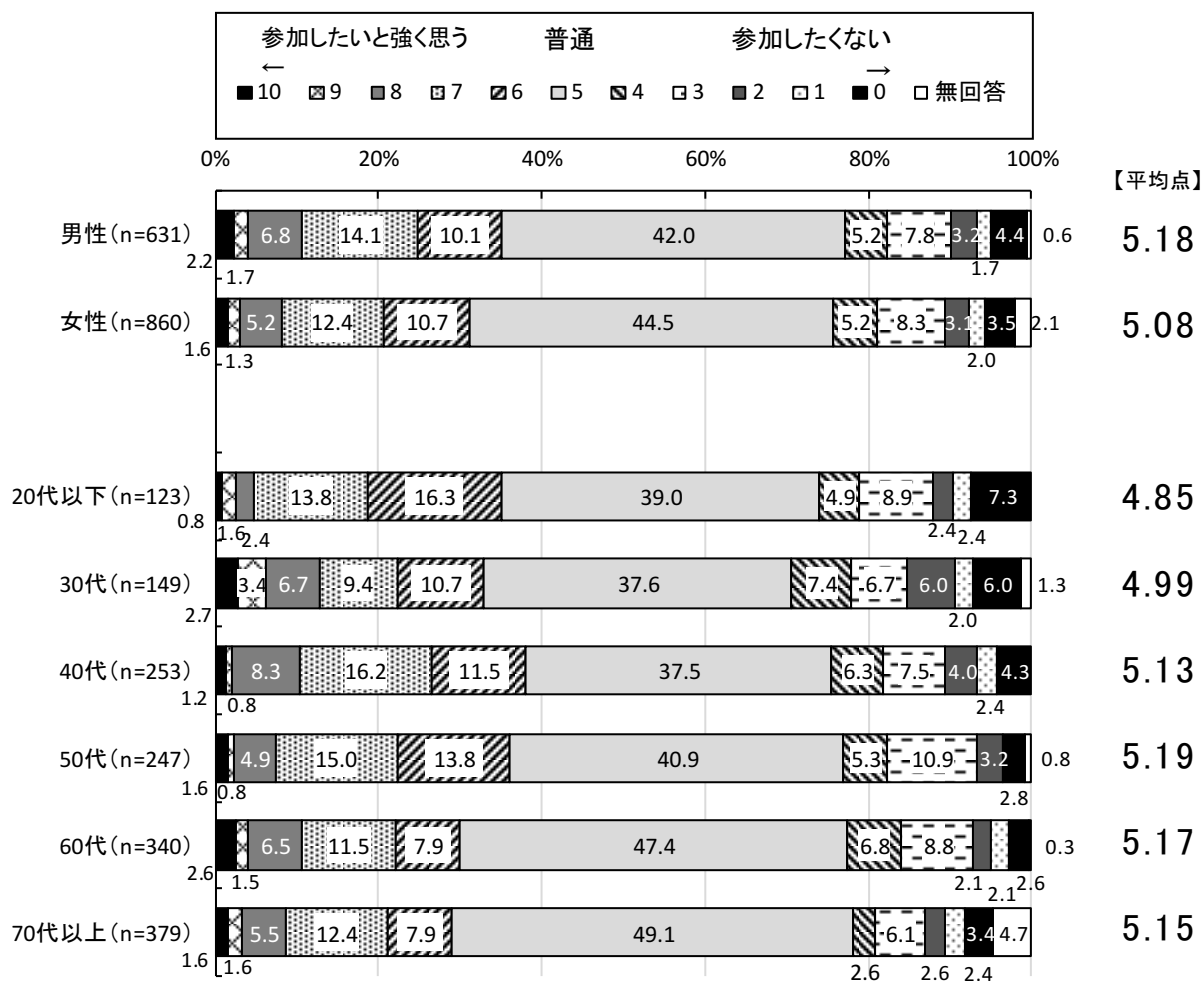


地域活動の参加意欲について尋ねたところ、「10～6」の“参加したい”割合が33.0%、「4～0」の“参加したくない”割合が22.2%で、平均点は5.13となっている。

男女別に見ると、平均点は男性5.18、女性5.08で男性のほうが高い。

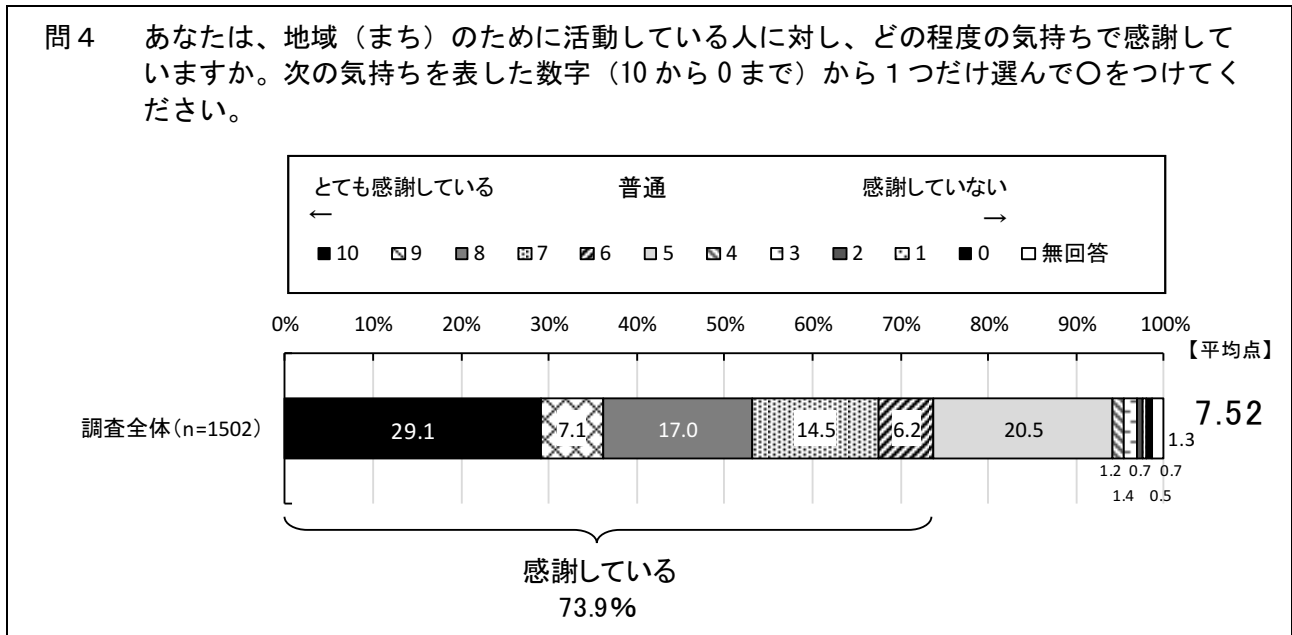
年代別に見ると、50代の平均点が5.19と最も高かった。

【性別・年代別】



IV 調査結果

(4) 地域活動をしている人への感謝意欲 (10点評価)

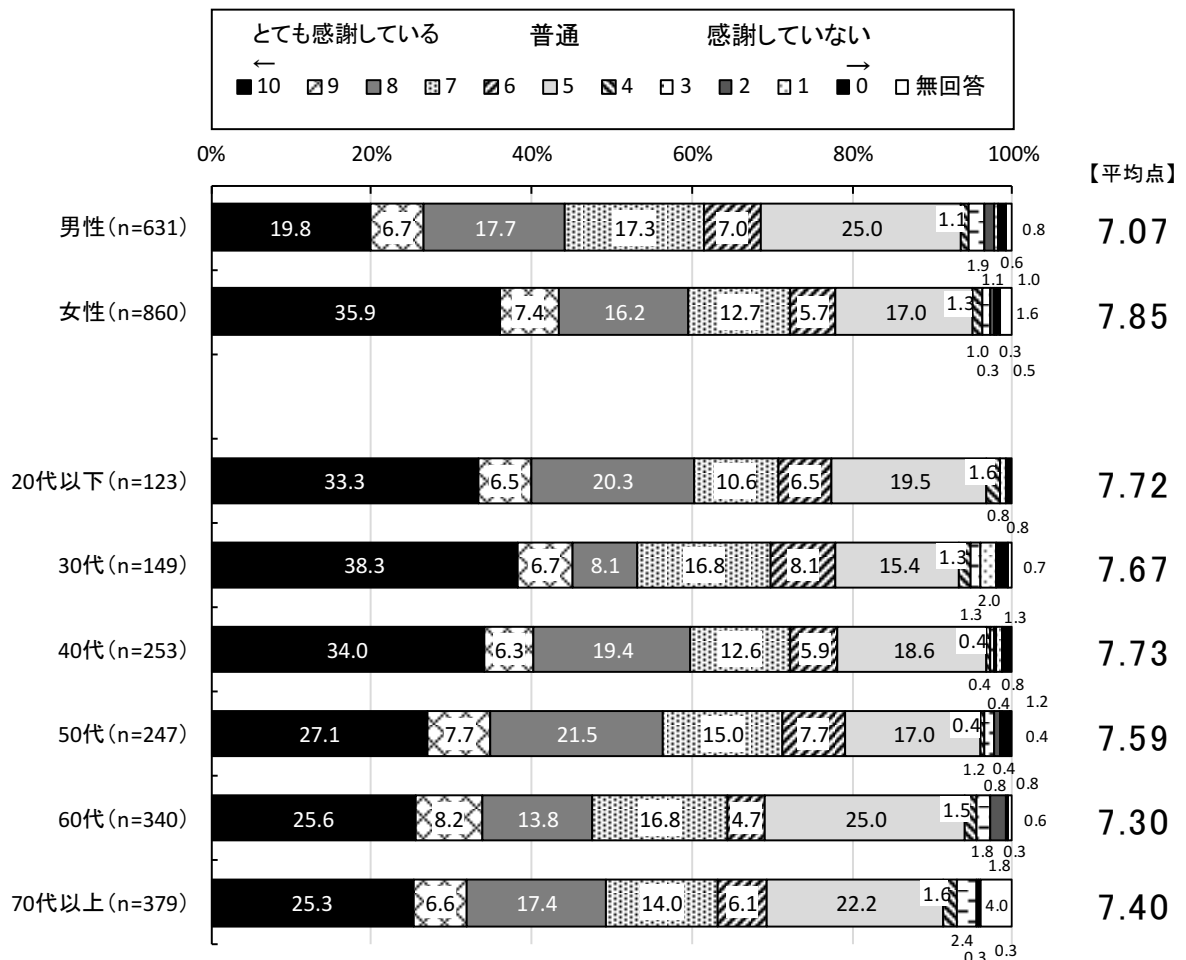


地域活動をしている人への感謝意欲について尋ねたところ、「10～6」の“感謝している”割合は73.9%を占め、平均点は7.52となっている。

男女別に見ると、「10 とても感謝している」は男性で19.8%、女性で35.9%と男性より女性が高く、平均点も男性7.07、女性7.85で女性の点数が上回った。

年代別に見ると、40代が平均点7.73と最も高かった。

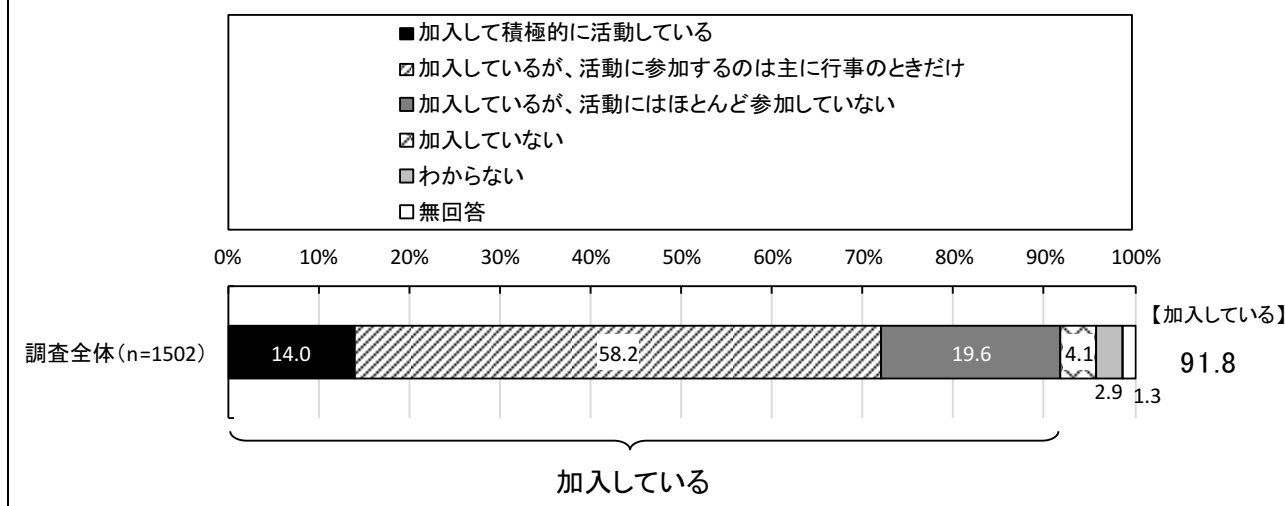
【性別・年代別】



## I 「住民主体のまちづくり」について

## (1) 町内会・区（自治会）への加入状況

問5 あなたの世帯は、町内会・区（自治会）に加入していますか。また、どのように活動していますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

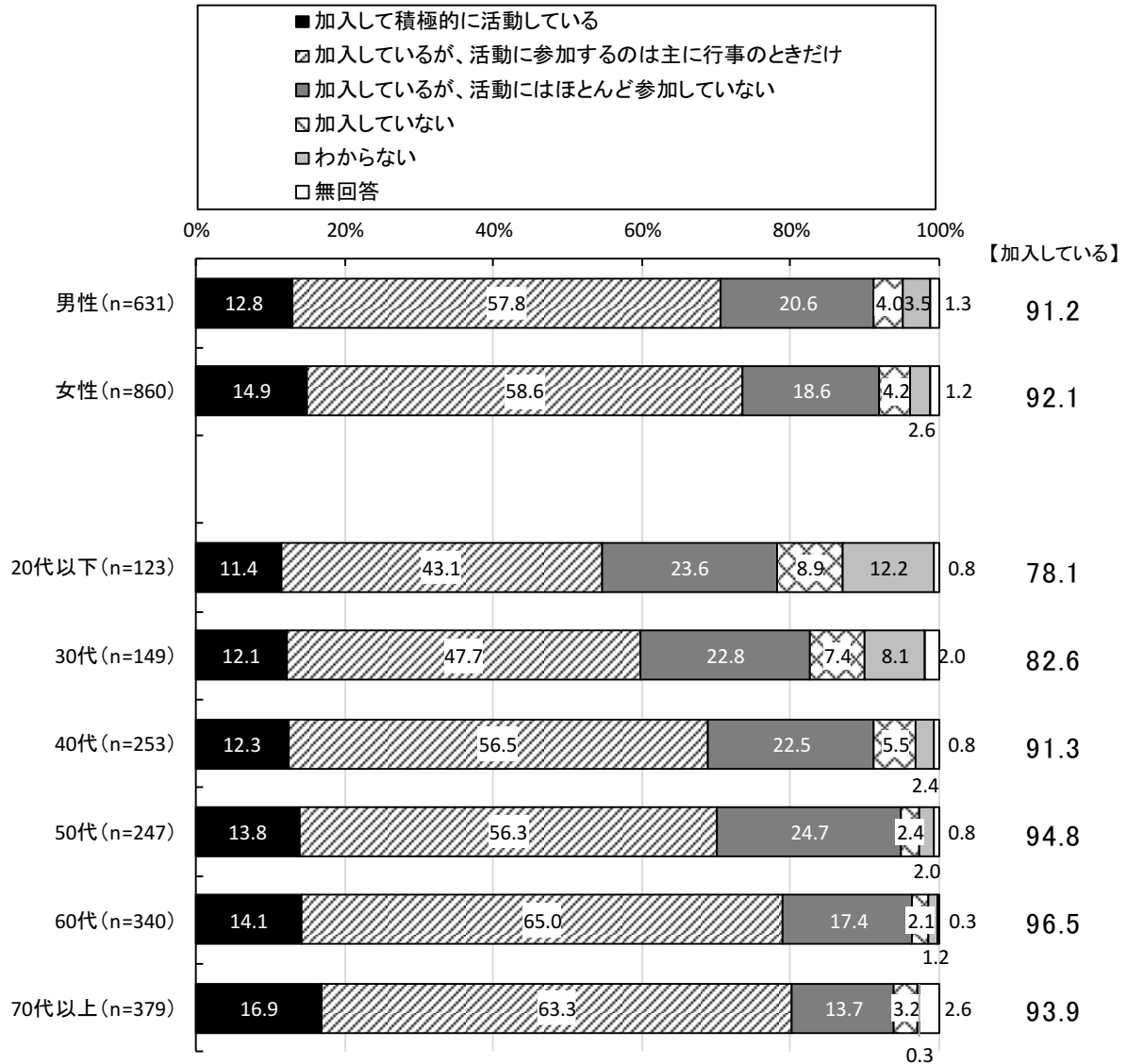


町内会・区（自治会）への加入状況について尋ねたところ、「加入していて積極的に活動している」が 14.0%、「加入しているが、活動に参加するのは主に行事のときだけ」が 58.2%、「加入しているが、活動にはほとんど参加していない」が 19.6%で、それらをあわせた“加入している”割合は 91.8%となった。

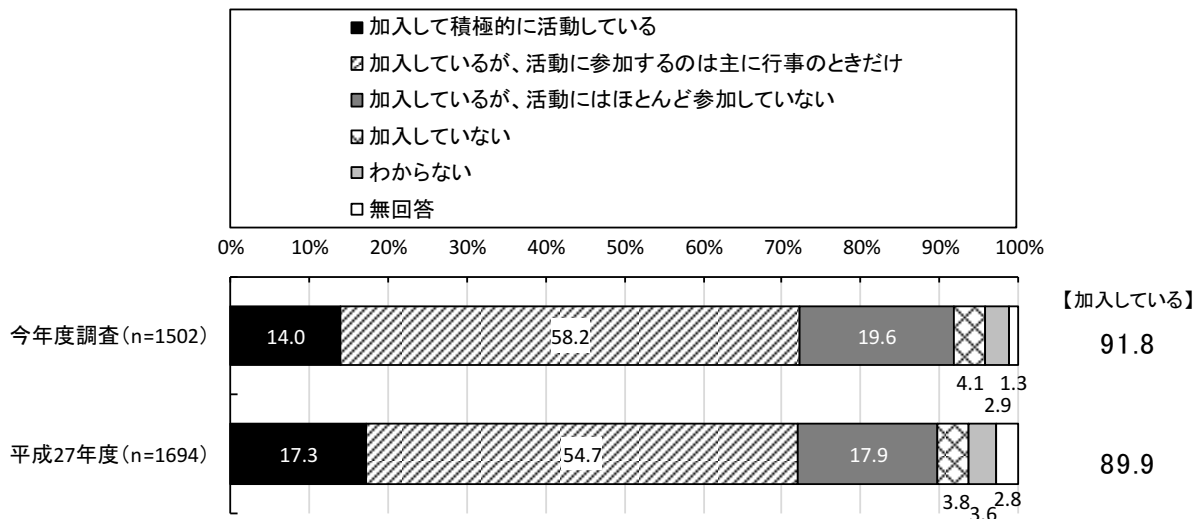
男女別に見ると、“加入している”割合は、男性で 91.2%、女性で 92.1%と女性のほうが高い。年代別に見ると、“加入している”割合は、60代で 96.5%と最も高い。

IV 調査結果

【性別・年代別】



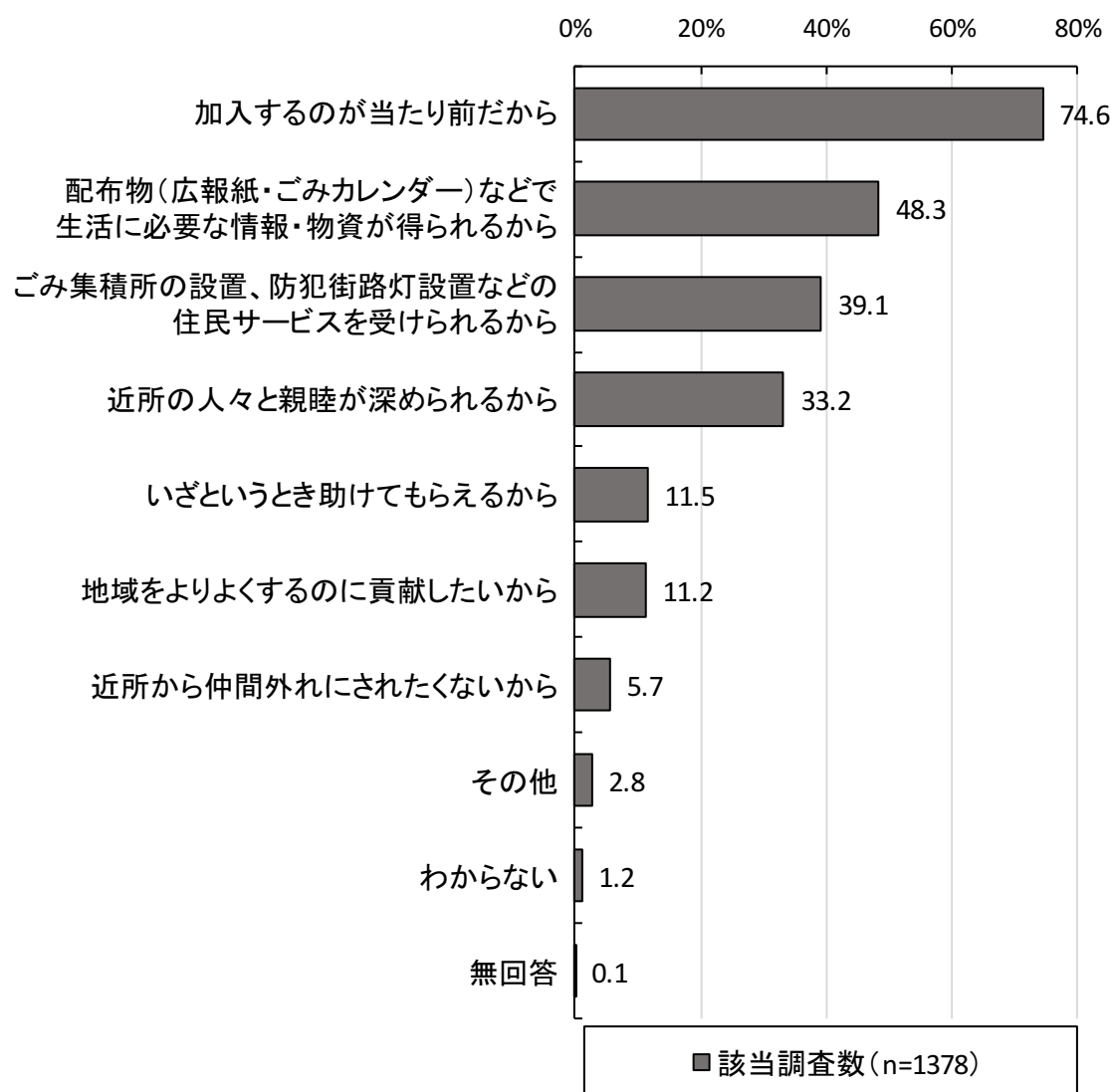
【経年比較】



## (2) 町内会・区（自治会）への加入理由

〈問5で1～3「加入している」と答えた人に伺います〉

問5-1 あなたの世帯が、町内会・区（自治会）に加入している理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



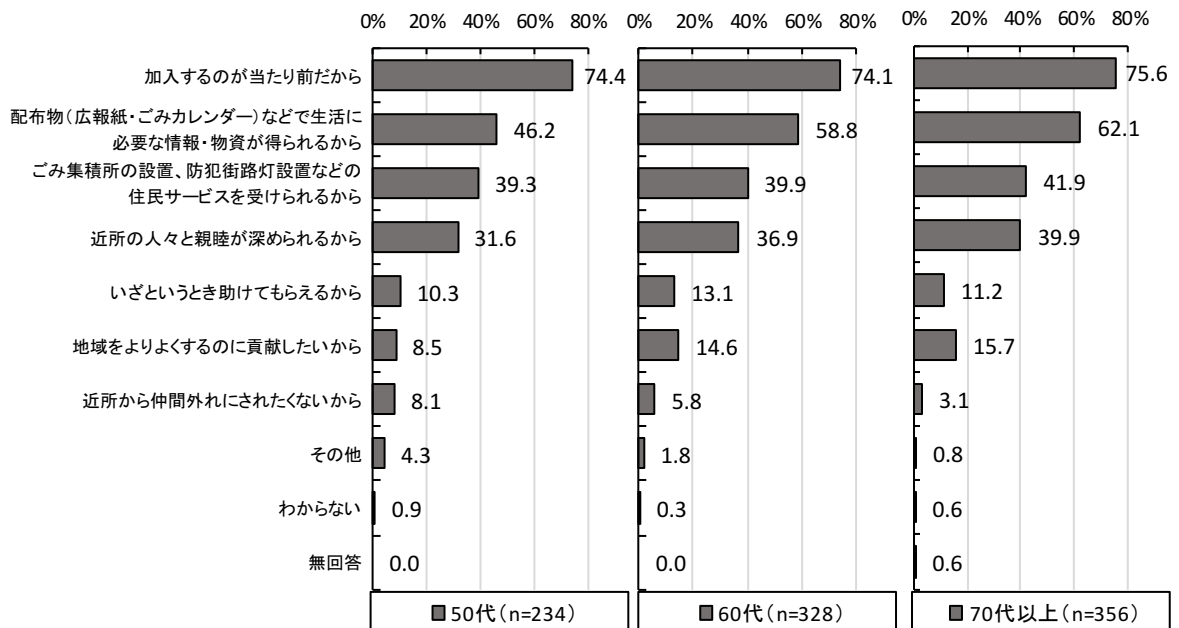
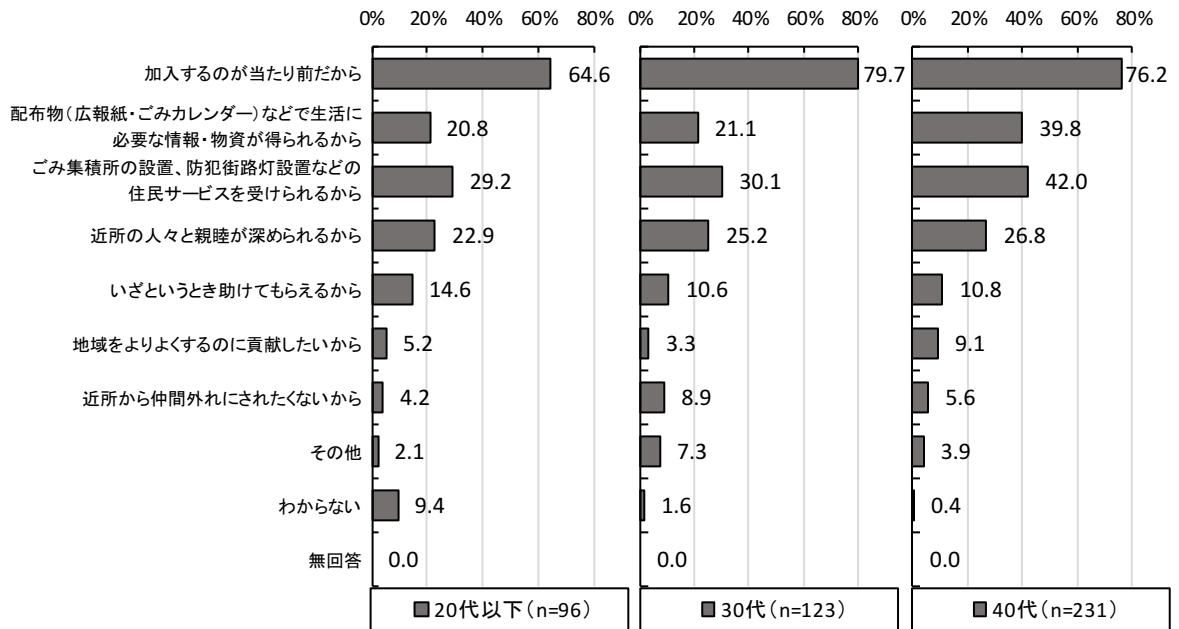
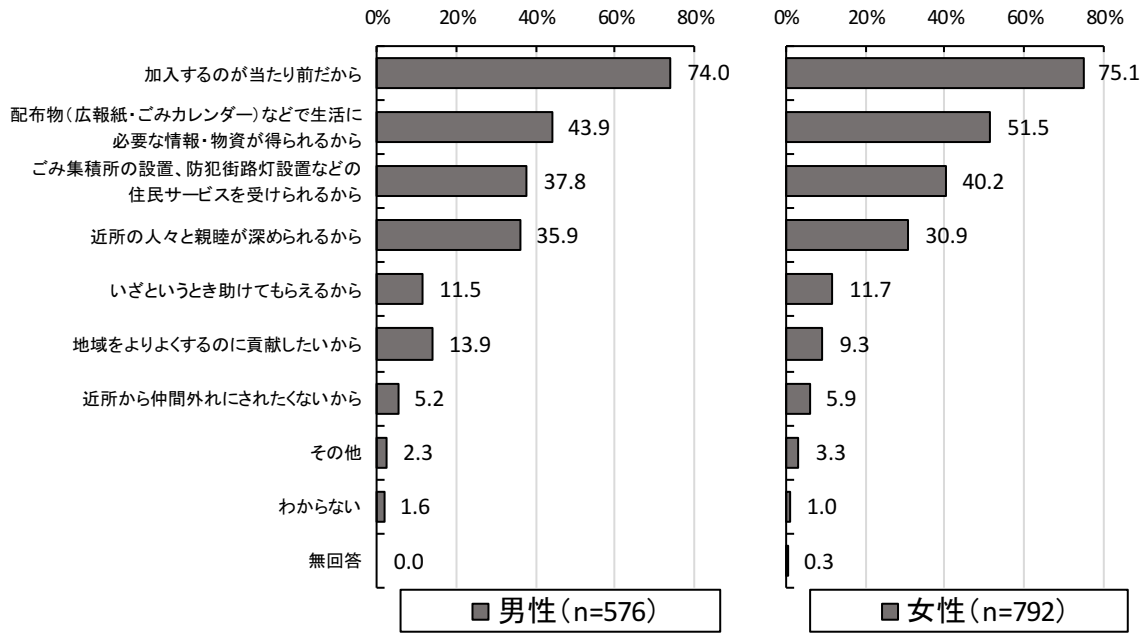
町内会・区（自治会）への加入理由について尋ねたところ、「加入するのが当たり前だから」が74.6%で最も高く、次いで「配布物（広報紙・ごみカレンダー）などで、生活に必要な情報・物資が得られるから」が48.3%、「ごみ集積所の設置、防犯街路灯設置などの住民サービスを受けられるから」が39.1%の順となっている。

男女別に見ても、上位3項目の順位は変わらない。

年代別に見ると、「加入するのが当たり前だから」は全世代で最も高く、特に30代では79.7%と8割近い数値となった。

IV 調査結果

【性別・年代別】

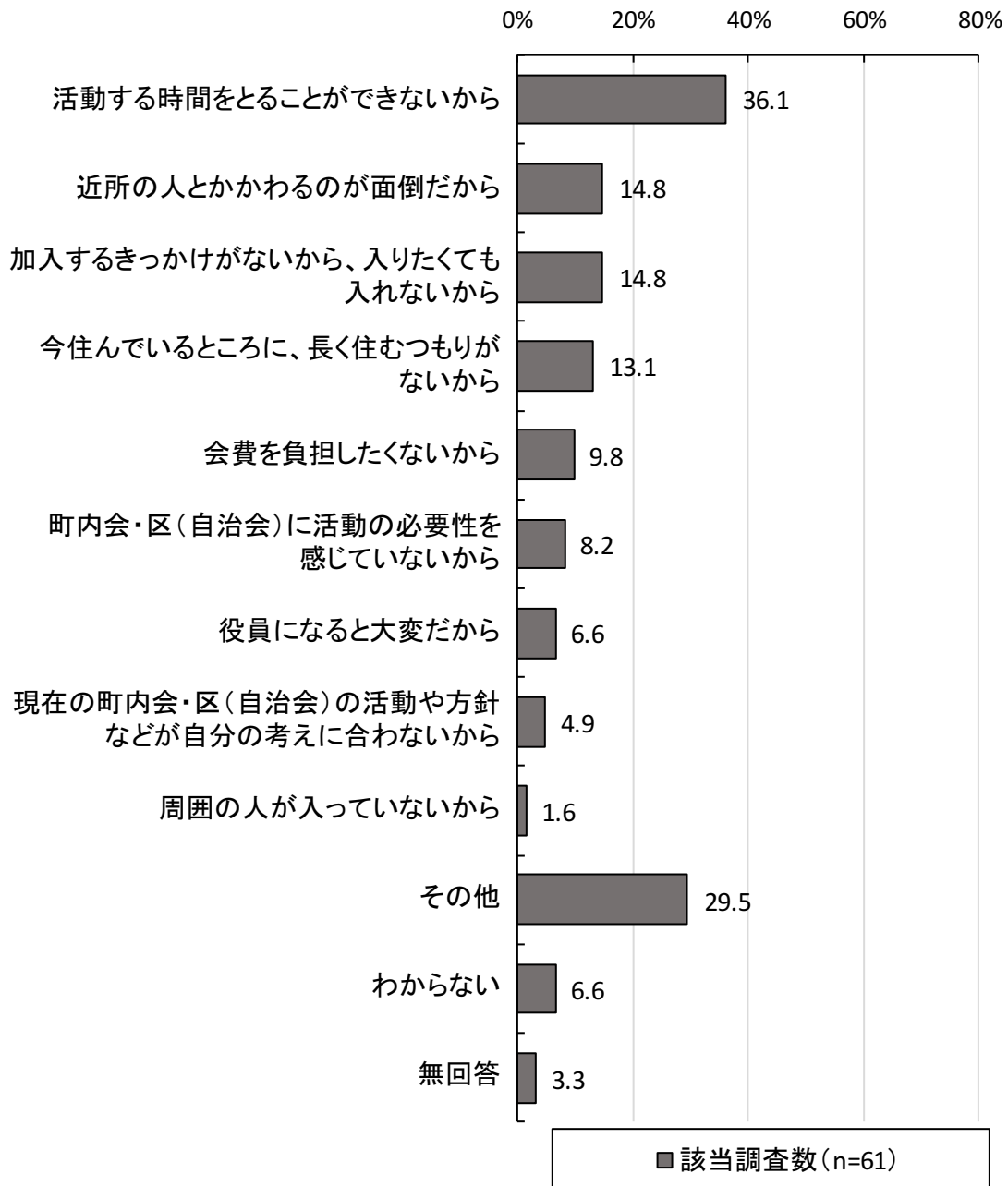




## (3) 町内会・区（自治会）へ加入しない理由

〈問5で4「加入していない」と答えた人に伺います〉

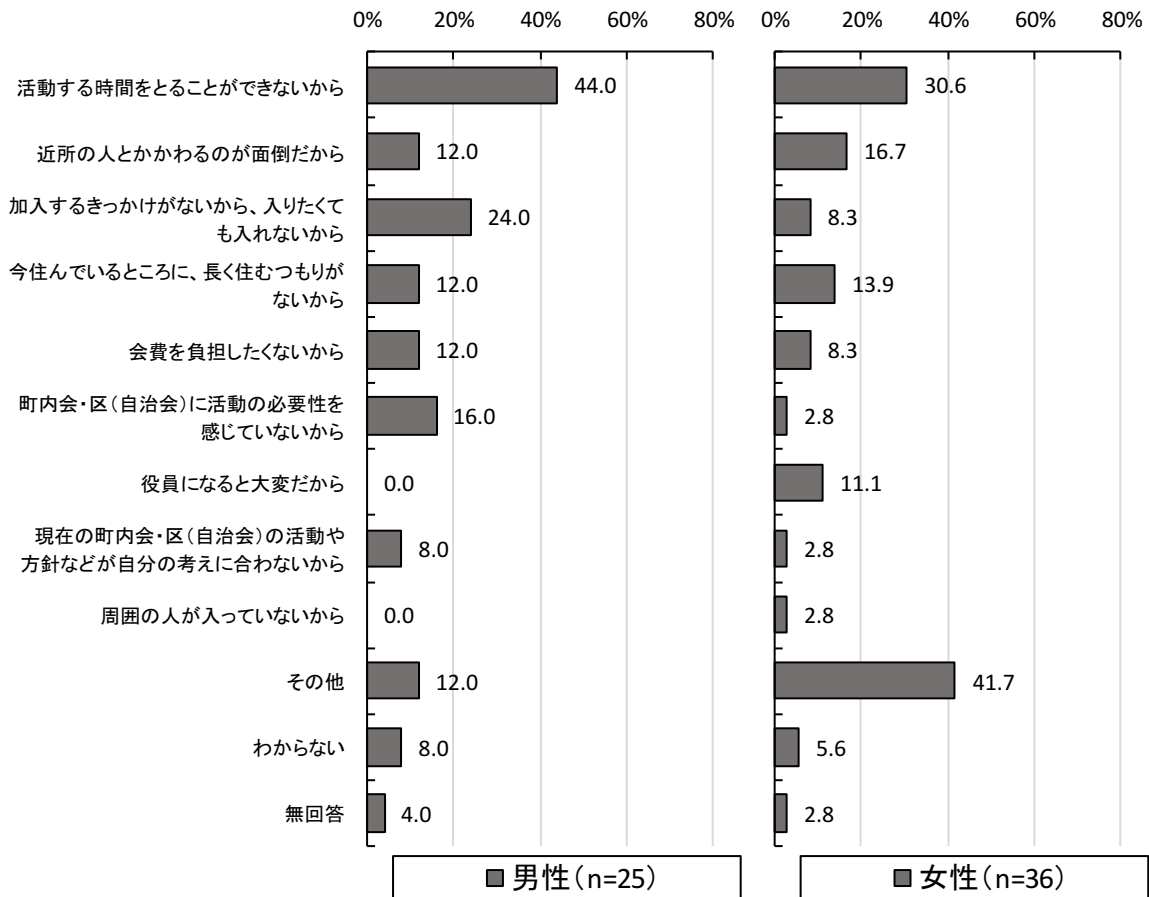
問5-2 あなたの世帯が、町内会・区（自治会）に加入していない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



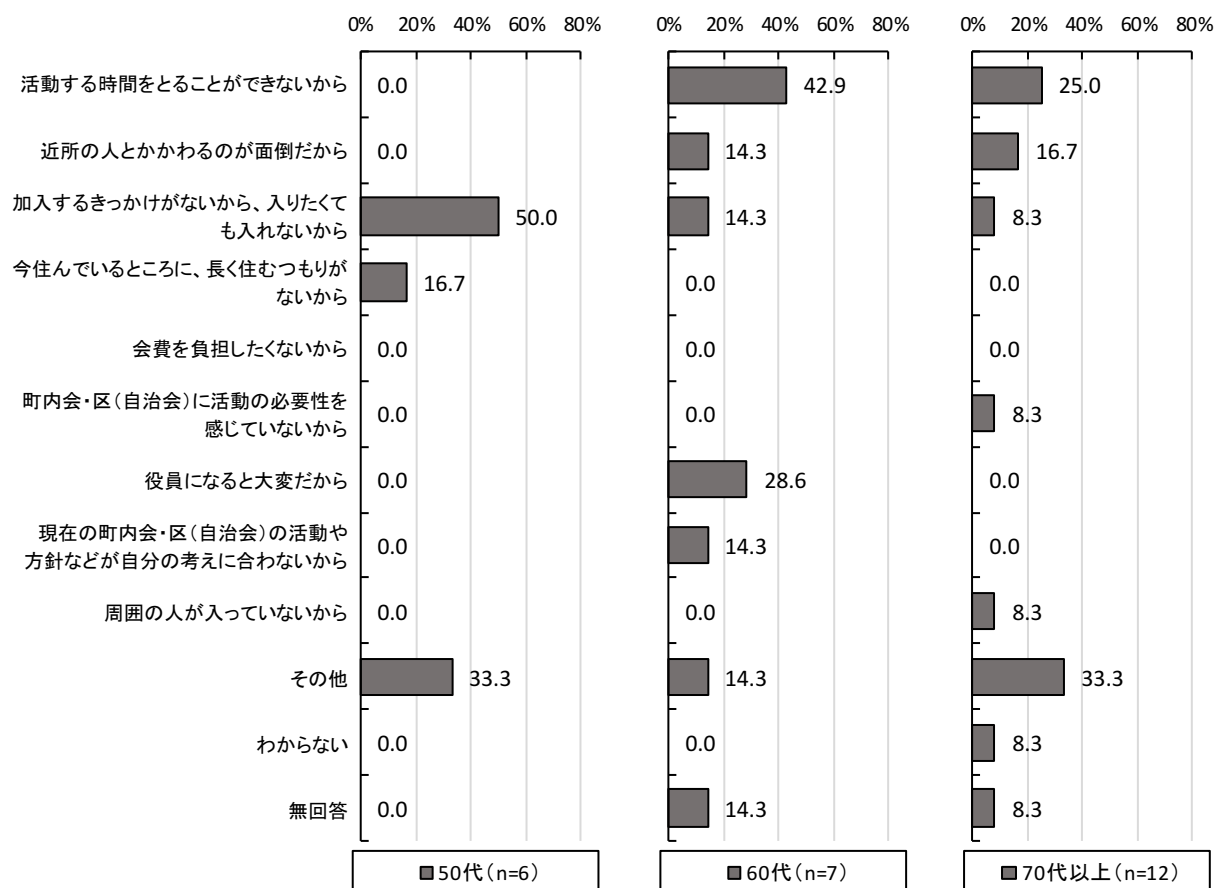
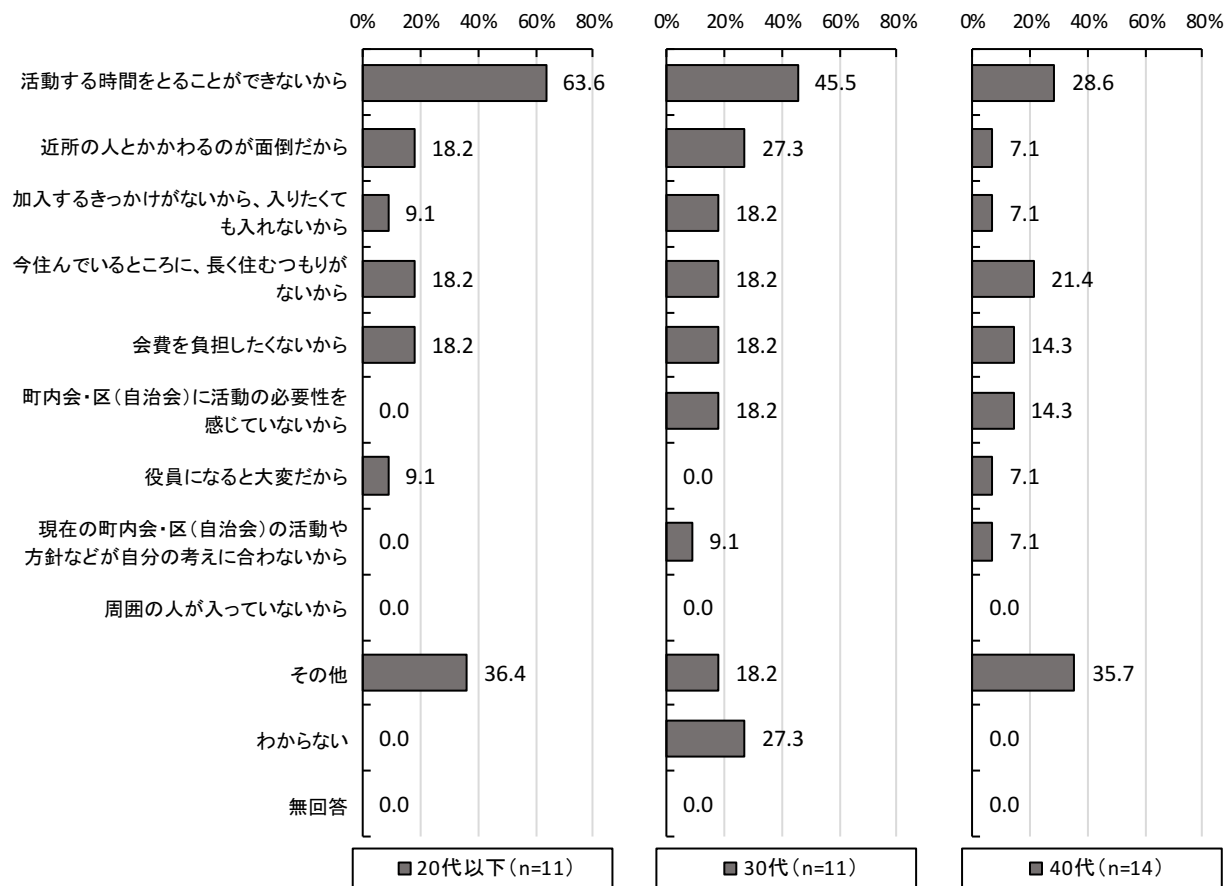
町内会・区（自治会）への加入しない理由について尋ねたところ、「活動する時間をとることができないから」が36.1%で最も高く、次いで「近所の人とかかわるのが面倒だから」が14.8%、「加入するきっかけがないから、入りたくても入れないから」が14.8%の順となっている。なお、「その他」を見てみると、「単身赴任でいない」「転勤があるため」などの意見が伺えた。

IV 調査結果

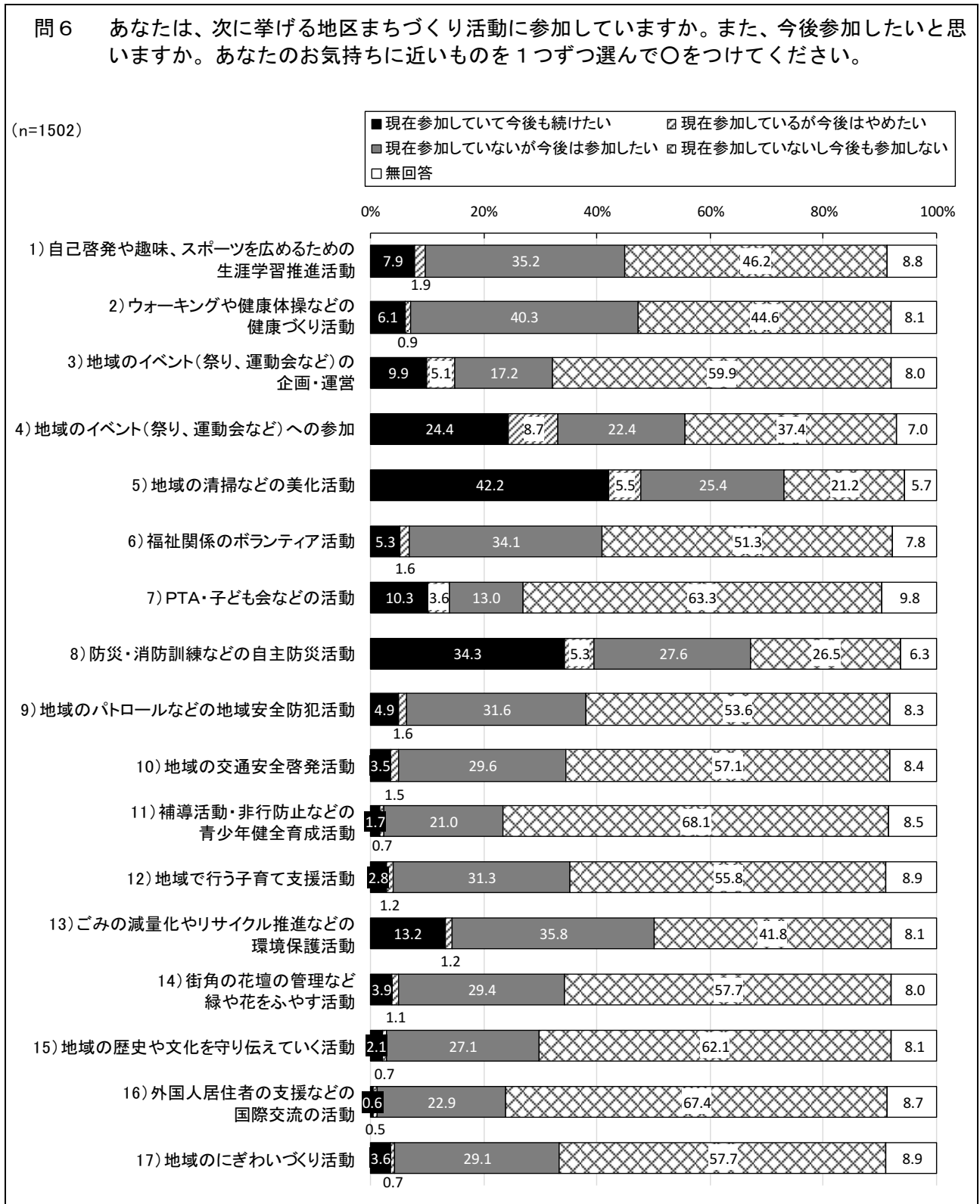
【性別】



【年代別】



(4) 地区まちづくり活動の参加状況



地区まちづくり活動の参加状況について尋ねたところ、「現在参加していて今後も続けたい」の割合は「5) 地域の清掃などの美化活動」「8) 防災・消防訓練などの自主防災活動」がそれぞれ 42.2%、34.3%と高くなっている。

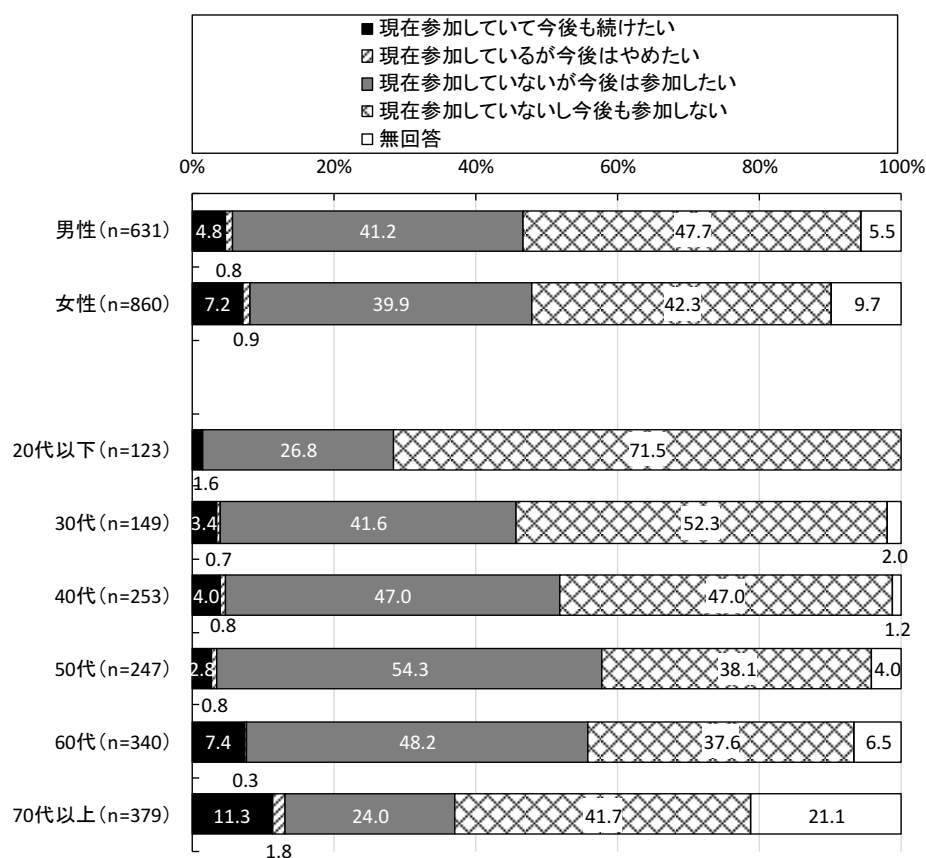
また、「2) ウォーキングや健康体操などの健康づくり活動」は、「現在参加していないが今後は参加したい」が 40.3%と最も高くなっている。

## 【性別・年代別】

## 1) 自己啓発や趣味、スポーツを広めるための生涯学習推進活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が4.8%、女性が7.2%となっている。

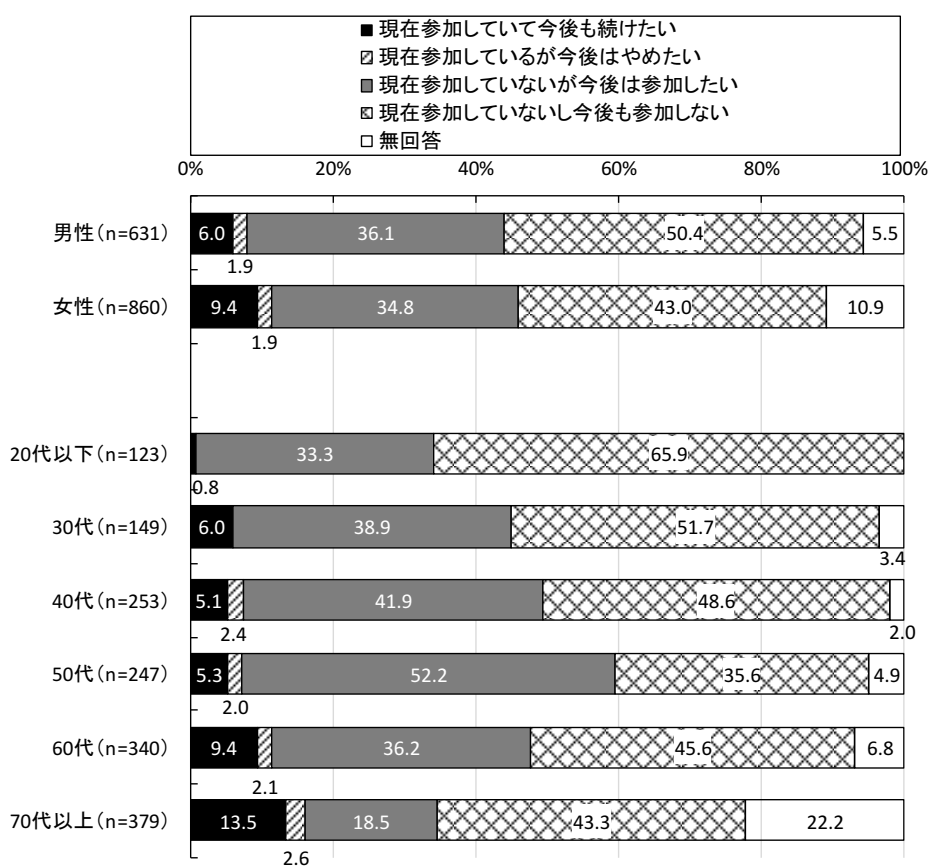
年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は70代以上が11.3%と最も高くなっている。



## 2) ウォーキングや健康体操などの健康づくり活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が6.0%、女性が9.4%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は70代以上が13.5%と最も高くなっている。



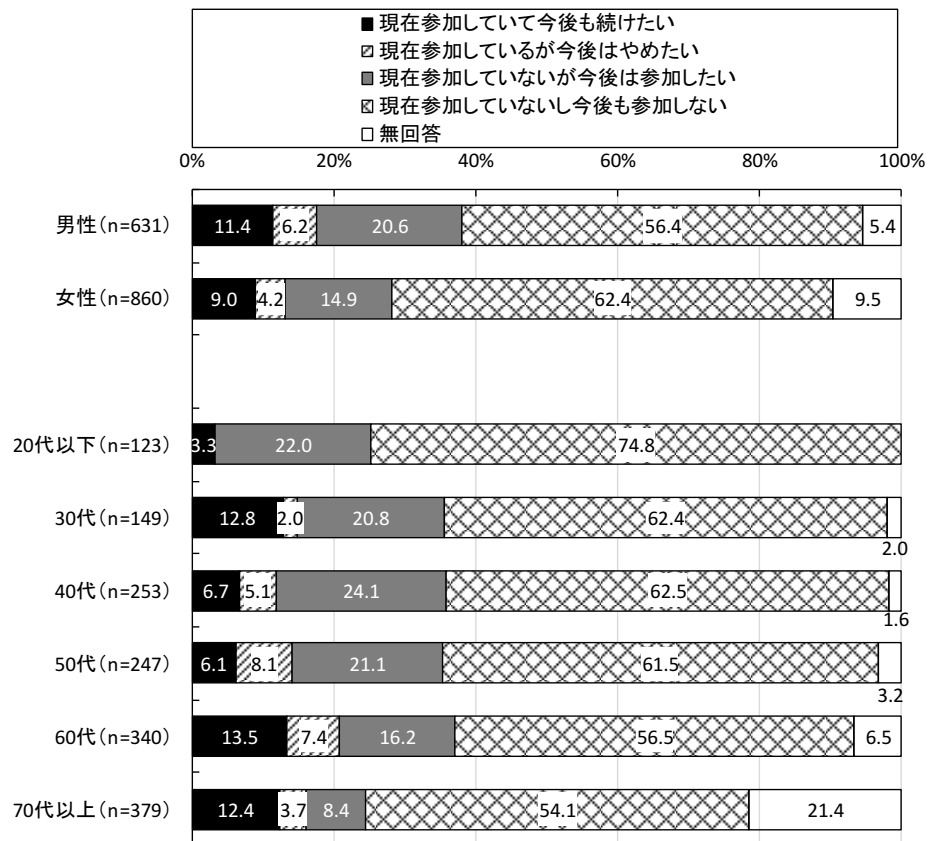
IV 調査結果

【性別・年代別】

3) 地域のイベント（祭り、運動会など）の企画・運営

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が11.4%、女性が9.0%となっている。

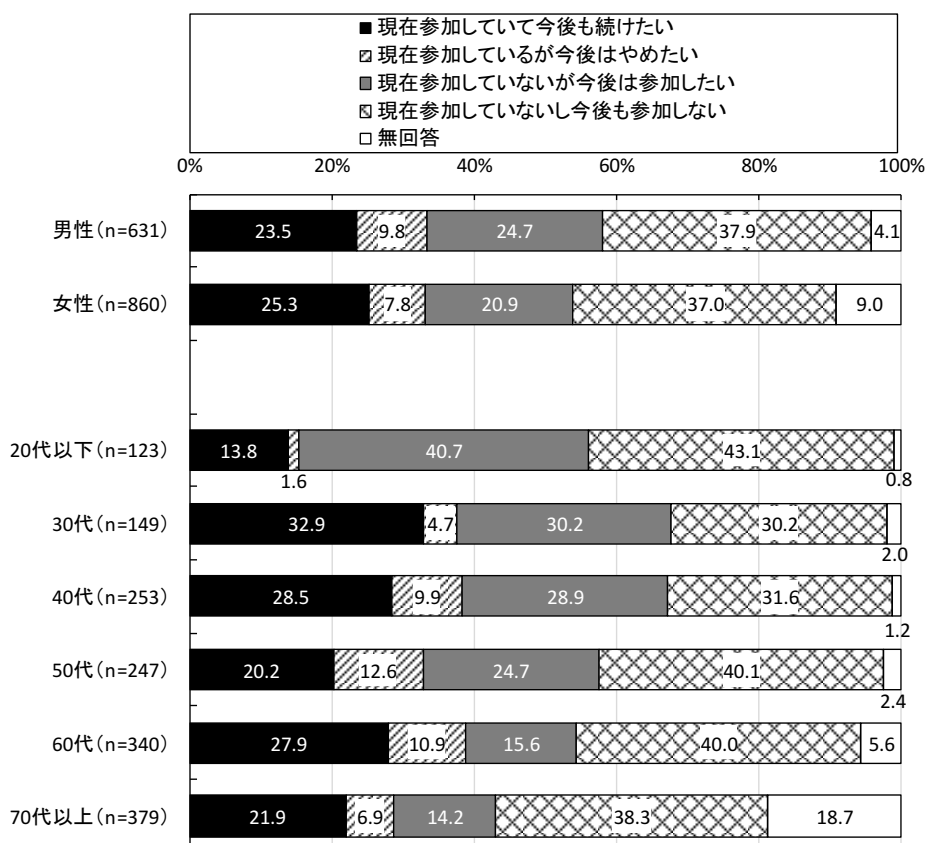
年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は60代が13.5%と最も高くなっている。



4) 地域のイベント（祭り、運動会など）への参加

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が23.5%、女性が25.3%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は30代が32.9%と最も高くなっている。

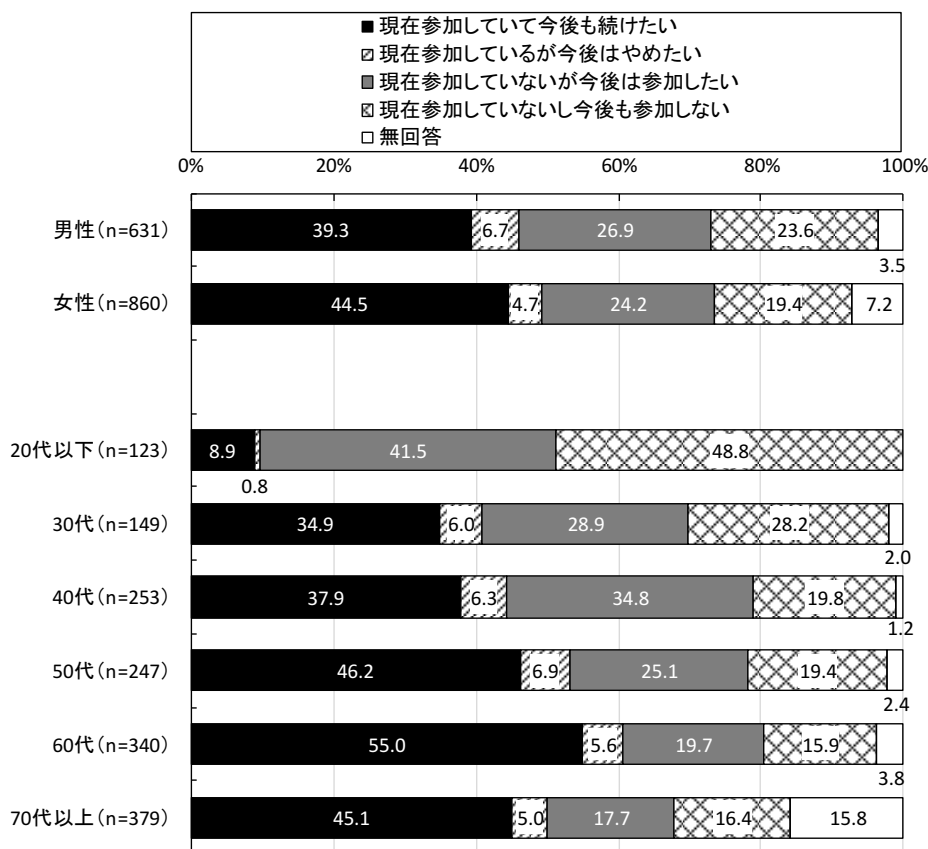


【性別・年代別】

5) 地域の清掃などの美化活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が39.3%、女性が44.5%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は60代が55.0%と半数以上で最も高くなっており、50代、70代以上も4割を超えて高くなっている。

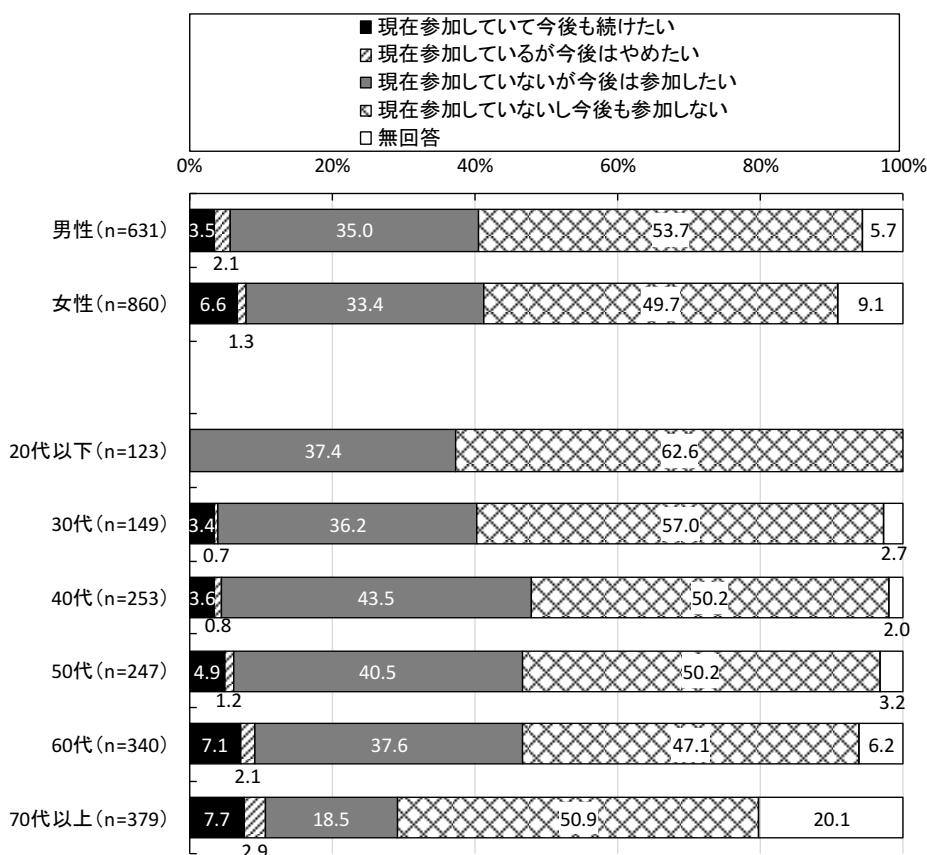


6) 福祉関係のボランティア活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が3.5%、女性が6.6%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は年代を追うごとに高くなる傾向にある。

なお、「現在参加していないが今後は参加したい」は40代、50代が4割を超えて高くなっている。



IV 調査結果

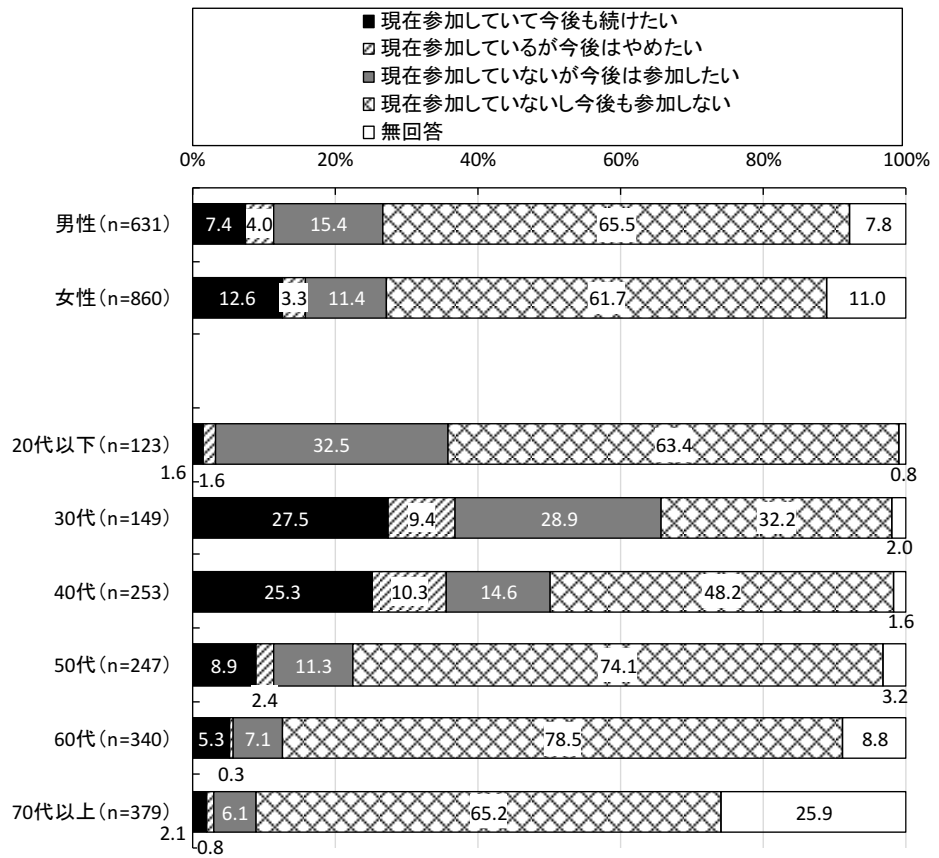
【性別・年代別】

7) PTA・子ども会などの活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が7.4%、女性が12.6%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は30代が27.5%、40代が25.3%と高く、子育て世代に多くなっている。

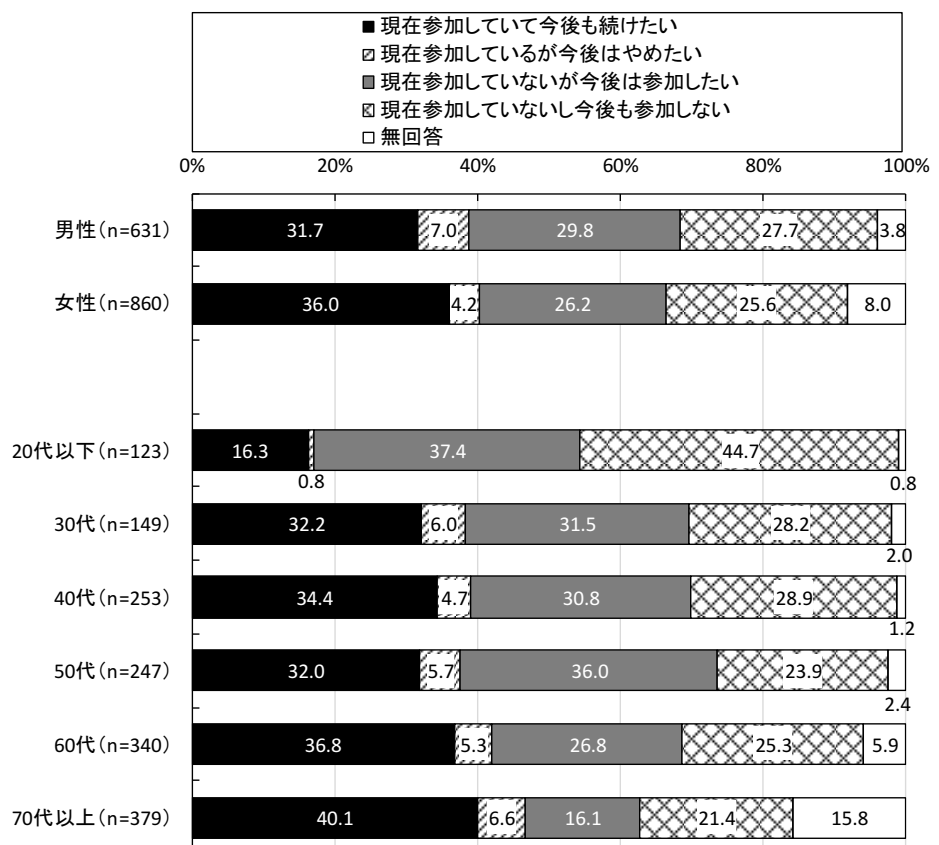
なお、「現在参加していないが今後は参加したい」は20代以下が32.5%と最も高く、今後子どもを持つ世代の割合が高い。



8) 防災・消防訓練などの自主防災活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が31.7%、女性が36.0%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は20代以下を除く全ての年代で3割を超えて高くなっている。





## 【性別・年代別】

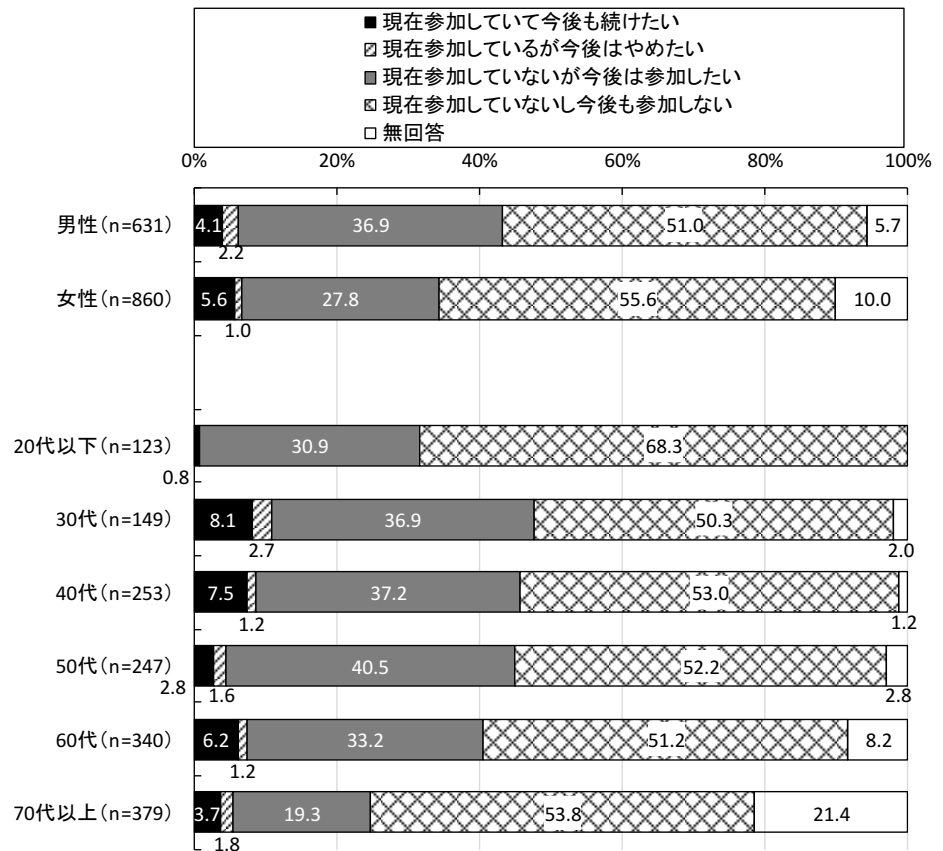
## 9) 地域のパトロールなどの地域安全防犯活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が4.1%、女性が5.6%となっている。

なお、「現在参加していないが今後は参加したい」をみると、男性が36.9%、女性が27.8%と今後の参加意向は男性のほうが高い。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は30代が8.1%と最も高い。

なお、「現在参加していないが今後は参加したい」は70代以上を除く全世代で3割を超えている。



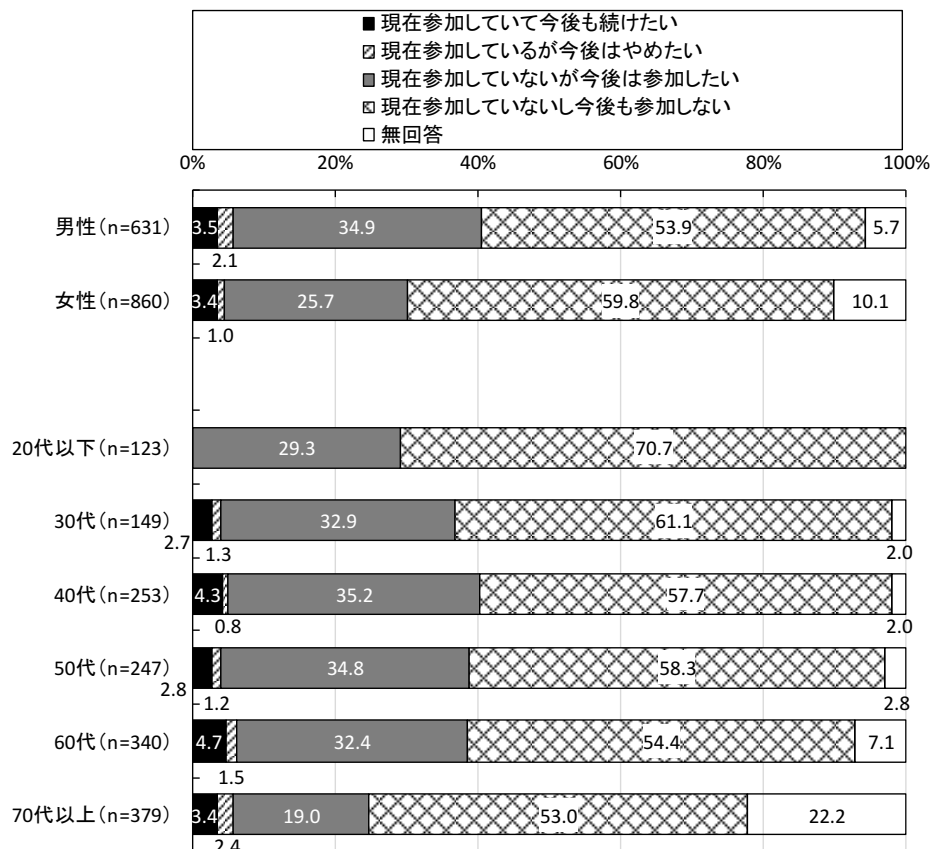
## 10) 地域の交通安全啓発活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が3.5%、女性が3.4%となっている。

なお、「現在参加していないが今後は参加したい」をみると、男性が34.9%、女性が25.7%と今後の参加意向は男性のほうが高い。

年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は60代が4.7%と最も高い。

なお、「現在参加していないが今後は参加したい」は30代から60代で3割を超えている。



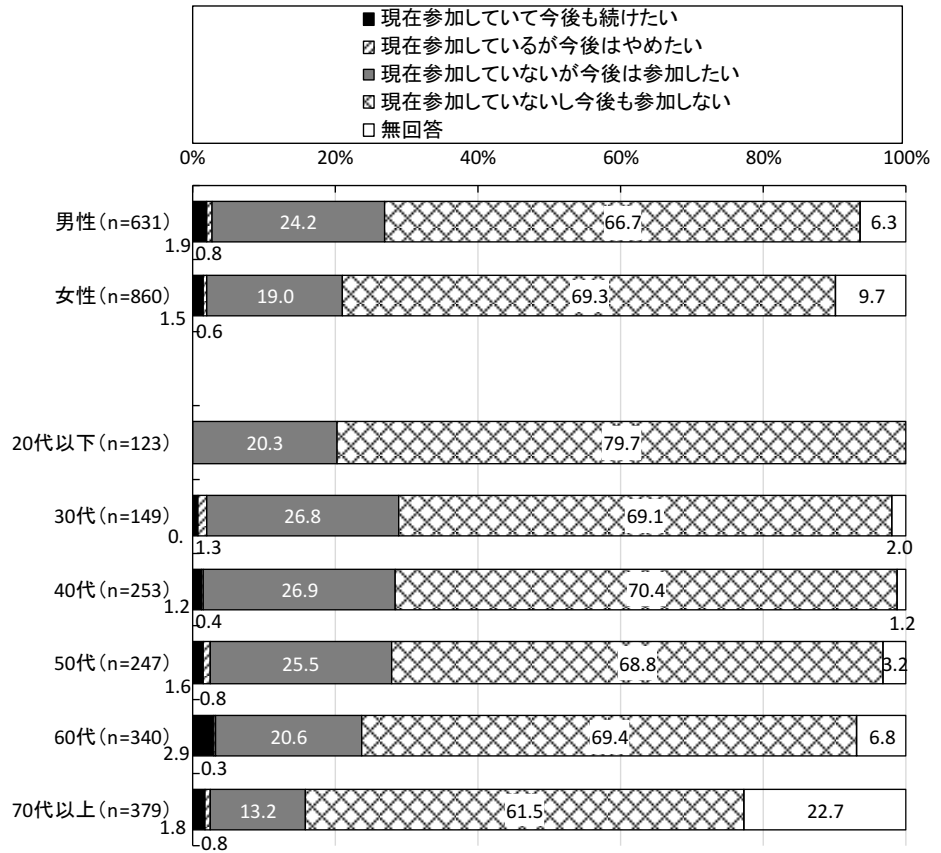
IV 調査結果

【性別・年代別】

11) 補導活動・非行防止などの青少年健全育成活動

男女別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は、男性が24.2%、女性が19.0%と今後の参加意向は男性のほうが高い。

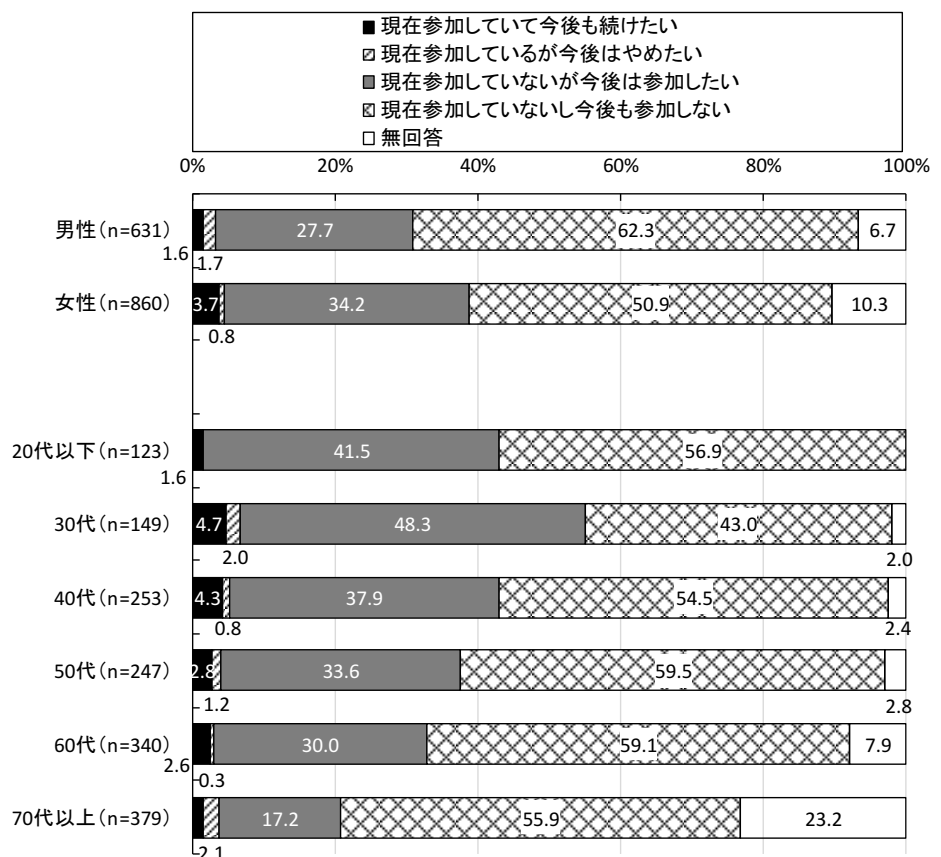
年代別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は30代から50代の子育て世代で高い傾向にある。



12) 地域で行う子育て支援活動

男女別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は、男性が27.7%、女性が34.2%と今後の参加意向は女性のほうが高い。

年代別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は30代が48.3%と最も高い。

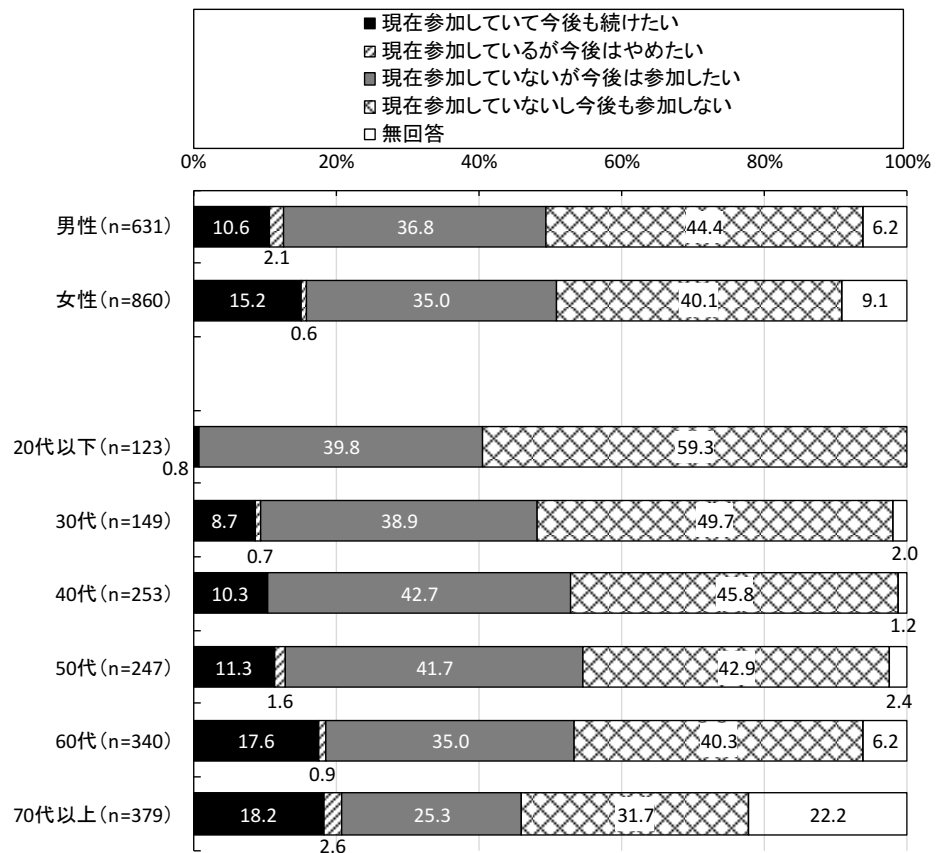


## 【性別・年代別】

## 13) ごみの減量化やリサイクル推進などの環境保護活動

男女別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は男性が10.6%、女性が15.2%となっている。

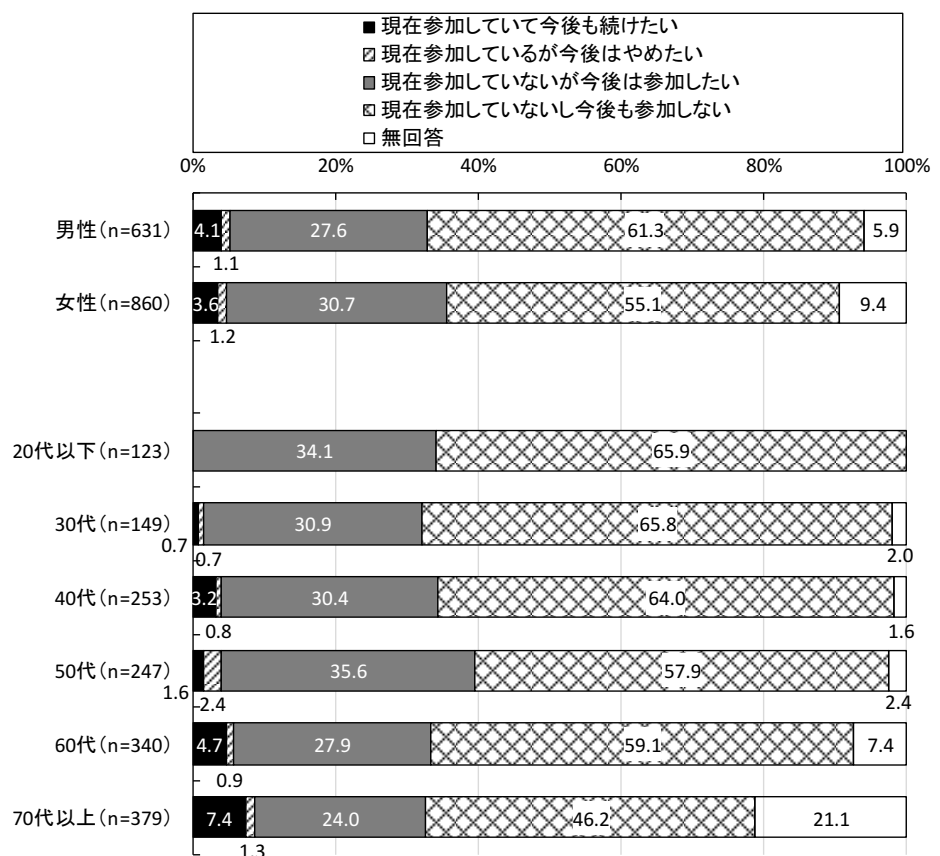
年代別に見ると、「現在参加していて今後も続けたい」は年代を追うごとに高くなる傾向にある。



## 14) 街角の花壇の管理など緑や花をふやす活動

男女別に見ると「現在参加していないが今後は参加したい」は男性が27.6%、女性が30.7%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は50代が35.6%と最も高い。

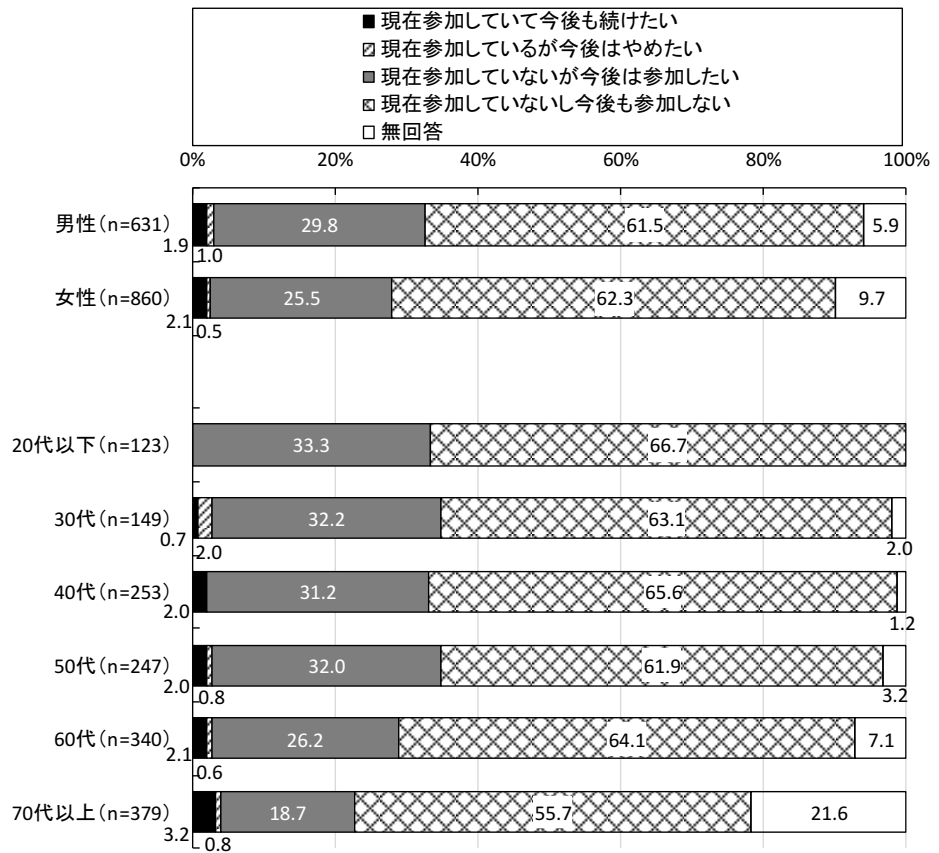


【性別・年代別】

15) 地域の歴史や文化を守り伝えていく活動

男女別に見ると「現在参加していないが今後は参加したい」は男性が29.8%、女性が25.5%となっている。

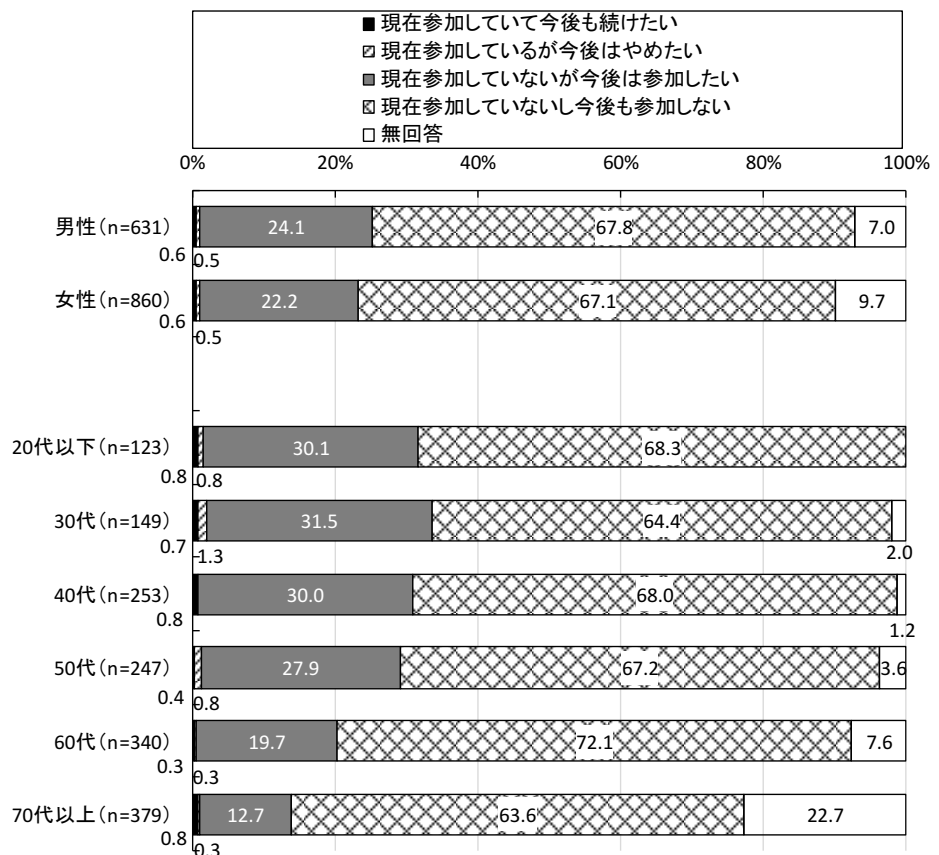
年代別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は20代以下から50代の世代が3割を超えており、特に20代以下の若い世代では33.3%と最も高い。



16) 外国人居住者の支援などの国際交流の活動

男女別に見ると「現在参加していないが今後は参加したい」は男性が24.1%、女性が22.2%となっている。

年代別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は20代以下から40代の世代でおよそ3割となっている。

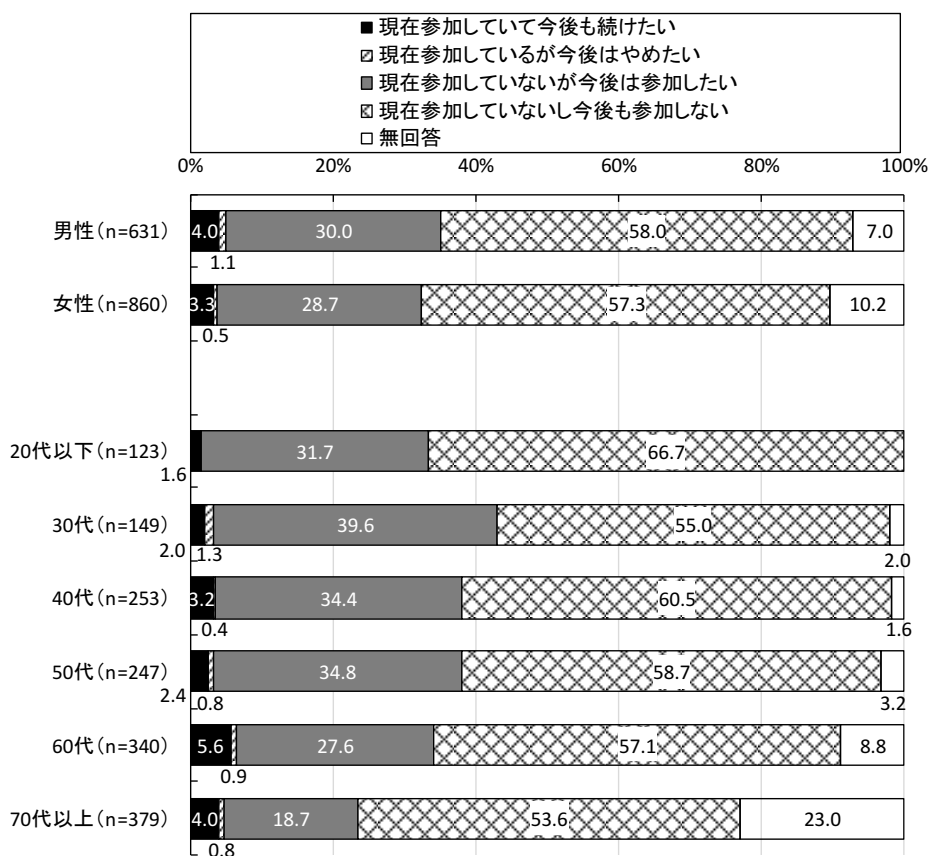


## 【性別・年代別】

## 17) 地域のにぎわいづくり活動

男女別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は男性が30.0%、女性が28.7%となっている。

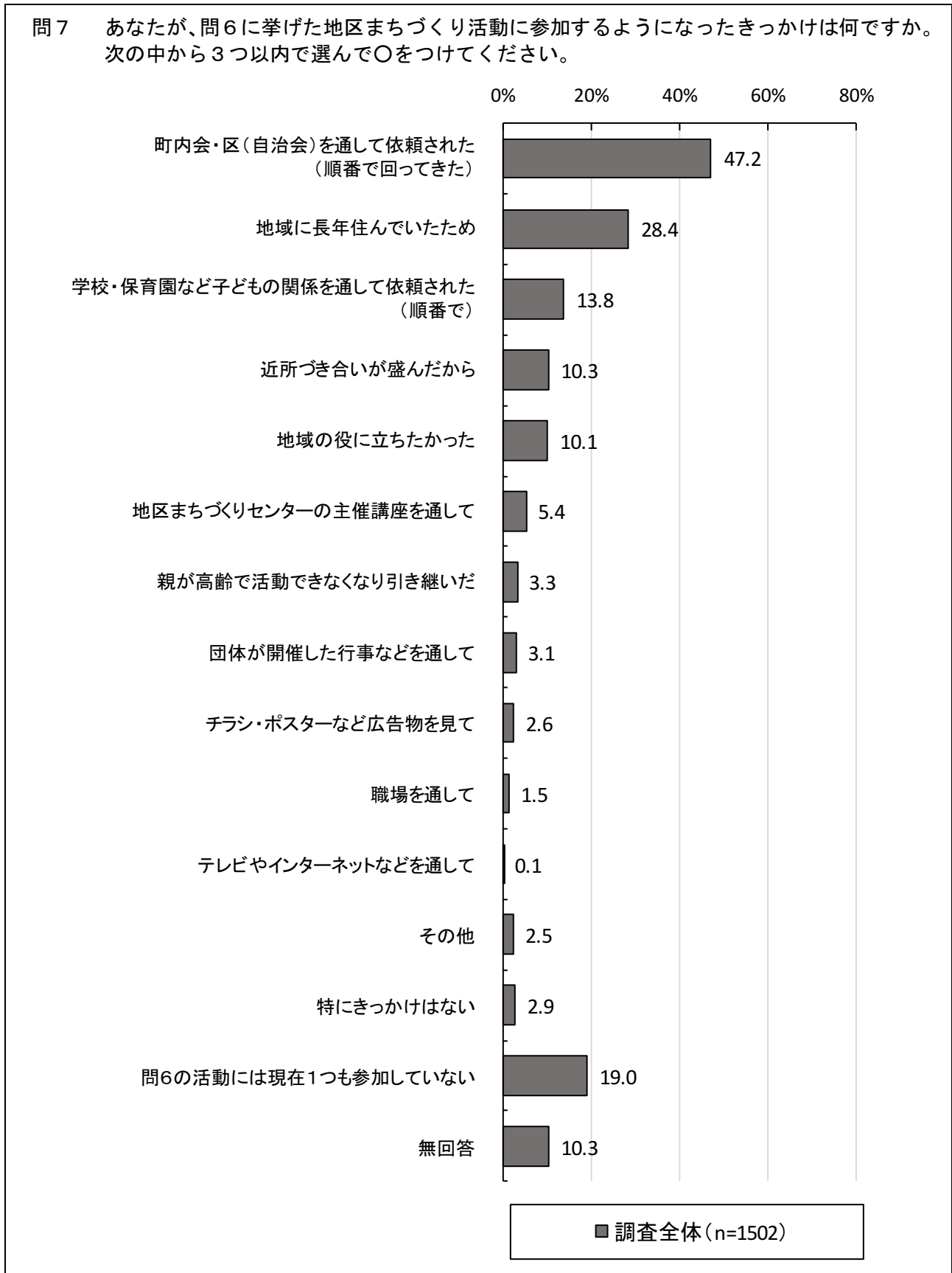
年代別に見ると、「現在参加していないが今後は参加したい」は30代が39.6%と最も高い。



## その他参加している地区まちづくり活動 (15件)

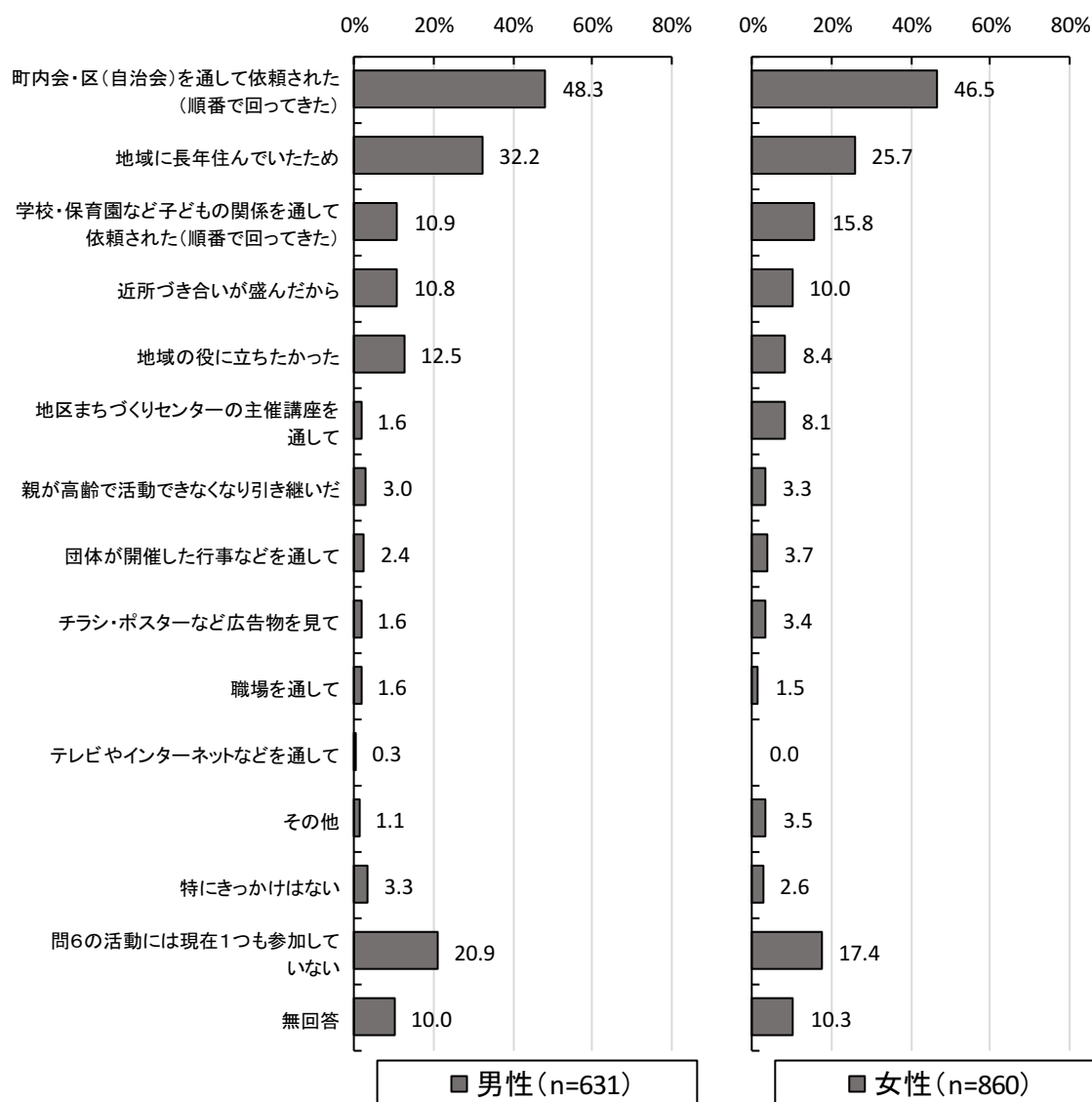
- ・花の好きな高齢者 (80代以上) 宅に、6月と11月、お花を植えてあげている (男性 40代)
- ・生涯学習活動の支部長、町内会副会長 (男性 60代)
- ・福祉推進会、長寿会、花の会 (男性 70代以上)
- ・PTA、子ども会は子どもが小学生のときに役員を4年間やった (女性 40代)
- ・男女共同参画地区推進員 (女性 50代)
- ・いきいきサロン「サロン川原宿」 (女性 60代)
- ・各委員は組長になったとき必ずやる (女性 60代)
- ・福祉推進会活動、地区ボランティア活動 (高齢者いきいきサロンへの参加、体操教室への参加) (女性 60代)
- ・週2回歩道、車道のごみ拾い、落葉などの掃き掃除、タバコの吸いながら拾い (女性 70代以上)
- ・生涯学習 (女性 70代以上)
- ・地区のおしゃべり会 (女性 70代以上)
- ・福祉推進会 (女性 70代以上)
- ・7月の天王祭 (女性 70代以上)
- ・毎月2回のふれあい活動、花の会への出席 (花植え手入れ活動) (女性 70代以上)
- ・老人会の活動 (女性 70代以上)

(5) 地区まちづくり活動参加のきっかけ



地区まちづくり活動参加のきっかけについて尋ねたところ、「町内会・区(自治会)を通して依頼された(順番で回ってきた)」が47.2%で最も高く、次いで「地域に長年住んでいたため」が28.4%、「問6の活動には現在1つも参加していない」が19.0%の順となっている。

## 【性別】

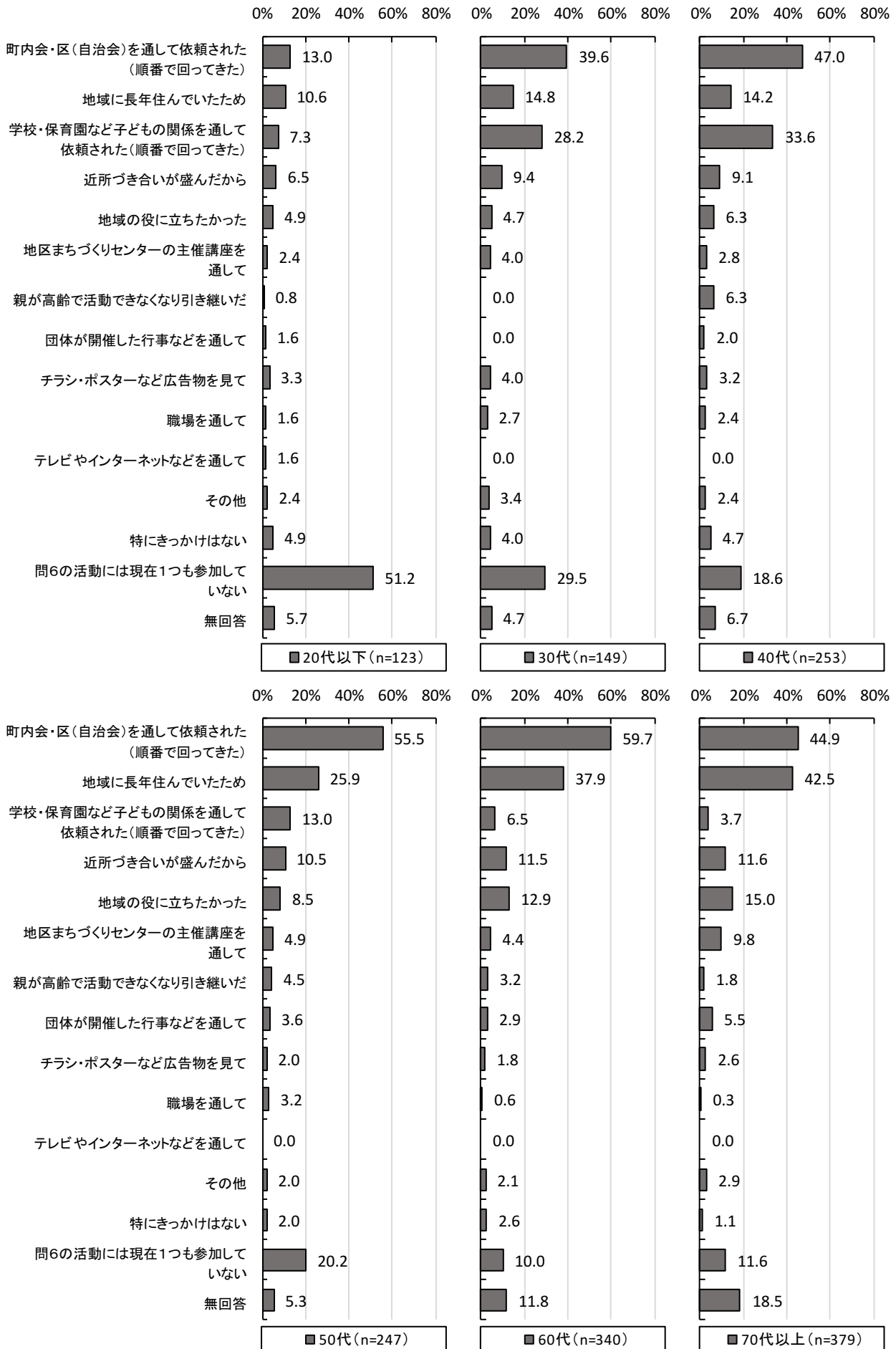


男女別に見ると「町内会・区(自治会)を通して依頼された(順番で回ってきた)」が最も高く、次いで「地域に長年住んでいたため」が高い点は男女ともに変わらないが、男性では「地域の役に立ちたかった」が12.5%、女性では「学校・保育園など子どもの関係を通して依頼された(順番で回ってきた)」が15.8%と高くなっている。

年代別に見ても「町内会・区(自治会)を通して依頼された(順番で回ってきた)」が20代以下を除き、全世代でトップとなっている。特に60代では59.7%と最も高くなっている。なお、20代以下では、「問6の活動には現在1つも参加していない」が51.2%と半数以上が不参加となっている。

IV 調査結果

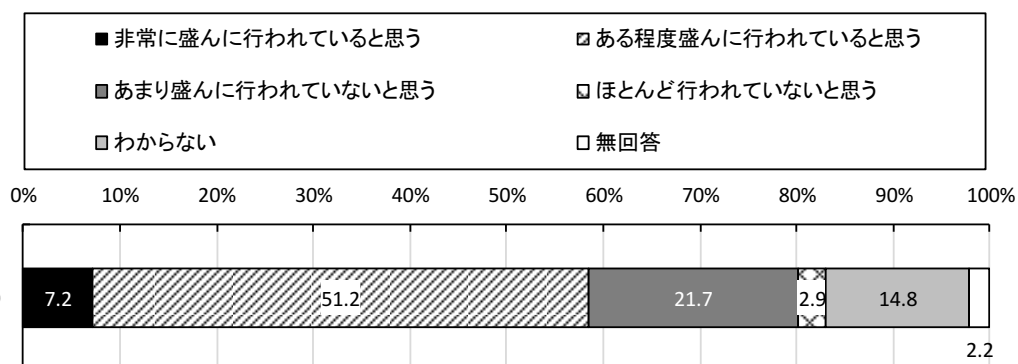
【年代別】





## (6) 地区まちづくり活動の活発度

問8 あなたが住んでいる地区で、問6で示したような活動は盛んであると思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

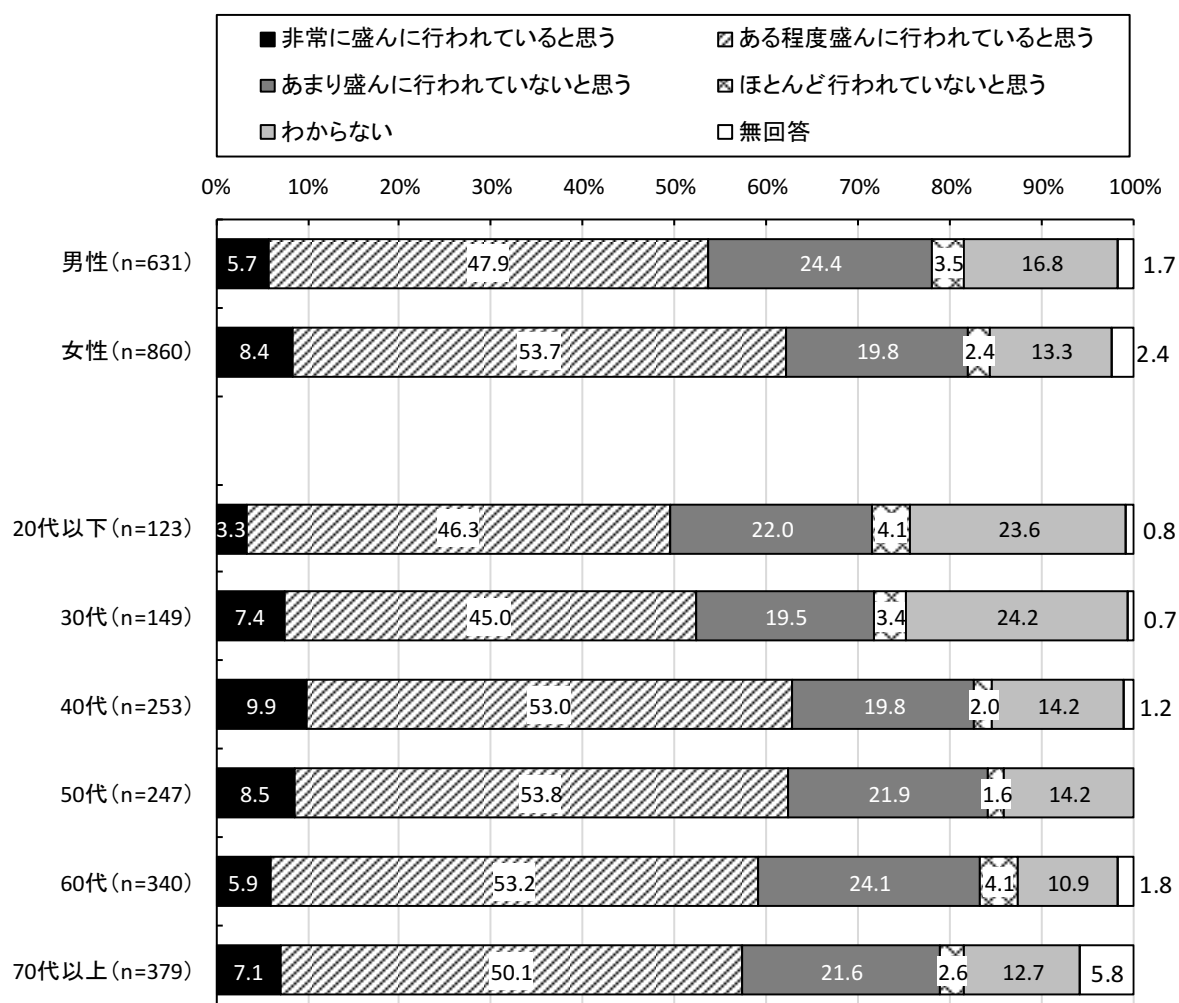


地区まちづくり活動の活発度について尋ねたところ、「非常に盛んに行われていると思う」が7.2%、「ある程度盛んに行われていると思う」が51.2%となり、それらをあわせた“盛んに行われていると思う”の割合は58.4%となっている。

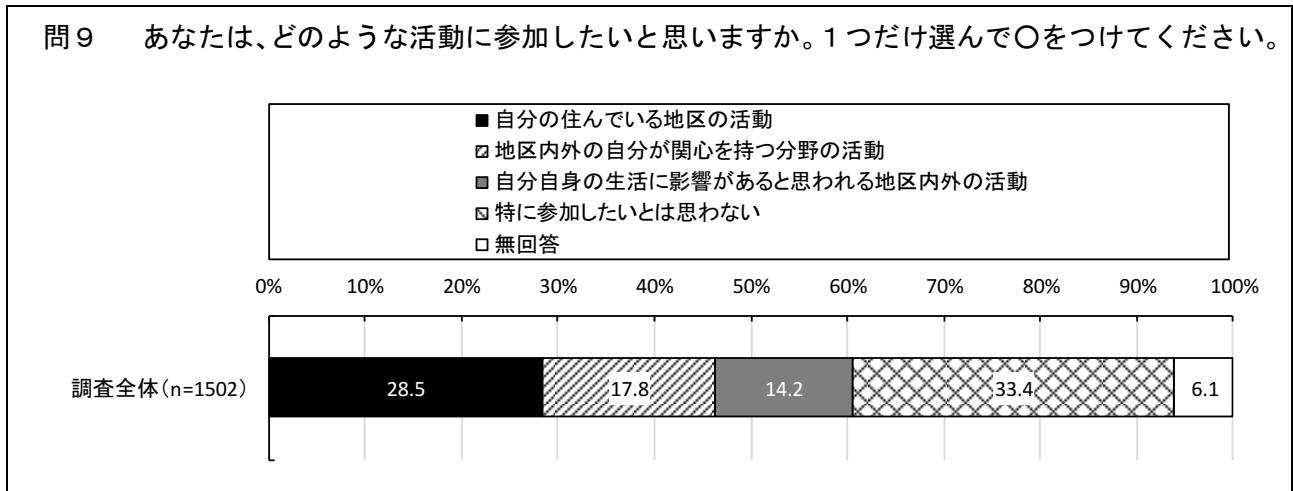
男女別に見ると、“盛んに行われていると思う”の割合は、男性が53.6%、女性が62.1%と女性のほうが高い割合となっている。

年代別に見ると、“盛んに行われていると思う”の割合は、20代以下を除いた全世代で半数以上となっている。

## 【性別・年代別】



(7) 参加したい地区まちづくり活動

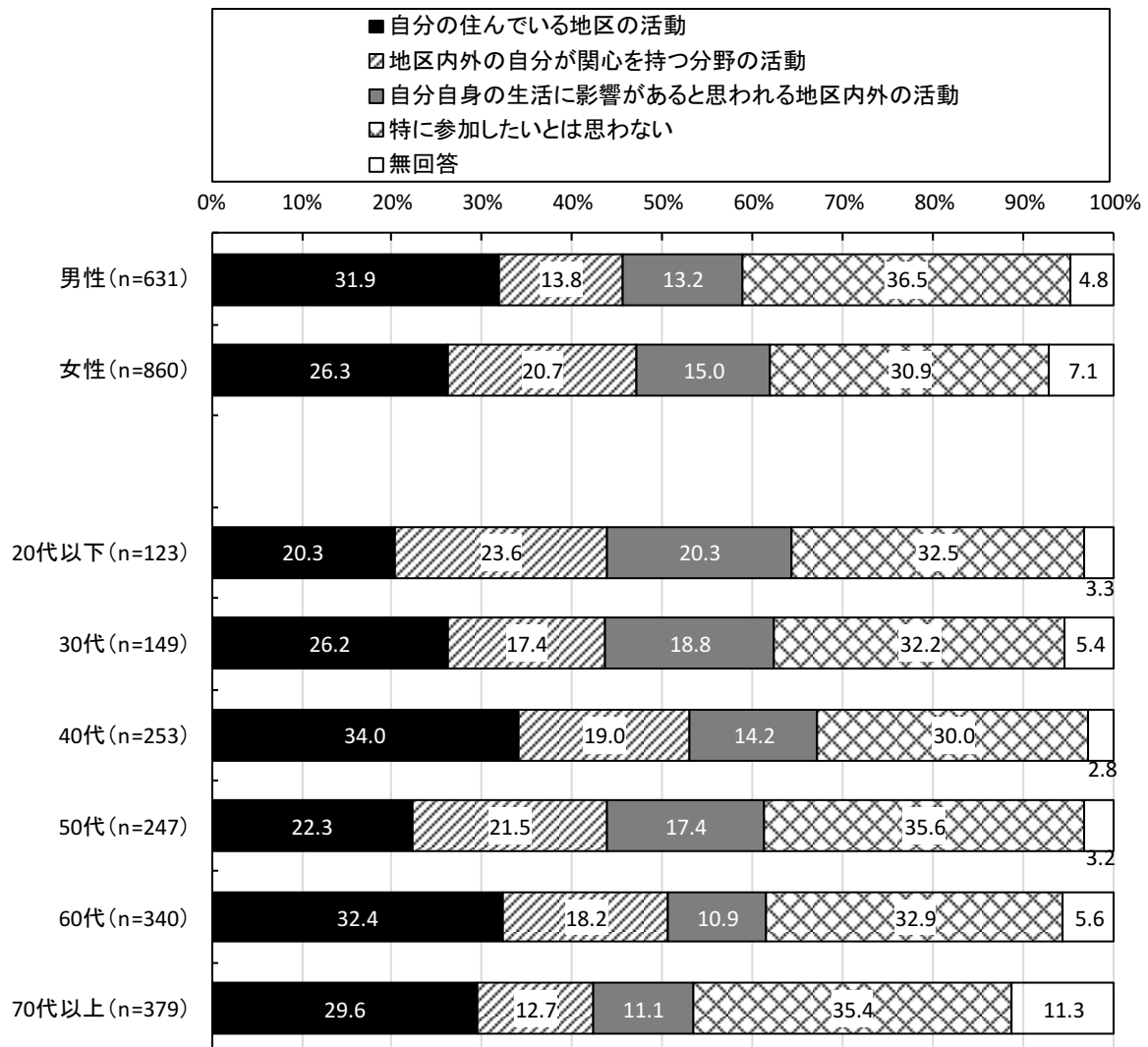


参加したい地区まちづくり活動について尋ねたところ、「特に参加したいとは思わない」を除いた活動内容の中では「自分の住んでいる地区の活動」が28.5%と最も高い。

男女別に見ても、活動内容の中では男女ともに「自分の住んでいる地区の活動」が最も高い。

年代別に見ると、活動内容の中では40代、60代で「自分の住んでいる地区の活動」の割合が3割以上と高くなっている。

【性別・年代別】



## (8) 地区まちづくり活動に参加したいと思う理由

〈問9で1～3と答えた人に伺います〉

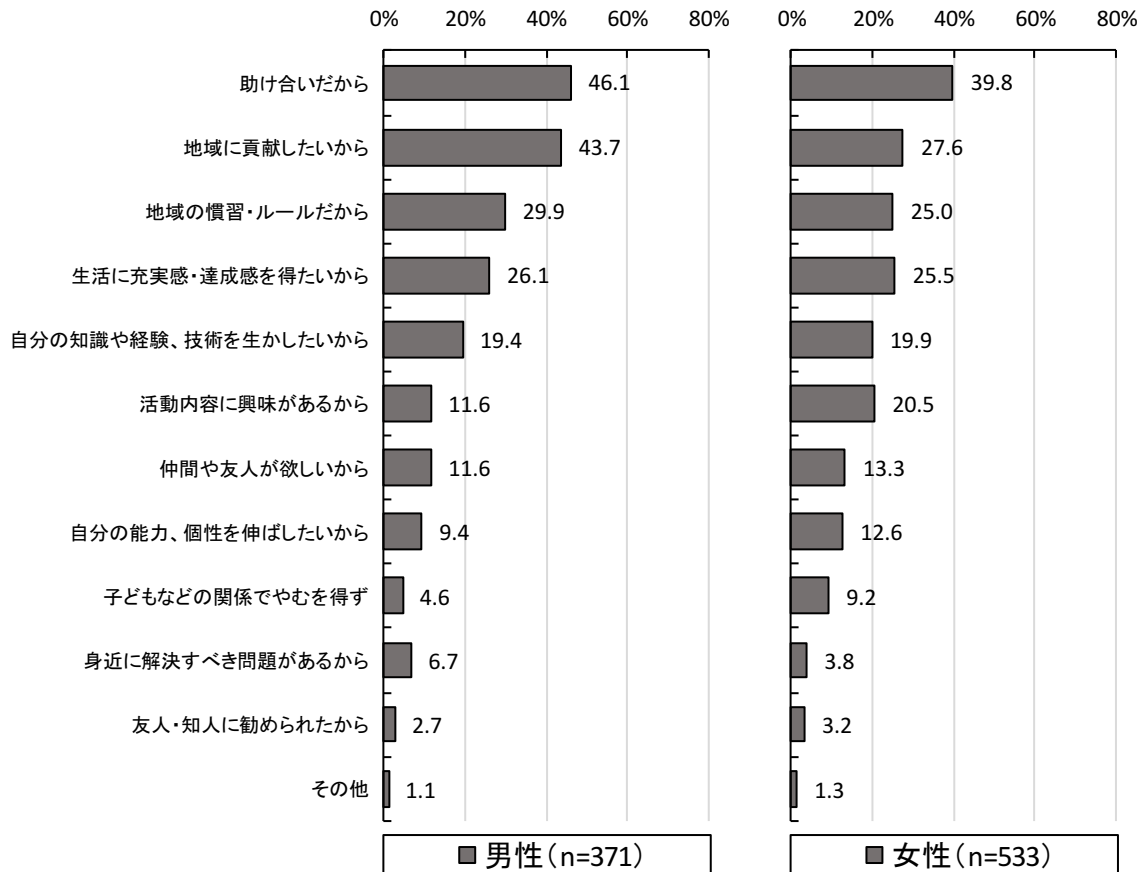
問9-1 あなたが、これらの活動に参加したいと思う理由は何ですか。  
次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



地区まちづくり活動に参加したいと思う理由について尋ねたところ、「助け合いだから」が42.4%で最も高く、次いで「地域に貢献したいから」34.3%、「地域の慣習・ルールだから」27.0%の順となっている。

## IV 調査結果

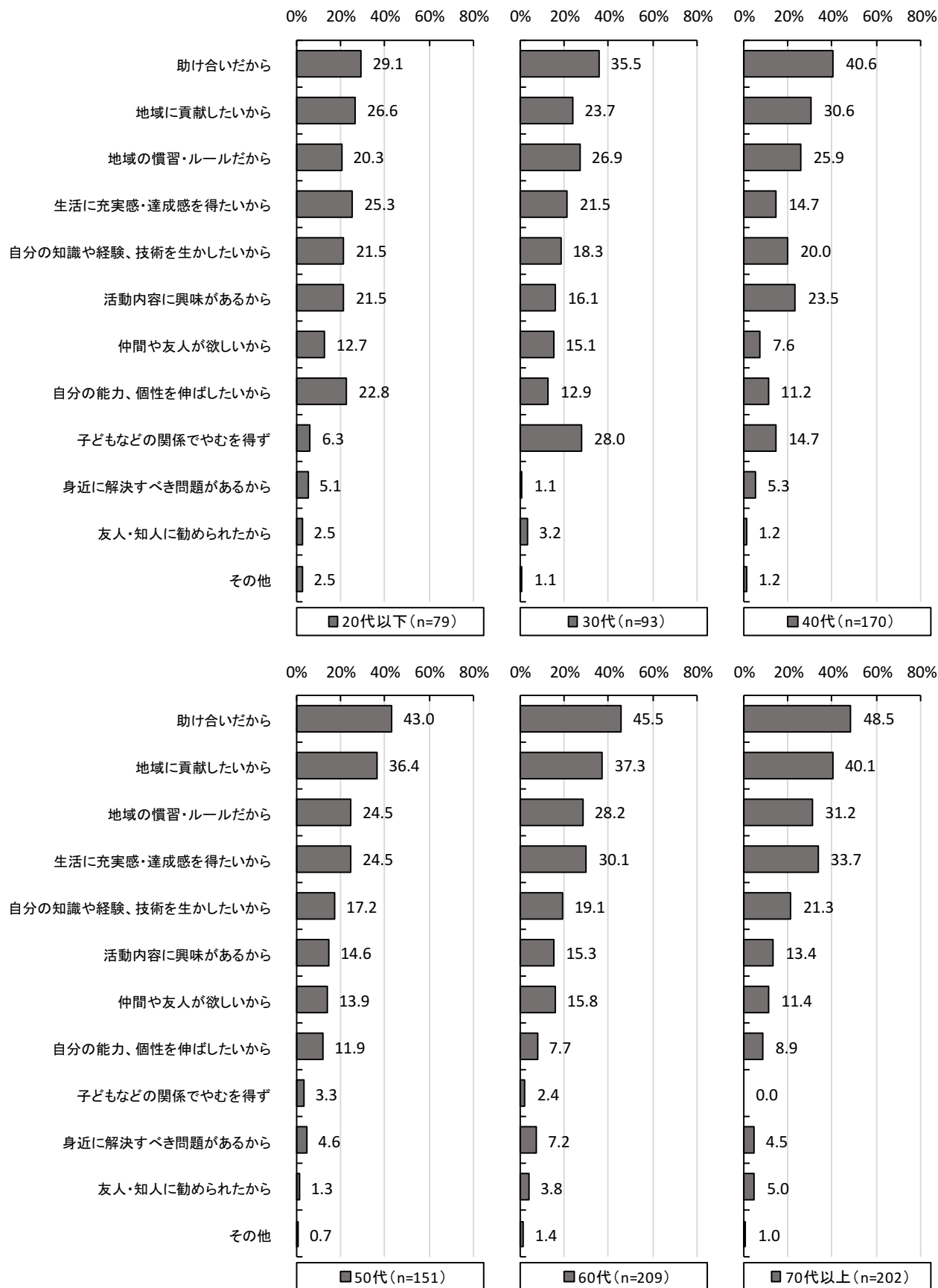
### 【性別】



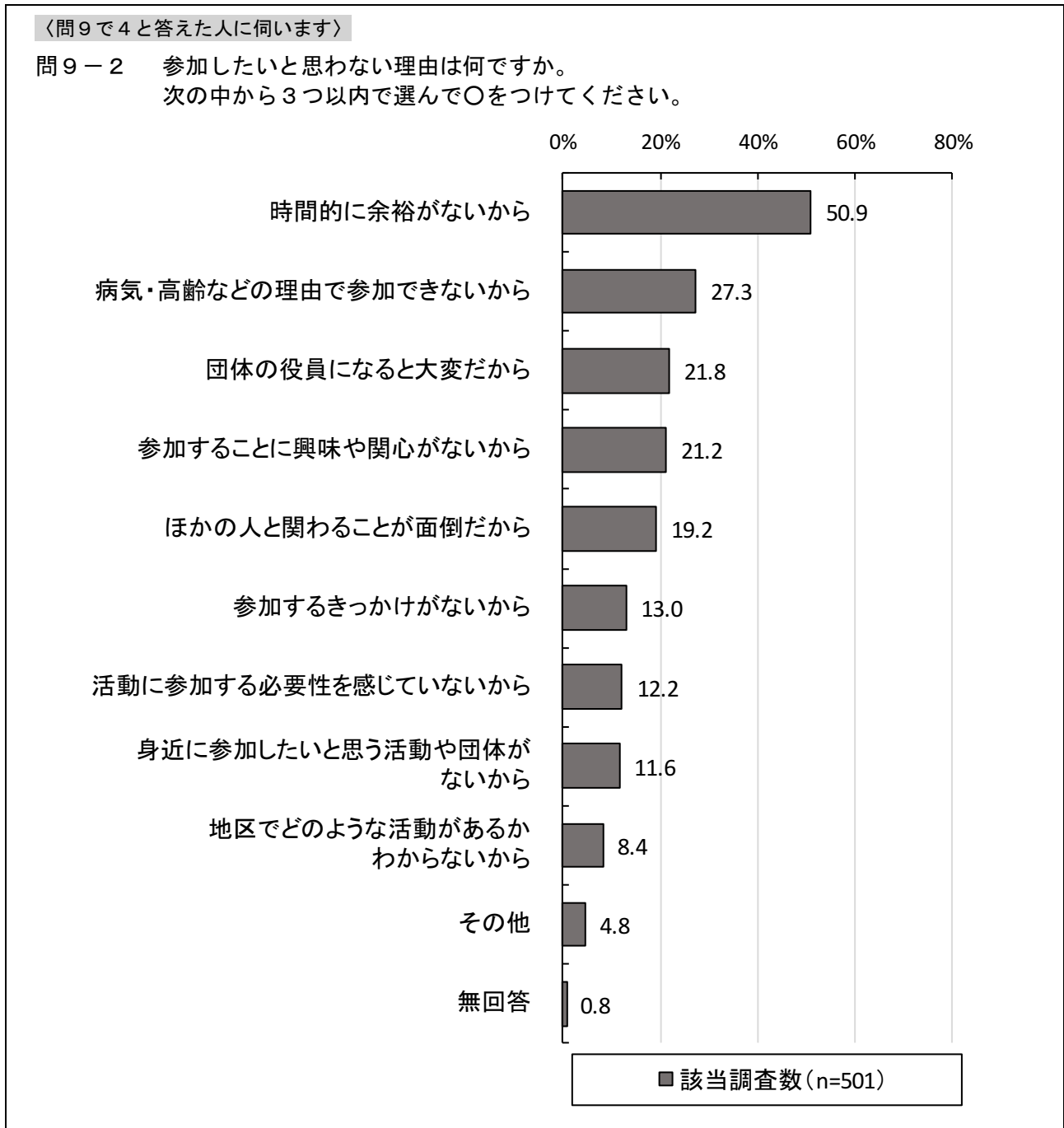
男女別に見ても、「助け合いだから」が最も高く、次いで「地域に貢献したいから」が高い点は男女とも変わらないが、男性では「地域に貢献したいから」が43.7%、女性では「活動内容に興味があるから」が20.5%と高くなっている。

年代別に見ても「助け合いだから」が全世代でトップとなっている。なお、20代以下では「自分の能力、個性を伸ばしたいから」、30代では「子どもなどの関係でやむを得ず」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

【年代別】



(9) 地区まちづくり活動に参加したいと思わない理由

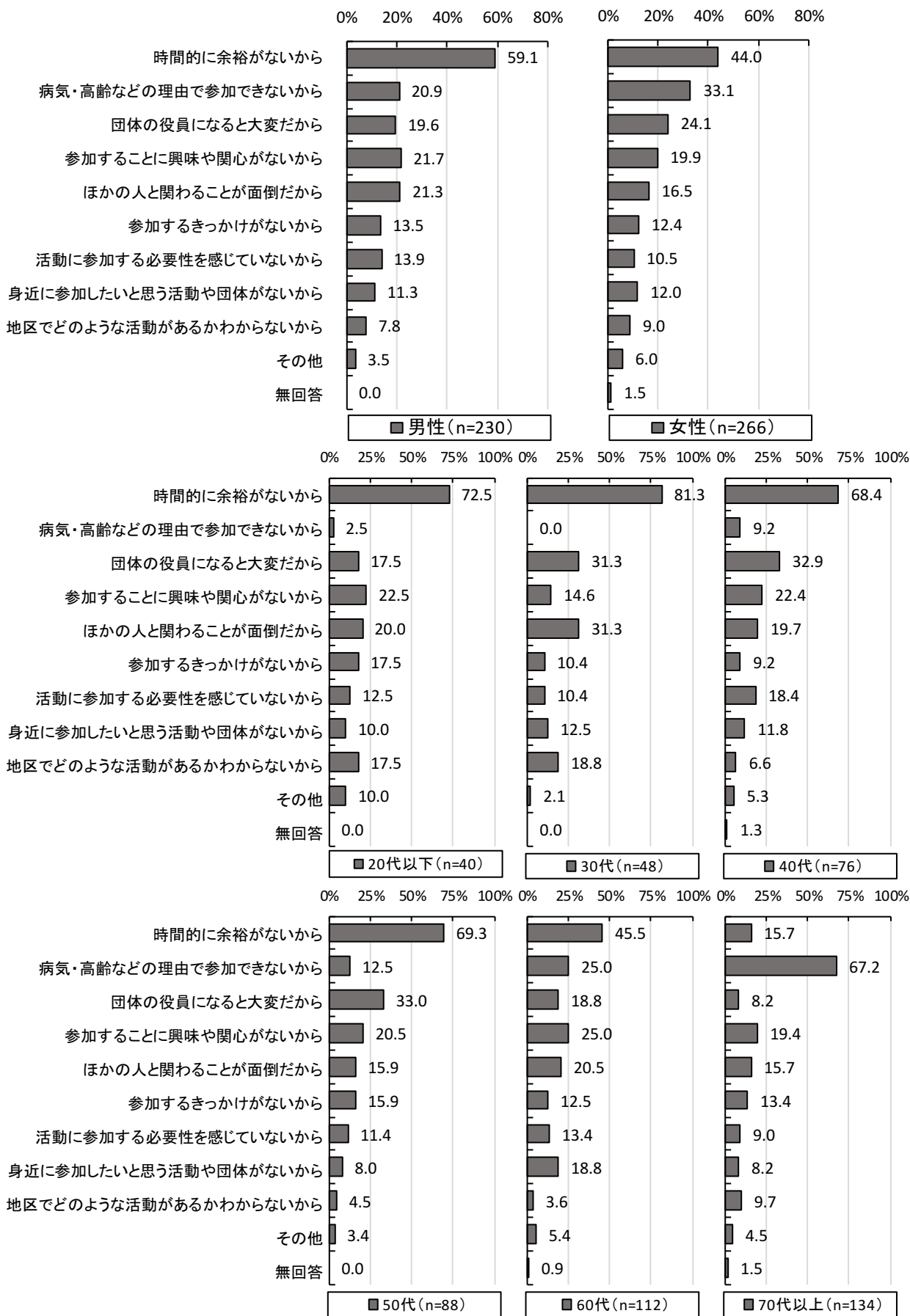


地区まちづくり活動に参加したくないと思う理由について尋ねたところ、「時間的に余裕がないから」が50.9%で最も高く、次いで「病気・高齢などの理由で参加できないから」27.3%、「団体の役員になると大変だから」21.8%の順となっている。

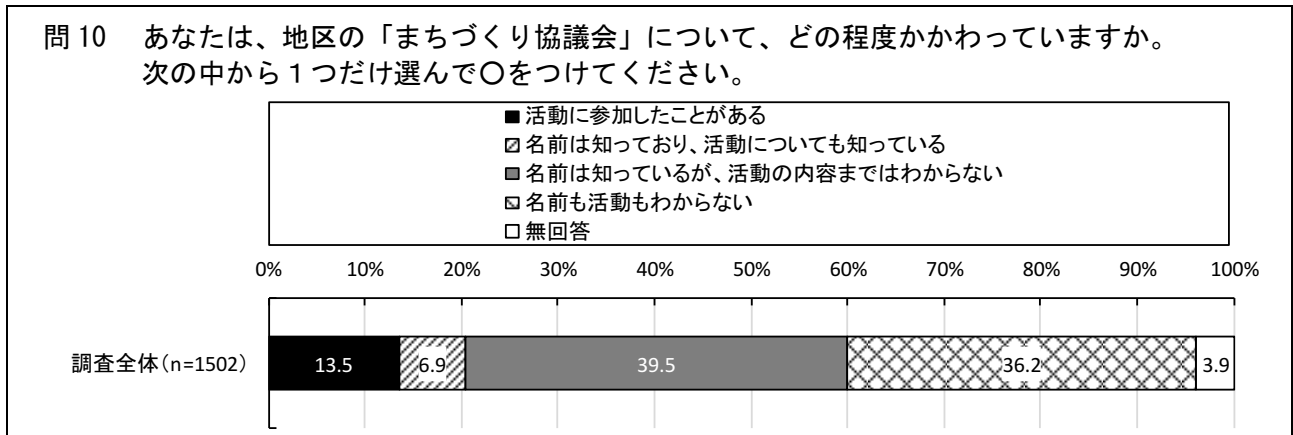
男女別に見ても、「時間的に余裕がないから」が最も高い点は男女ともに変わらないが、男性では「参加することに興味や関心がないから」が21.7%、女性では「病気・高齢などの理由で参加できないから」が33.1%と高くなっている。

年代別に見ると「時間的に余裕がないから」は20代以下から60代の年代でトップとなっている。なお、70代以上では「病気・高齢などの理由で参加できないから」が67.2%と最も高くなっている。

【性別・年代別】



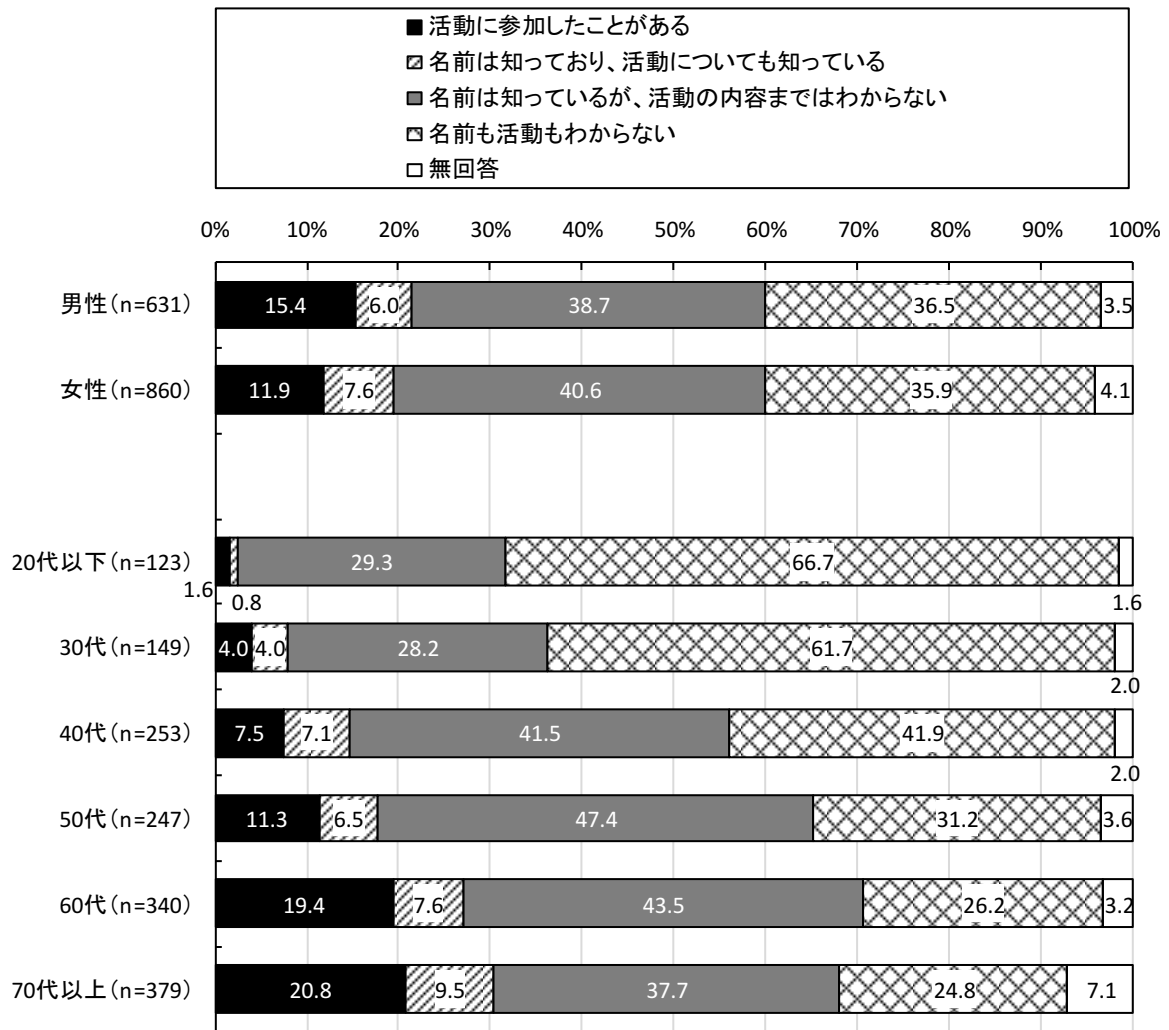
(10) 「まちづくり協議会」への関与状況



「まちづくり協議会」への関与状況について尋ねたところ、「名前は知っているが、活動の内容まではわからない」が39.5%と最も高くなっている。

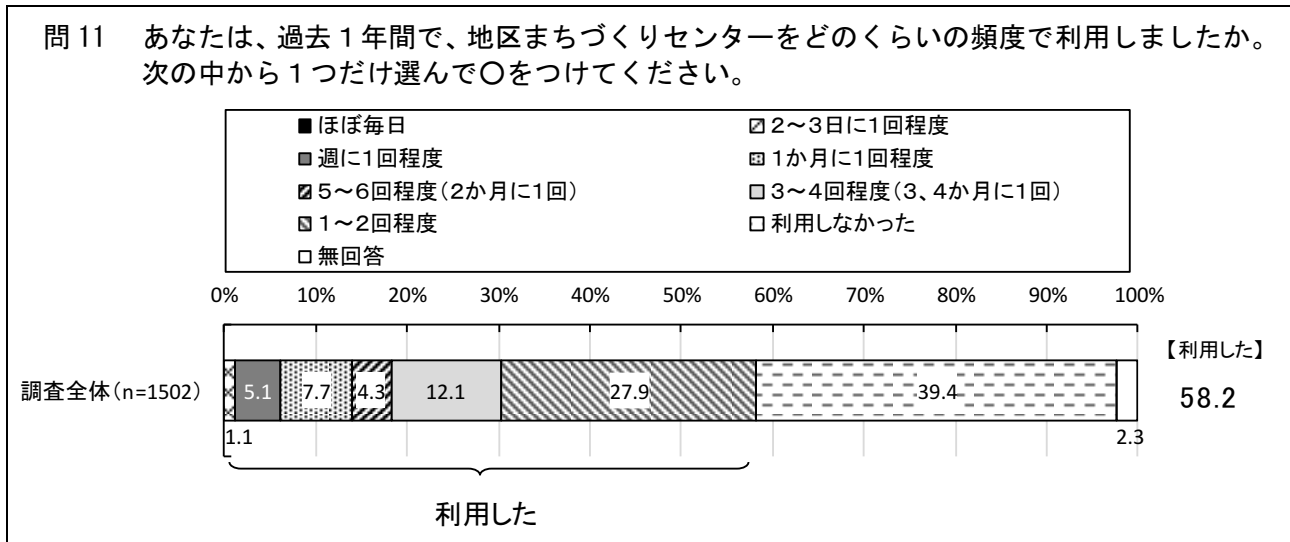
男女別に見ても、男女ともに「名前は知っているが、活動の内容まではわからない」が最も高い。年代別に見ると、「活動に参加したことがある」は年代を追うごとに割合も高くなっている。また、「名前も活動もわからない」は年代を追うごとに割合が低くなっている。

【性別・年代別】





## (11) 地区まちづくりセンターの利用頻度



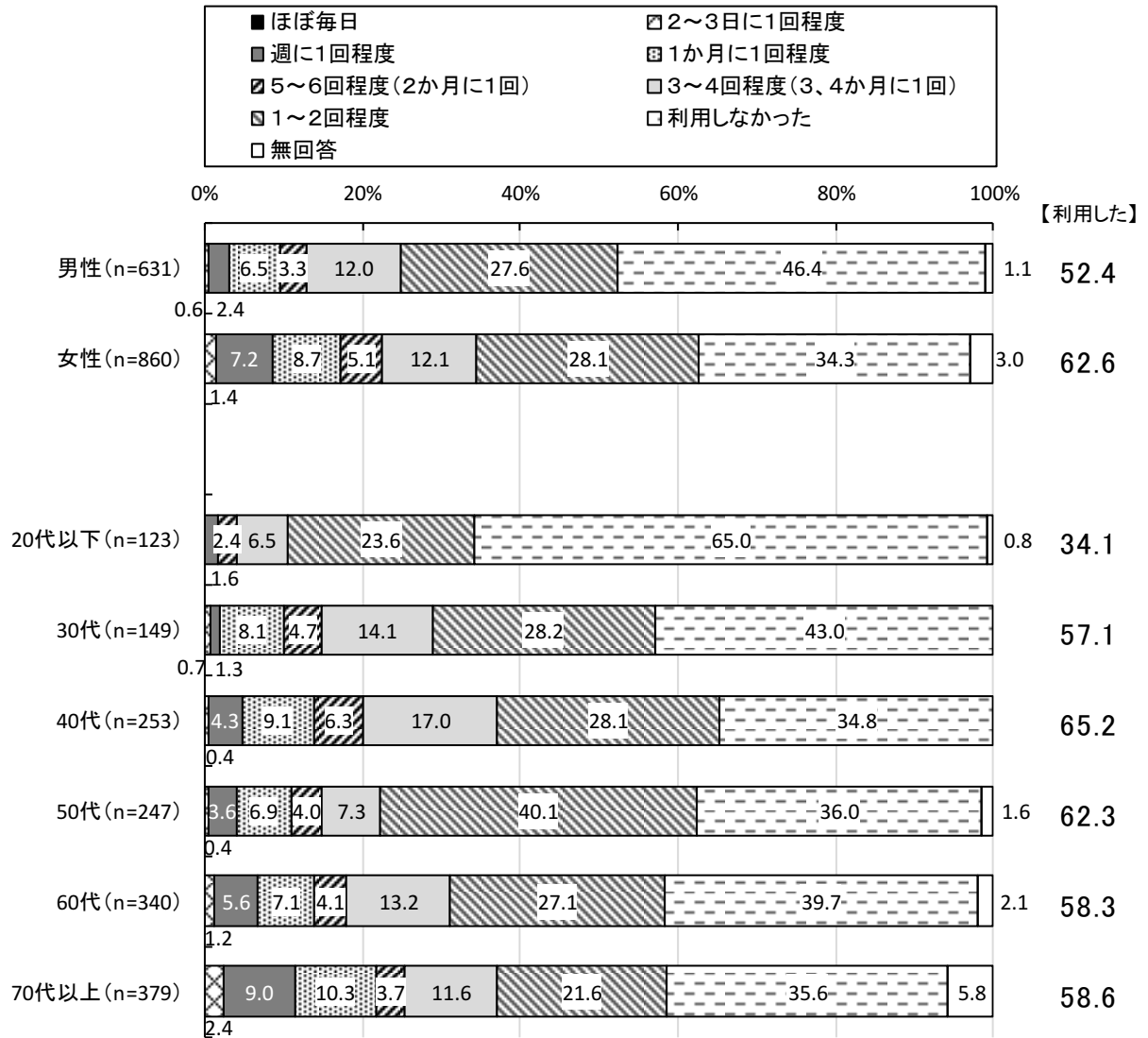
地区まちづくりセンターの利用頻度について尋ねたところ、「利用しなかった」が39.4%で最も高く、次いで「1~2回程度」27.9%「3~4回程度(3、4か月に1回)」12.1%の順となっている。

男女別に見ても、「利用しなかった」が男女ともに最も高いが、男性のほうが46.4%と女性に比べて10%以上高くなっている。

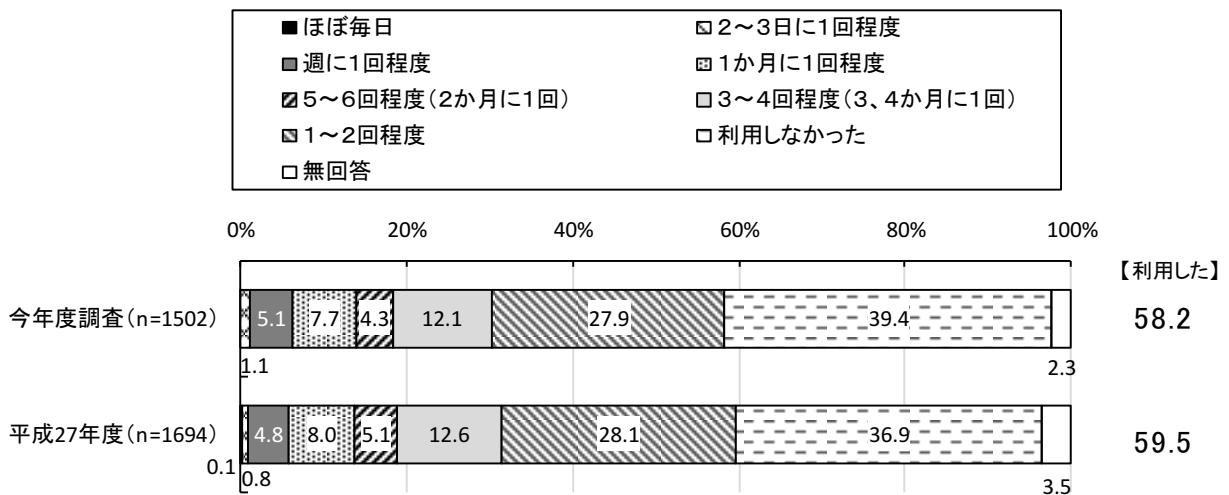
年代別に見ても、「利用しなかった」が50代を除いた全世代でトップとなっている。特に20代以下では65.0%と6割以上が利用していない結果となった。

IV 調査結果

【性別・年代別】



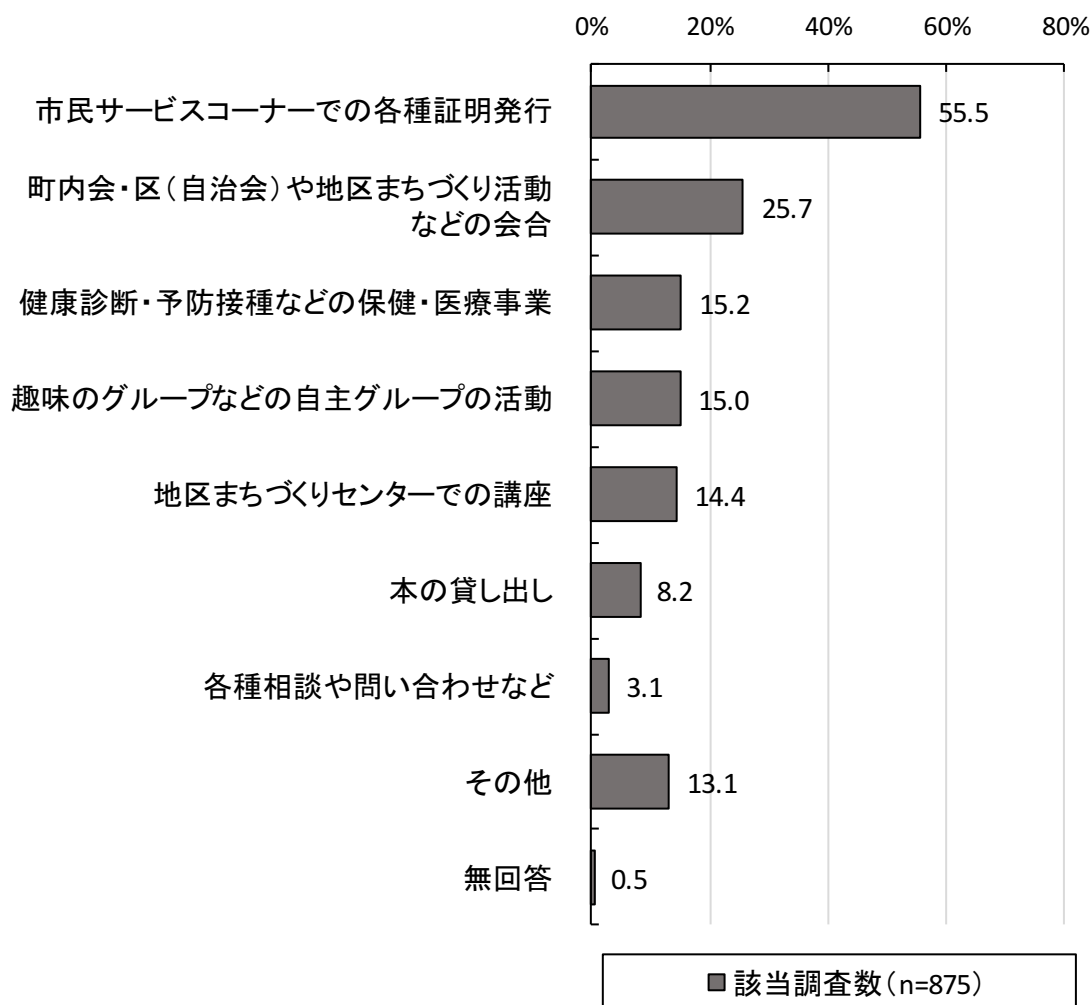
【経年比較】



## (12) 地区まちづくりセンターの利用目的

〈問11で1～7「利用した」と回答した人に伺います〉

問11-1 あなたは、過去1年間で、地区まちづくりセンターをどのような目的で利用しましたか。利用回数の多い方から3つ以内で選んで○をつけてください。



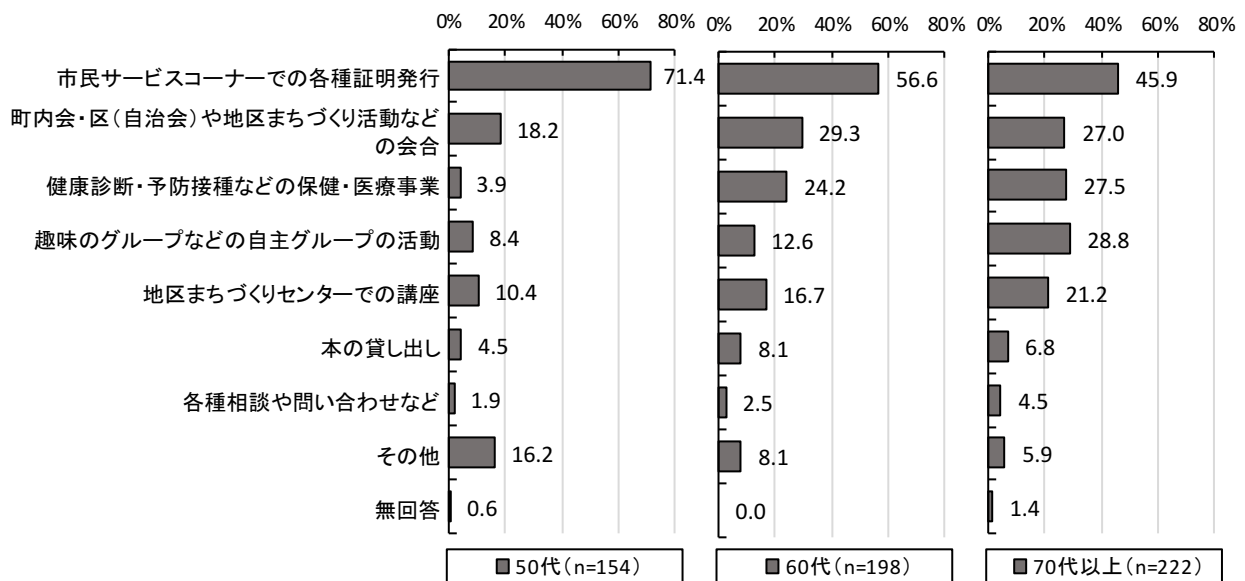
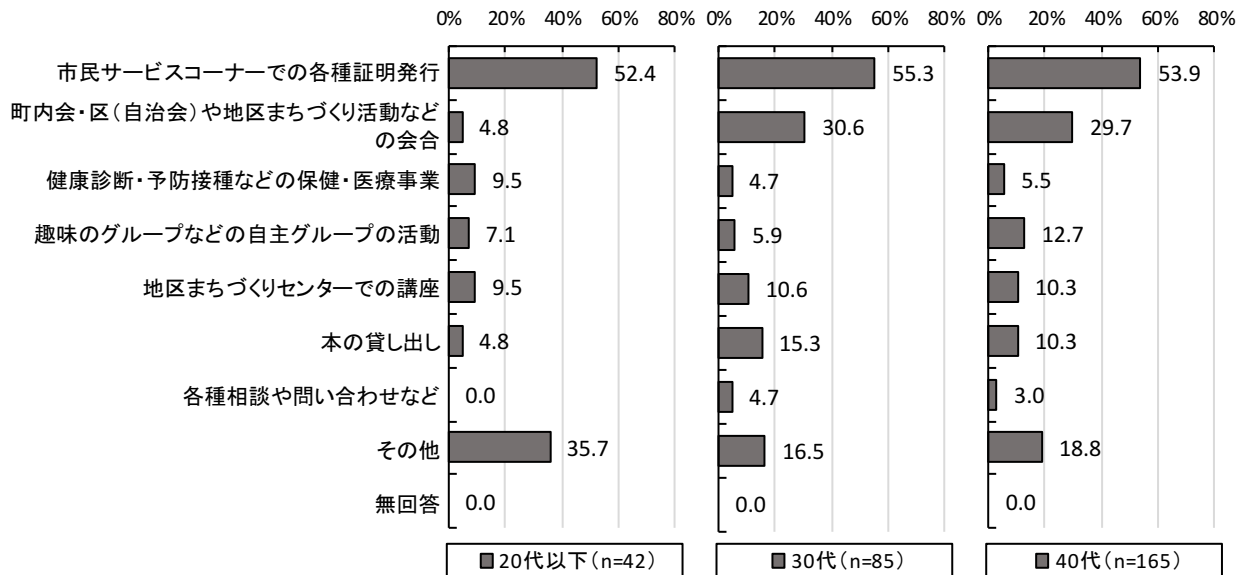
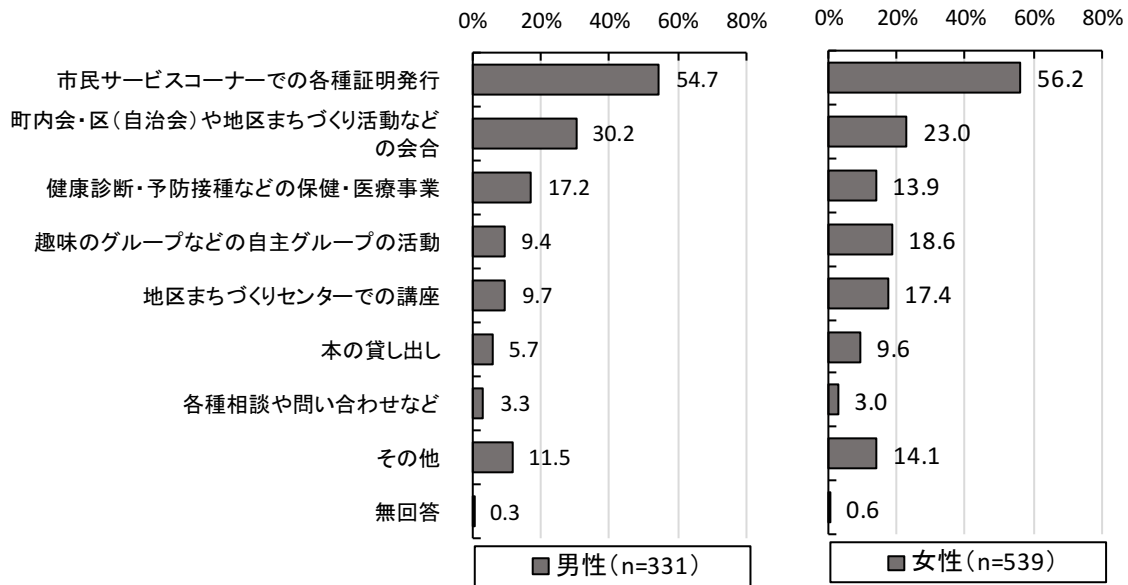
地区まちづくりセンターの利用目的について尋ねたところ、「市民サービスコーナーでの各種証明発行」が55.5%と最も高く、半数以上となっている。次いで「町内会・区(自治会)や地区まちづくり活動などの会合」25.7%、「健康診断・予防接種などの保健・医療事業」15.2%の順となっている。

男女別に見ると、上位2項目に加えて、女性は「趣味のグループなどの自主グループの活動」が18.6%と高い傾向にある。

年代別で見ると、「市民サービスコーナーでの各種証明発行」が全世代でトップとなっている。また、60代から「健康診断・予防接種などの保健・医療事業」の割合が高くなっている。

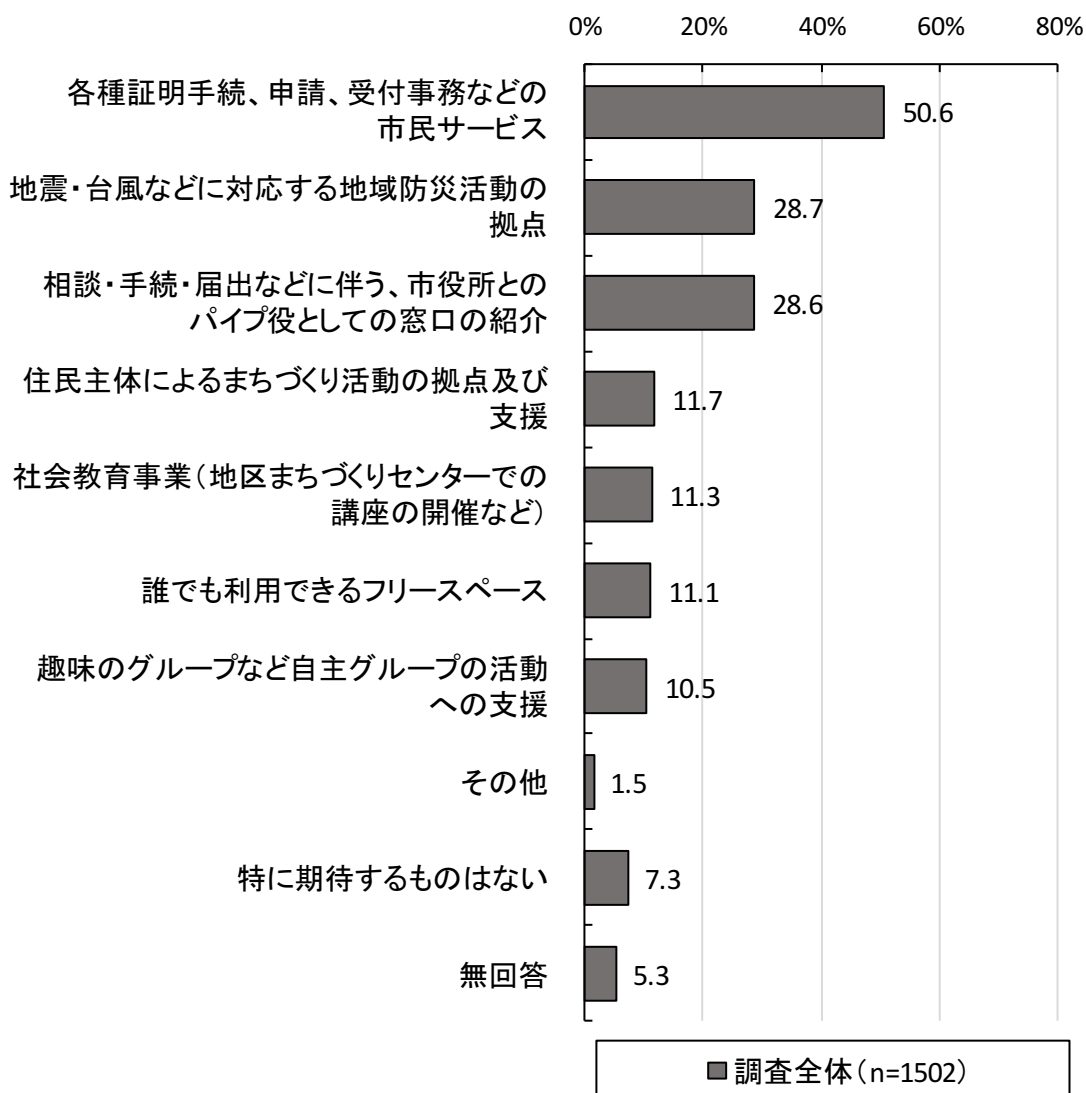
IV 調査結果

【性別・年代別】



## (13) 地区まちづくりセンターに期待する機能

問12 あなたは、地区まちづくりセンターに、今後どのような機能を期待していますか。次の中から2つ以内で選んで○をつけてください。



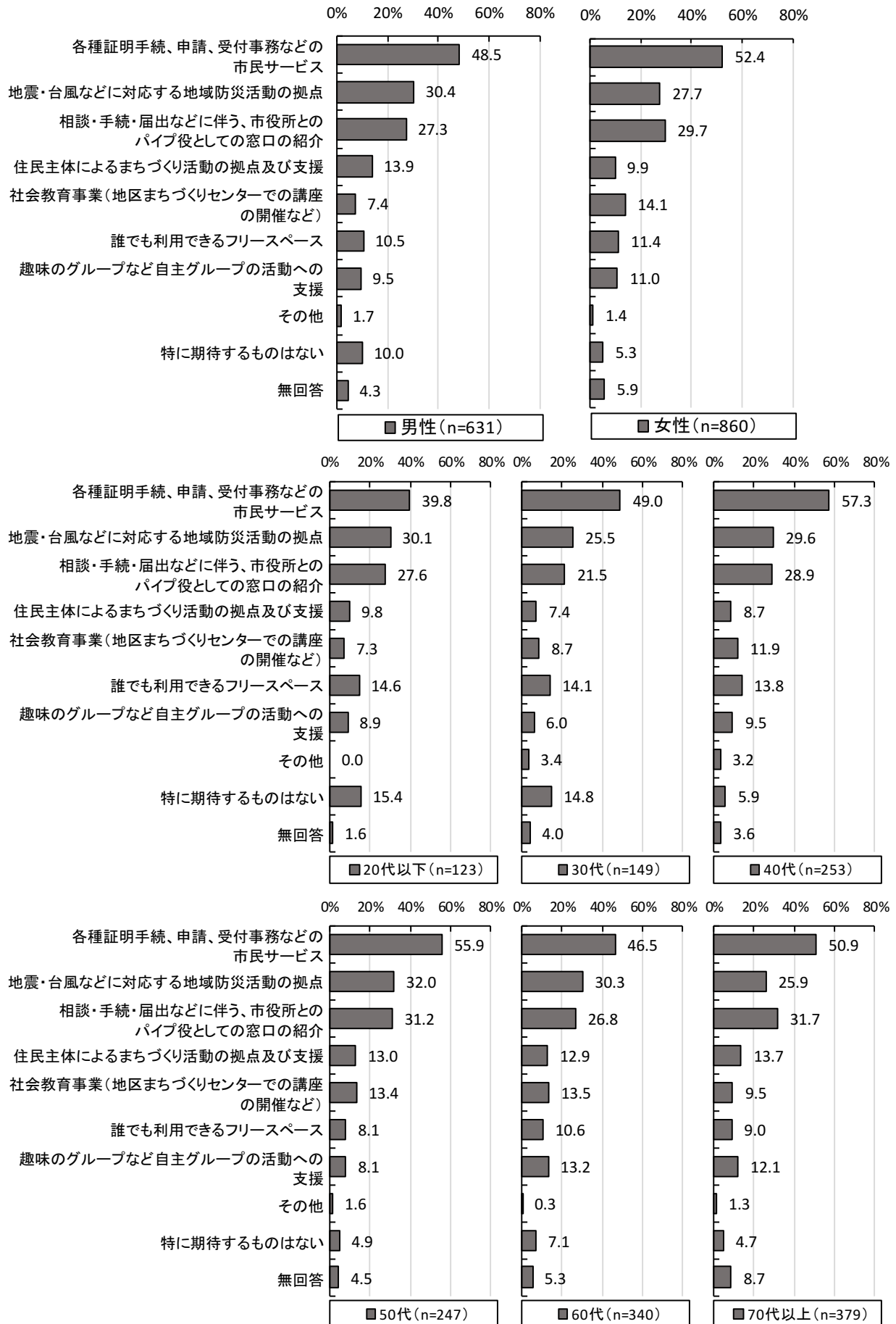
地区まちづくりセンターに期待する機能について尋ねたところ、「各種証明手続・申請・届出、受付事務などの市民サービス」が50.6%と最も高く、およそ半数となっている。次いで「地震・台風などに対応する地域防災活動の拠点」28.7%、「相談・手続・届出などに伴う、市役所とのパイプ役としての窓口の紹介」28.6%の順となっている。

男女別に見ると、上位3項目に加えて、男性は「住民主体によるまちづくり活動の拠点及び支援」、女性は「社会教育事業(地区まちづくりセンターでの講座の開催など)」の割合が高い。

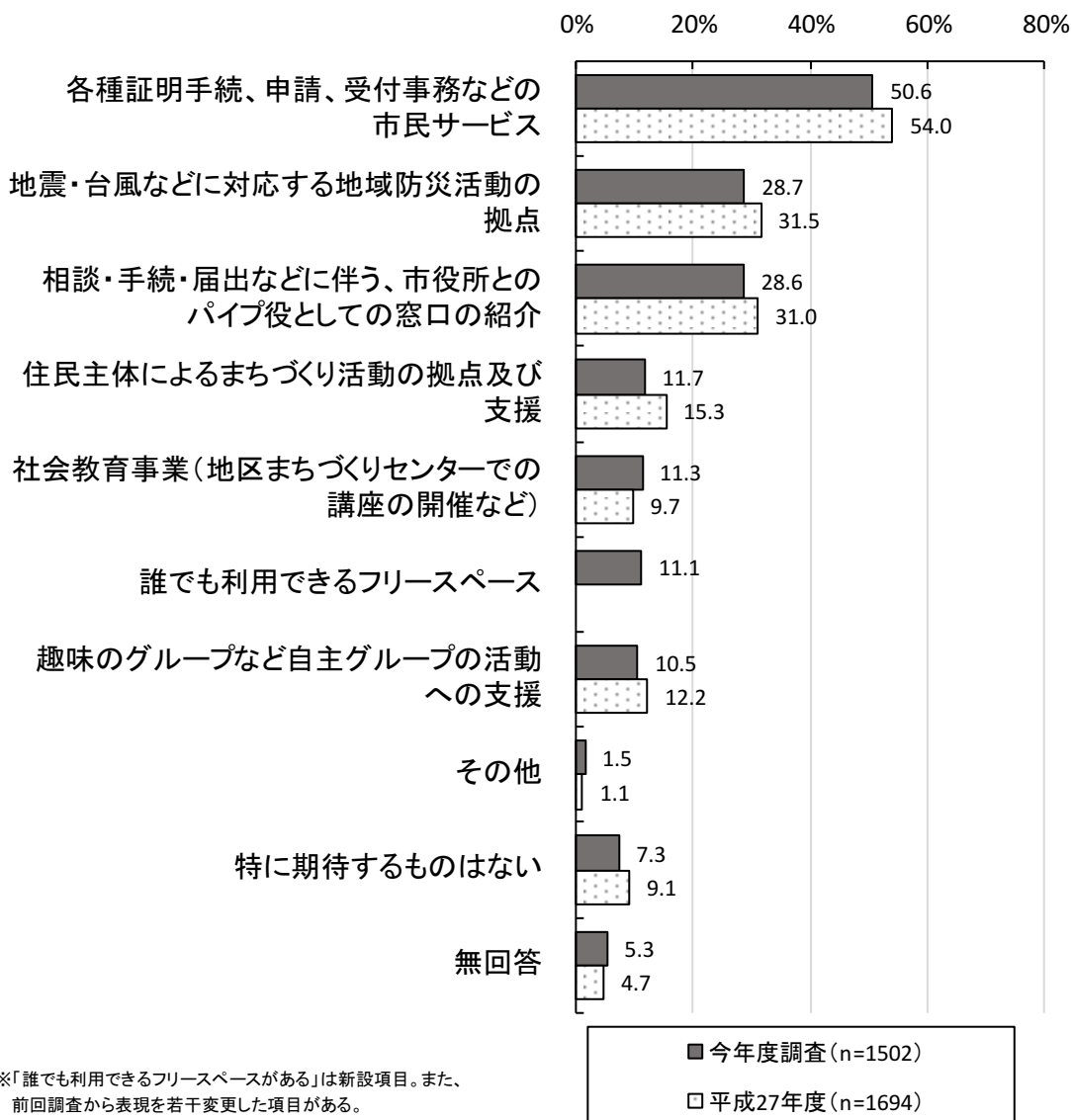
年代別で見ると、「各種証明手続・申請・届出、受付事務などの市民サービス」が全世代でトップとなっている。また、60代、70代以上で「趣味のグループなどの自主グループの活動への支援」の割合が高くなっている。

IV 調査結果

【性別・年代別】

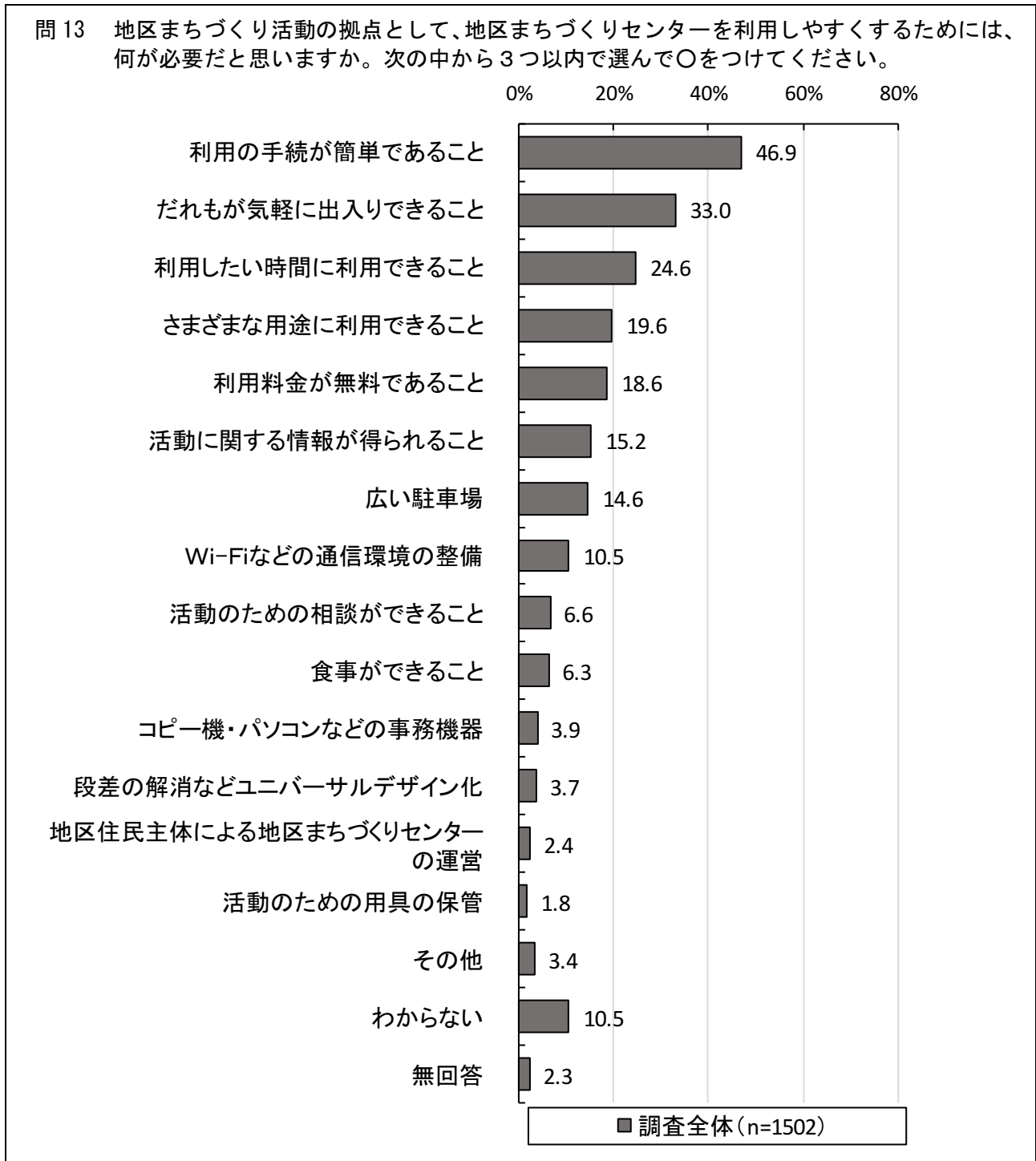


【経年比較】



※「誰でも利用できるフリースペースがある」は新設項目。また、前回調査から表現を若干変更した項目がある。

(14) 地区まちづくりセンターの利用促進に必要なこと



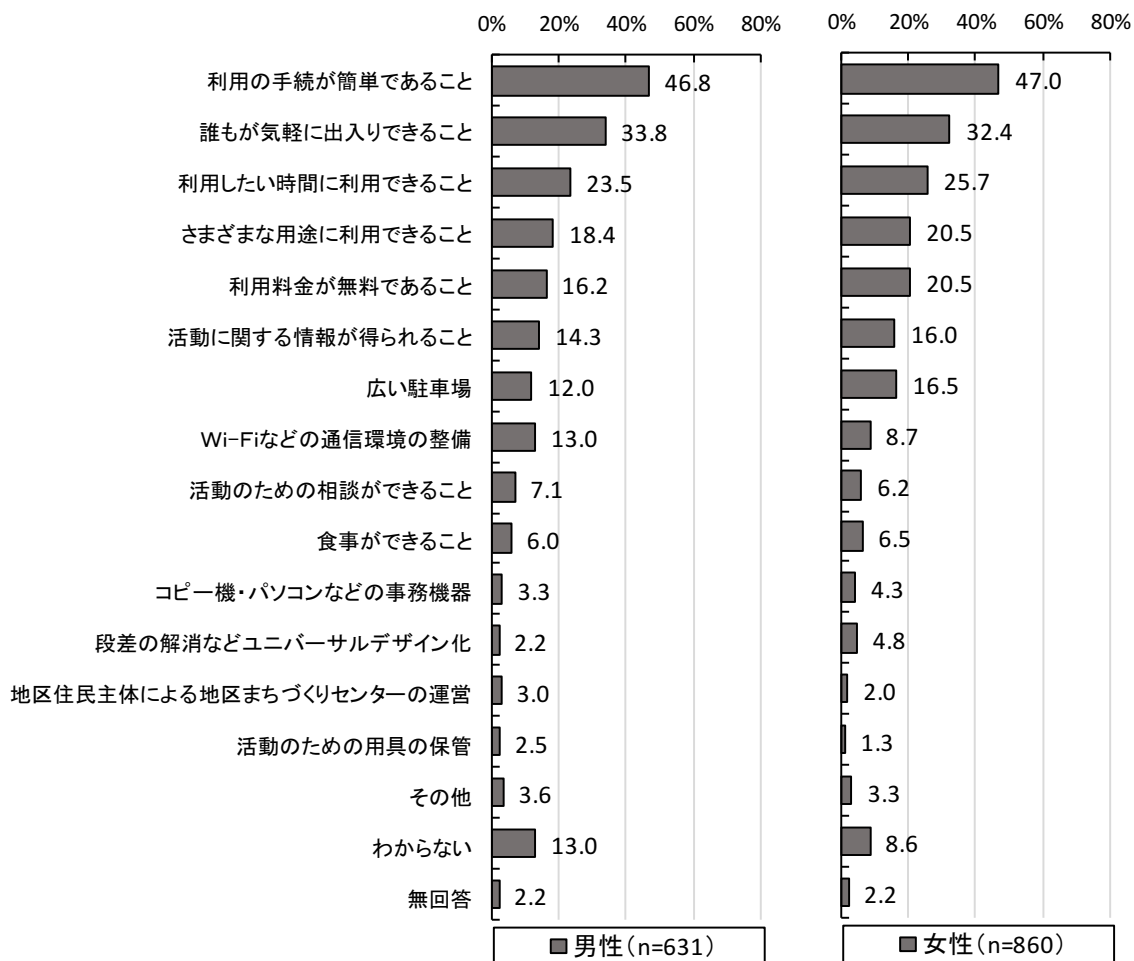
地区まちづくりセンターの利用促進に必要なことについて尋ねたところ、「利用の手続が簡単であること」が46.9%と最も高くなっている。次いで「誰もが気軽に入出入りできること」33.0%、「利用したい時間に利用できること」24.6%となっている。

男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

年代別で見ても、「利用の手続が簡単であること」が全世代でトップとなっている。また、20代以下から40代の年代にかけて「Wi-Fiなどの通信環境の整備」の割合が高くなっている。

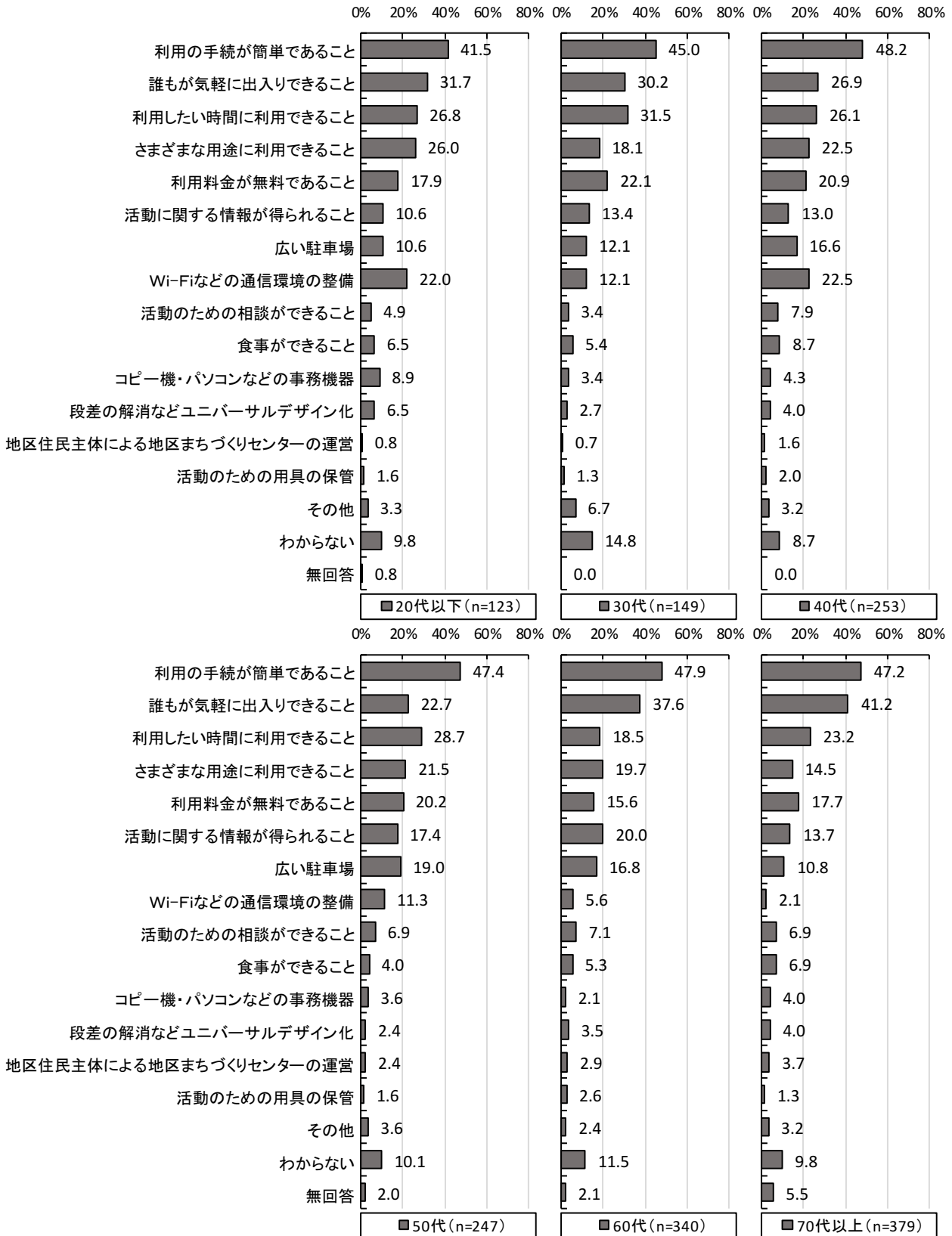


## 【性別】

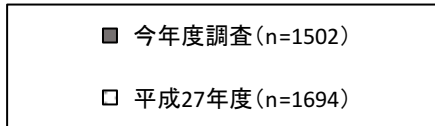
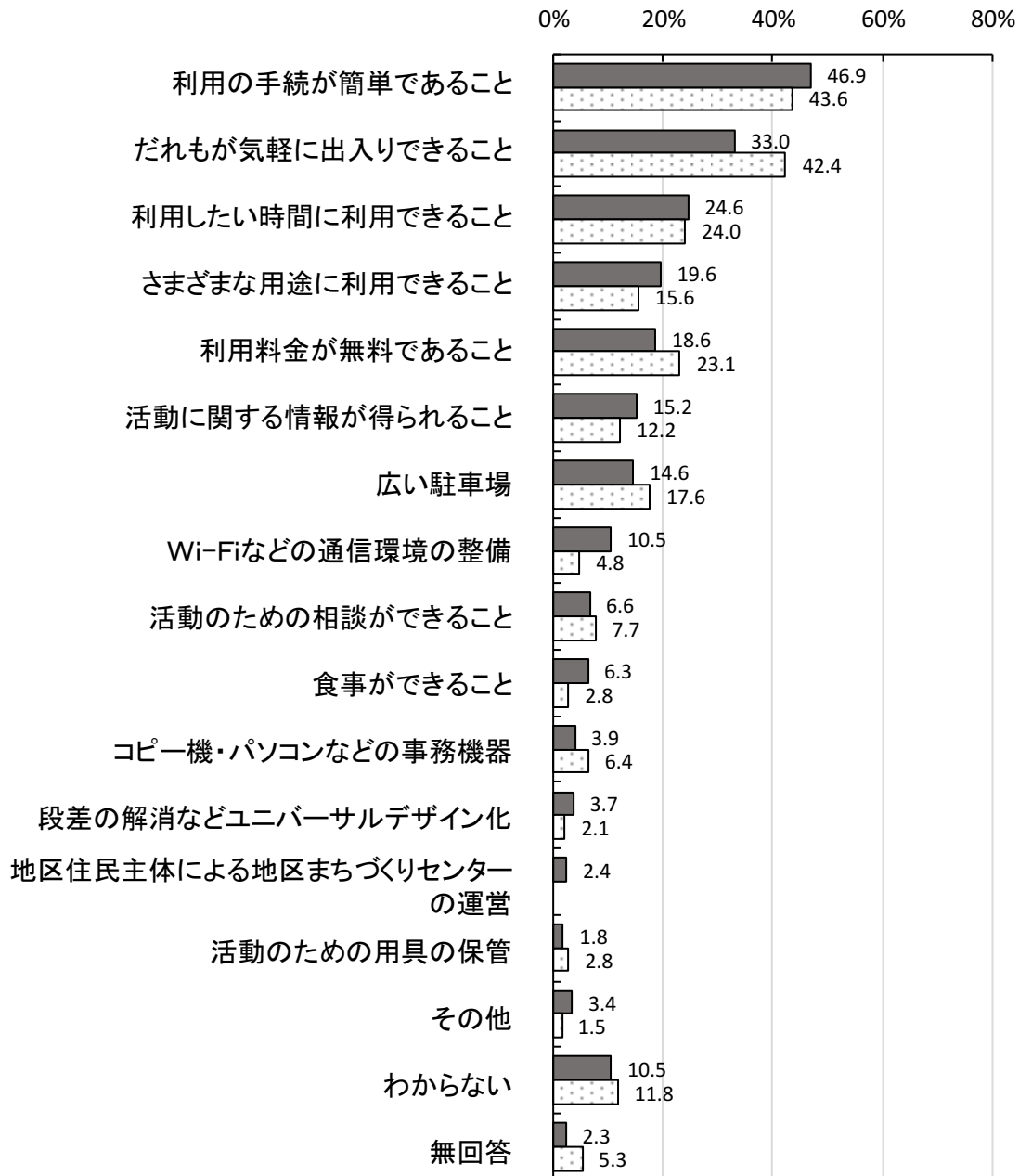


IV 調査結果

【年代別】



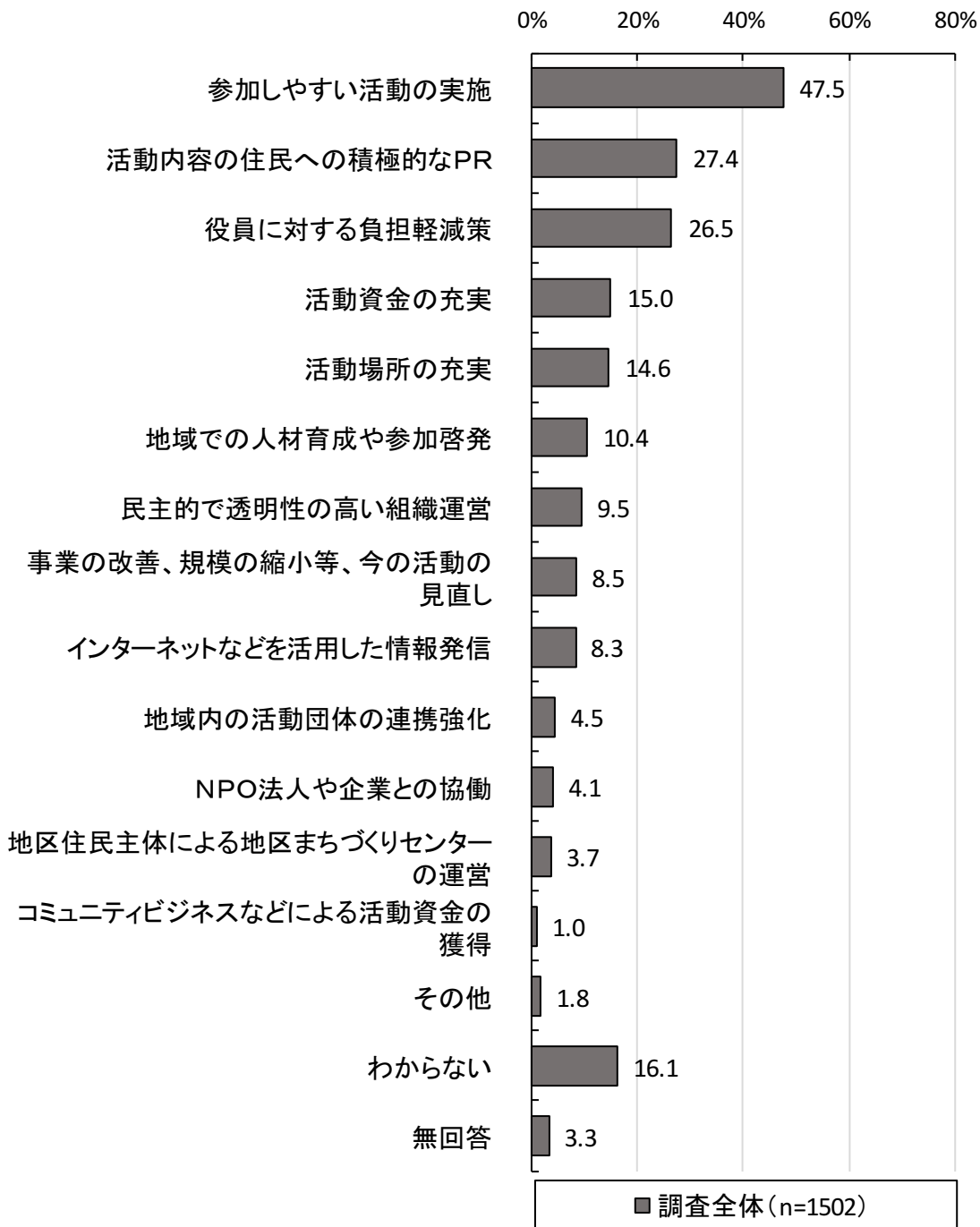
【経年比較】



※「地区住民主体による地区まちづくりセンターの運営」は新設項目。

(15) まちづくり活動に必要な地区の取り組み

問 14 あなたの地区で行われているまちづくり活動が、今後も活発に行われるためには、地区の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

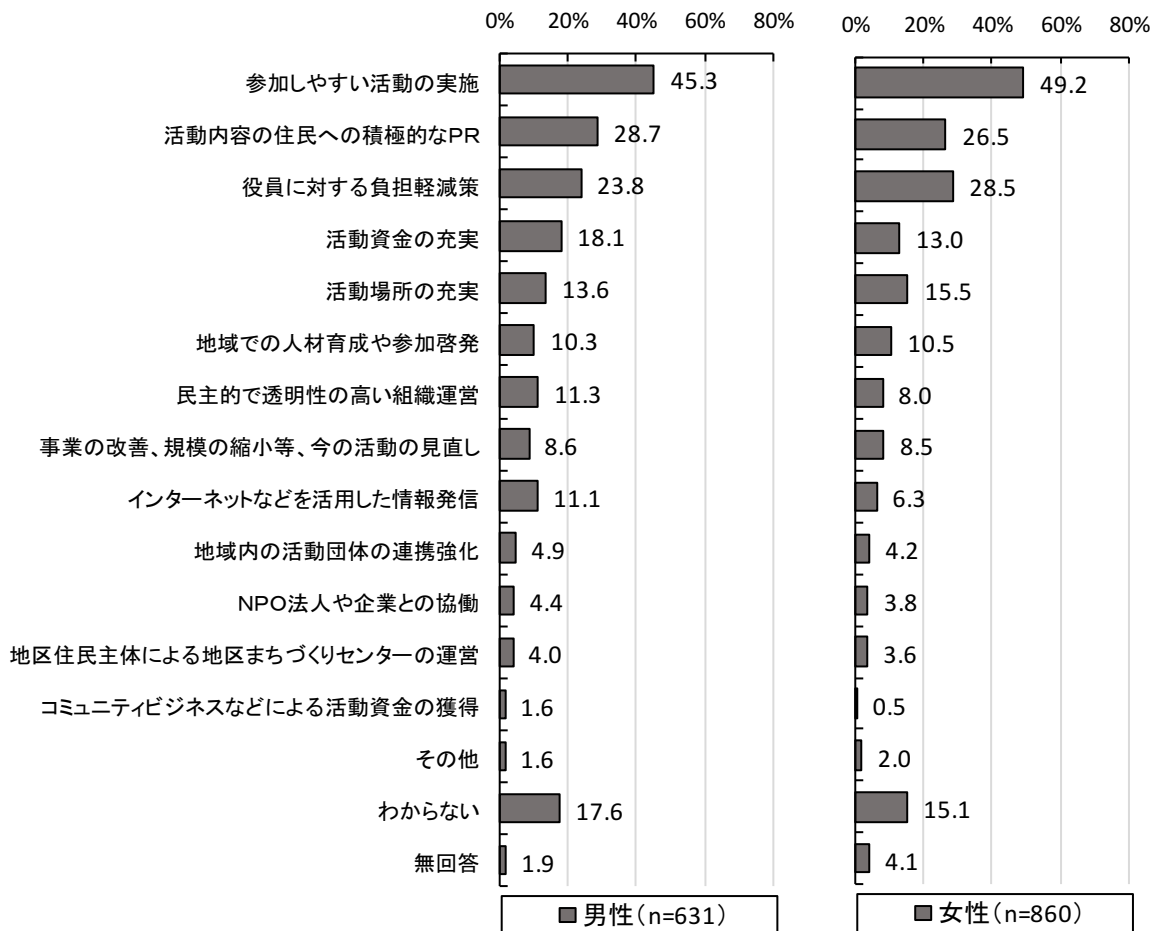


まちづくり活動に必要な地区の取り組みについて尋ねたところ、「参加しやすい活動の実施」が47.5%と最も高くなっている。次いで「活動内容の住民への積極的なPR」27.4%、「役員に対する負担軽減策」26.5%の順となっている。

男女別に見ても、男女ともに上位3項目の割合は高い傾向にある。

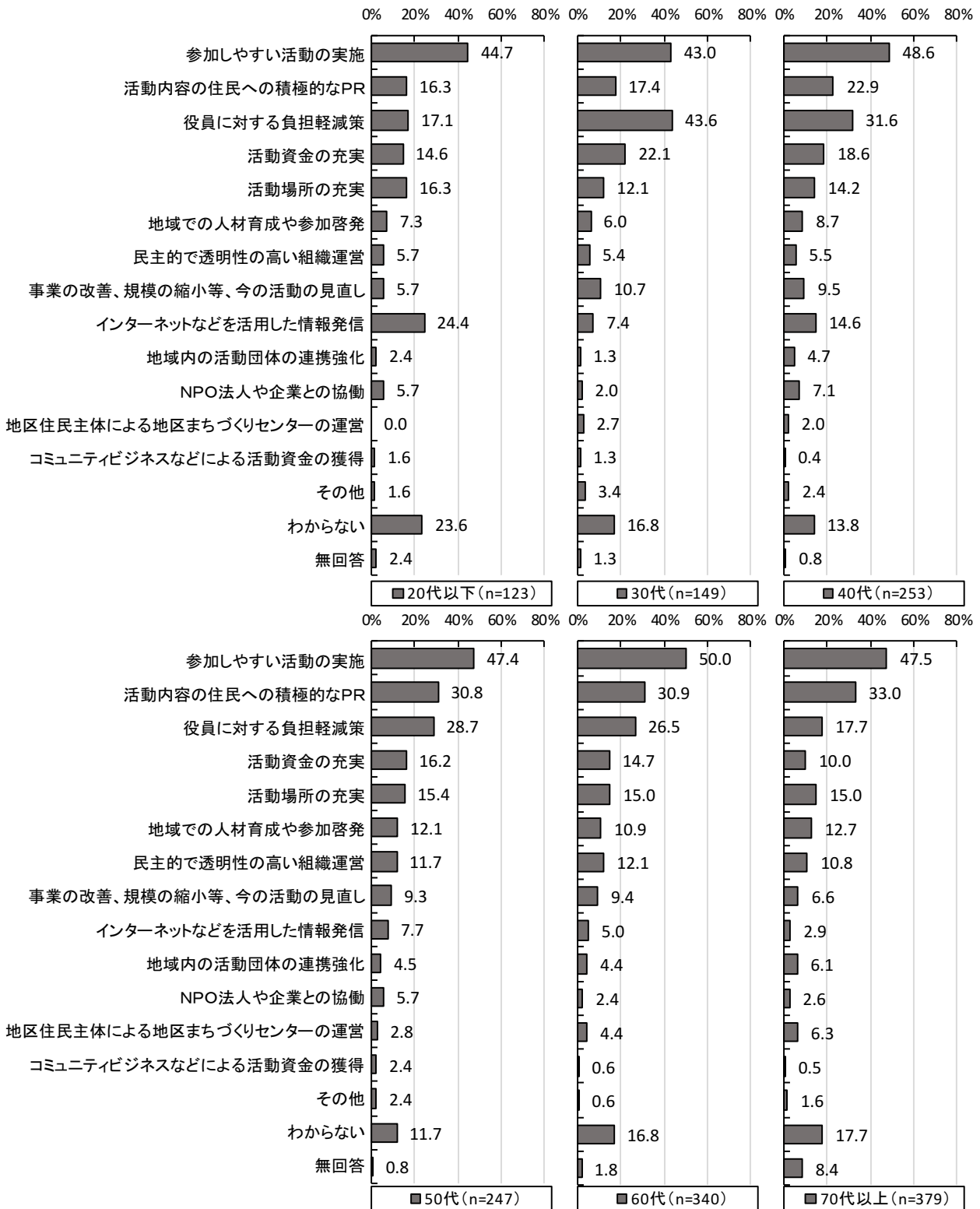
年代別で見ても、「参加しやすい活動の実施」が30代を除いて全世代でトップとなっている。また、20代以下では「インターネットなどを活用した情報発信」の割合が高くなっている。

## 【性別】

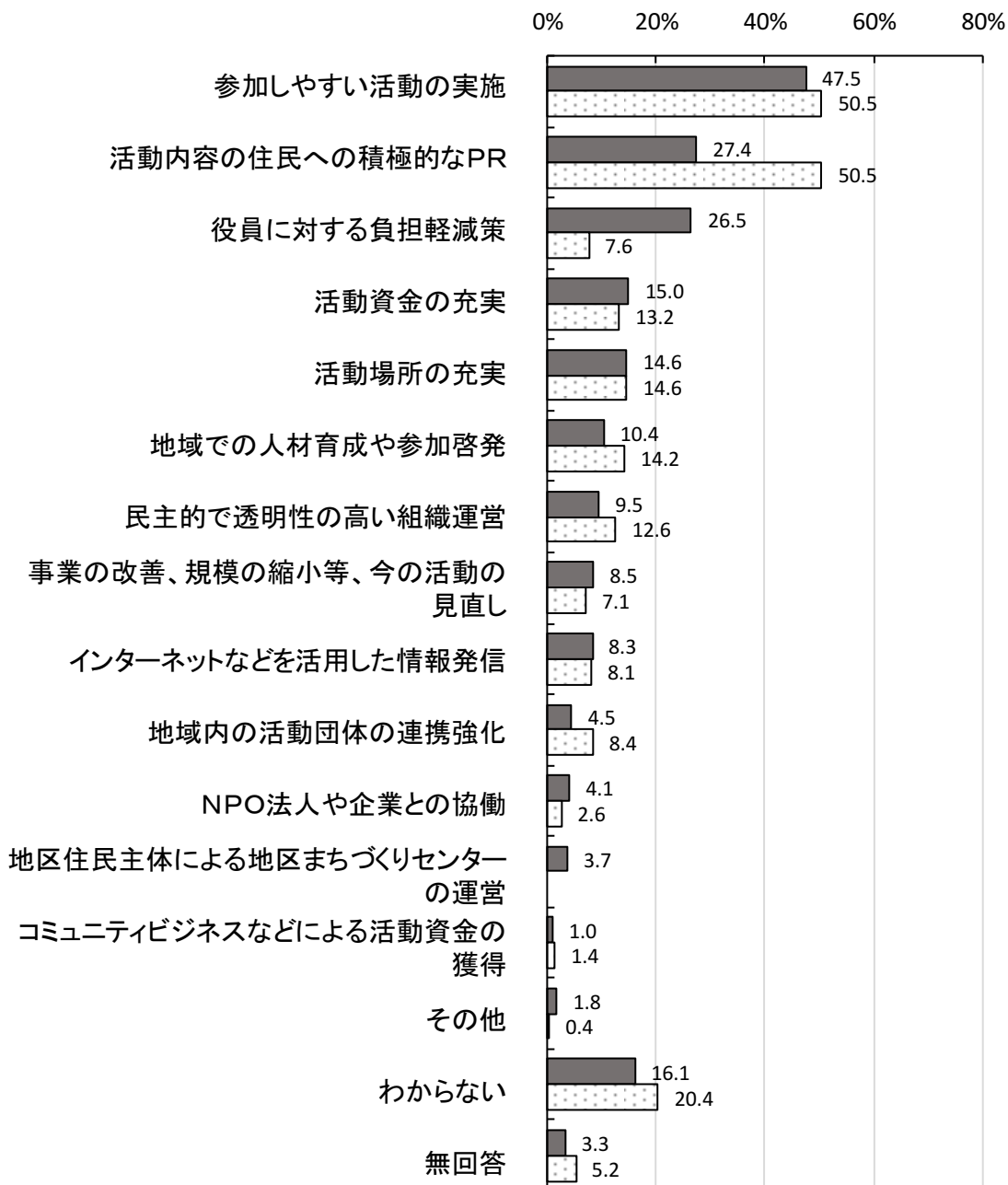


IV 調査結果

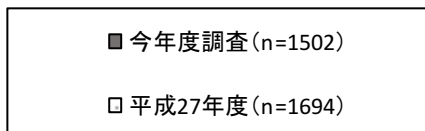
【年代別】



【経年比較】

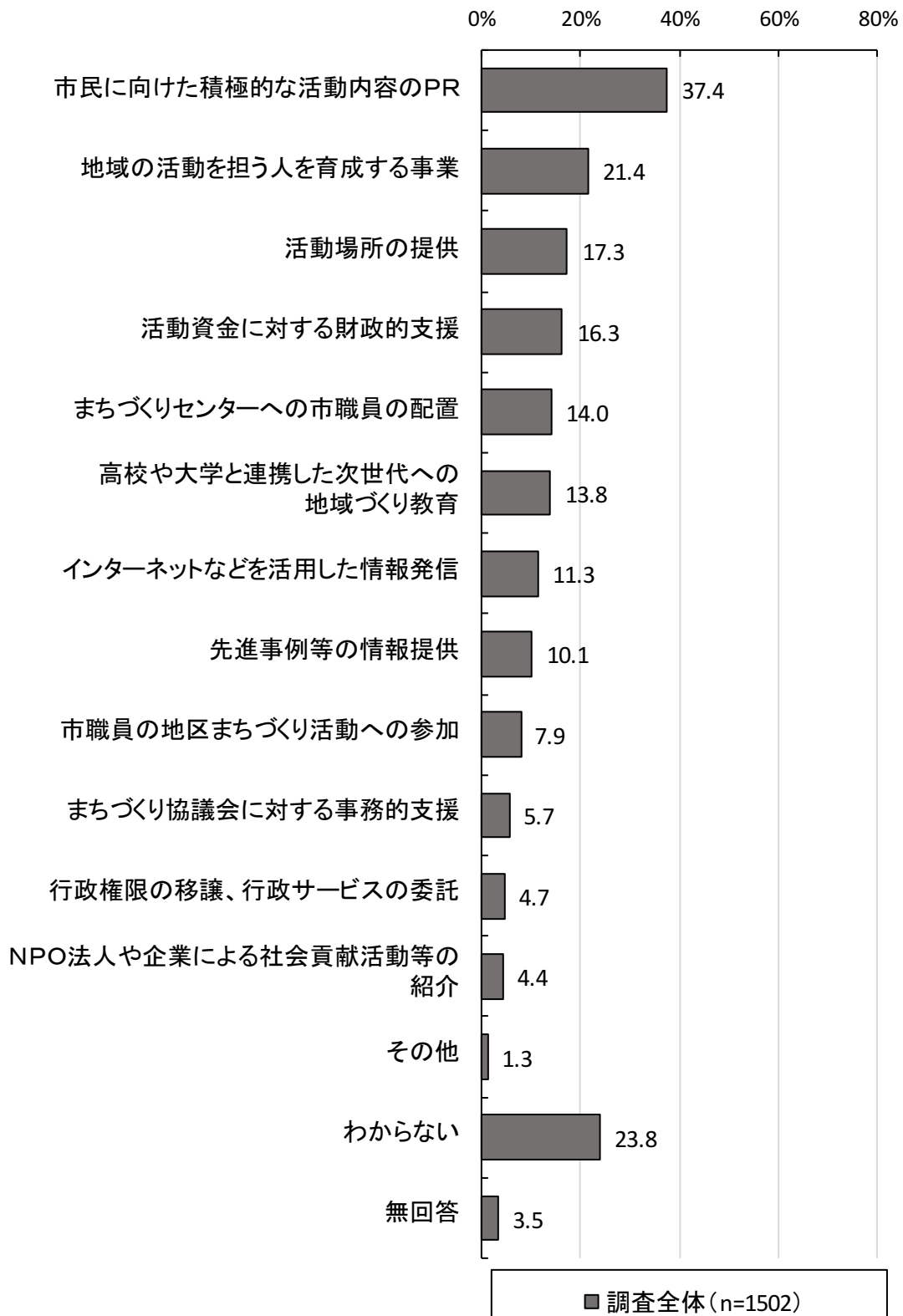


※「地区住民主体による地区まちづくりセンターの運営」は新設項目。



(16) まちづくり活動に必要な行政の取り組み

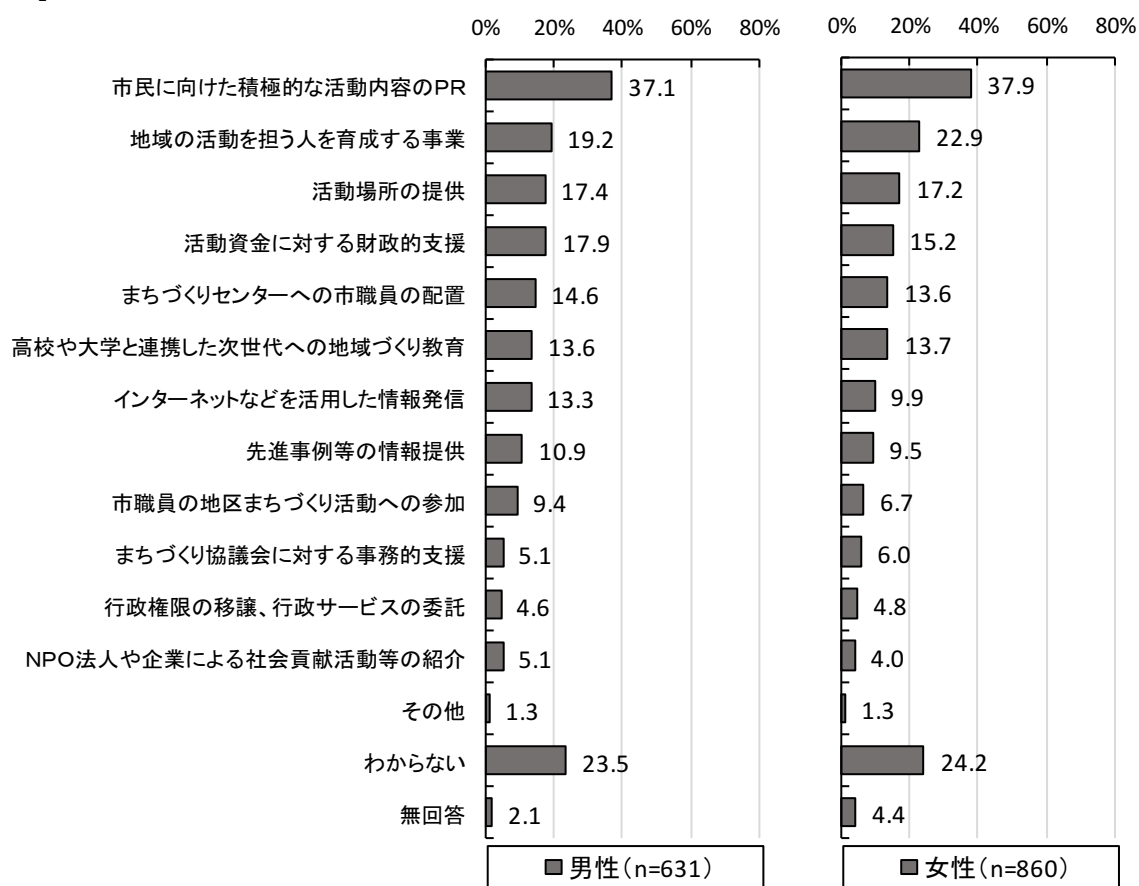
問 15 あなたの地区で行われているまちづくり活動が、今後も活発に行われるためには、行政の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。



まちづくり活動に必要な行政の取り組みについて尋ねたところ、「市民に向けた積極的な活動内容のPR」が37.4%と最も高くなっている。次いで「地域の活動を担う人を育成する事業」21.4%、「活動場所の提供」17.3%となっている。



## 【性別】

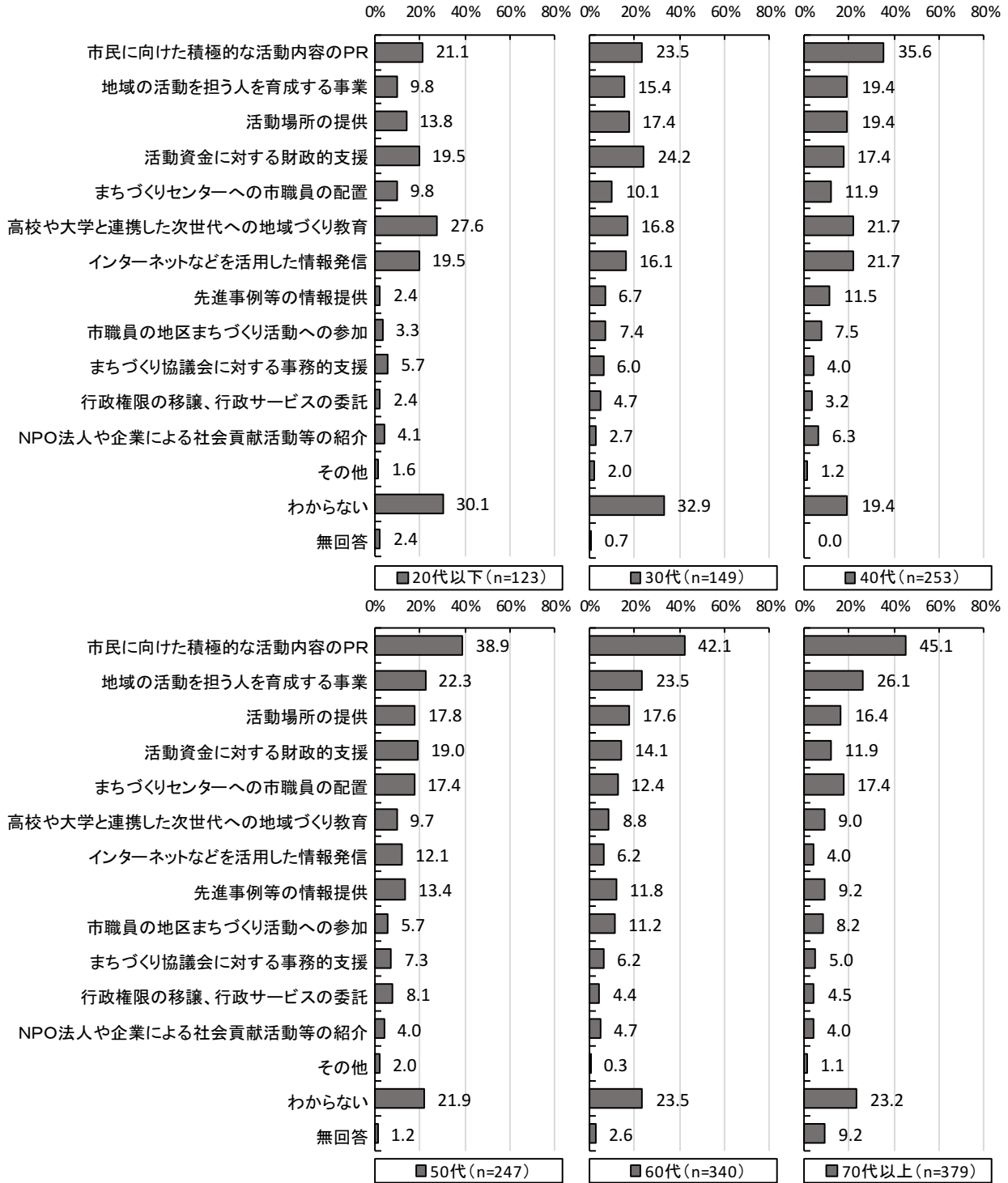


男女別に見ても、上位2項目に加えて、男性は「活動資金に対する財政的支援」の割合が高い傾向にある。

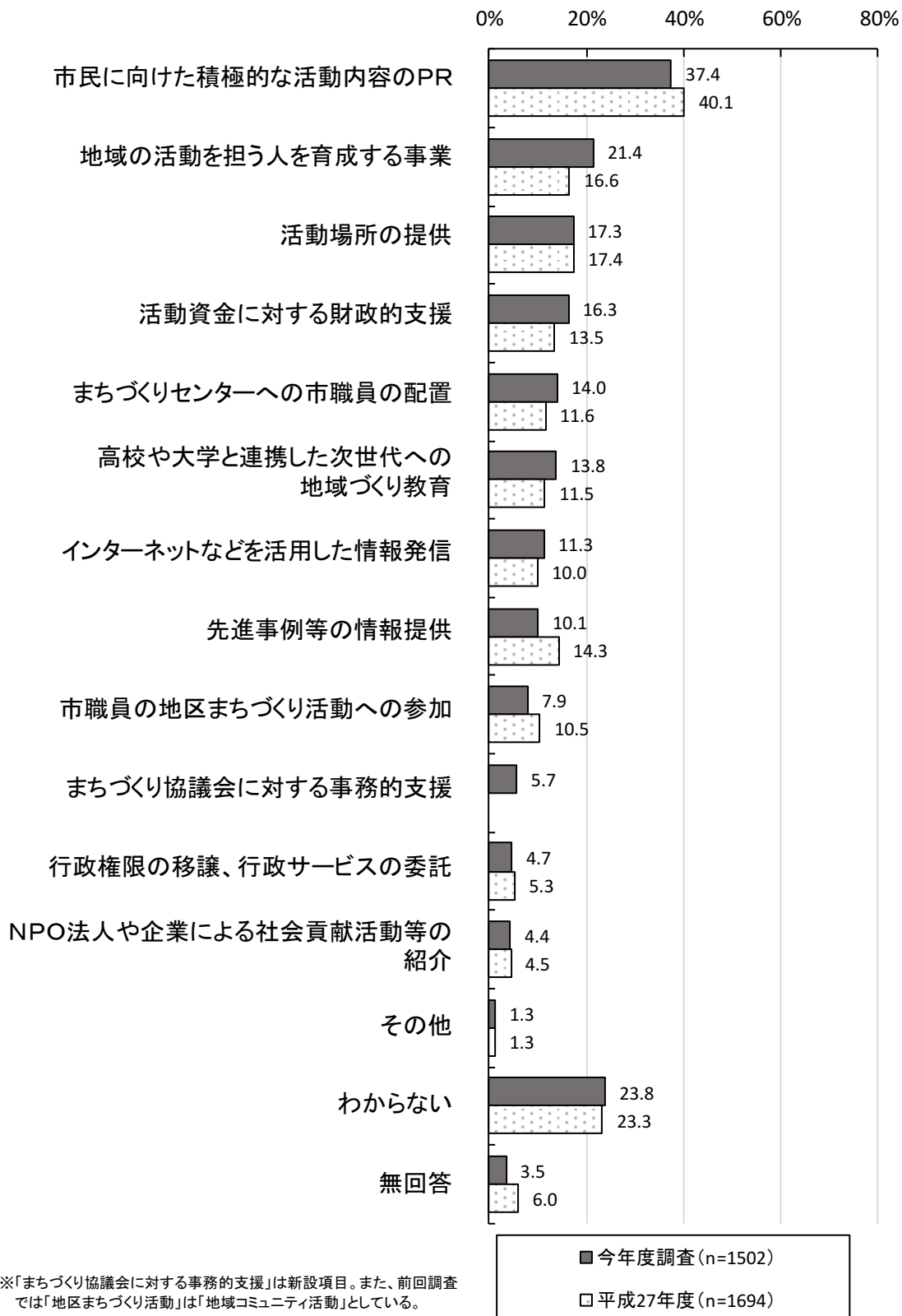
年代別で見ると、「市民に向けた積極的な活動内容のPR」は40代、50代、60代、70代以上でトップとなっている。なお、20代以下では「高校や大学と連携した次世代への地域づくり教育」、30代では「活動資金に対する財政的支援」の割合が「わからない」を除くと最も高くなっている。

IV 調査結果

【年代別】

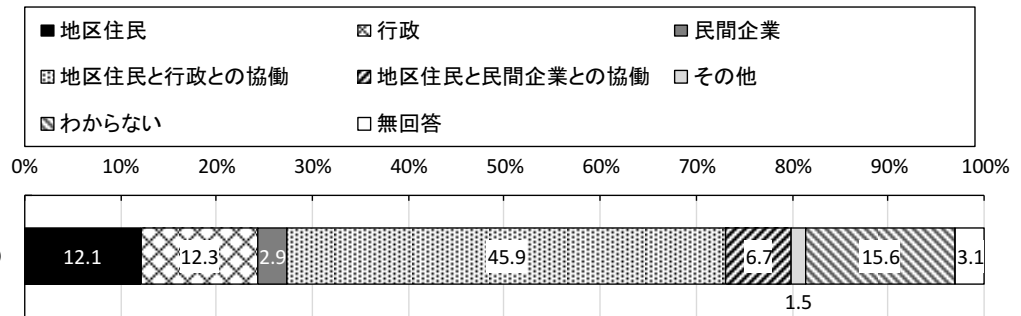


## 【経年比較】



(17) 地域課題の解決において中心的役割を誰が担うべきか

問16 あなたは、これからの地域課題を解決に導くために、誰が中心的な役割を担うべきだと考えますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

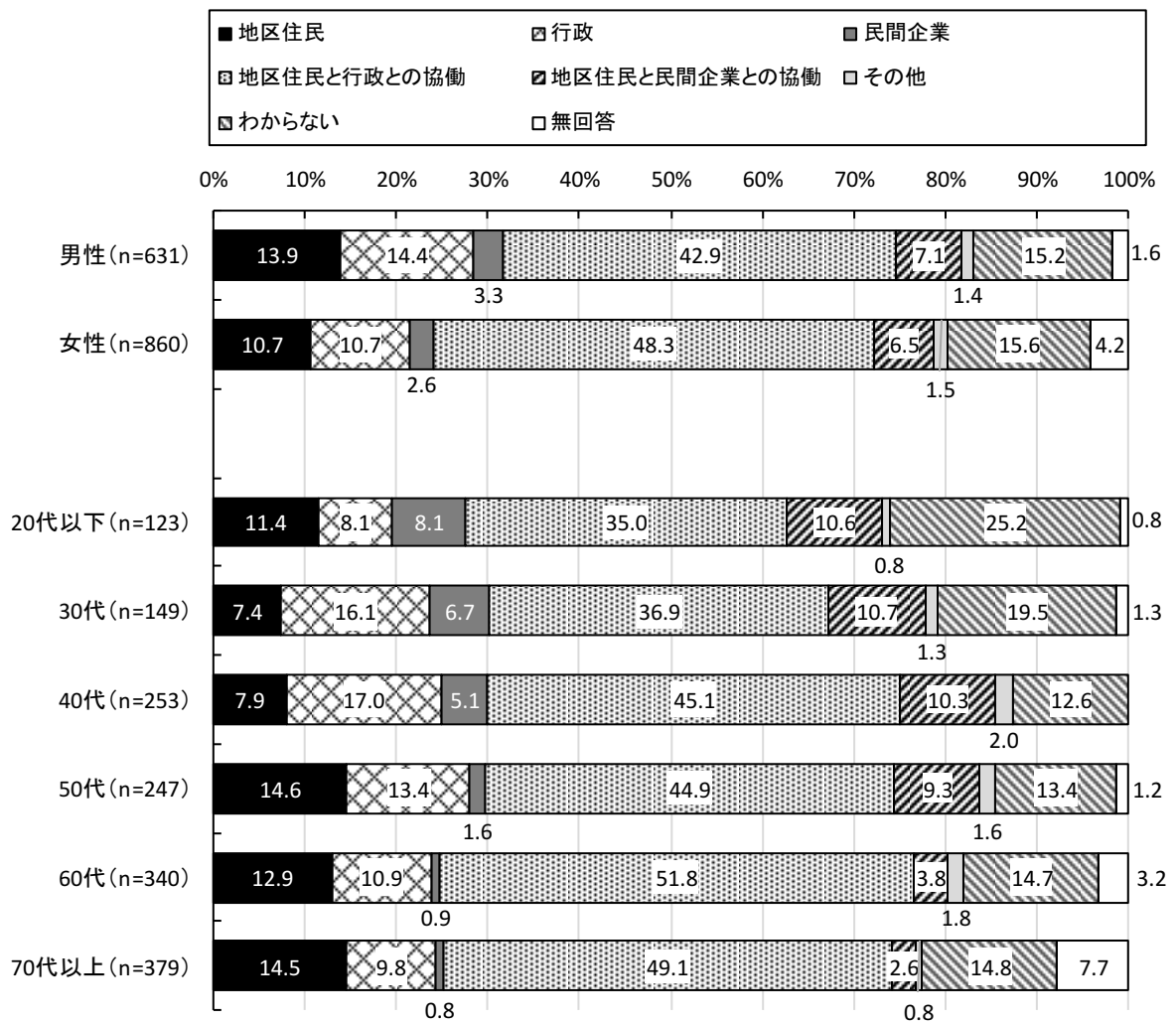


地域課題の解決において中心的役割を誰が担うべきかについて尋ねたところ、「地区住民と行政との協働」が45.9%と最も高くなっている。

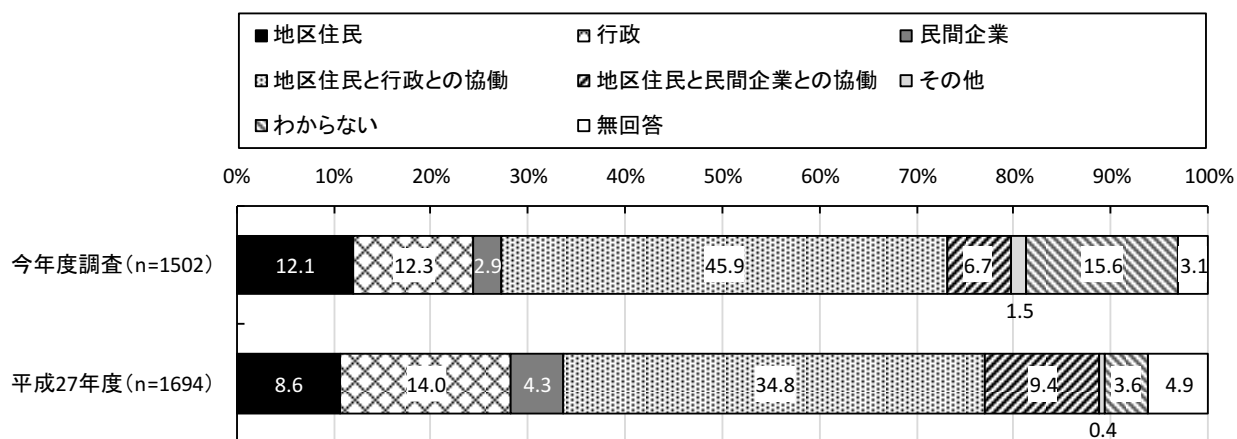
男女別に見ても、「地区住民と行政との協働」が最も高くなっている。

年代別で見ても、「地区住民と行政との協働」が全世代でトップとなっており、特に60代の割合は高くなっている。

【性別・年代別】



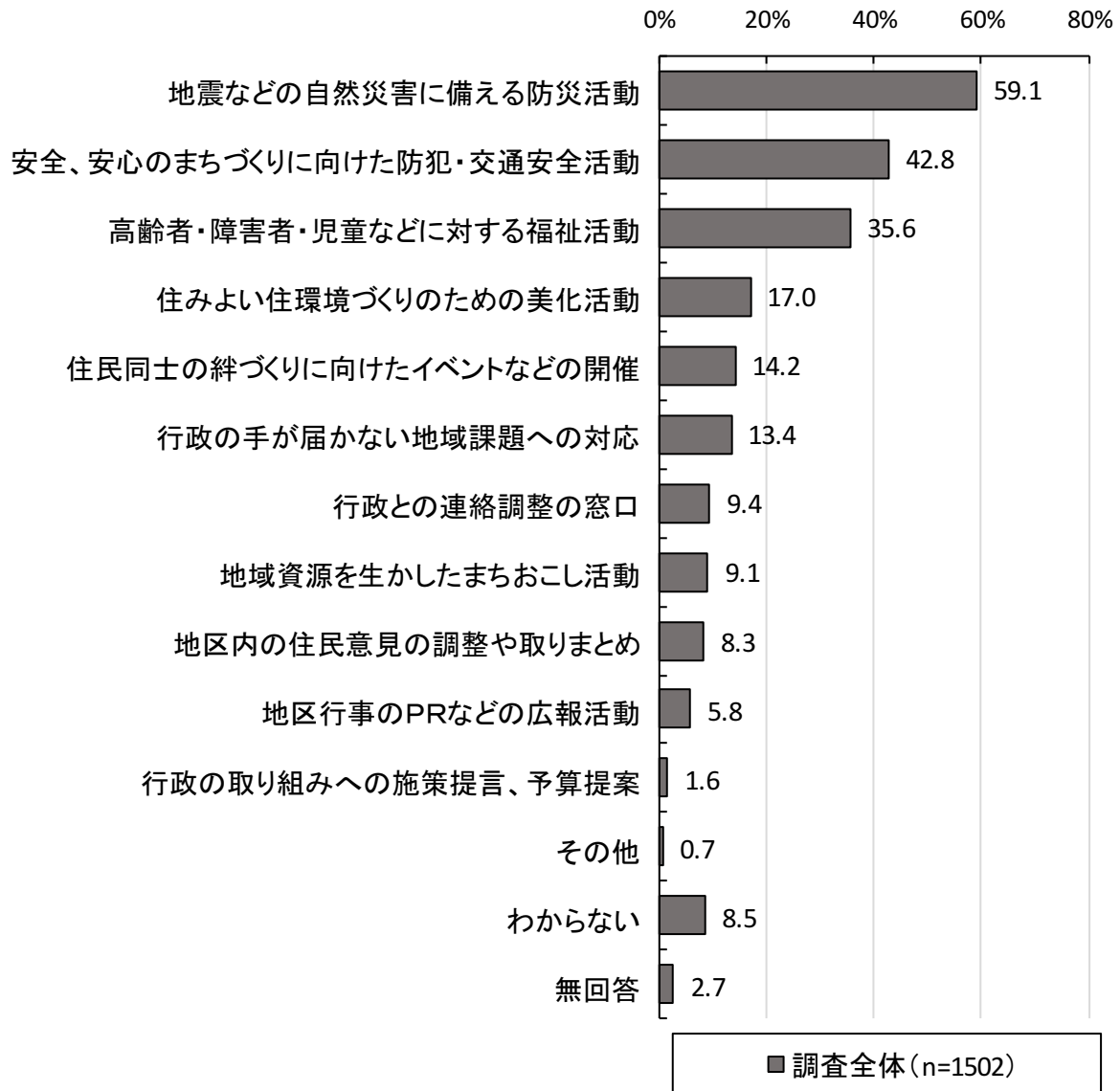
【経年比較】



※前回調査では「地区住民」は「地域コミュニティ活動」、「民間企業」は「民間サービス」としている。

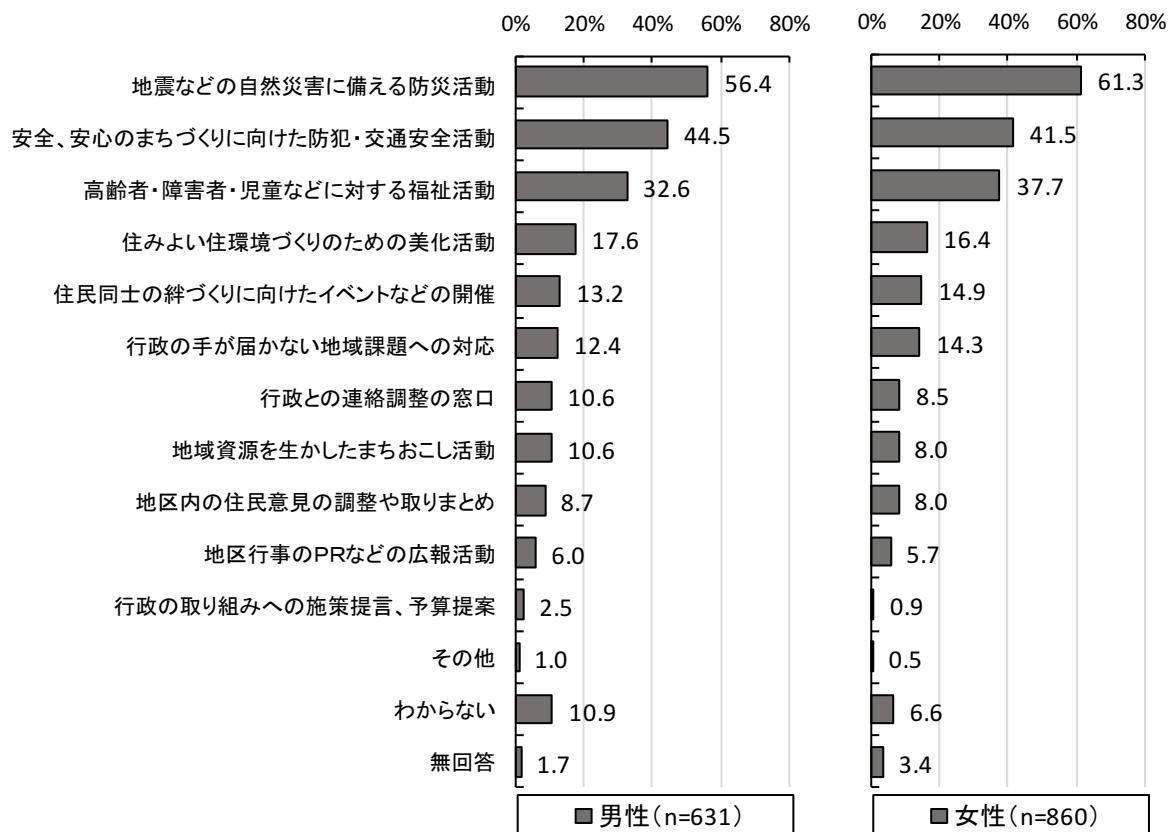
(18) 地区まちづくり活動に期待する内容

問17 あなたが地区まちづくり活動に期待する内容はどのようなことですか。当てはまるものを3つ以内で選んで○をつけてください。



地区まちづくり活動に期待する内容について尋ねたところ、「地震などの自然災害に備える防災活動」が 59.1%と最も高く、次いで「安全、安心のまちづくりに向けた防犯・交通安全活動」42.8%、「住みよい住環境づくりのための美化活動」35.6%の順となっている。

## 【性別】

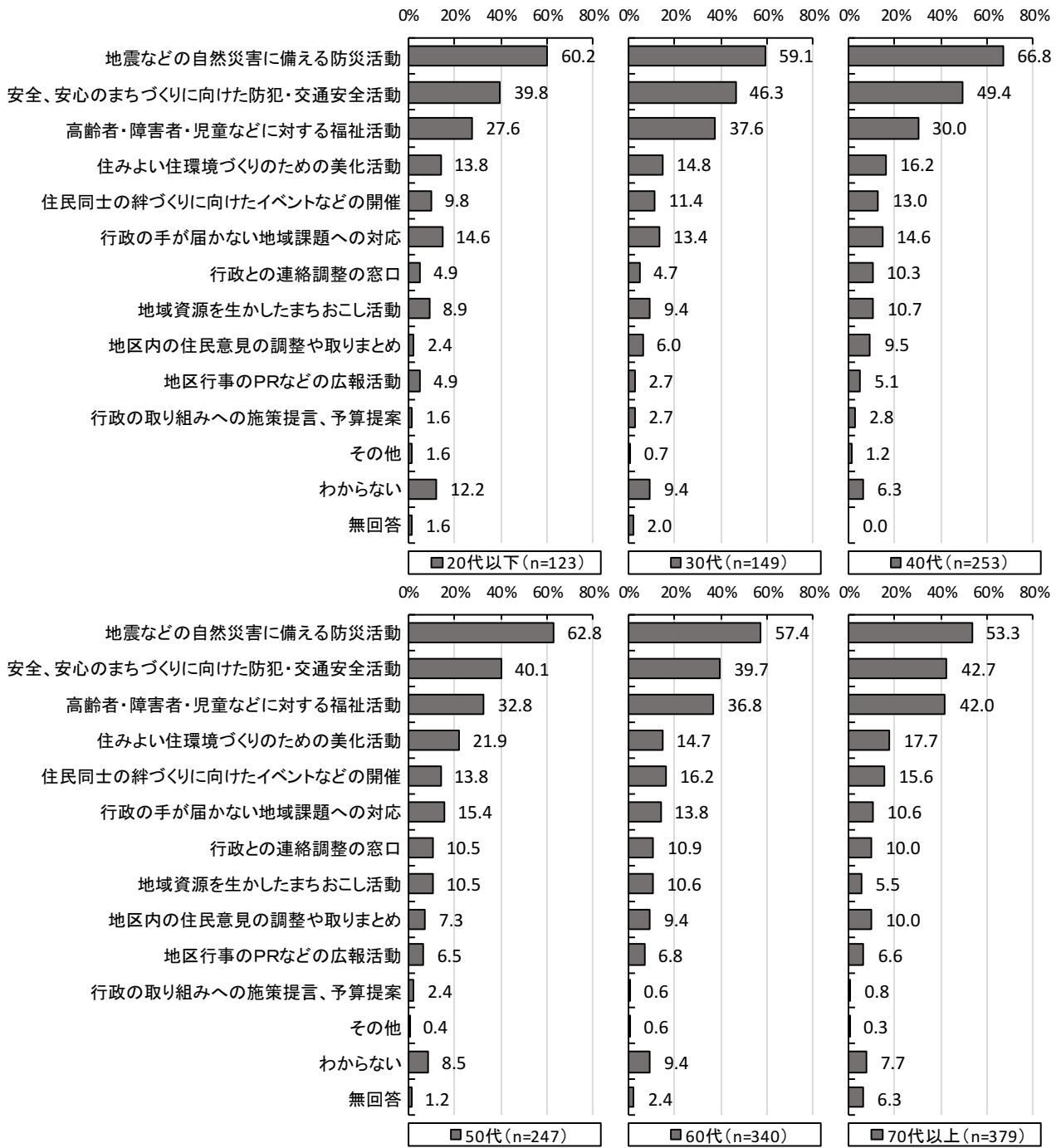


男女別に見ても、男女ともに上位3項目の割合が高くなっている。

年代別で見ても、「地震などの自然災害に備える防災活動」は全世代でトップとなっている。なお、70代以上では「高齢者・障害者・児童などに対する福祉活動」が42.0%と他の世代と比較して割合が高い。

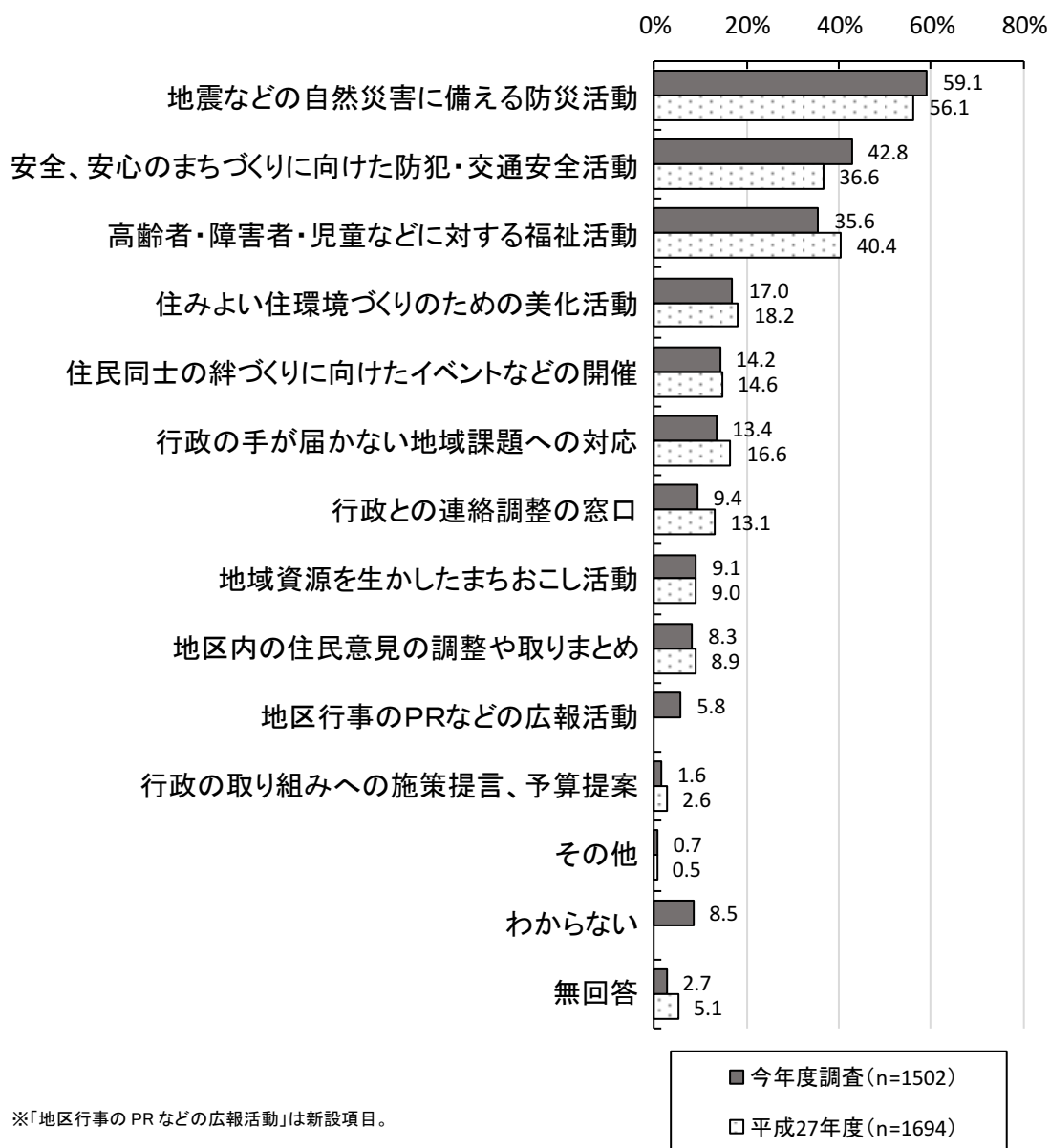
IV 調査結果

【年代別】





【経年比較】

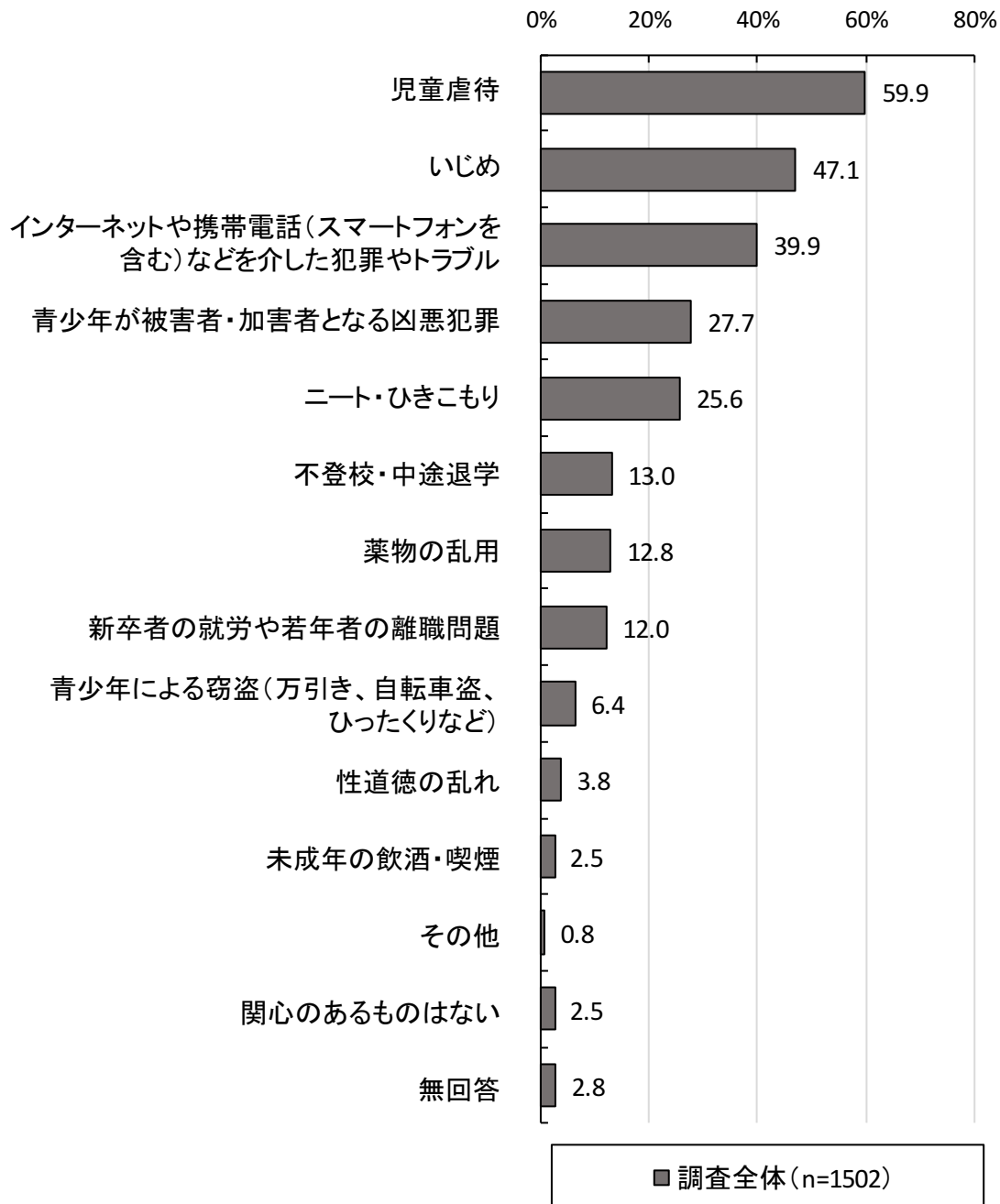


※「地区行事のPRなどの広報活動」は新設項目。

## II 「青少年の健全育成」について

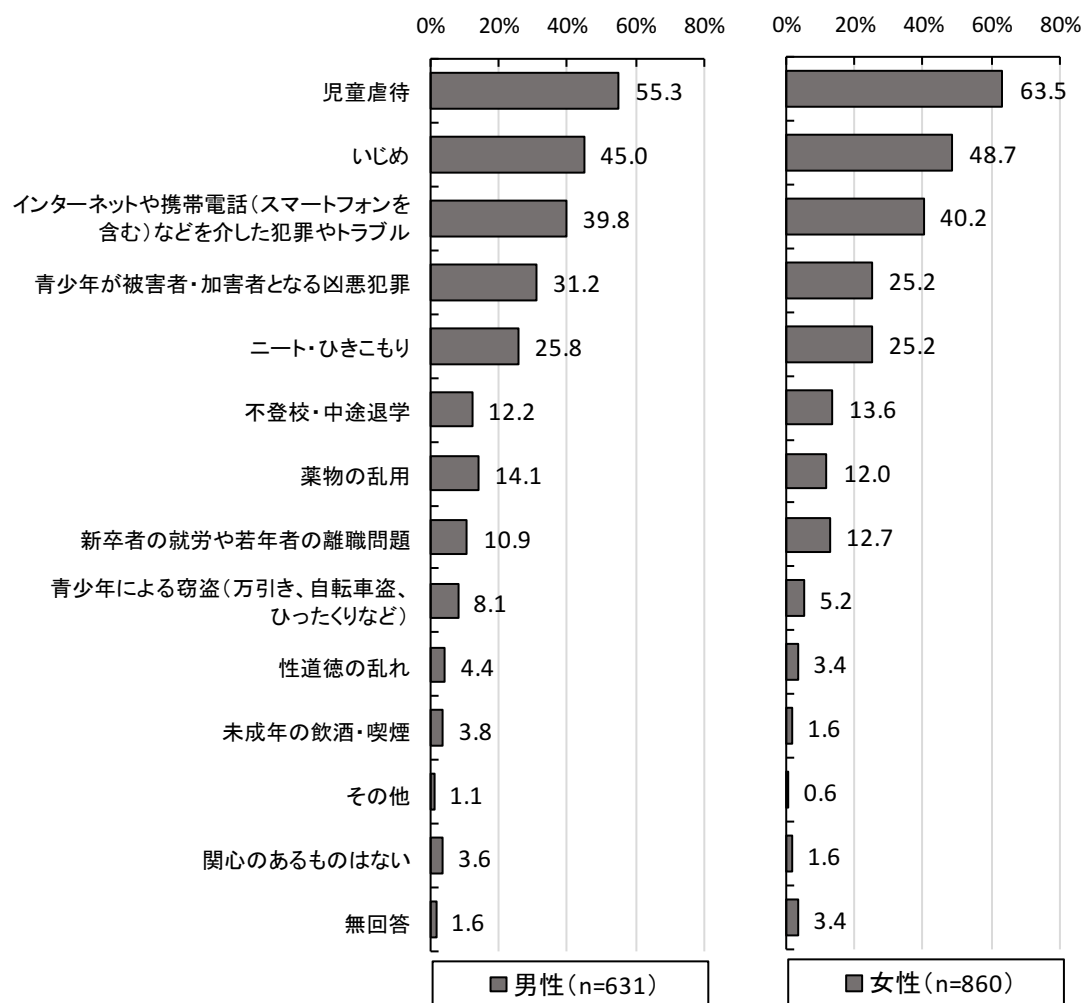
## (1) 青少年に関する問題への関心

問 19 青少年に関する問題として、あなたが関心のあるものを次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



青少年に関する問題への関心について尋ねたところ、「児童虐待」が59.9%と最も高く、次いで「いじめ」47.1%、「インターネットや携帯電話(スマートフォンを含む)などを介した犯罪やトラブル」39.9%の順となっている。

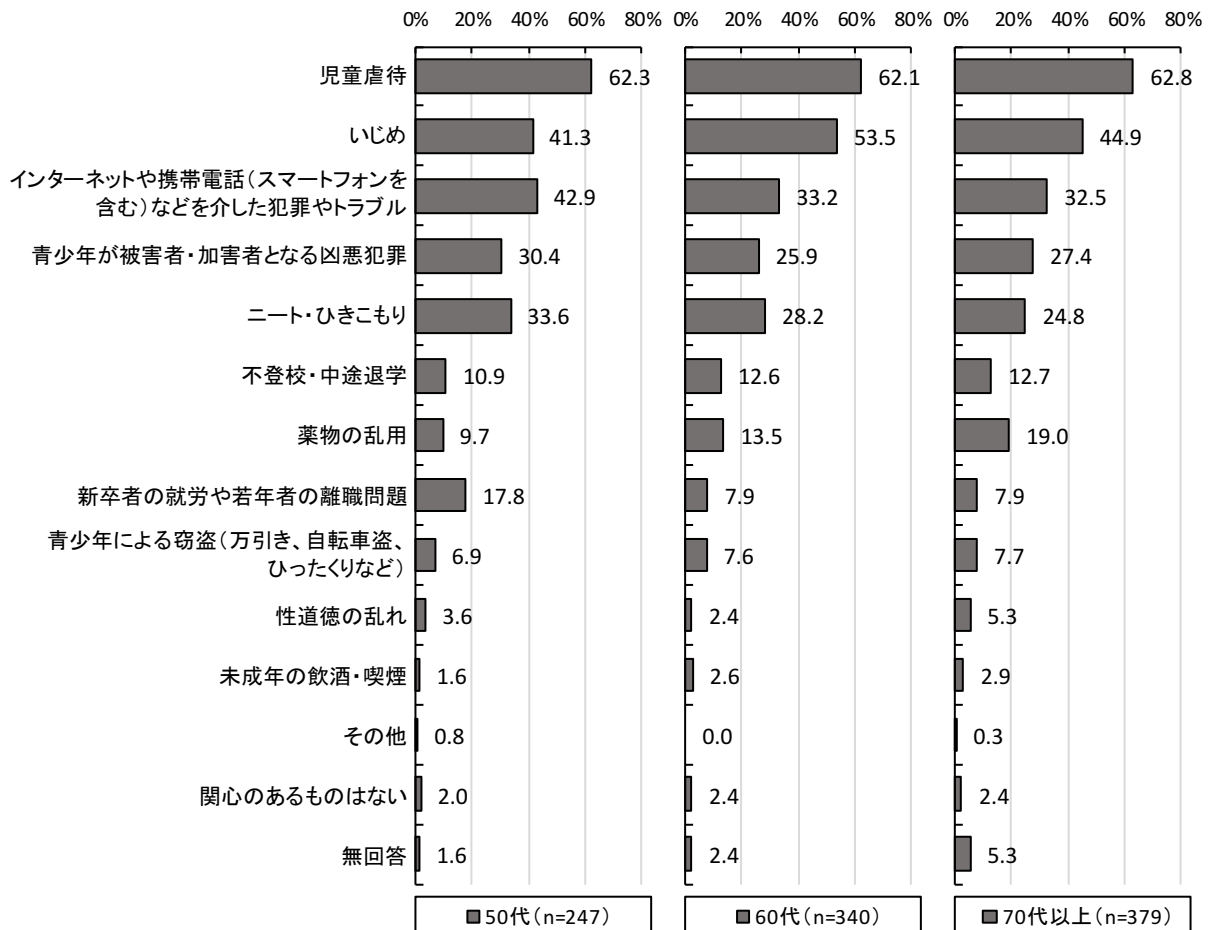
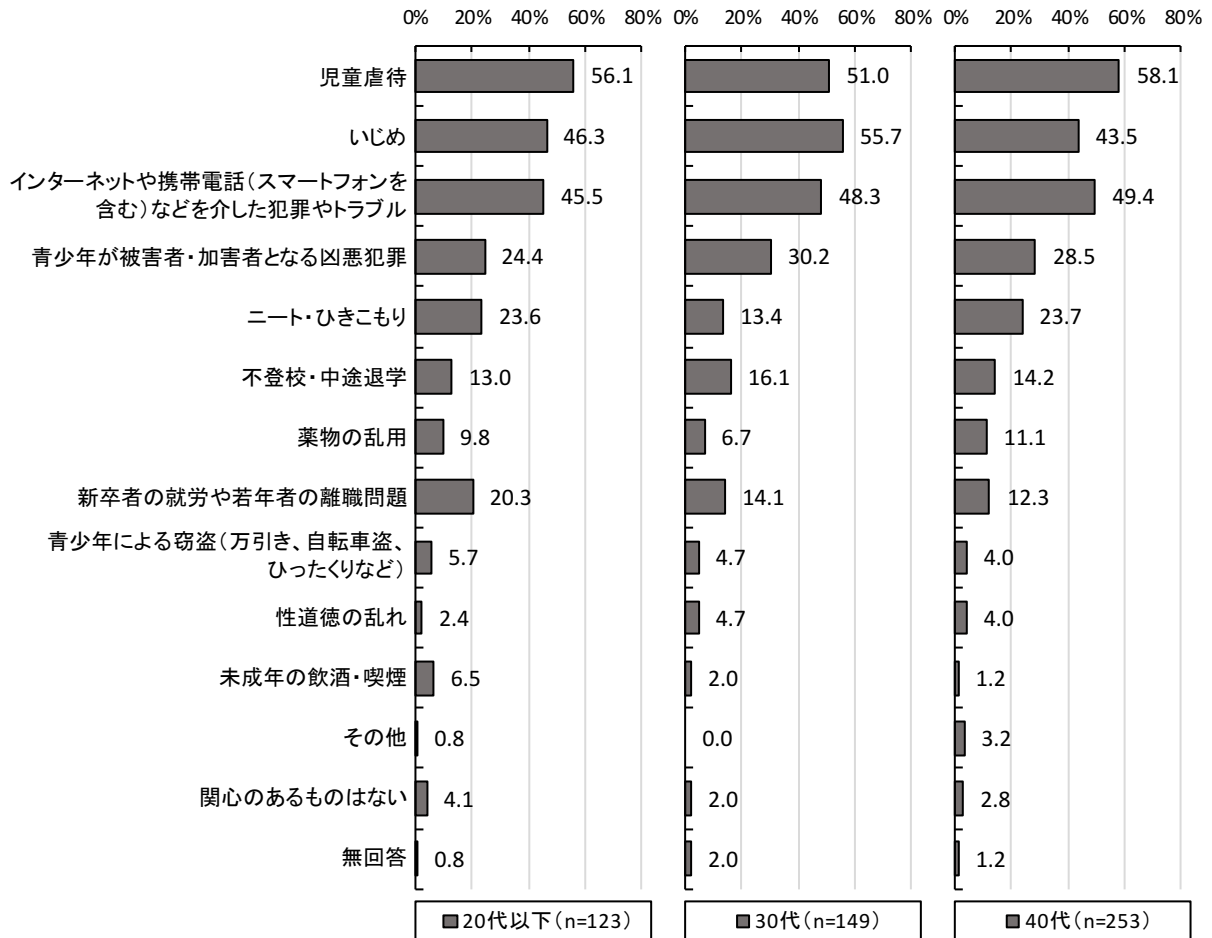
## 【性別】



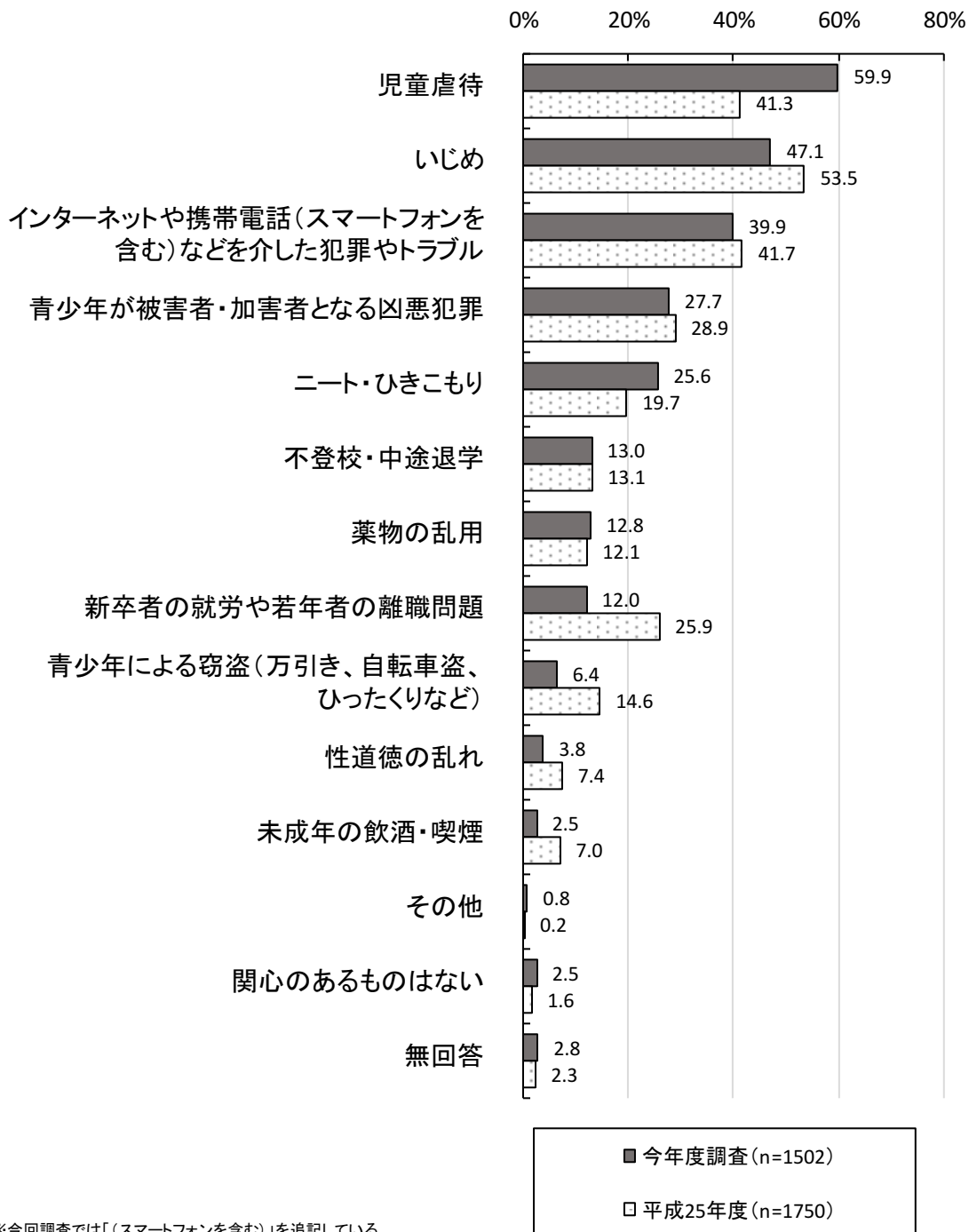
男女別に見ても、男女ともに上位3項目の割合が高くなっている。特に女性では「児童虐待」の割合が男性に比べて高くなっている。

年代別で見ると、「児童虐待」は30代を除いて全世代でトップとなっている。30代は「いじめ」の割合が最も高い。なお、当事者の親世代である50代では他の世代に比べて「ニート・ひきこもり」の割合が高い。また、「新卒者の就労や若年層の離職問題」は若年者である20代以下や親世代である50代で割合が高くなっている。

【年代別】



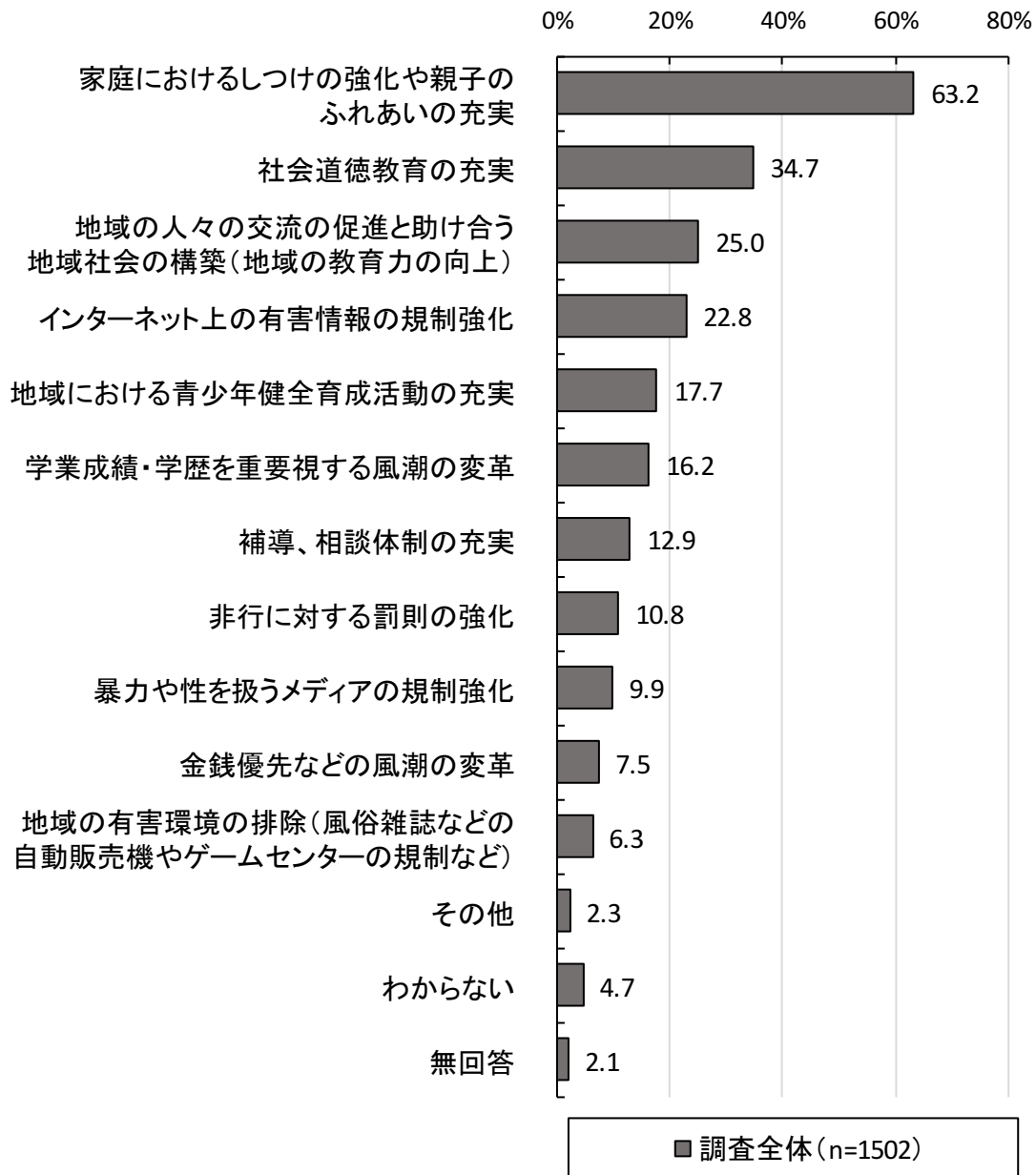
## 【経年比較】



※今回調査では「(スマートフォンを含む)」を追記している。

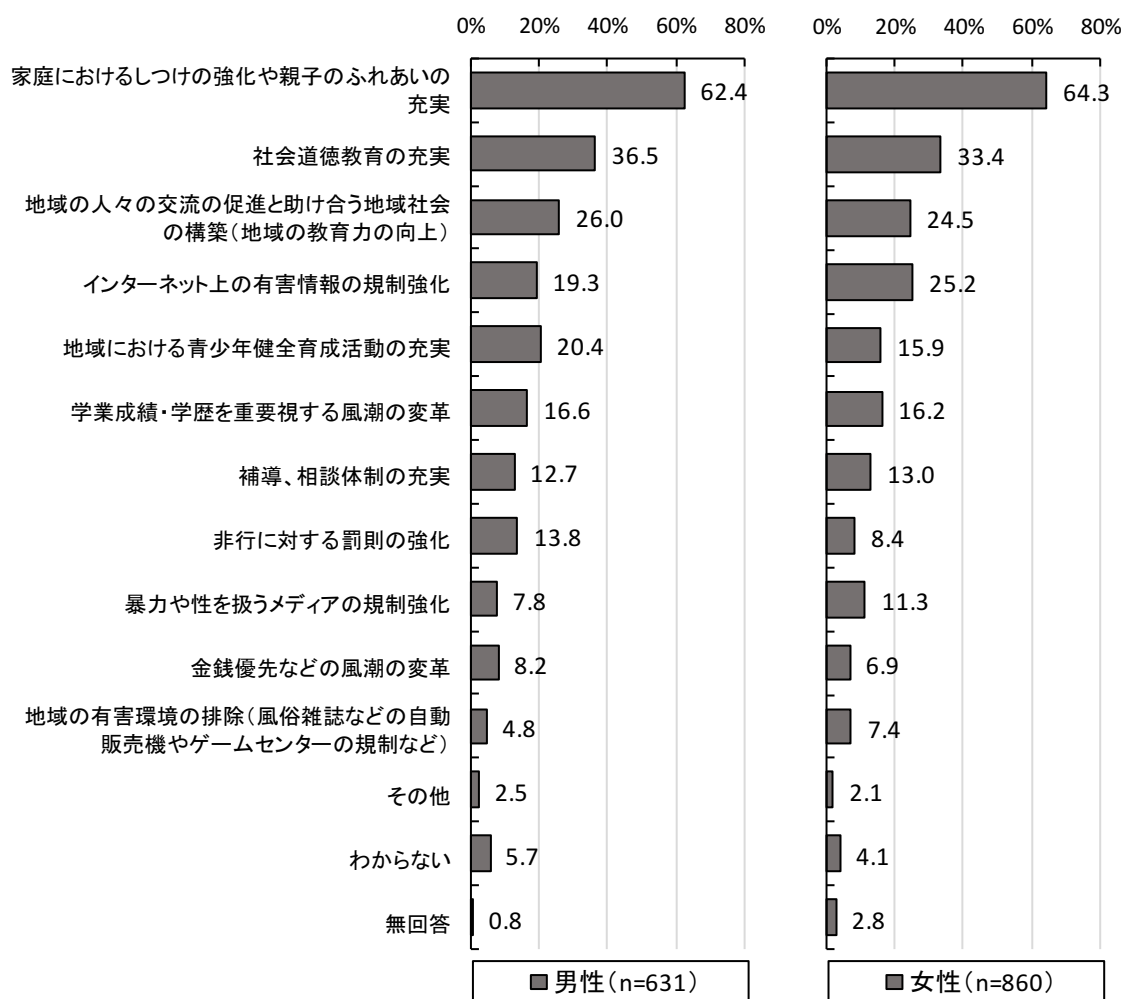
(2) 青少年の健全育成で重要なこと

問 20 青少年の健全育成を進める上で重要なことは、どのようなことだと思いますか。あなたの考えに近いものを、次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



青少年の健全育成で重要なことについて尋ねたところ、「家庭におけるしつけの強化や親子のふれあいの充実」が 63.2%と最も高く、次いで「社会道德教育の充実」34.7%、「地域の人々の交流の促進と助け合う地域社会の構築（地域の教育力の向上）」25.0%の順となっている。

## 【性別】

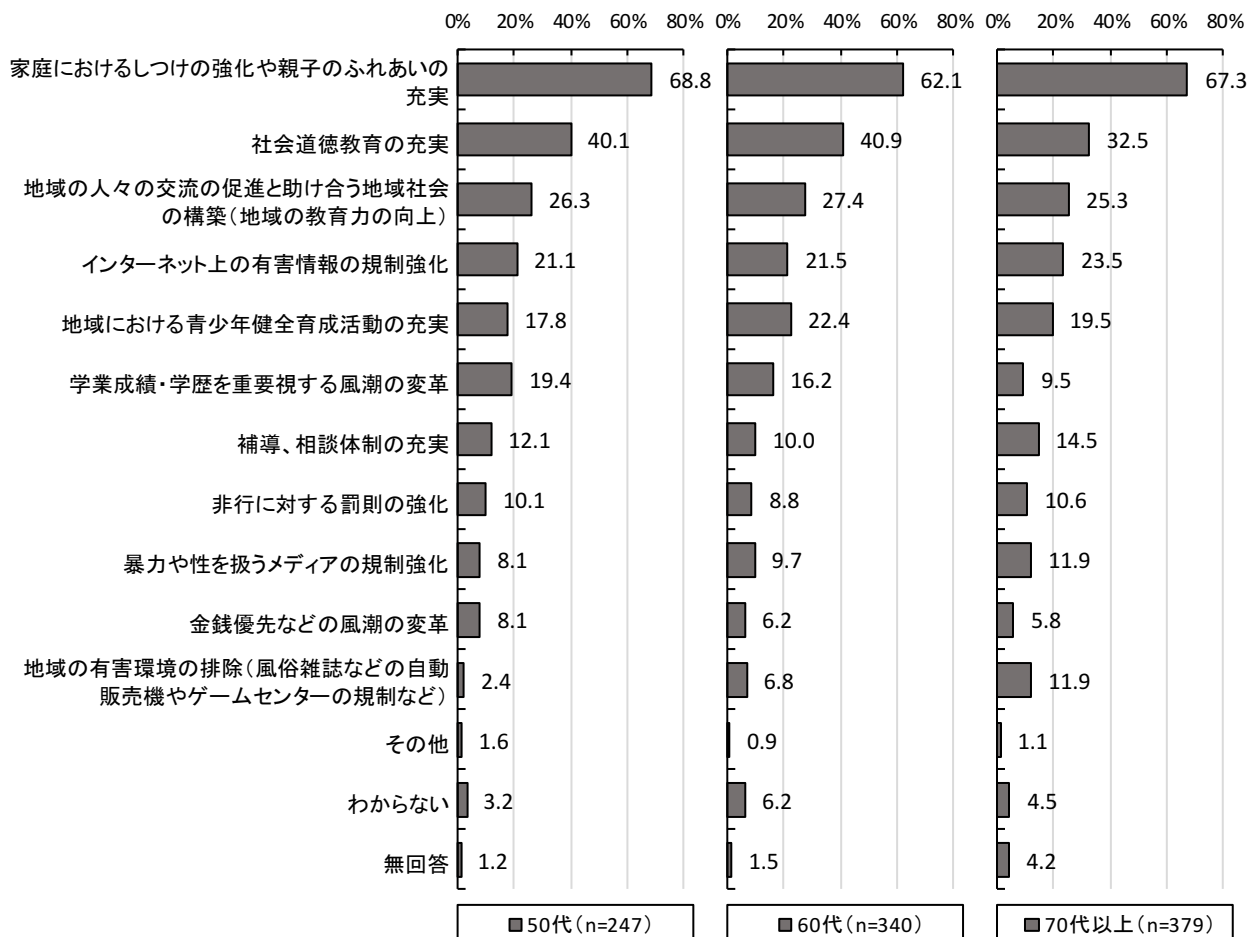
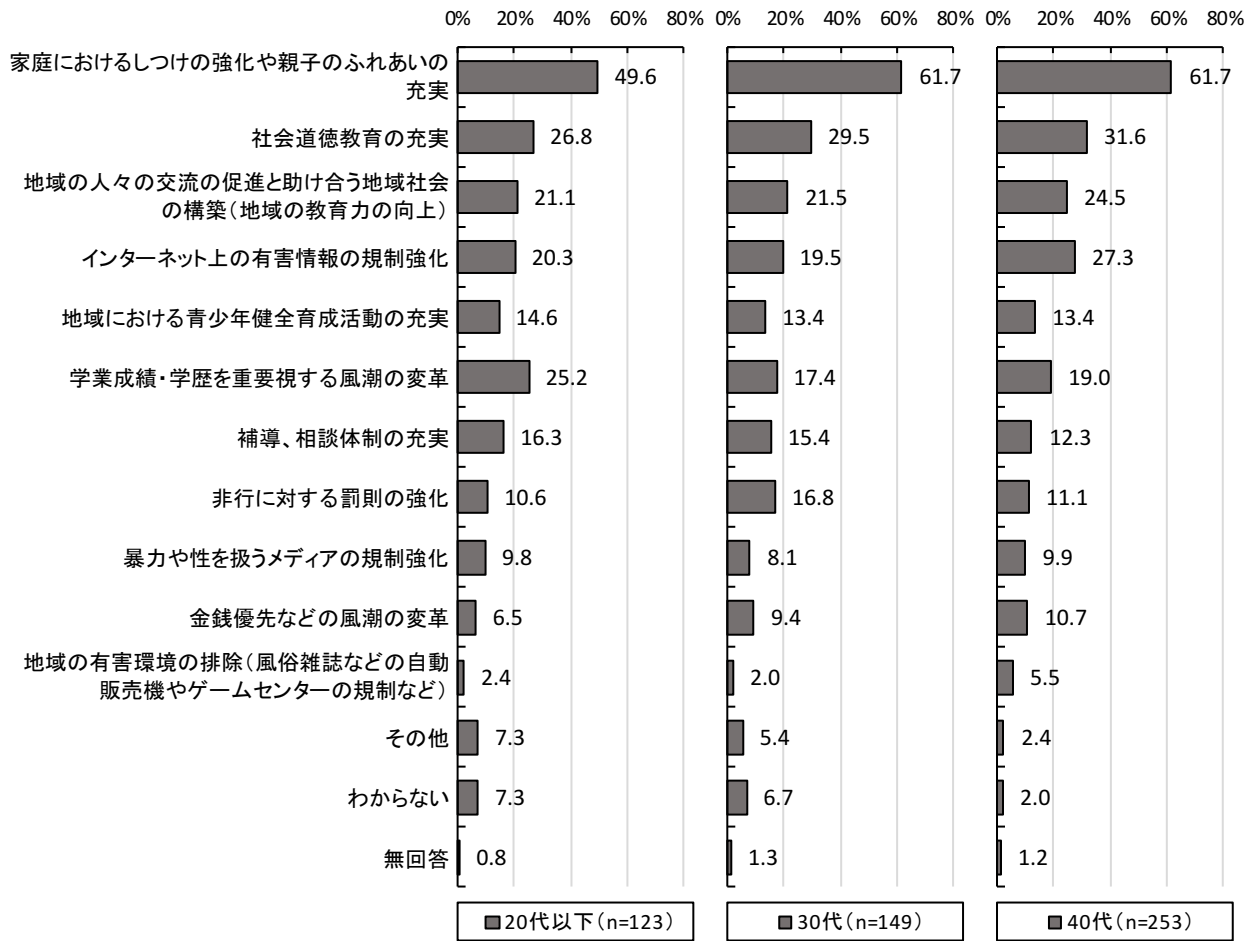


男女別に見ても、男女ともに上位2項目の割合が高くなっている。また、女性では「インターネット上の有害情報の規制強化」の割合が男性に比べて高くなっている。

年代別で見ると、「家庭におけるしつけの強化や親子のふれあいの充実」は全世代でトップとなっている。なお、50代、60代では「社会道徳教育の充実」は4割以上と他の世代に比べて高い。また、40代では「インターネット上の有害情報の規制強化」が他の世代に比べて高い。

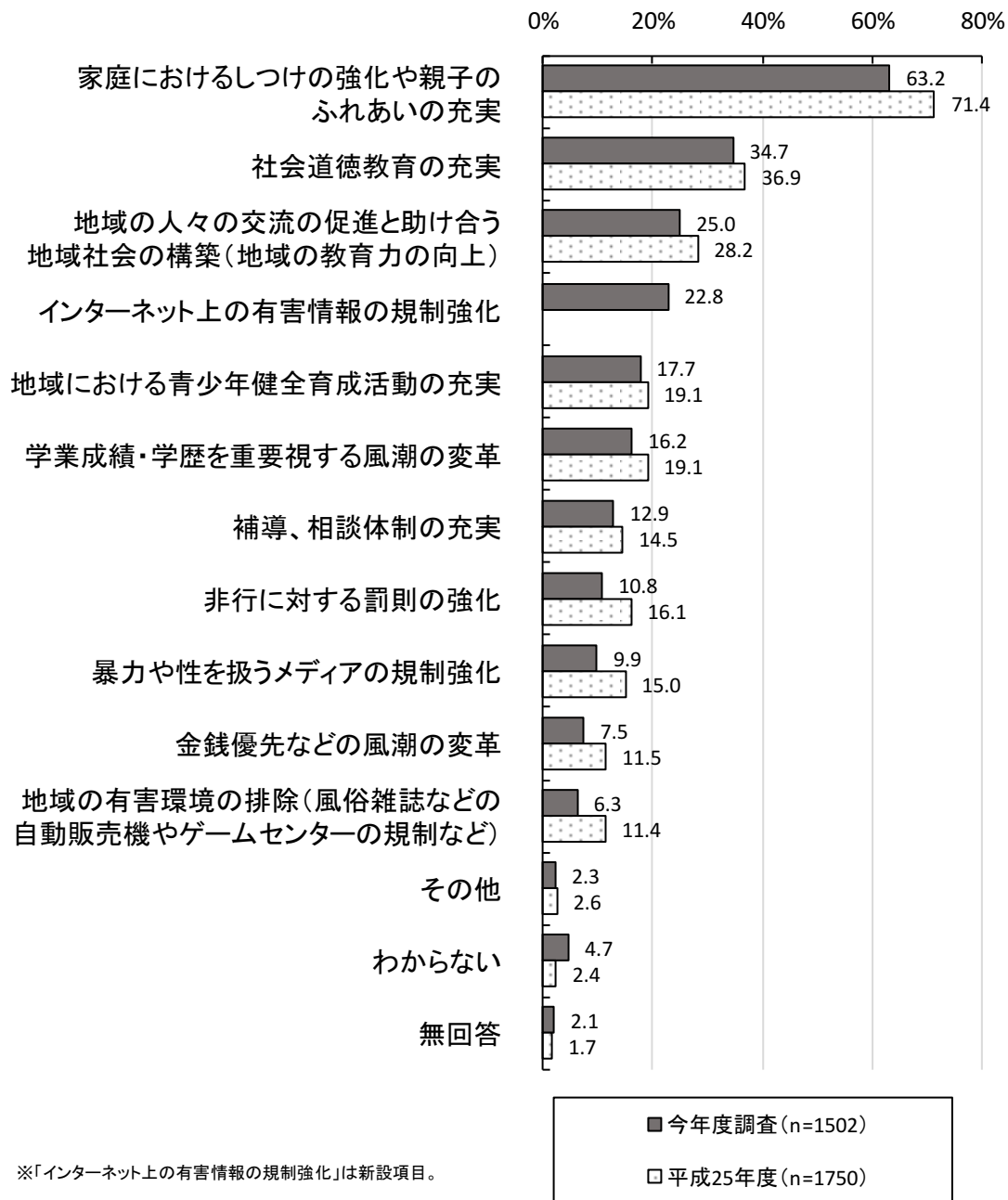
IV 調査結果

【年代別】



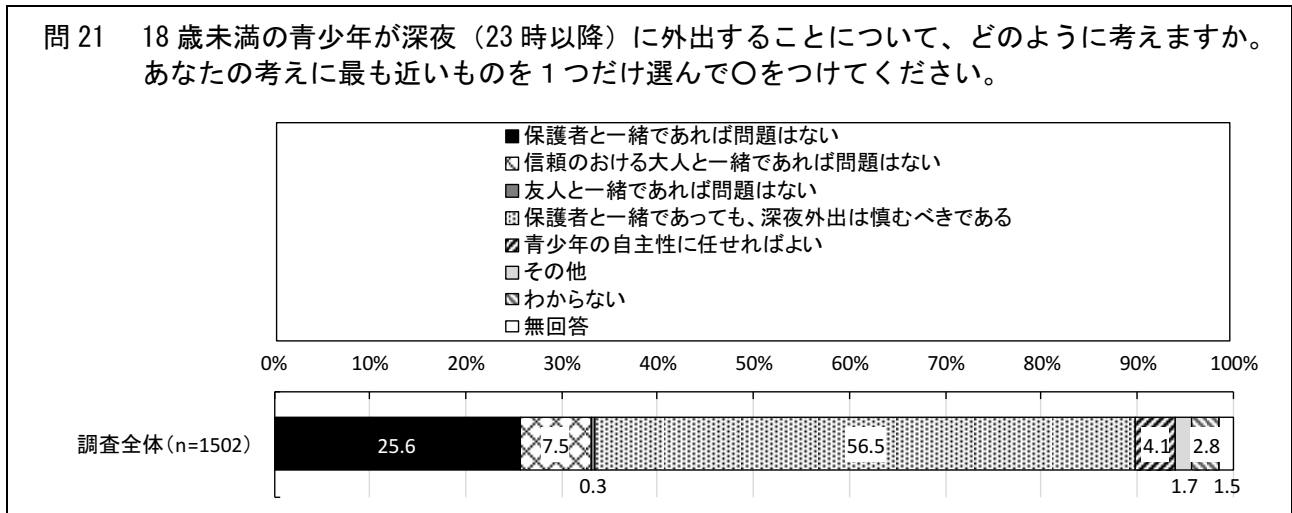


【経年比較】



※「インターネット上の有害情報の規制強化」は新設項目。

(3) 18歳未満による深夜外出についての意見

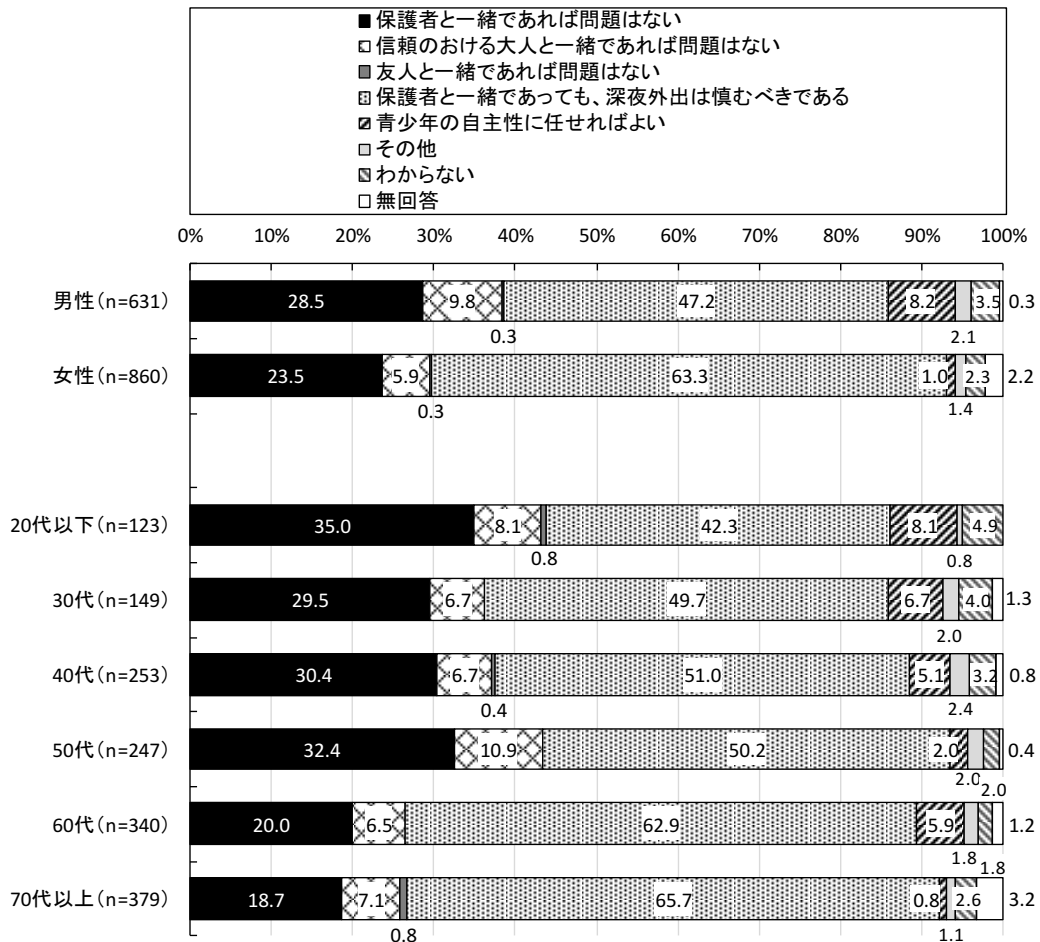


18歳未満の深夜外出についての意見を尋ねたところ、「保護者と一緒であっても、深夜外出は慎むべきである」は56.5%と最も高く、次いで「保護者と一緒であれば問題はない」25.6%、「信頼の置ける大人と一緒にあれば問題はない」7.5%の順となっている。

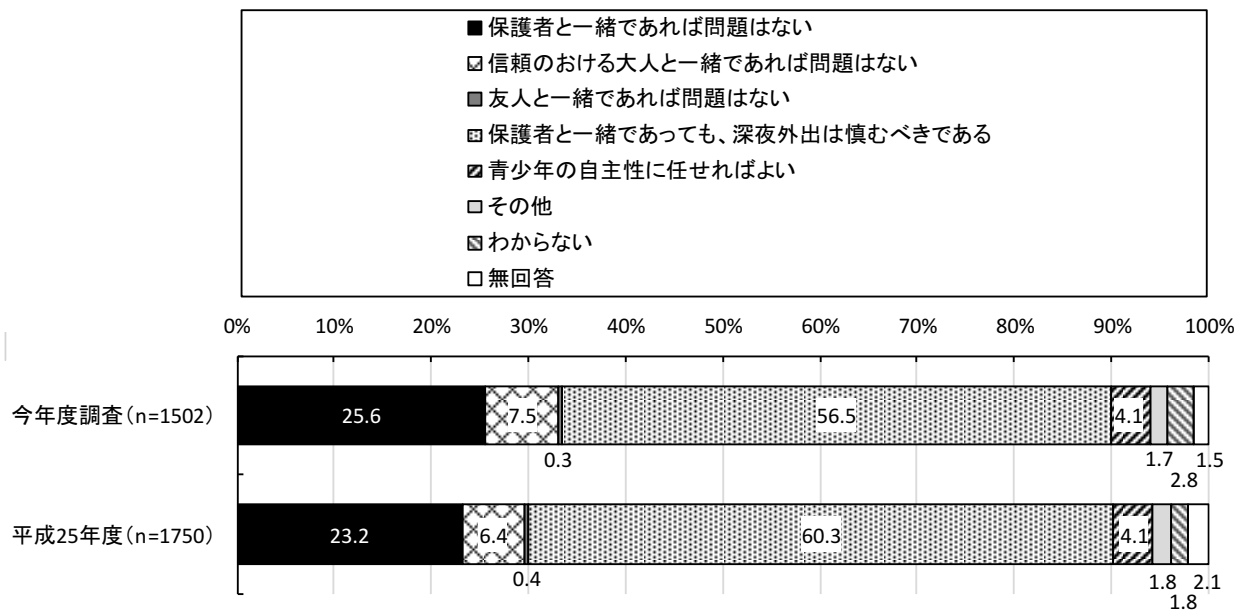
男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらないが、女性は「保護者と一緒であっても、深夜外出は慎むべきである」が63.3%と男性に比べて高くなっている。

年代別で見ても、全世代で上位3項目の順位は変わらない。なお、「保護者と一緒であっても、深夜外出は慎むべきである」は子育て世代である50代、60代で6割以上と高い傾向にある。

【性別・年代別】



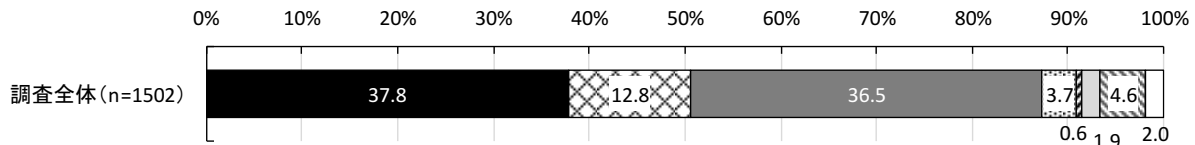
【経年比較】



(4) 青少年のインターネット利用におけるトラブルについての意見

問 22 近年、青少年がインターネットの利用によってさまざまな犯罪やトラブルに巻き込まれることが問題となっていますが、あなたはこの問題についてどのように考えますか。  
あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

- 親子間で安全に利用するためのルールづくりをして利用するべきである
- 安全に利用できるまでは利用させてはいけない
- 保護者の責任としてフィルタリング(有害情報の選別)などの制限を行い利用させるべきである
- 利用の方法は、青少年の自主性に任せればよい
- トラブルに巻き込まれるのはまれであり、それほど気にすべき問題ではない
- その他
- わからない
- 無回答

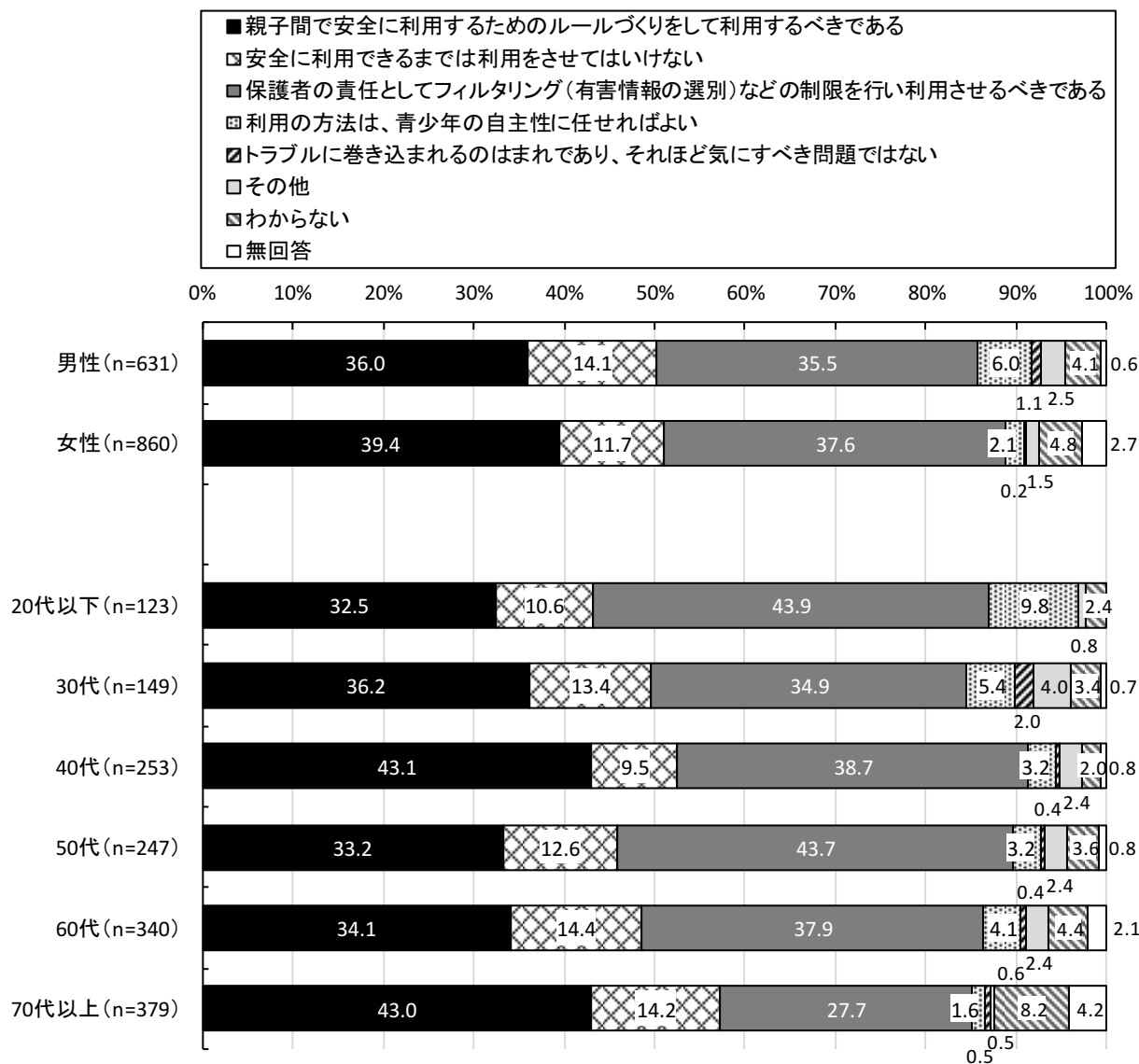


青少年のインターネット利用におけるトラブルについての意見を尋ねたところ、「親子間で安全に利用するためのルールづくりをして利用するべきである」は37.8%と最も高く、次いで「保護者の責任として、フィルタリング(有害情報の選別)などの制限を行った上で利用させるべきである」36.5%、「安全に利用できるまでは利用させてはいけない」12.8%の順となっている。

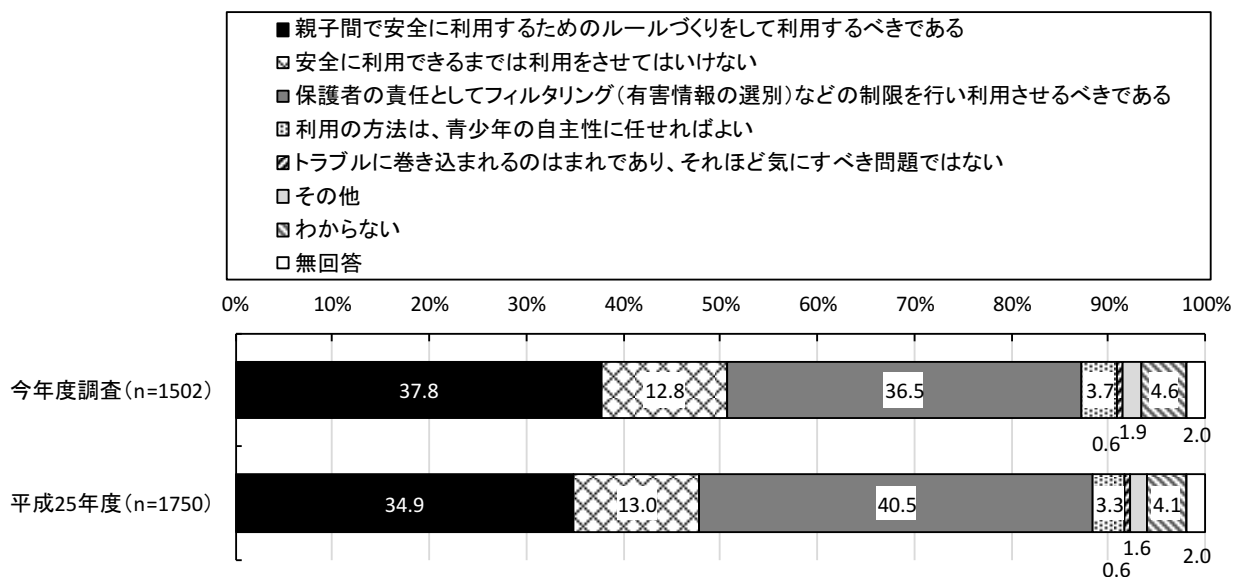
男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

年代別で見ても、全世代で上位3項目の順位は変わらない。なお、「親子間で安全に利用するためのルールづくりをして利用するべきである」の割合は40代、70代以上で4割以上と他の世代に比べて高い傾向にある。

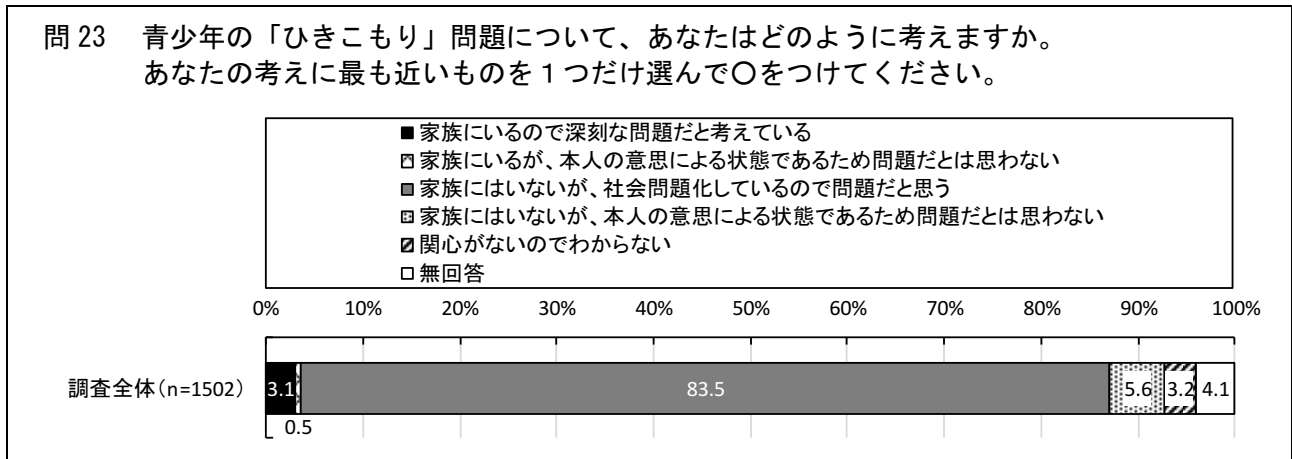
【性別・年代別】



【経年比較】



(5) 青少年のひきこもり問題についての認識

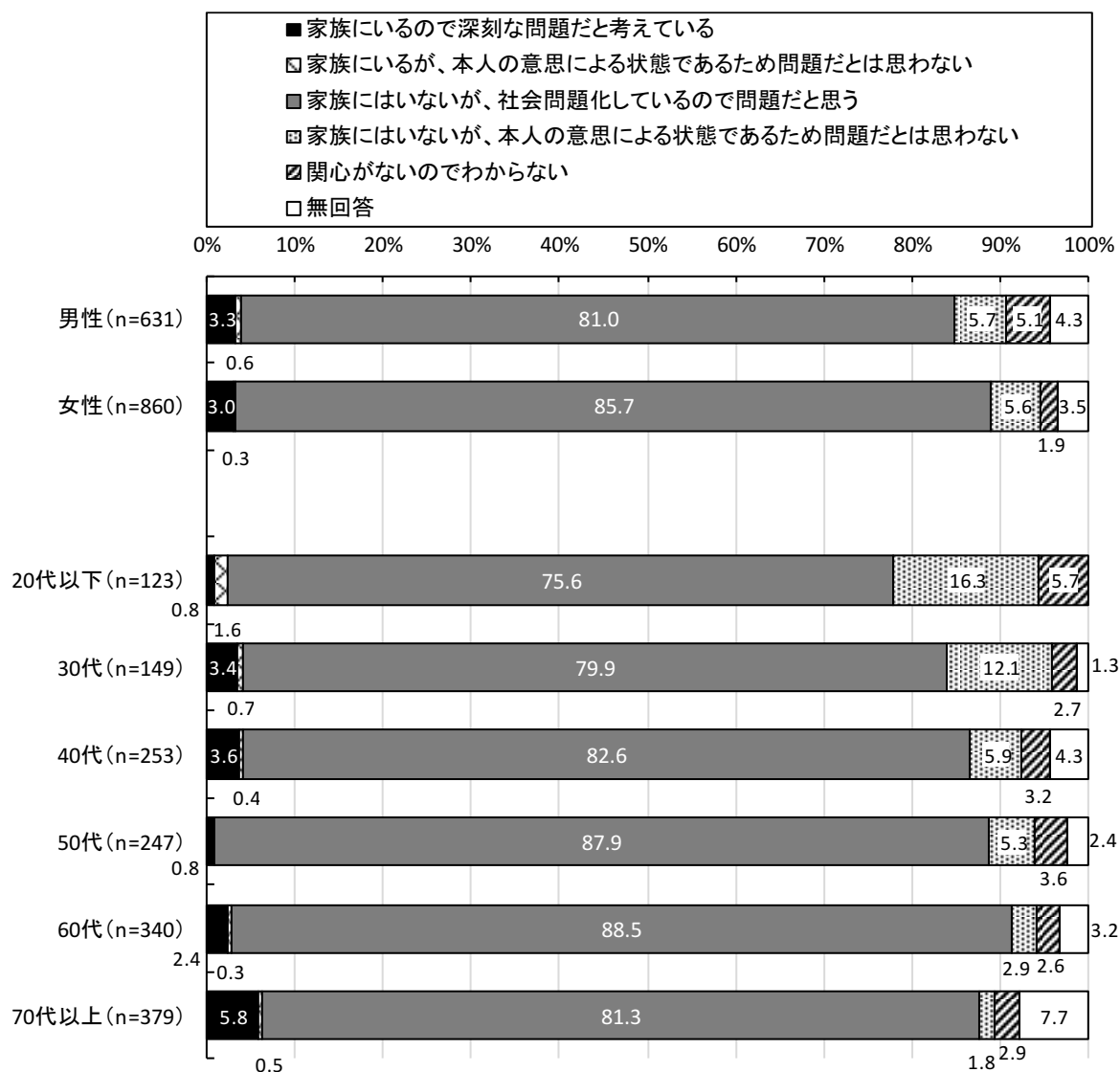


青少年のひきこもり問題についての認識を尋ねたところ、「家族にはいないが、社会問題化しているため問題だと思う」が83.5%と最も高く、他の項目を圧倒している。

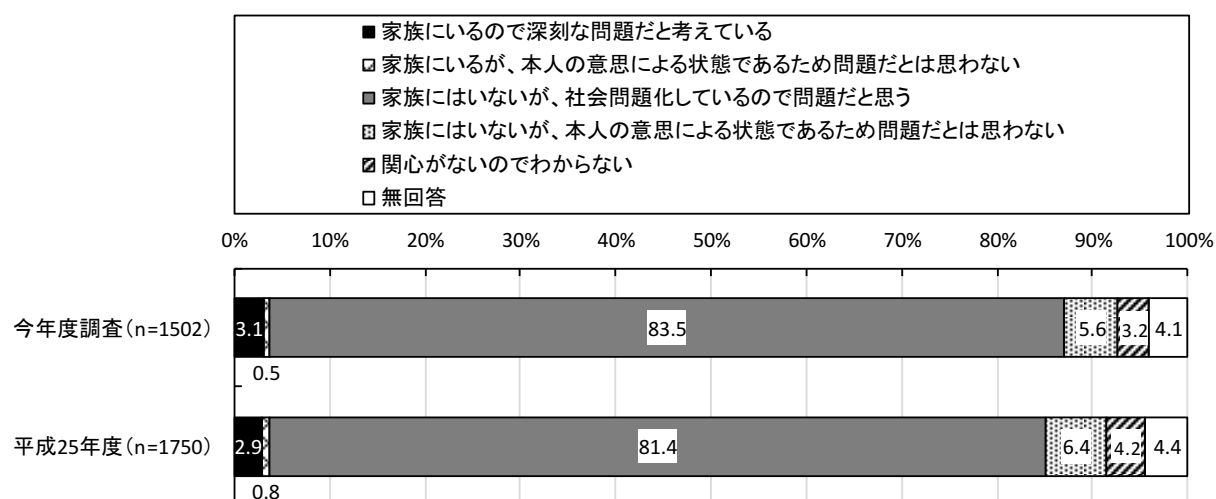
男女別に見ても、男女ともに「家族にはいないが、社会問題化しているため問題だと思う」が最も高くなっている。

年代別で見ても、「家族にはいないが、社会問題化しているため問題だと思う」が全世代でトップとなっている。なお、「家族にはいないが、本人の意思による状態であるため問題だとは思わない」は若い年代ほど割合が高い。

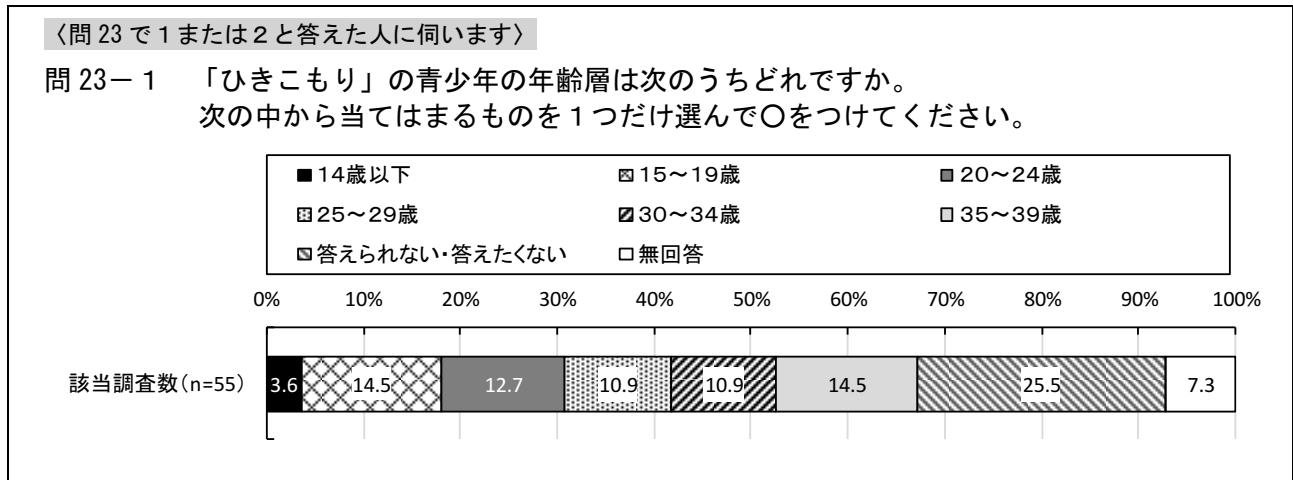
## 【性別・年代別】



## 【経年比較】



(6) ひきこもり状態にある青少年の年齢層

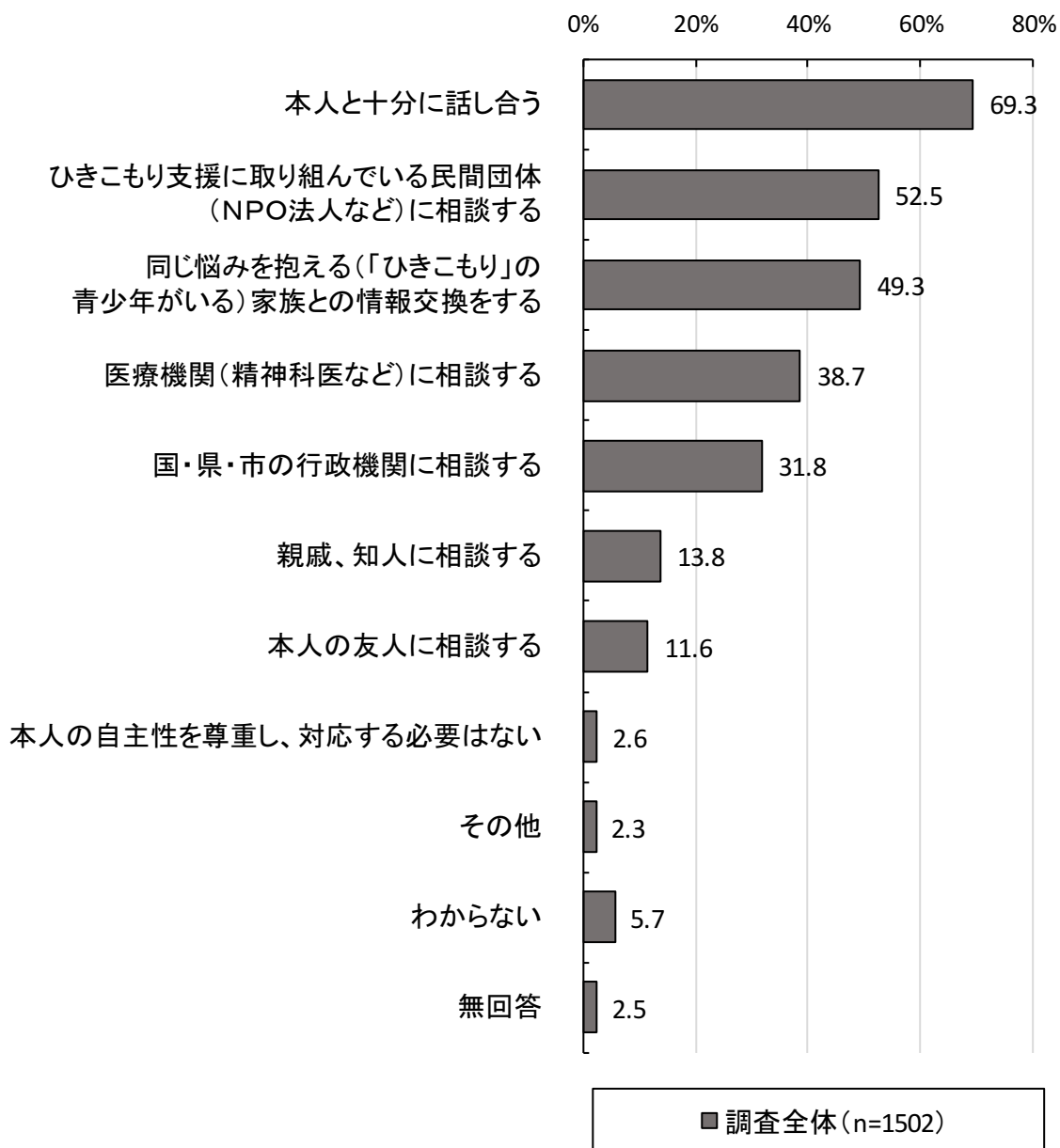


ひきこもり状態の家族の年齢層について尋ねたところ、「答えられない・答えたくない」が25.5%と最も高かった。



## (7) ひきこもり状態の青少年に対する家族の対応

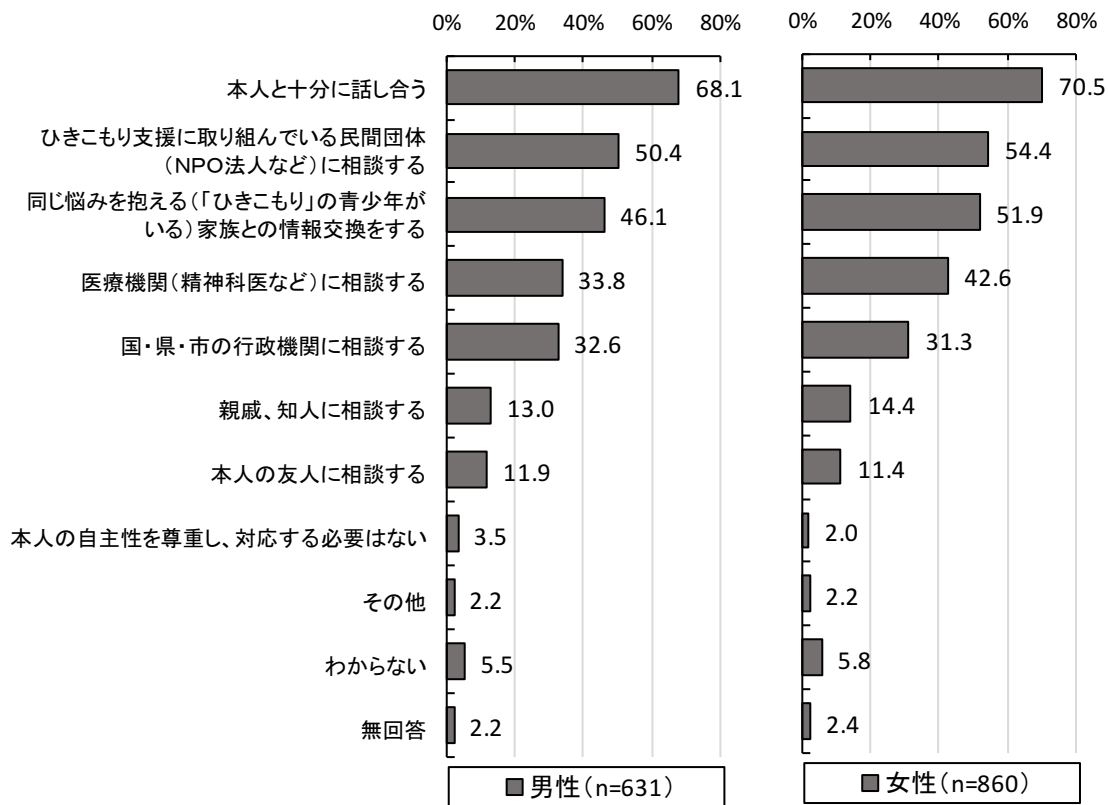
問 24 もし、家族に「ひきこもり」の青少年がいるとしたら、家族としてどのように対応・支援したらよいと考えますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



ひきこもり状態の青少年に家族はどう対応すべきかについて尋ねたところ、「本人と十分に話し合う」が69.3%と最も高く、次いで「ひきこもり支援に取り組んでいる民間団体 (NPO法人など) に相談する」52.5%、「同じ悩みを抱える(「ひきこもり」の青少年がいる) 家族との情報交換をする」49.3%の順となっている。

IV 調査結果

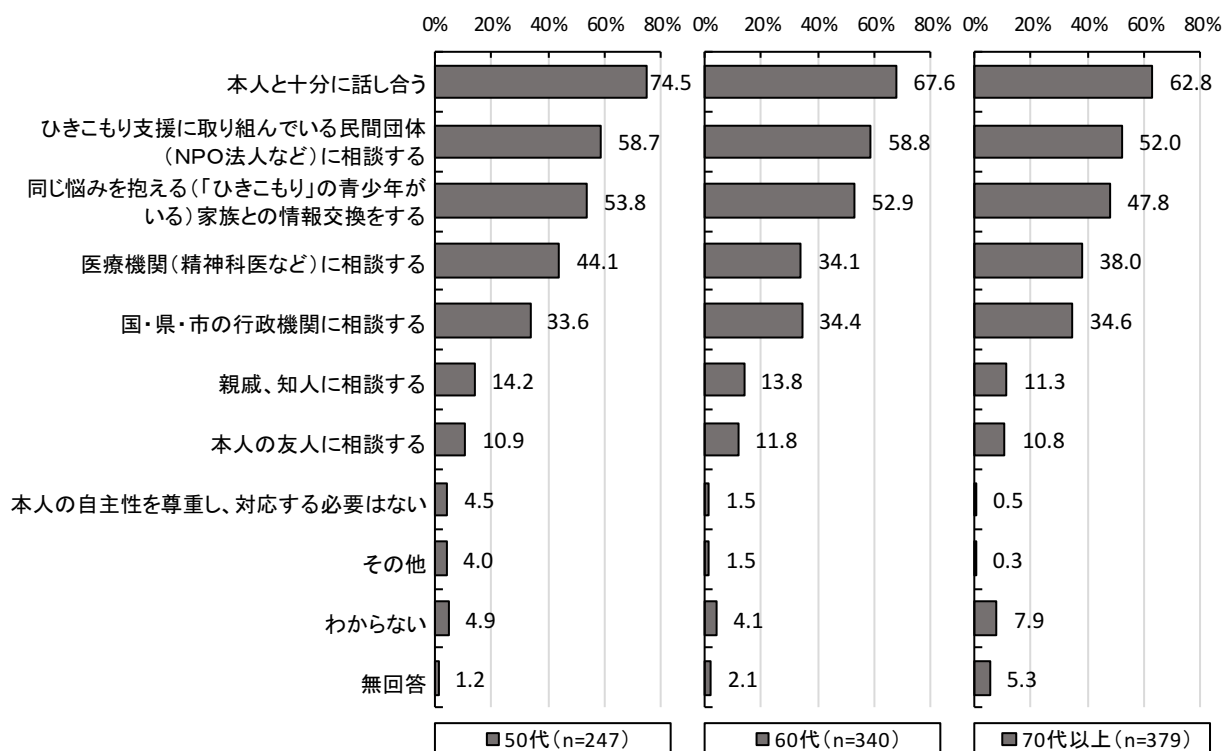
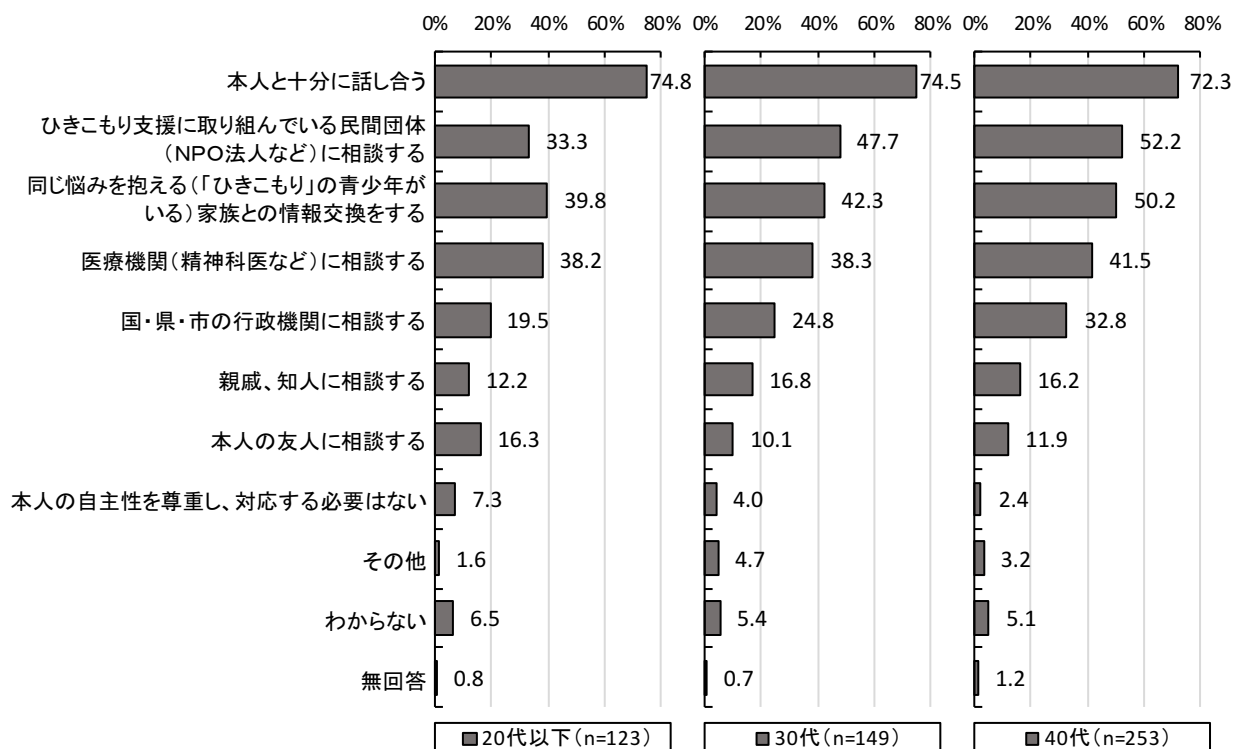
【性別】



男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

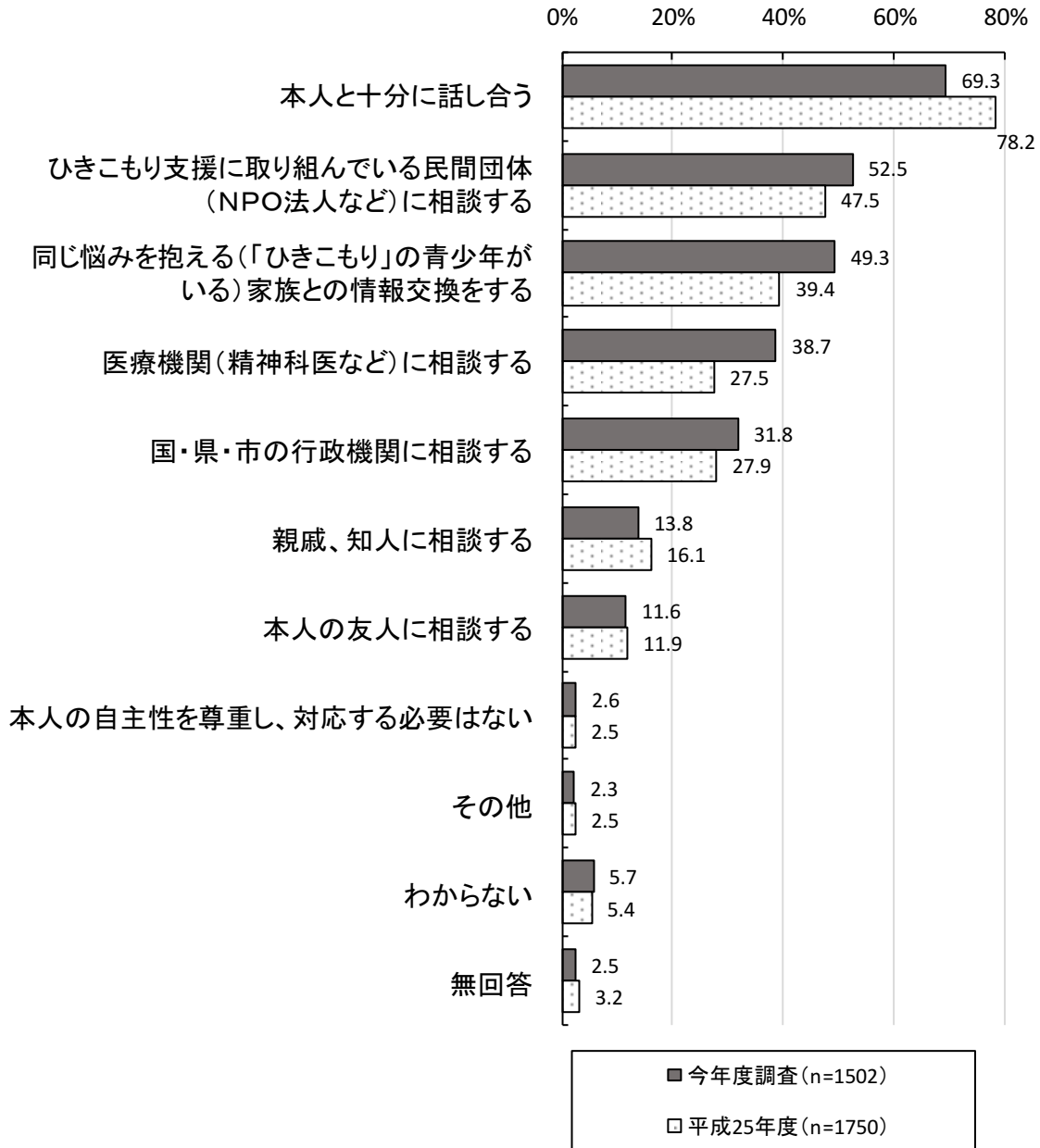
年代別で見ても、「本人と十分に話し合う」が全世代で最も高い。なお、「ひきこもり支援に取り組んでいる民間団体 (NPO法人など) に相談する」の割合は20代以下が他の世代に比べて低くなっている。

## 【年代別】

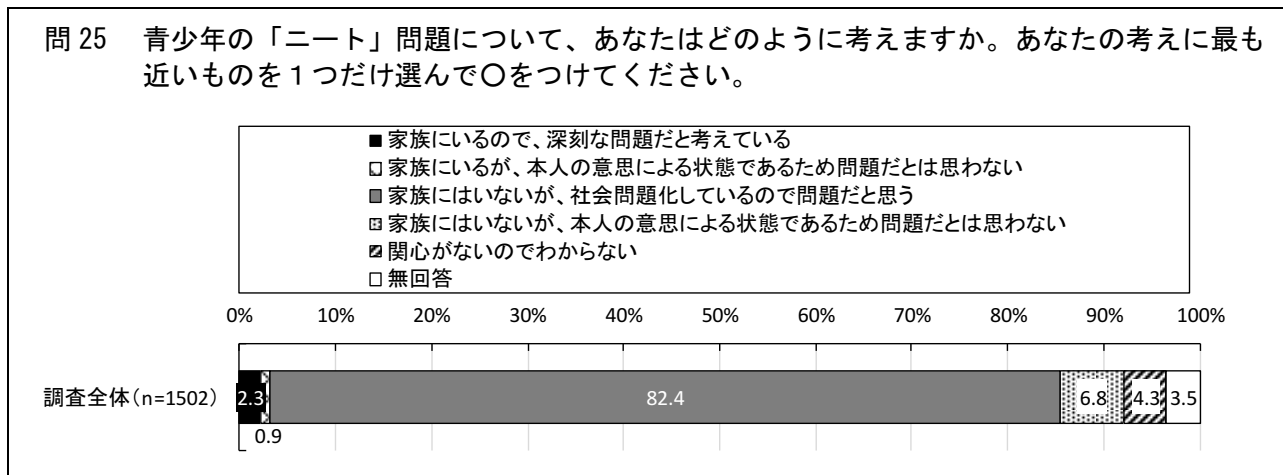


IV 調査結果

【経年比較】



(8) 青少年のニート問題についての認識

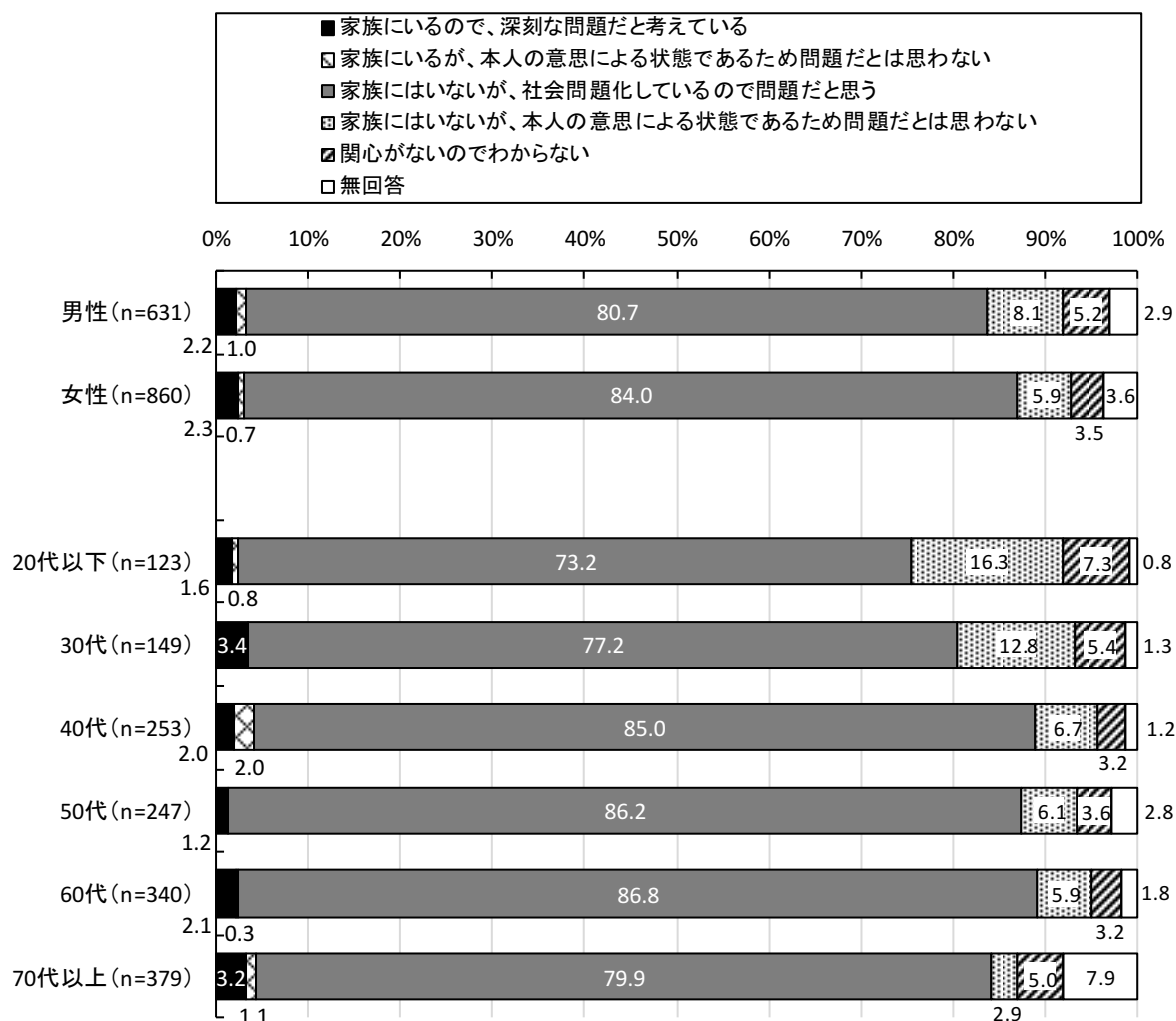


青少年のニート問題についての認識を尋ねたところ、「家族にはいないが、社会問題化しているので問題だと思う」が82.4%と最も高く、他の項目を圧倒している。

男女別に見ても、男女ともに「家族にはいないが、社会問題化しているので問題だと思う」が最も高くなっている。

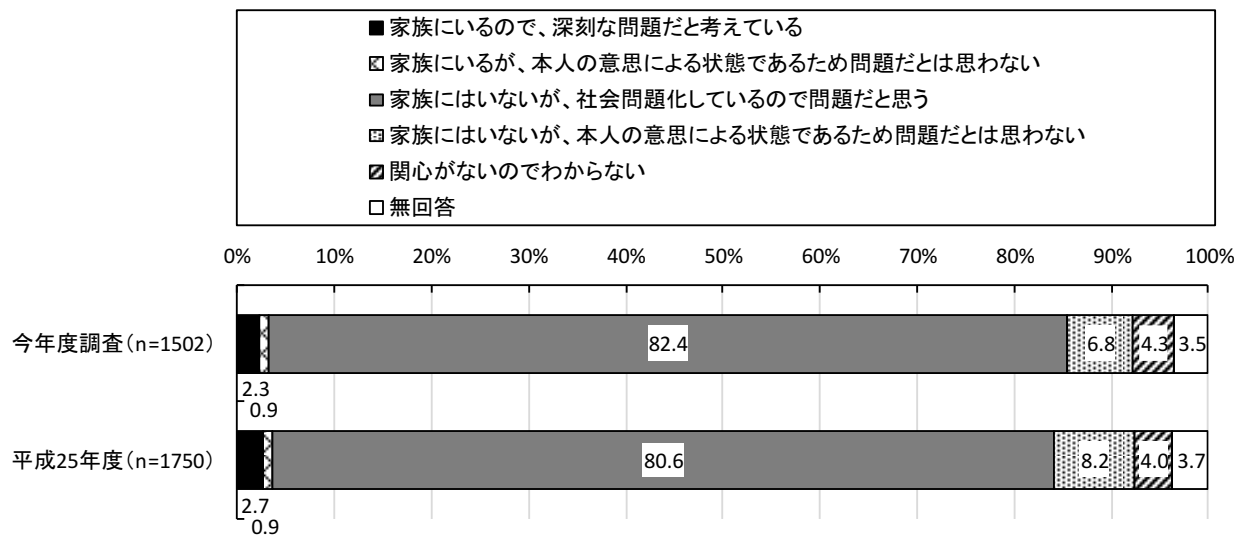
年代別で見ても、「家族にはいないが、社会問題化しているので問題だと思う」が全世代でトップとなっている。なお、「家族にはいないが、本人の意思による状態であるため問題だとは思わない」は若い年代ほど割合が高い。

【性別・年代別】

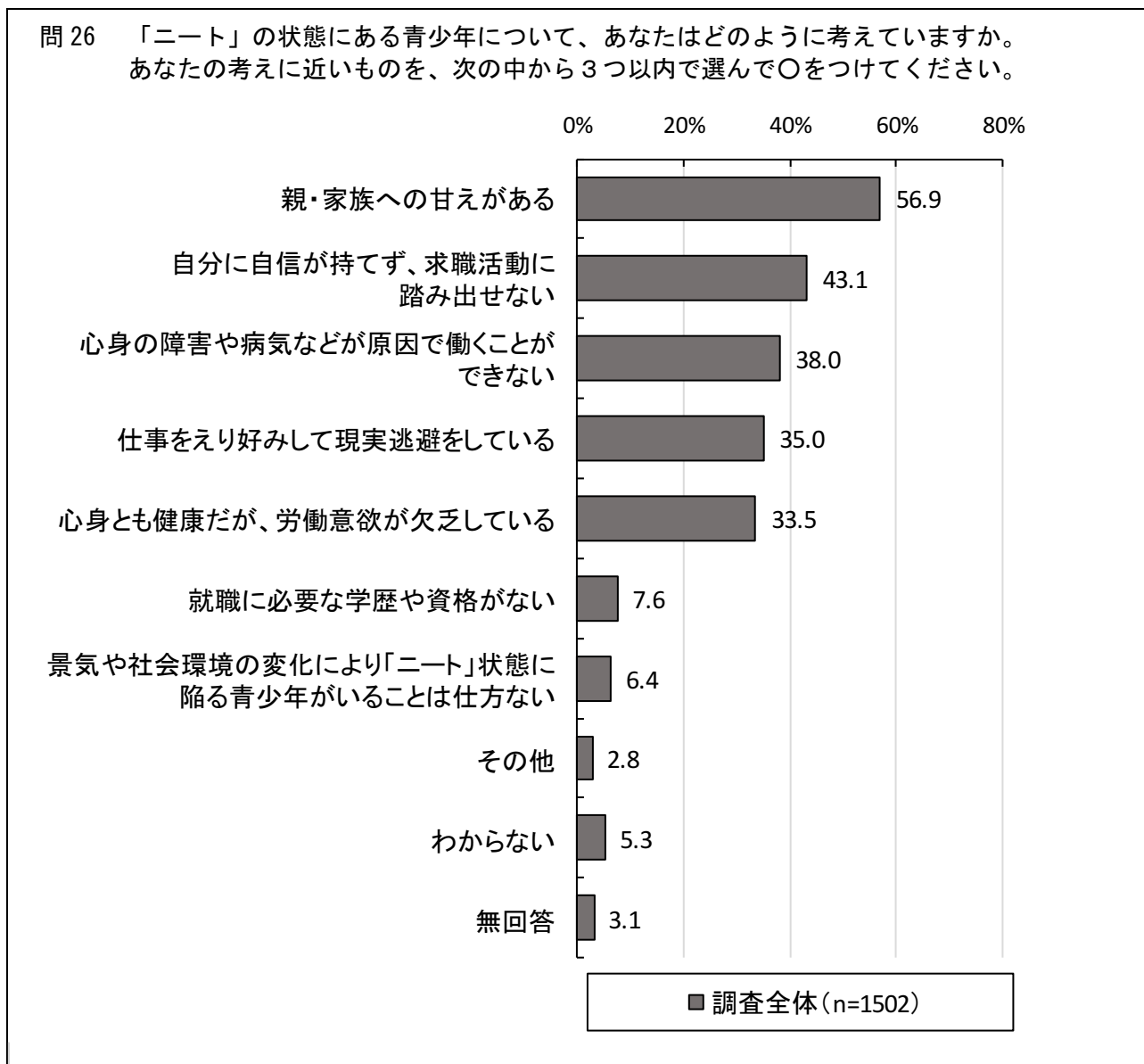


IV 調査結果

【経年比較】



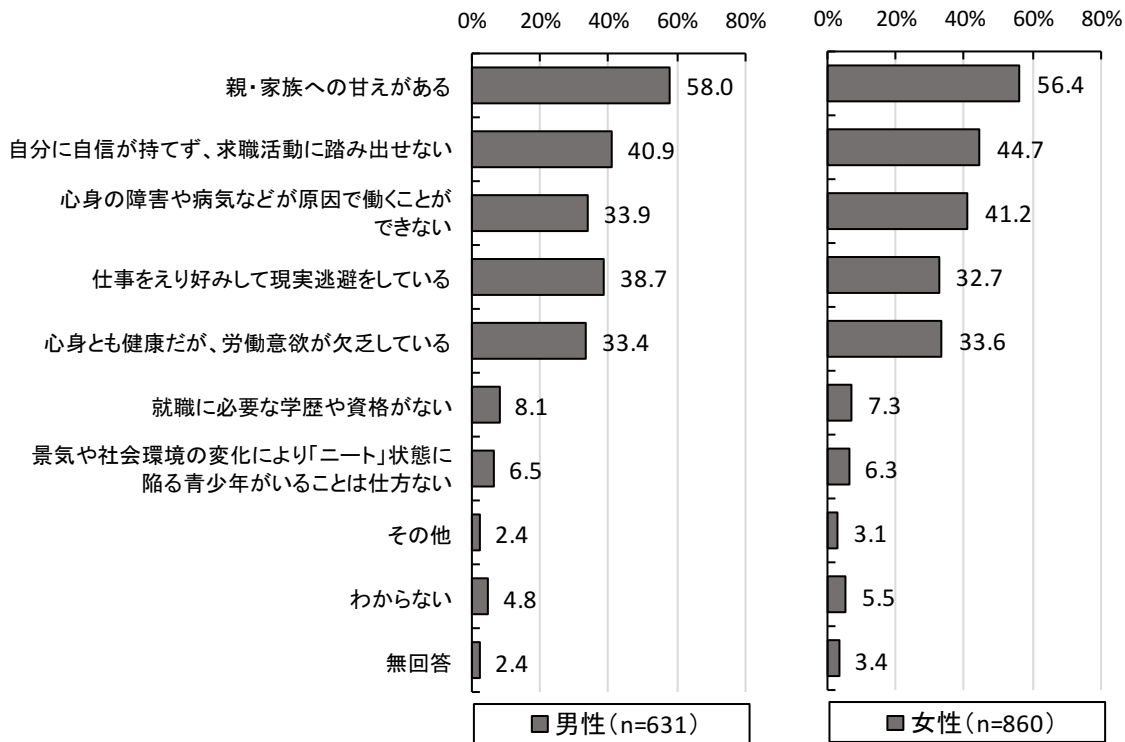
## (9) ニート状態の青少年に対する意見



ニート状態の青少年に対する意見について尋ねたところ、「親・家族への甘えがある」が56.9%と最も高く、次いで「自分に自信が持てず、求職活動に踏み出せない」43.1%、「心身の障害や病気などが原因で働くことができない」38.0%の順となっている。

#### IV 調査結果

##### 【性別】

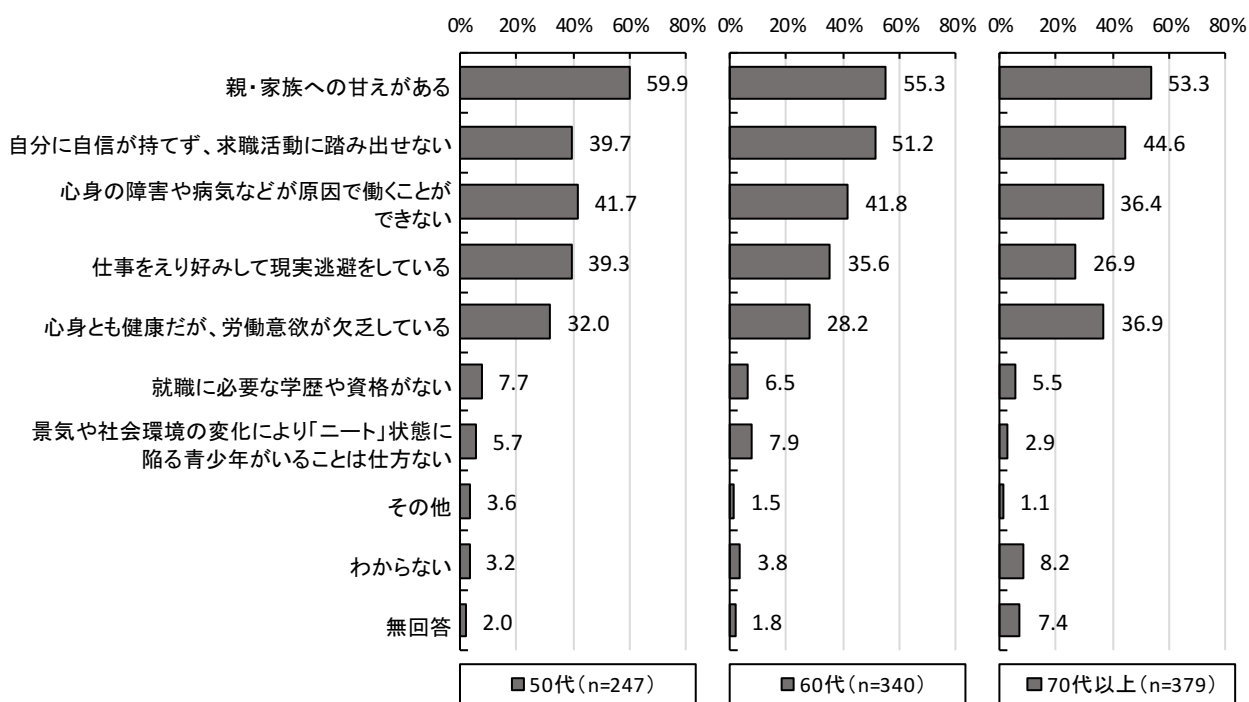
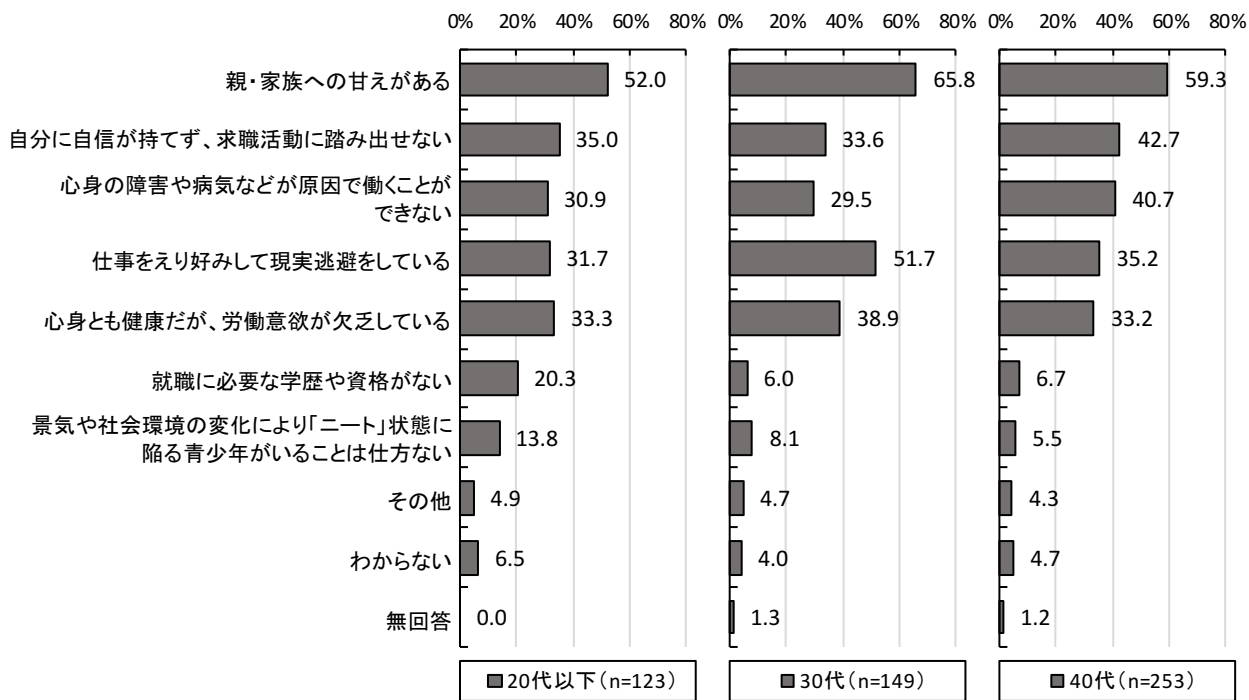


男女別に見ても、男女ともに「親・家族への甘えがある」が最も高くなっているが、女性は「心身の障害や病気などが原因で働くことができない」の割合が男性に比べて高くなっている。

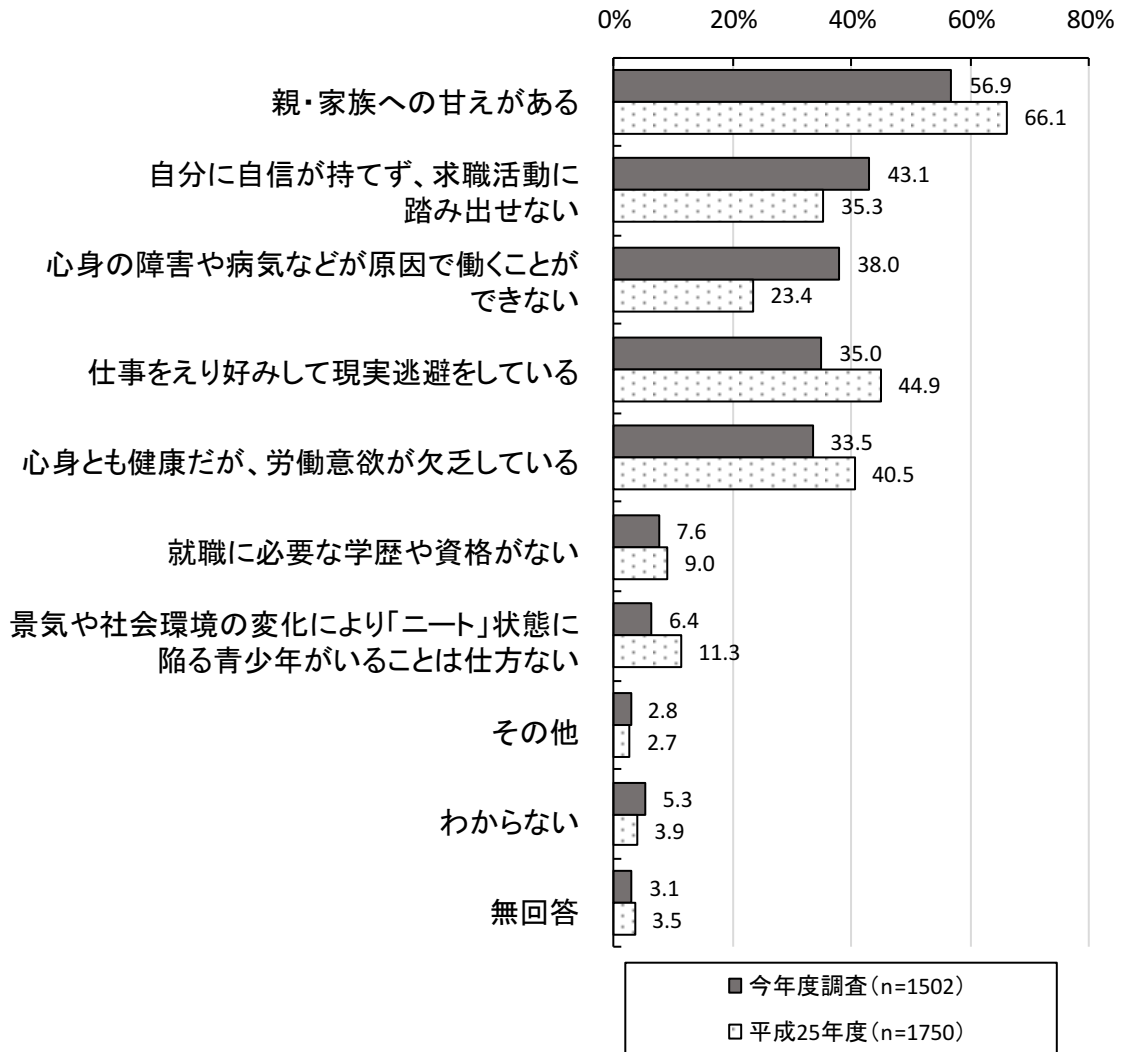
年代別で見ても、「親・家族への甘えがある」が全世代でトップとなっている。なお、「仕事をえり好みして現実逃避をしている」は30代が51.7%と他の年代に比べて高くなっている。



【年代別】

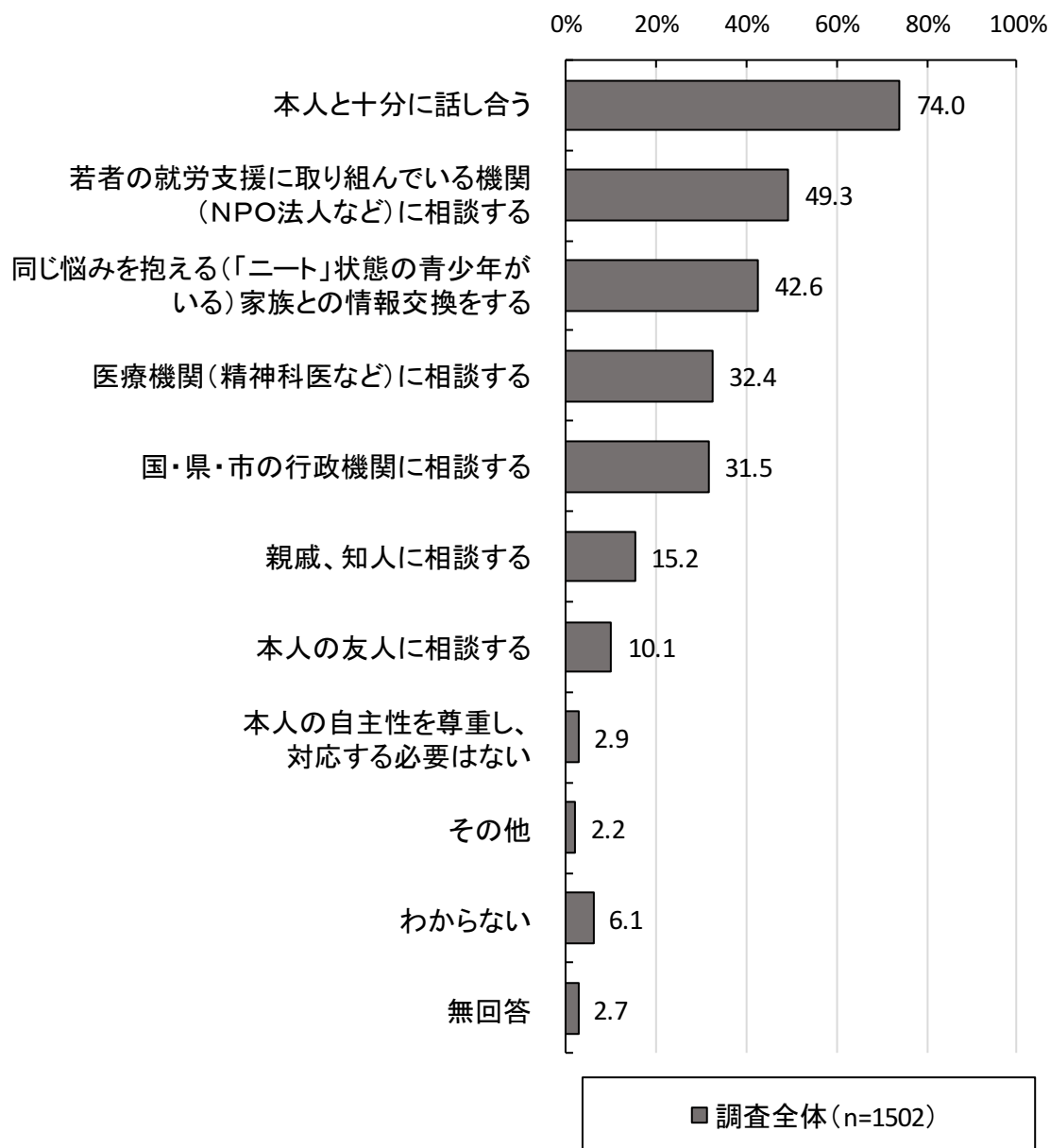


【経年比較】



## (10) ニート状態の青少年に対する家族の対応

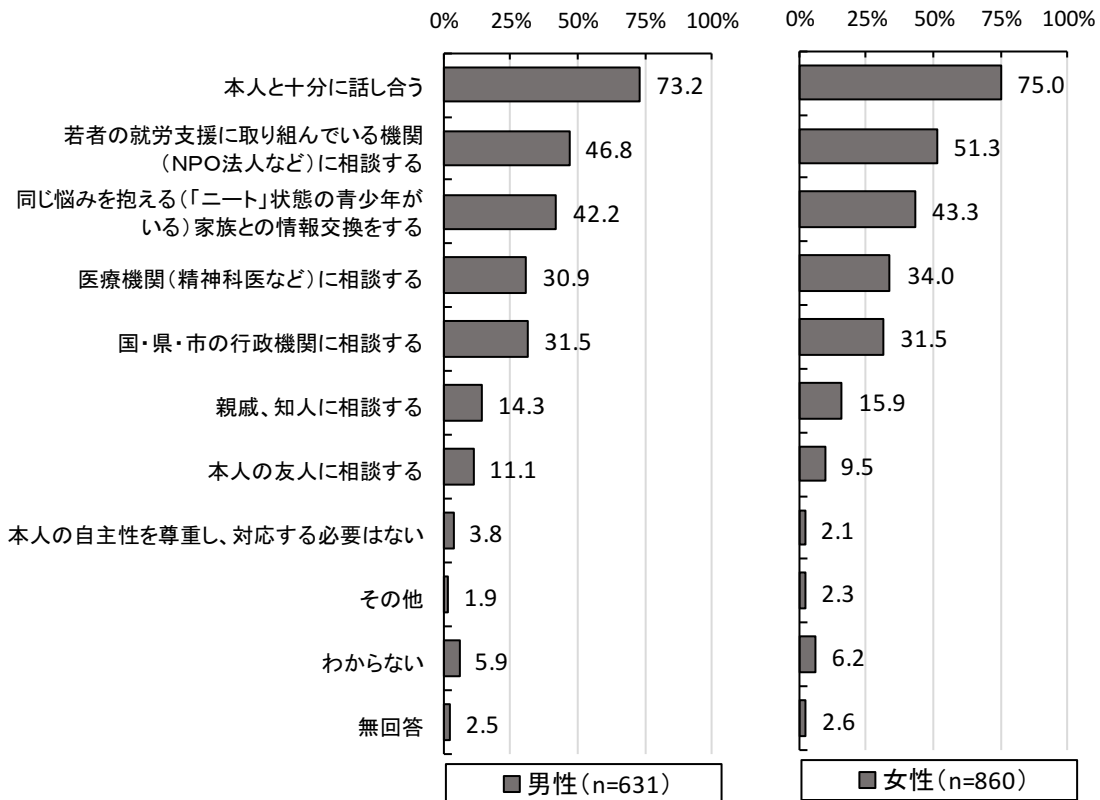
問27 もし、家族に「ニート」状態の青少年がいるとしたら、家族としてどのように対応・支援したらよいと考えますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



ニート状態の青少年に家族はどう対応すべきかについて尋ねたところ、「本人と十分に話し合う」が74.0%と最も高く、次いで「若者の就労支援に取り組んでいる機関(NPO法人など)に相談する」49.3%、「同じ悩みを抱える(「ニート」状態の青少年がいる)家族との情報交換をする」42.6%の順となっている。

IV 調査結果

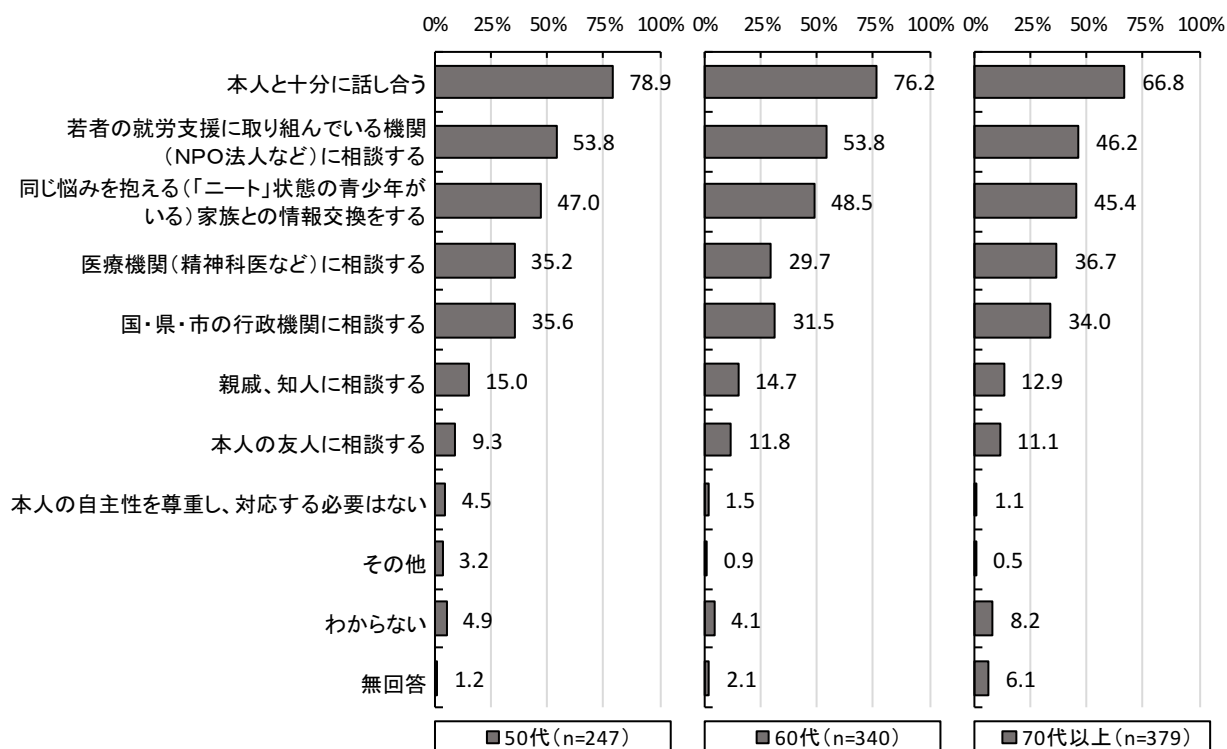
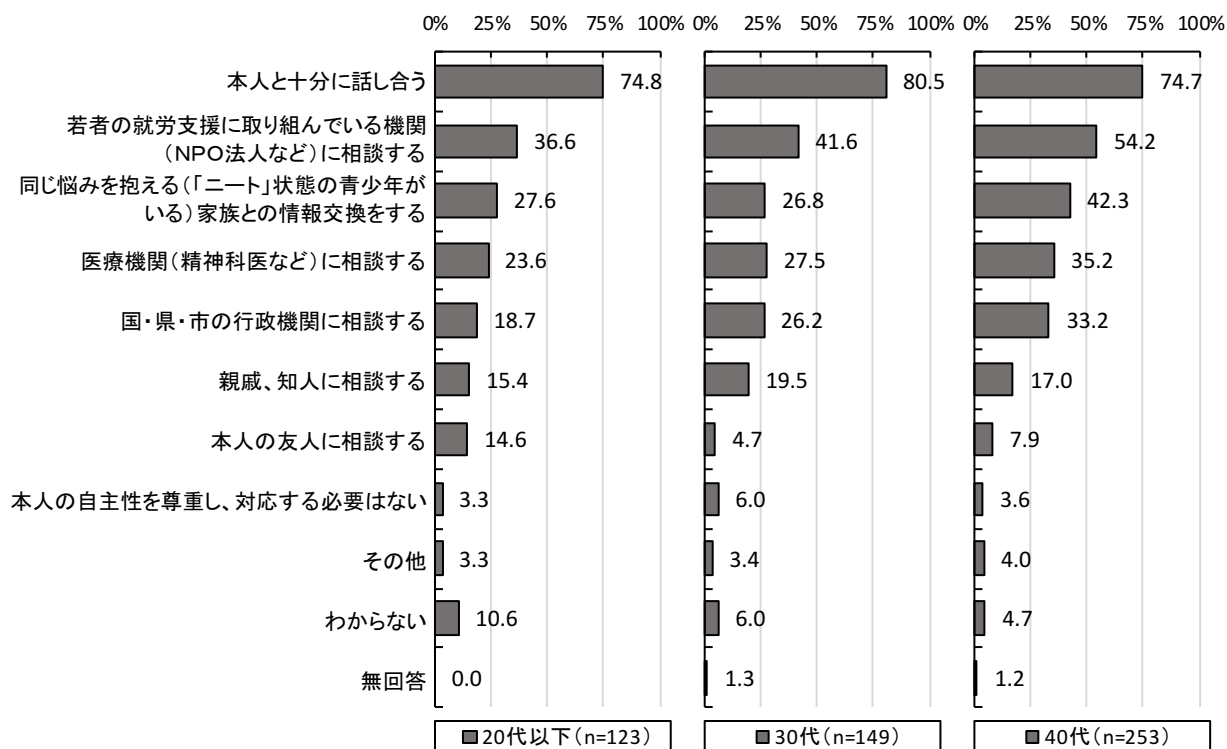
【性別】



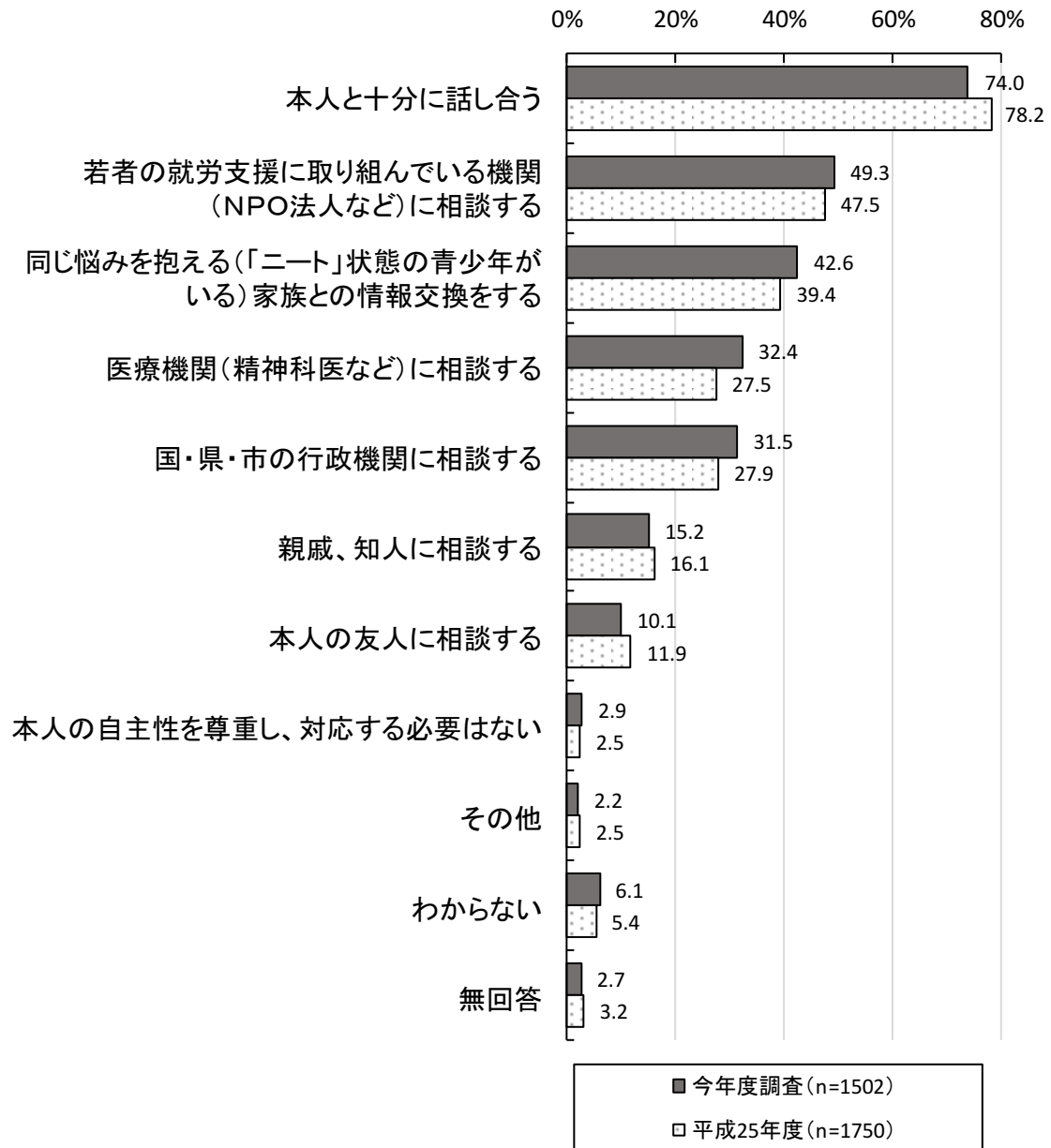
男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

年代別で見ても、「本人と十分に話し合う」が全世代でトップとなっている。なお、「同じ悩みを抱える(「ニート」状態の青少年がいる)家族との情報交換をする」は40代~70代以上の年代で4割以上と高い割合となっている。

## 【年代別】

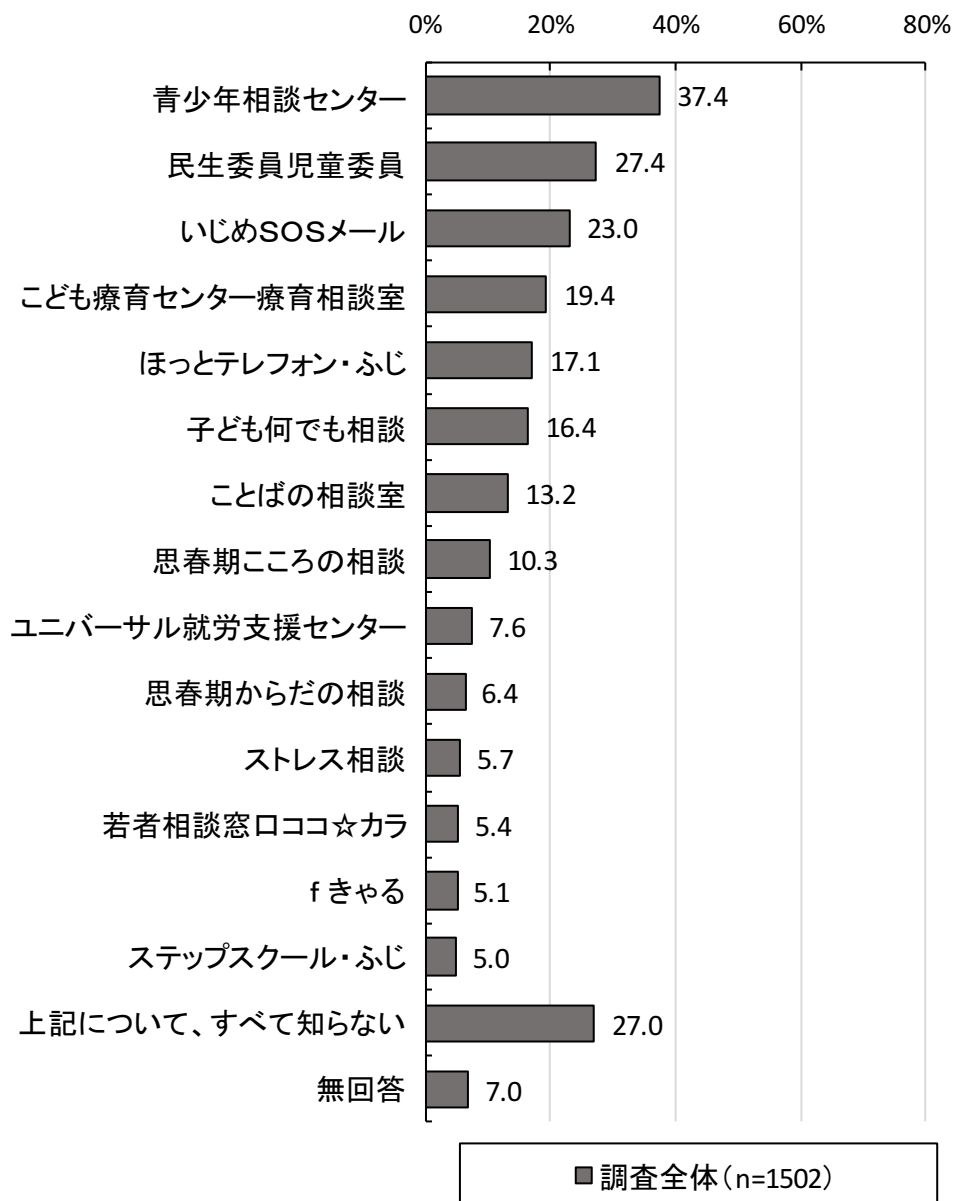


【経年比較】



## (11) 富士市の青少年問題への取り組みの認知度

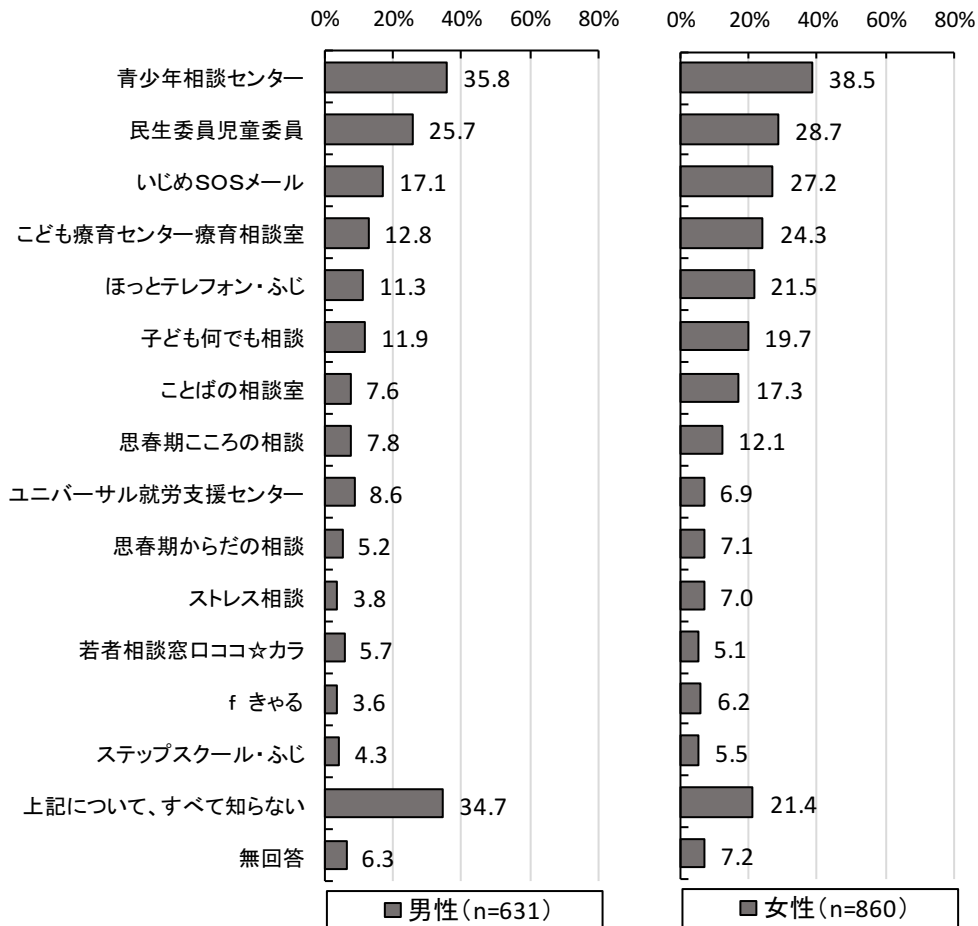
問 28 富士市では、青少年が抱える問題を解決するため、次のような取り組みをしています。次の中から、あなたが知っているものをすべて選んで○をつけてください。



富士市の取り組みで知っているものについて尋ねたところ、「青少年相談センター」が 37.4%と最も高く、次いで「民生委員児童委員」27.4%、「いじめSOSメール」23.0%の順となっている。なお、「上記について、すべて知らない」は 27.0%となっている。

IV 調査結果

【性別】

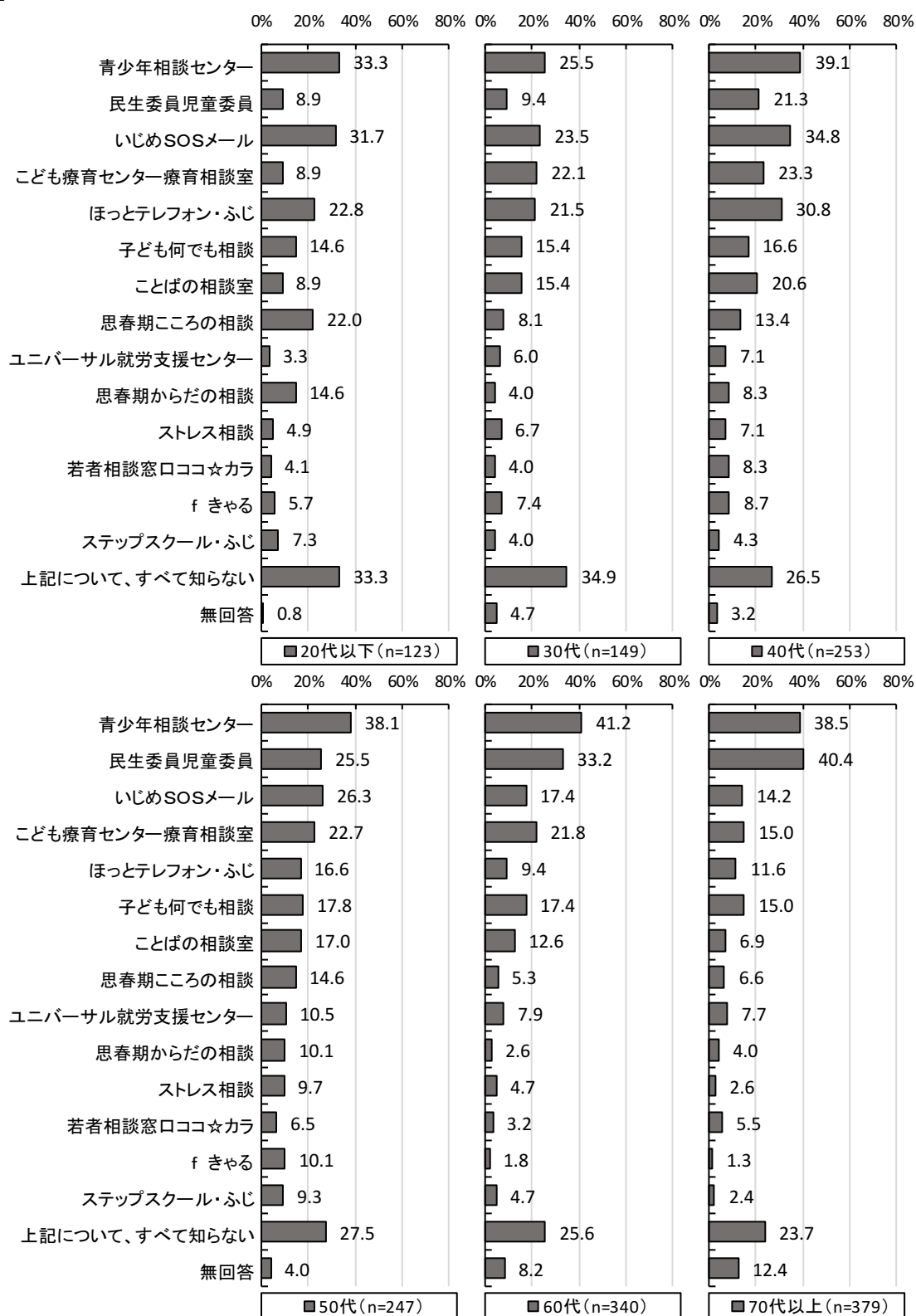


男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。なお、男性は「上記について、すべて知らない」が34.7%と女性に比べて高く、富士市の取り組みについての認知度が低い。

年代別で見ると、「青少年相談センター」が70代以上を除き全世代でトップとなっている。なお、「上記について、すべて知らない」は20代以下で33.3%、30代で34.9%と他の年代に比べて高く、若い年代での認知度は低い。

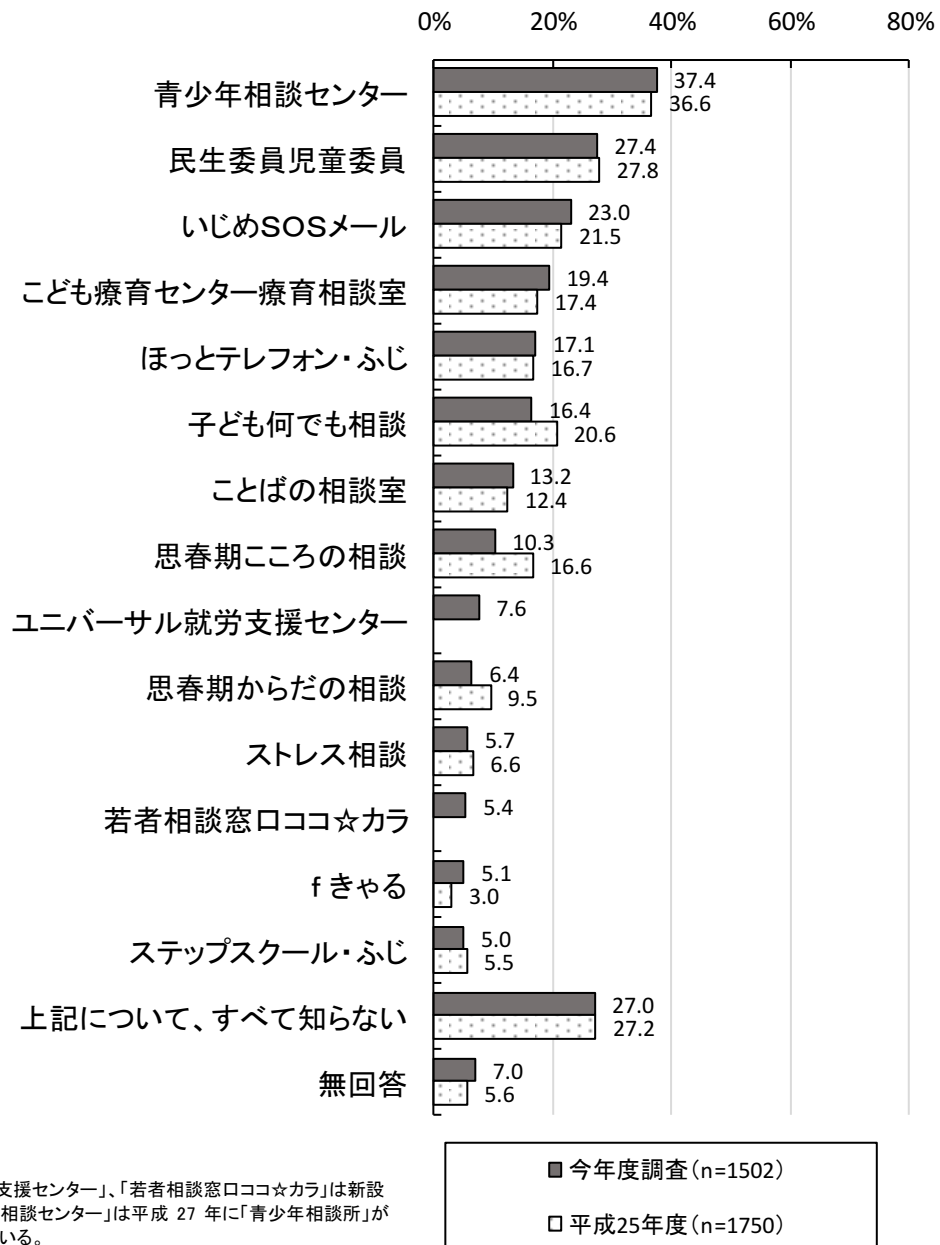


## 【年代別】



IV 調査結果

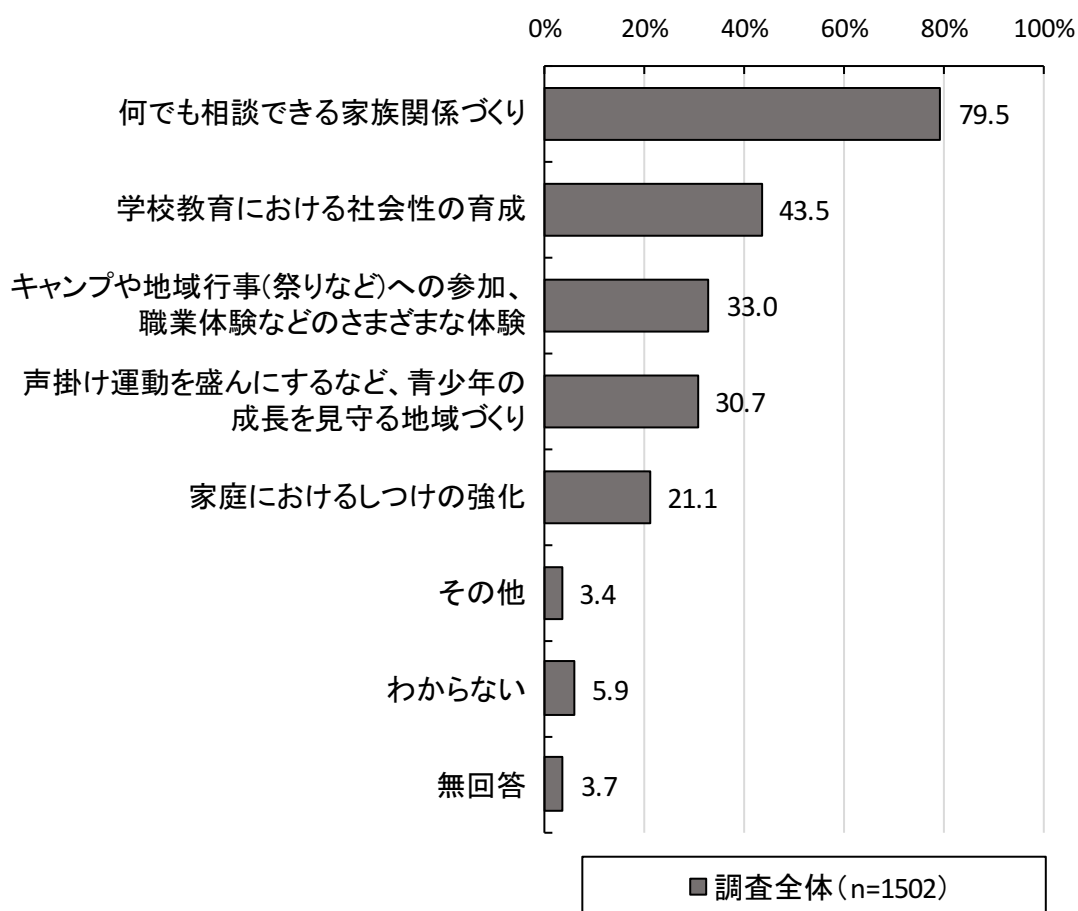
【経年比較】



※「ユニバーサル就労支援センター」、「若者相談窓口ココ☆カラ」は新設項目。また、「青少年相談センター」は平成 27 年に「青少年相談所」が移転に伴い改称している。

## (12) 青少年に関する問題を予防するために必要なこと

問 29 青少年が「不登校」や「ひきこもり」、「ニート」などの状態に陥らないためには、どのようなことが必要であると考えますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



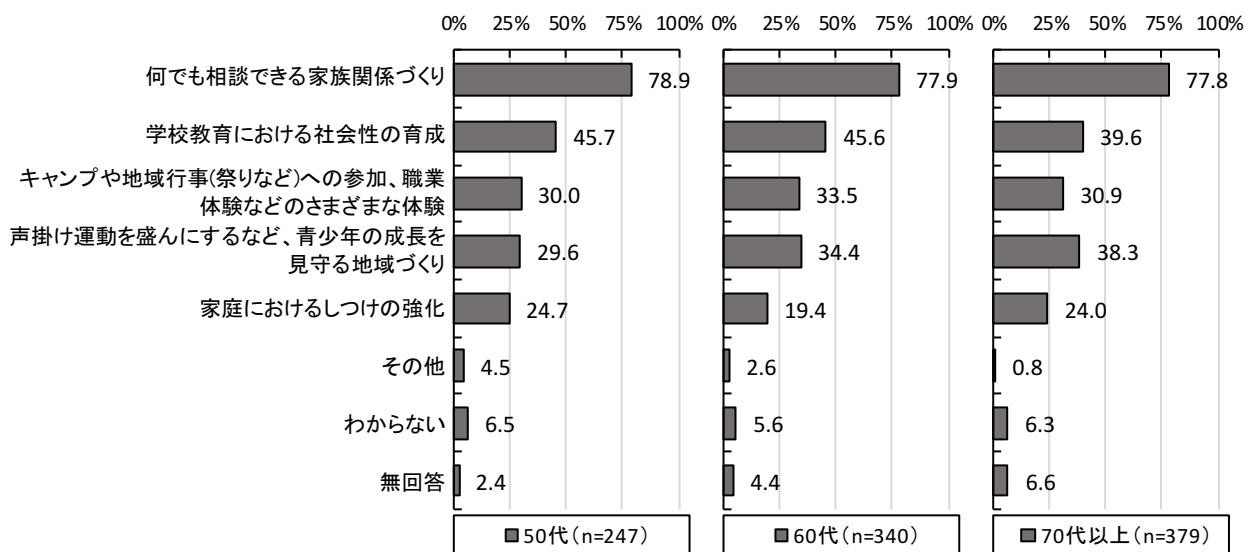
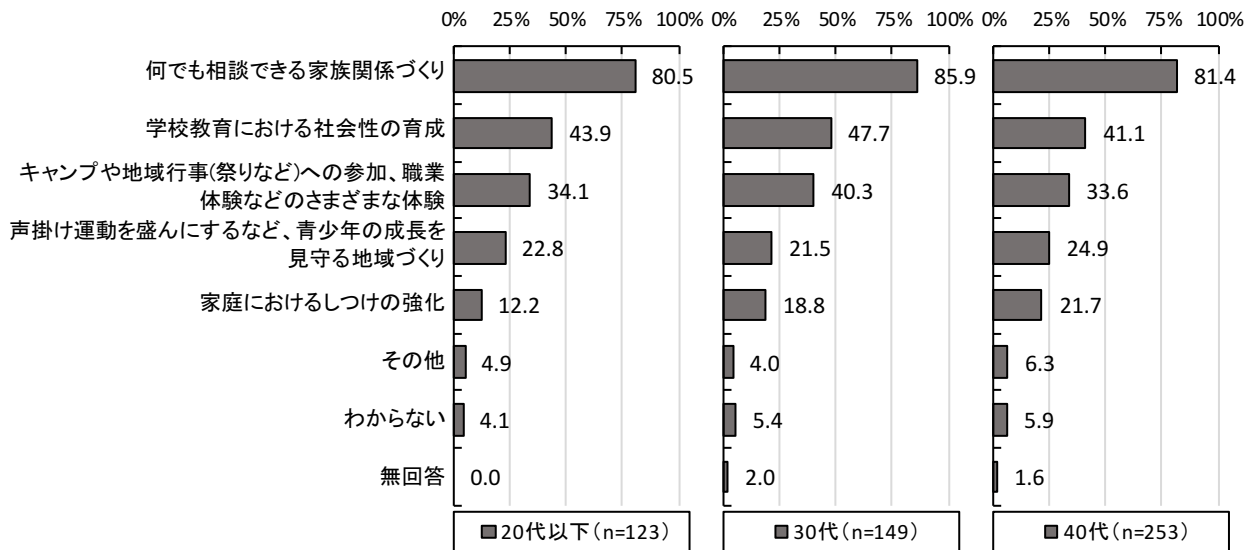
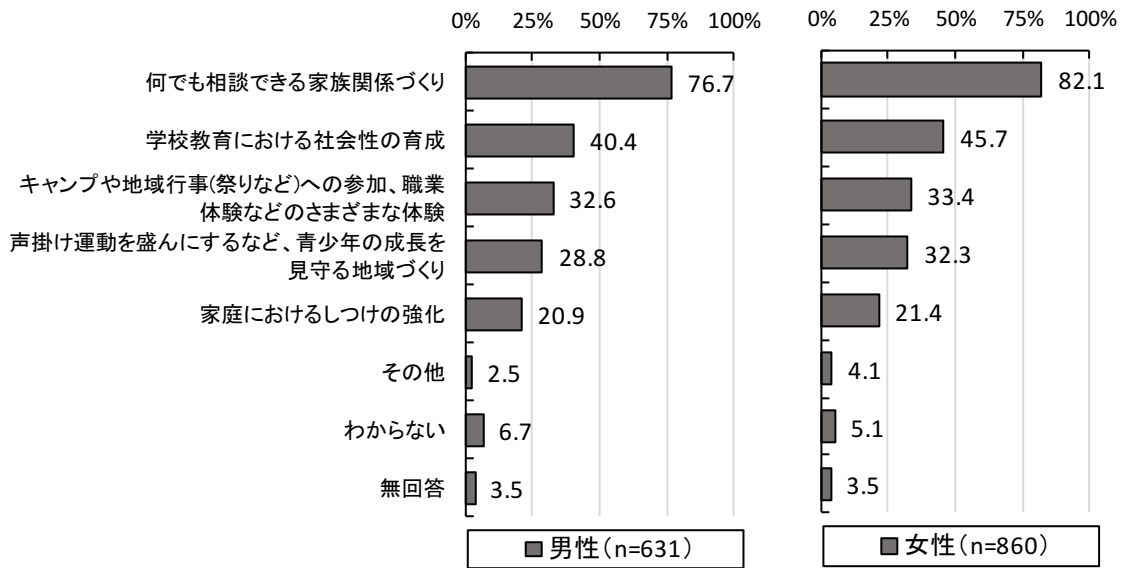
青少年に関する問題を予防するために必要なことについて尋ねたところ、「何でも相談できる家族関係づくり」が79.5%と最も高く、次いで「学校教育における社会性の育成」43.5%、「キャンプや地域行事（祭りなど）への参加、職業体験などのさまざまな体験」33.0%の順となっている。

男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

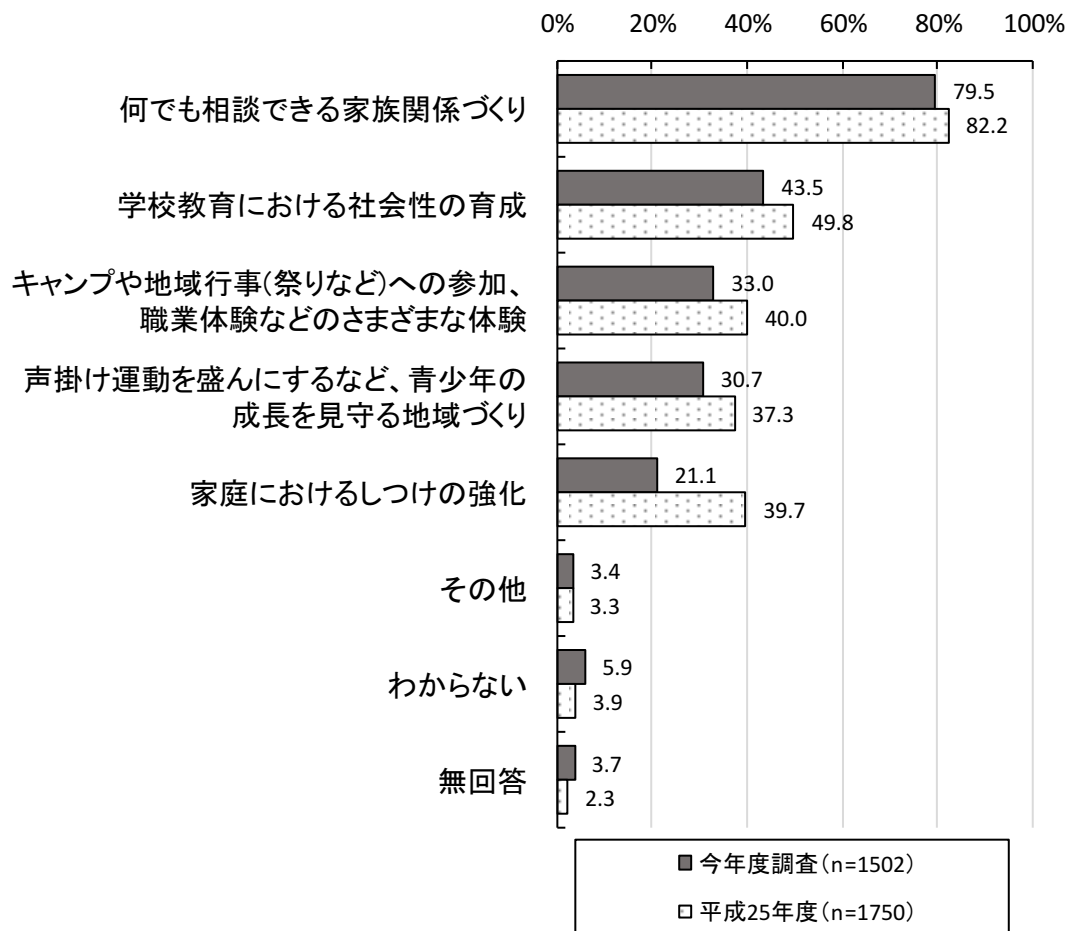
年代別で見ても、「何でも相談できる家族関係づくり」が全世代でトップとなっている。なお、「声掛け運動を盛んにするなど、青少年の成長を見守る地域づくり」は60代で34.4%、70代以上で38.3%と他の年代に比べて高くなっている。

IV 調査結果

【性別・年代別】

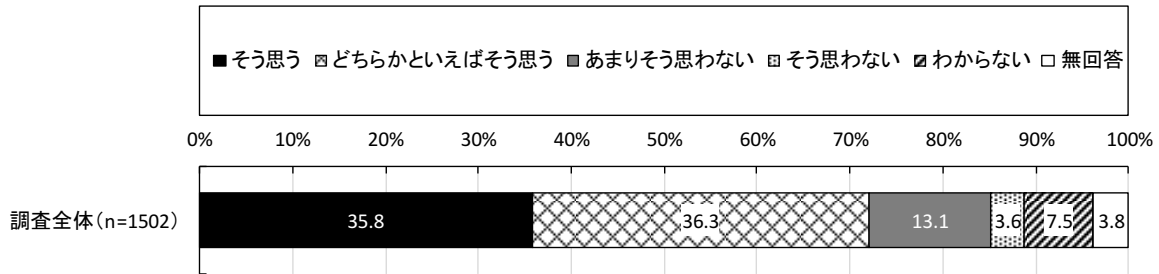


## 【経年比較】



(13) 人とかかわる体験活動の効果

問30 キャンプ、地域行事（祭りなど）への参加など、多くの人とかわりながらの体験は、課題を解決したり、目標に向けて取り組んだりする「社会を生き抜く力」を養う効果があると言われていますが、あなたはどのように思いますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

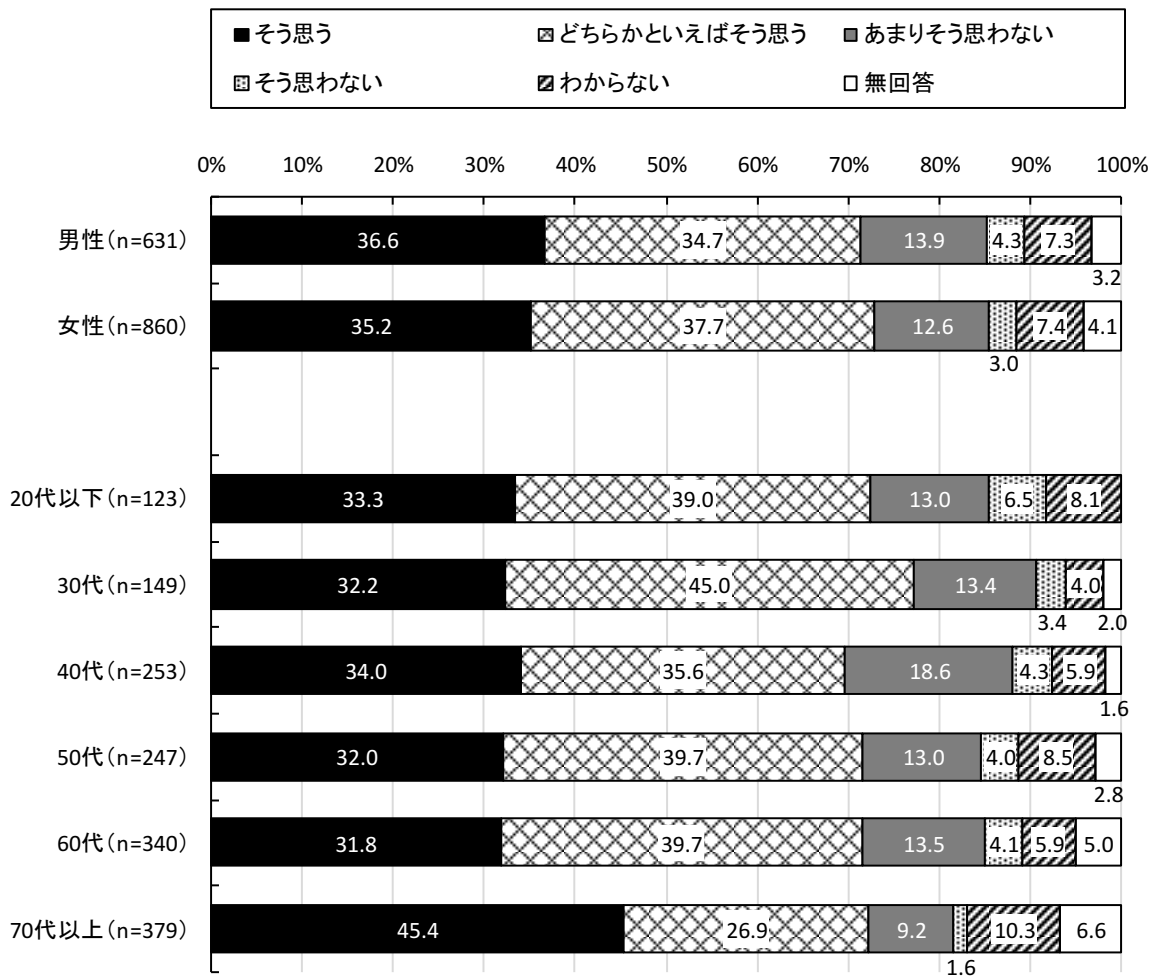


人とかかわる体験活動の「社会を生き抜く力」を養う効果の有無を尋ねたところ、「そう思う」が35.8%、「どちらかといえばそう思う」が36.3%で、それらをあわせた“そう思う”の割合は72.1%を占めた。一方、「あまりそう思わない」は13.1%、「そう思わない」は3.6%で、それらをあわせた“そう思わない”の割合は16.7%となっている。

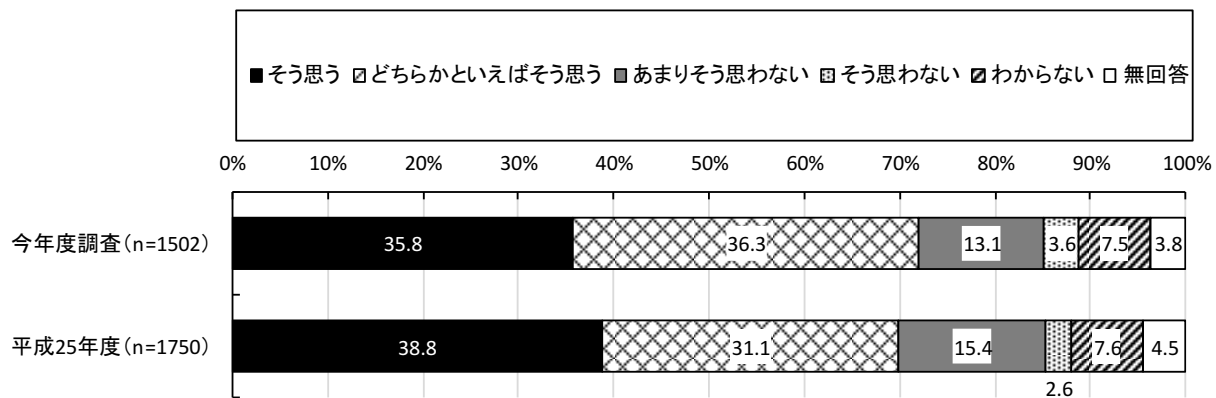
男女別に見ると、“そう思う”の割合は、男性で71.3%、女性で72.9%となっている。

年代別に見ると、“そう思う”の割合は40代を除き7割以上となっている。なお、70歳以上は「そう思う」が45.4%と他の年代に比べて高くなっている。

【性別・年代別】

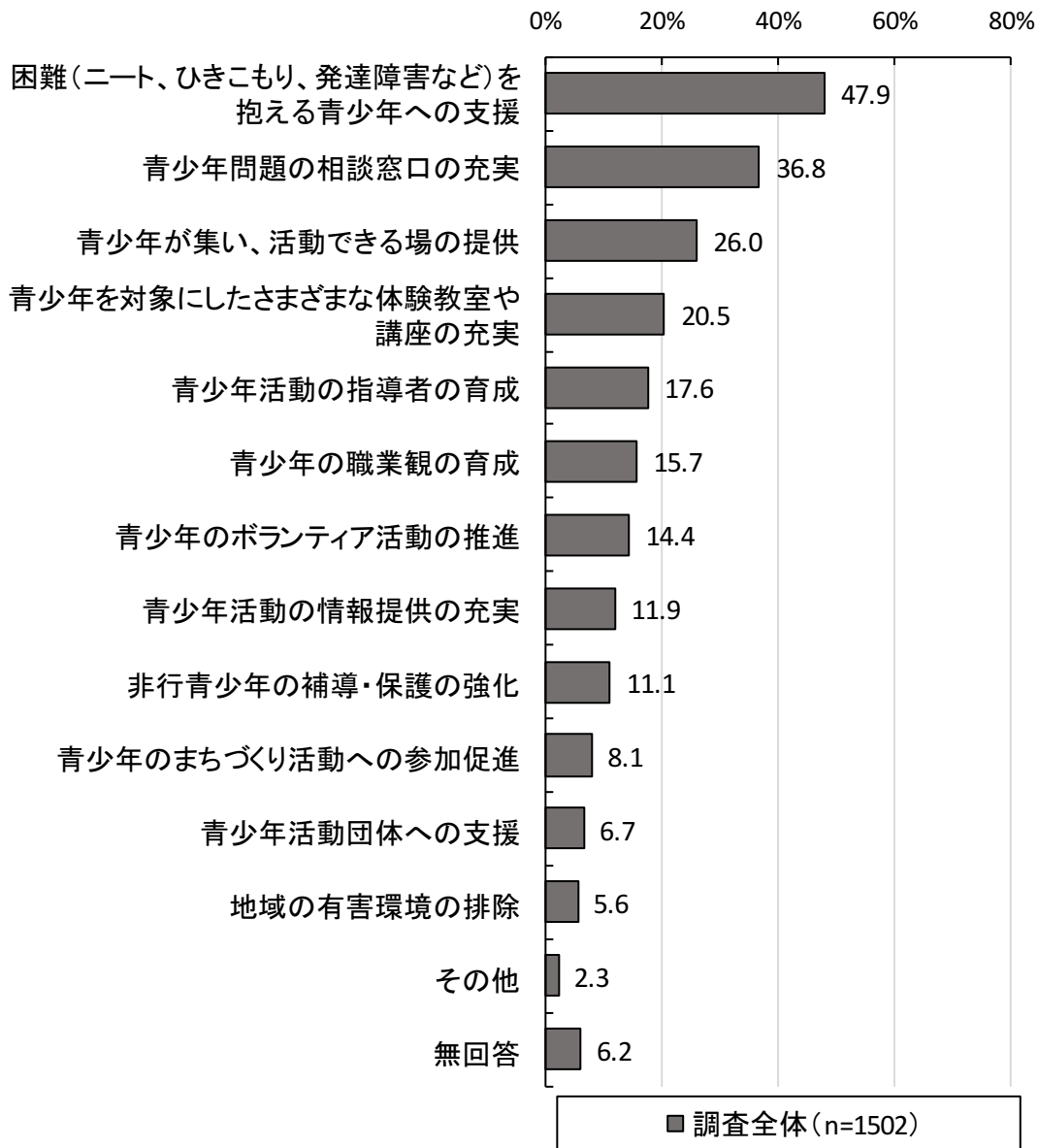


【経年比較】



(14) 青少年健全育成のために市に望む施策

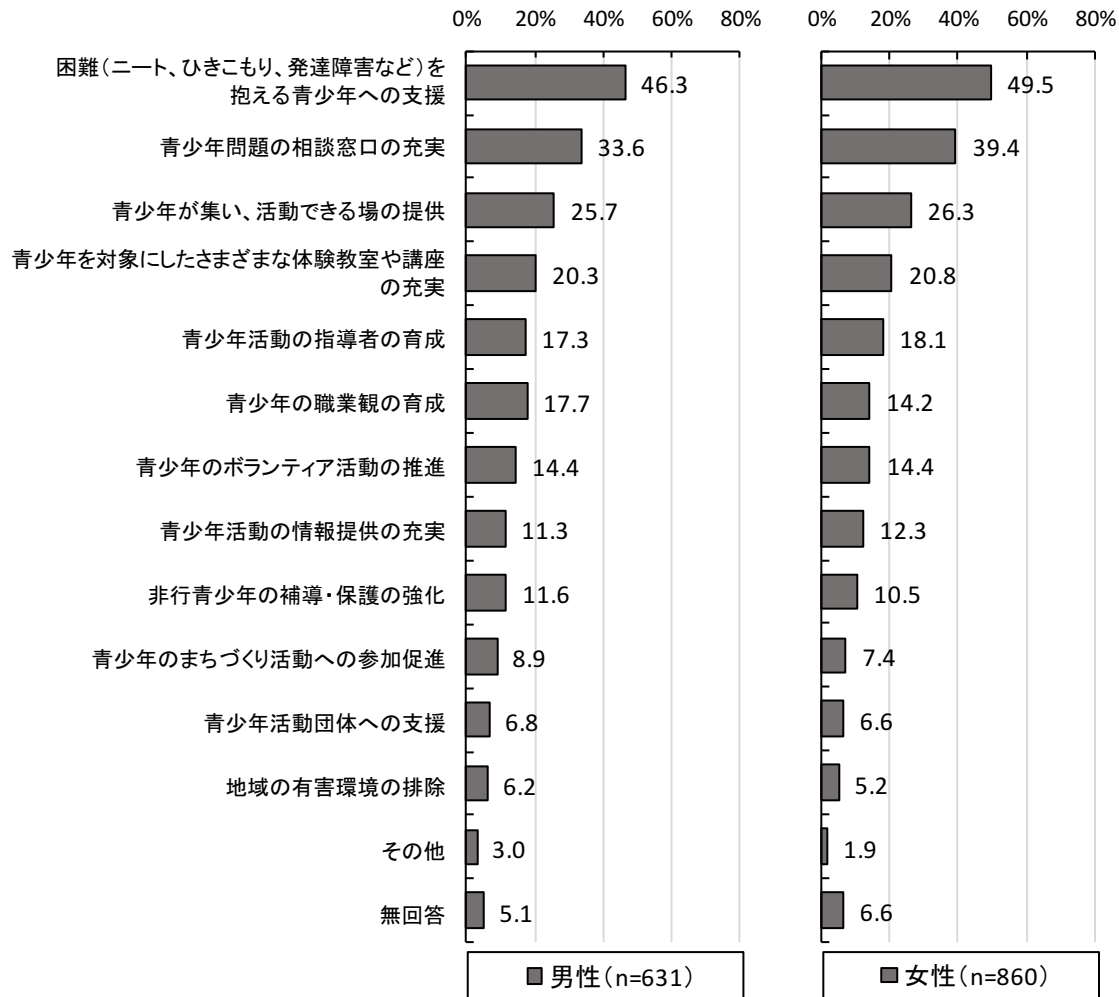
問 31 青少年健全育成（困難を抱える子ども・若者支援を含む）のために、あなたが市に望む施策はどのようなものですか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んで○をつけてください。



青少年健全育成のために市に望む施策について尋ねたところ、「困難（ニート、ひきこもり、発達障害など）を抱える青少年への支援」が 47.9%と最も高く、次いで「青少年問題の相談窓口の充実」36.8%、「青少年が集い、活動できる場の提供」26.0%の順となっている。



## 【性別】

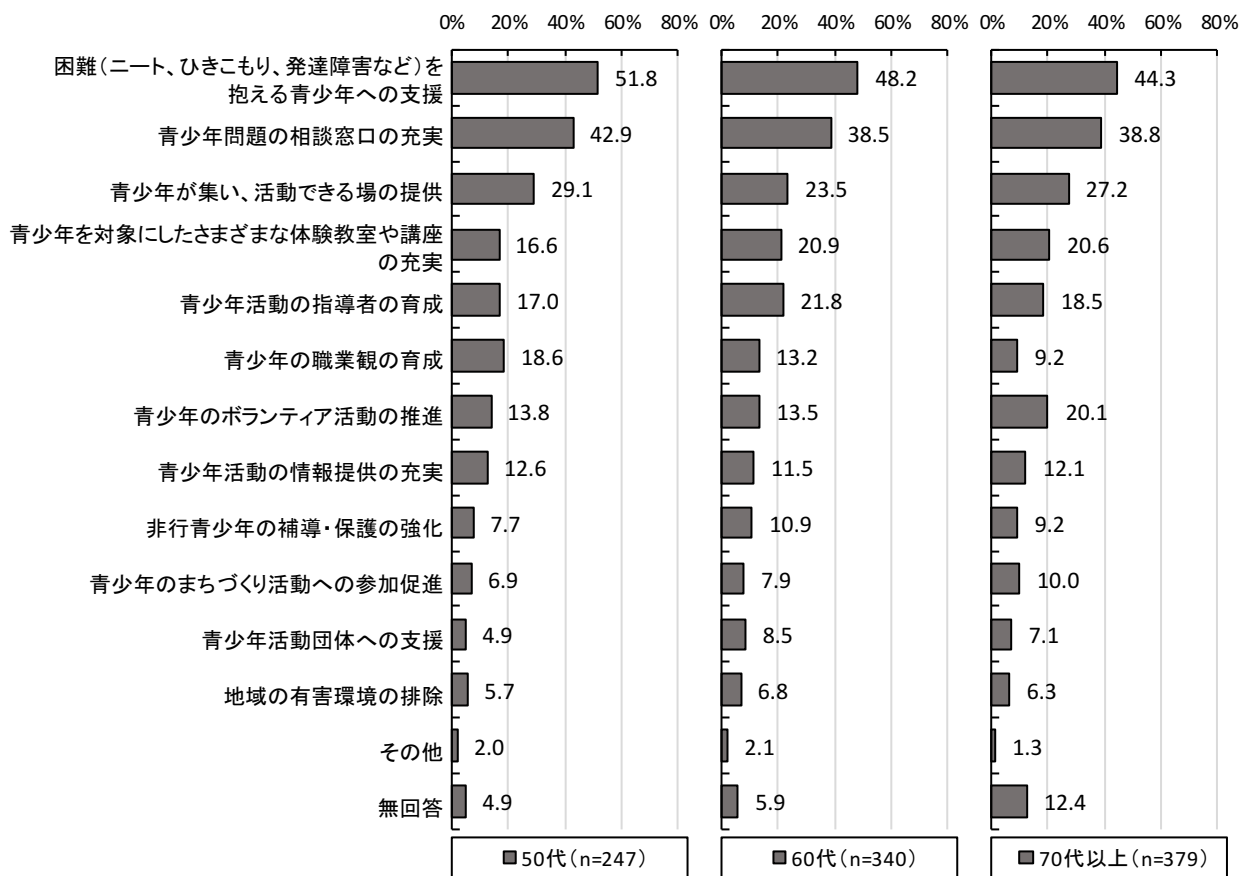
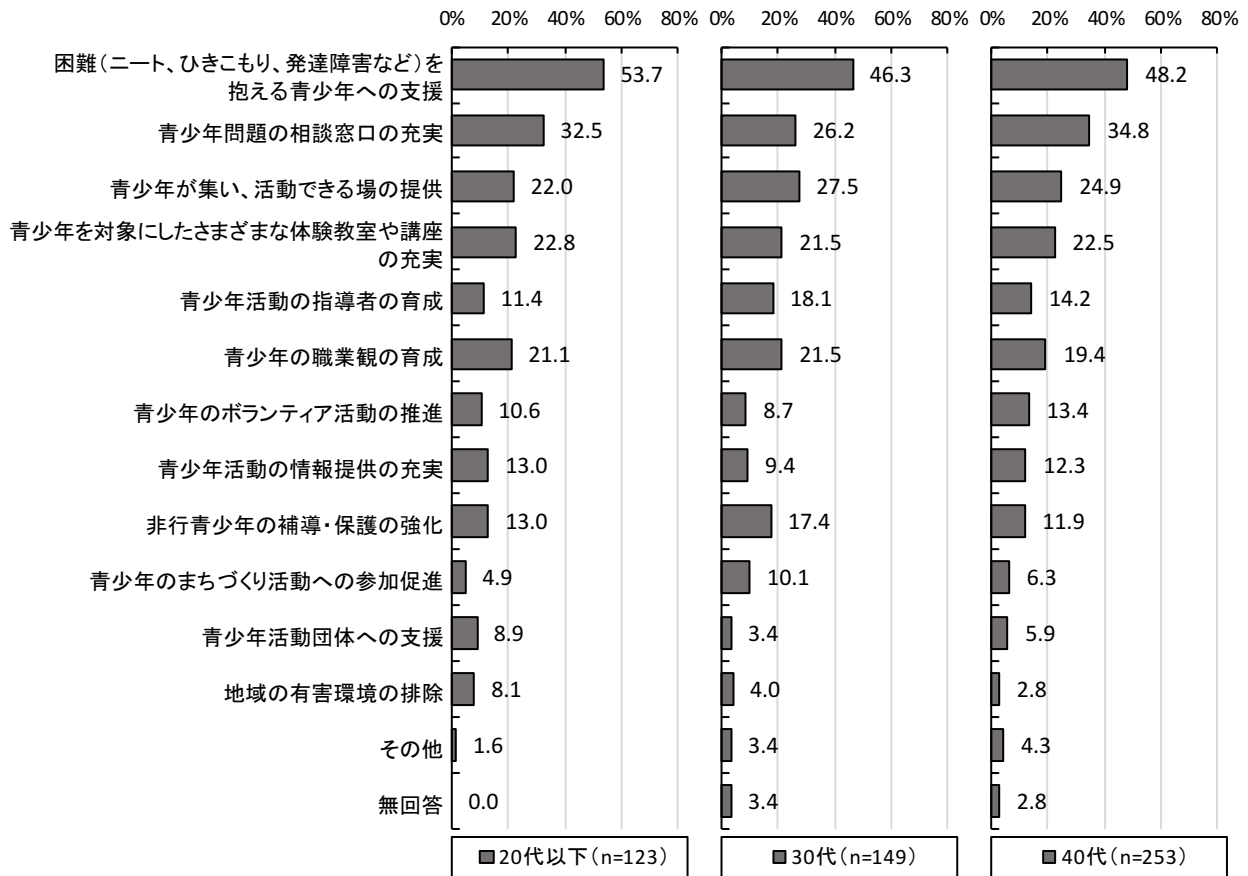


男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

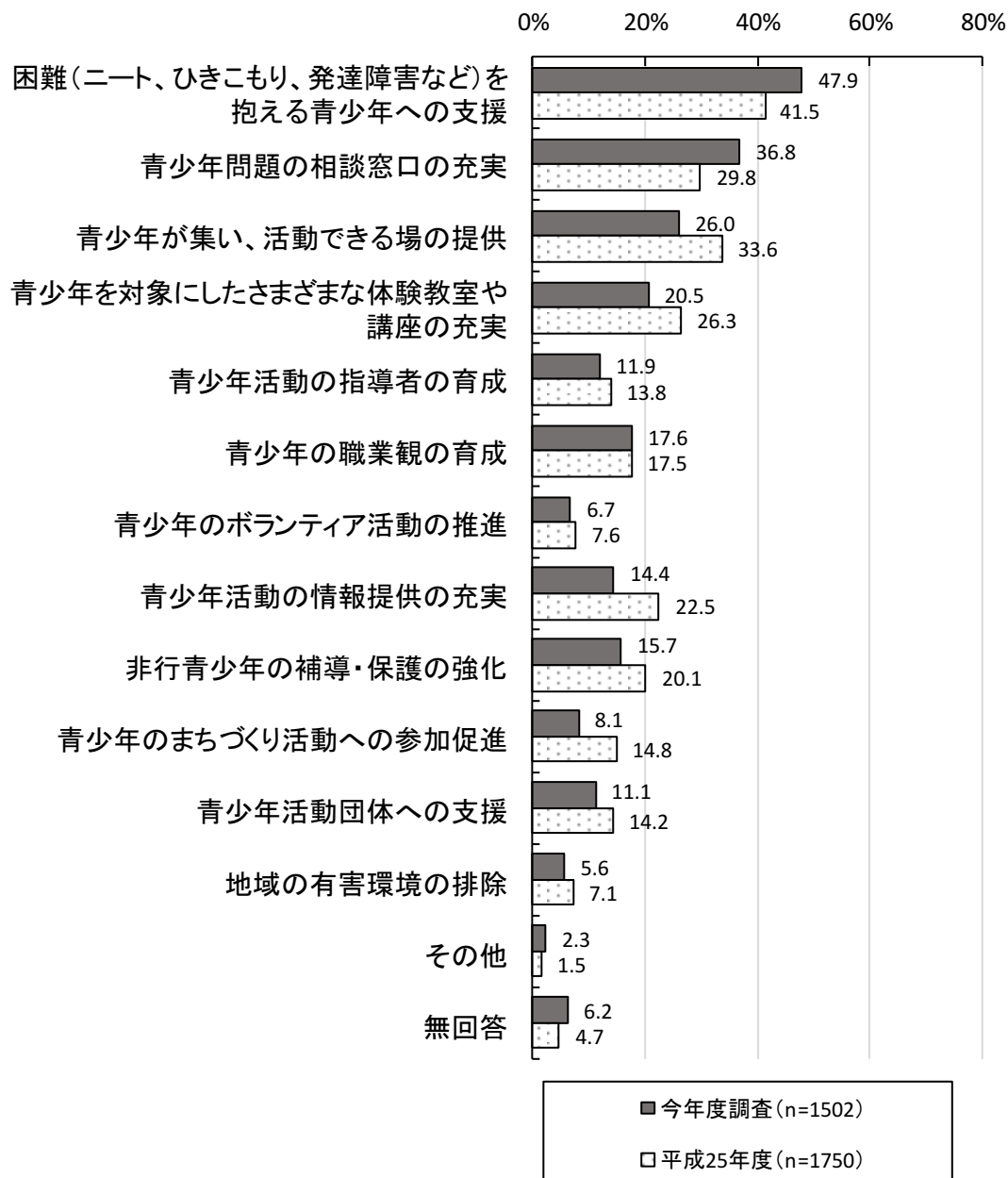
年代別で見ても、「困難(ニート、ひきこもり、発達障害など)を抱える青少年への支援」が全世代でトップとなっている。なお、「青少年のボランティア活動の推進」の割合は70代以上が他の世代に比べて高くなっている。

IV 調査結果

【年代別】

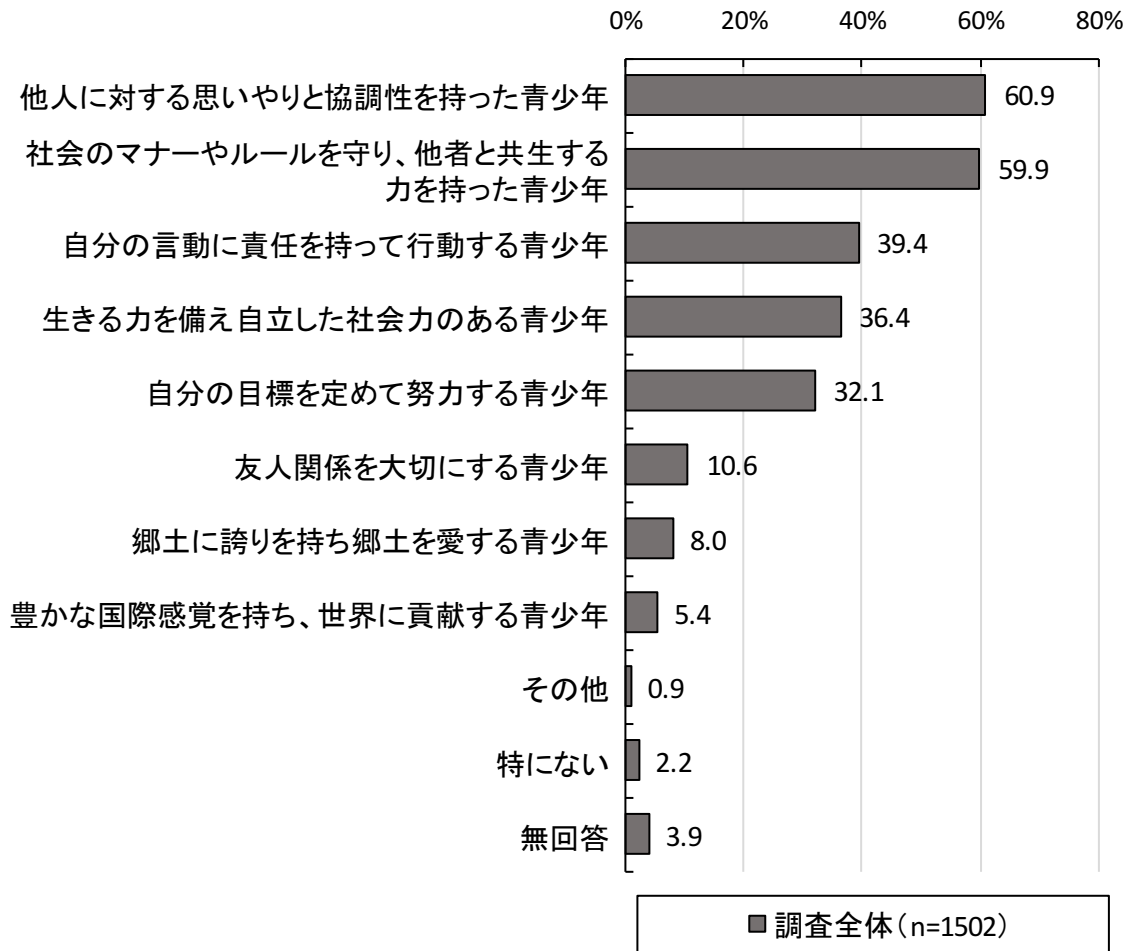


## 【経年比較】



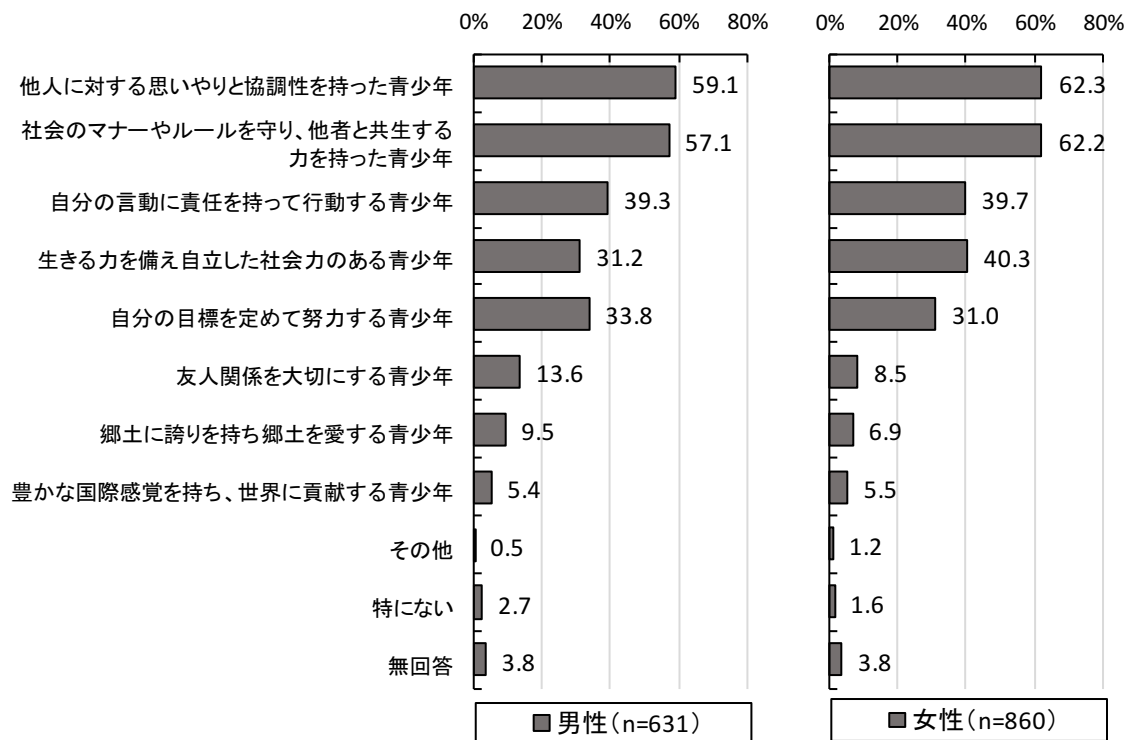
(15) 次代の富士市を担う青少年の望ましい姿

問 32 次代の富士市を担う青少年の姿として、あなたが望ましいと思うものを、次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



次代の富士市を担う青少年の望ましい姿について尋ねたところ、「他人に対する思いやりと協調性を持った青少年」が60.9%と最も高く、次いで「社会のマナーやルールを守り、他者と共生する力を持った青少年」59.9%、「自分の言動に責任を持って行動する青少年」39.4%の順となっている。

## 【性別】

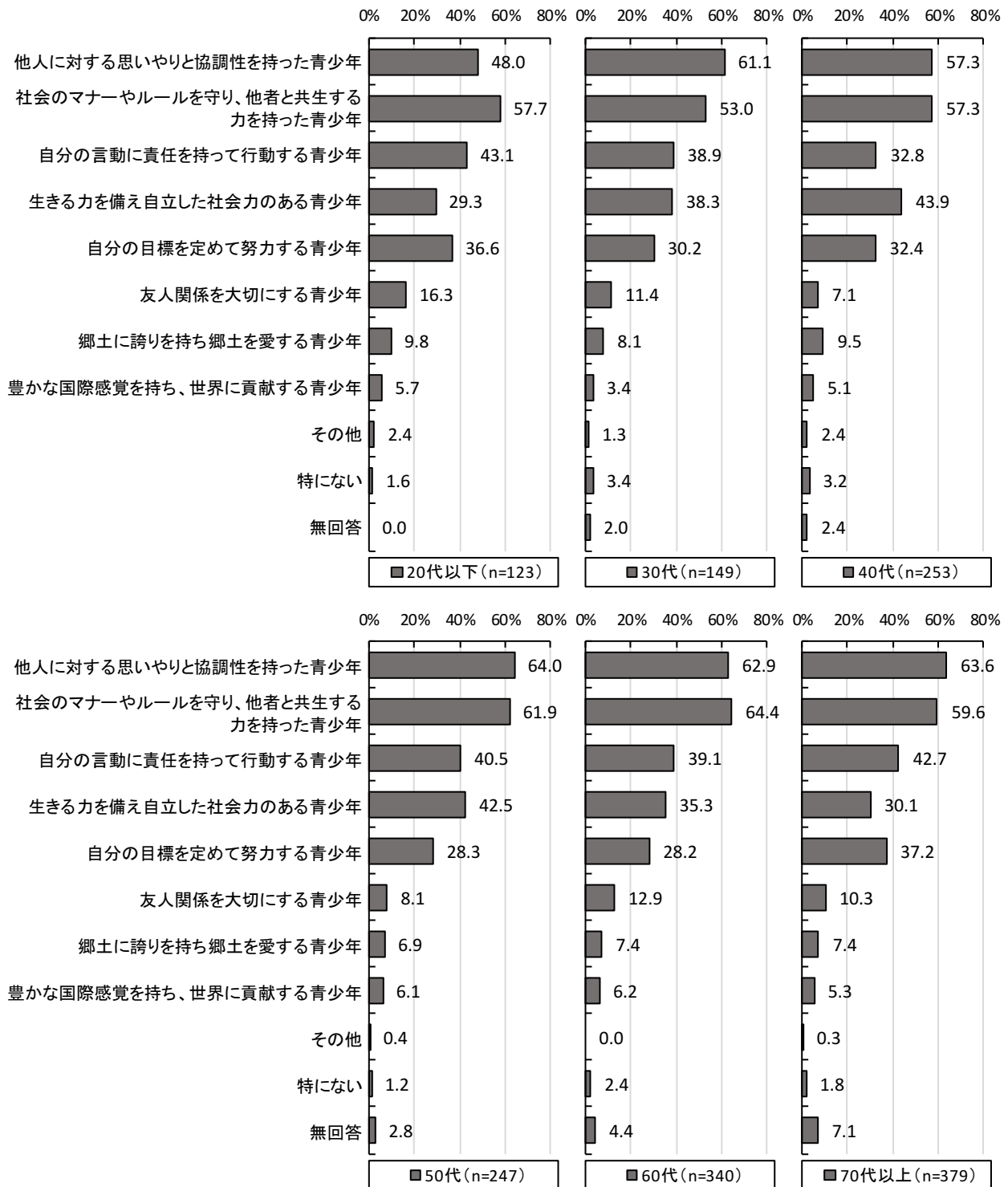


男女別に見ると、男女ともに上位2項目は変わらないが、「生きる力を備え自立した社会力のある青少年」は男性と比べて女性のほうが高い。

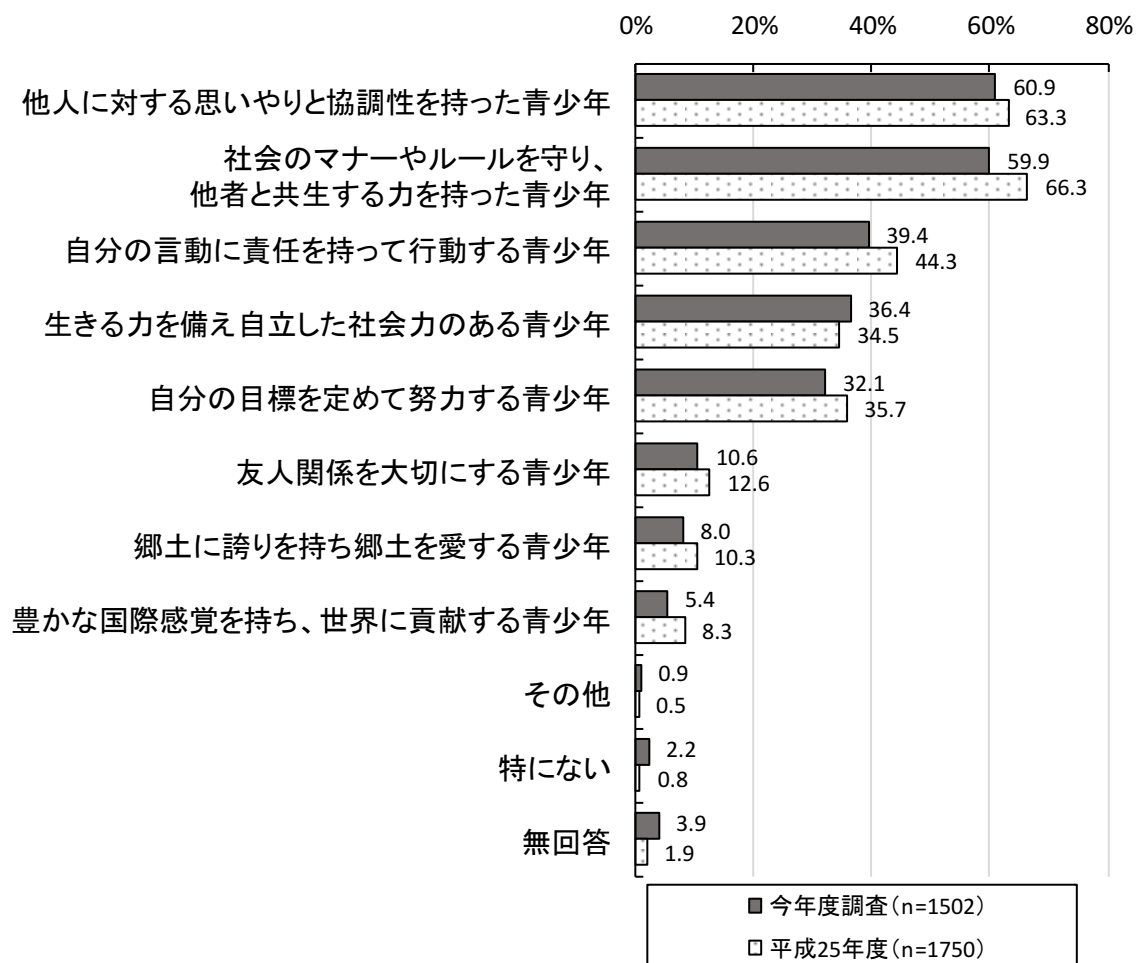
年代別で見ると、「社会のマナーやルールを守り、他者と共生する力を持った青少年」は20代以下と60代で最も高く、「他人に対する思いやりと協調性を持った青少年」は30代、50代、70代以上で最も高い。なお、40代はその両方が高い割合となっている。

IV 調査結果

【年代別】



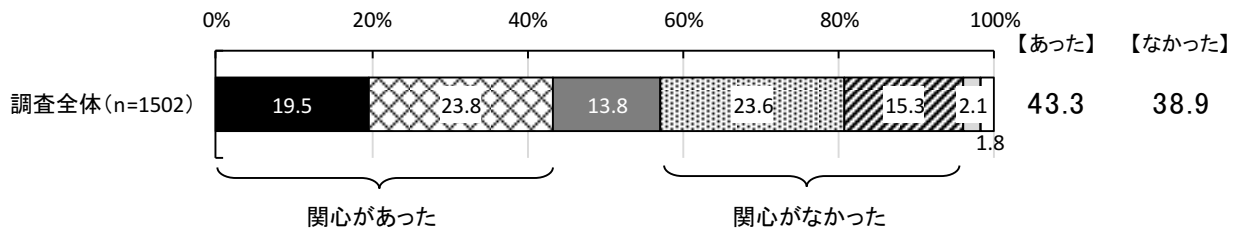
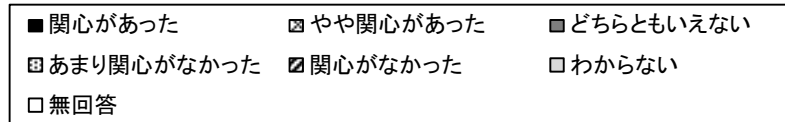
## 【経年比較】



### Ⅲ 「選挙」について

#### (1) 富士市議会議員選挙への関心度

問 34 あなたは、今回の富士市議会議員選挙に関心がありましたか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。



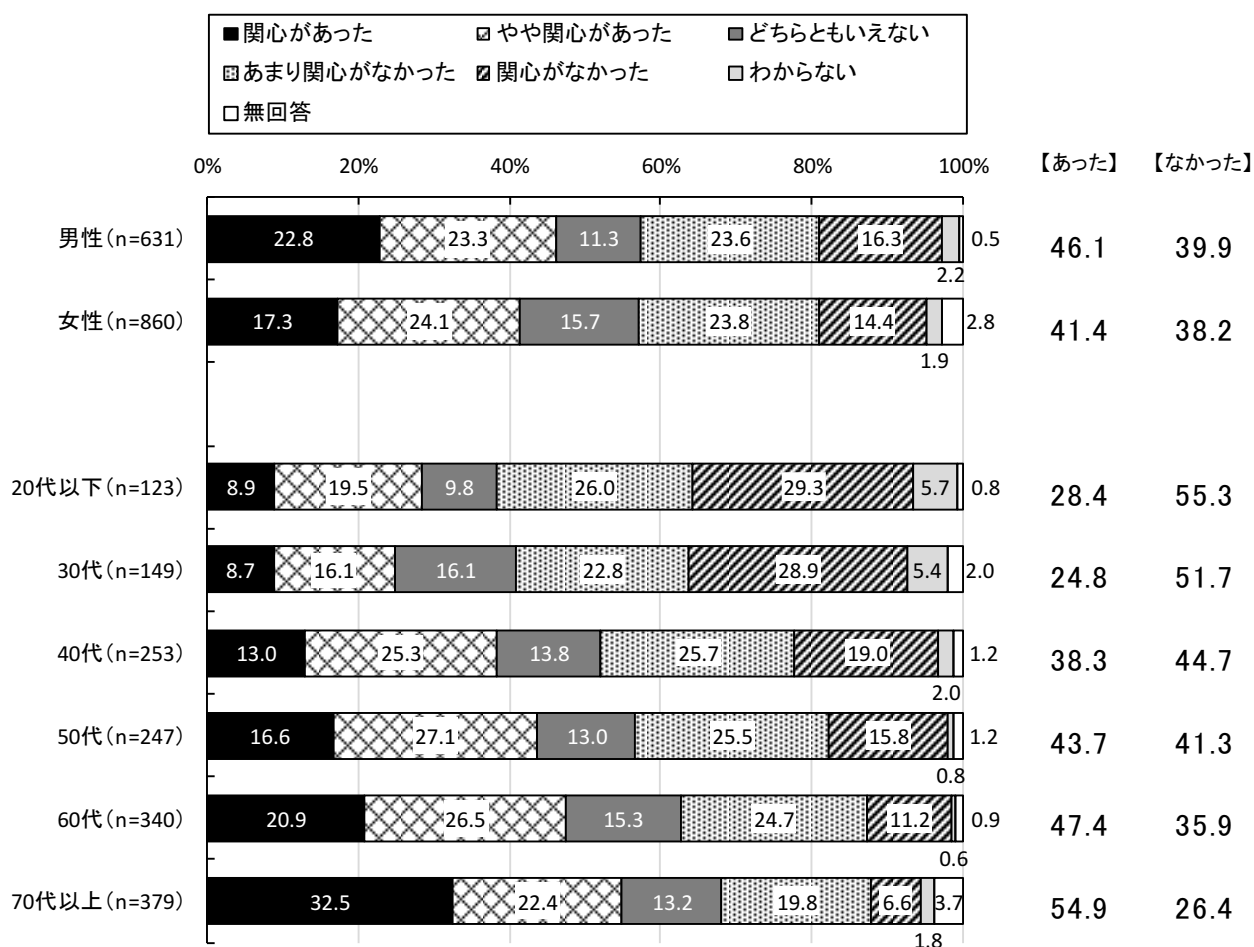
今回の富士市議会議員選挙への関心度について尋ねたところ、「関心があった」が19.5%、「やや関心があった」が23.8%で、それらを合わせた“関心があった”割合は43.3%となっている。また、「あまり関心がなかった」が23.6%、「関心がなかった」が15.3%で、それらを合わせた“関心がなかった”割合は38.9%となっている。

男女別に見ると、“関心があった”割合は男性が46.1%、女性が41.4%となっており、男性のほうが高い。

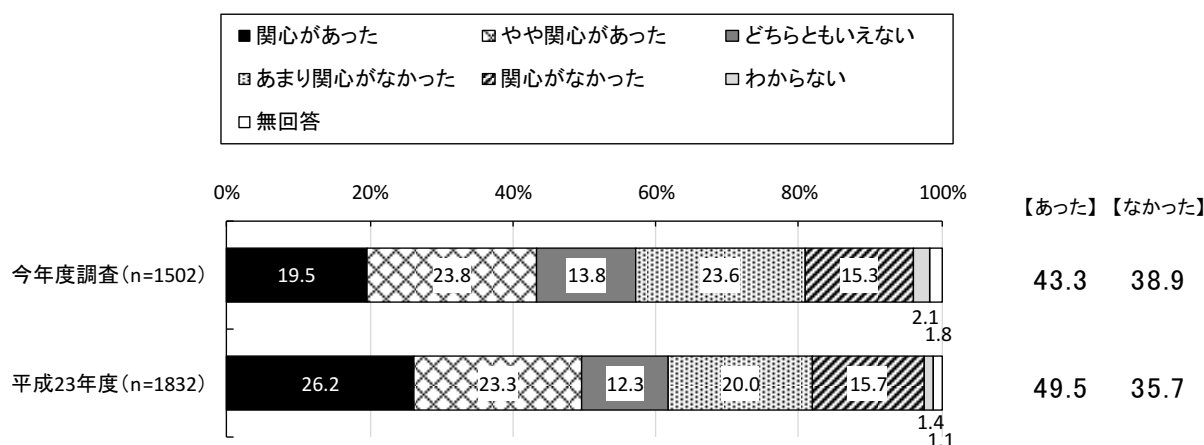
年代別に見ると、40代から年代を追うごとに“関心があった”割合は高くなる傾向にある。



【性別・年代別】

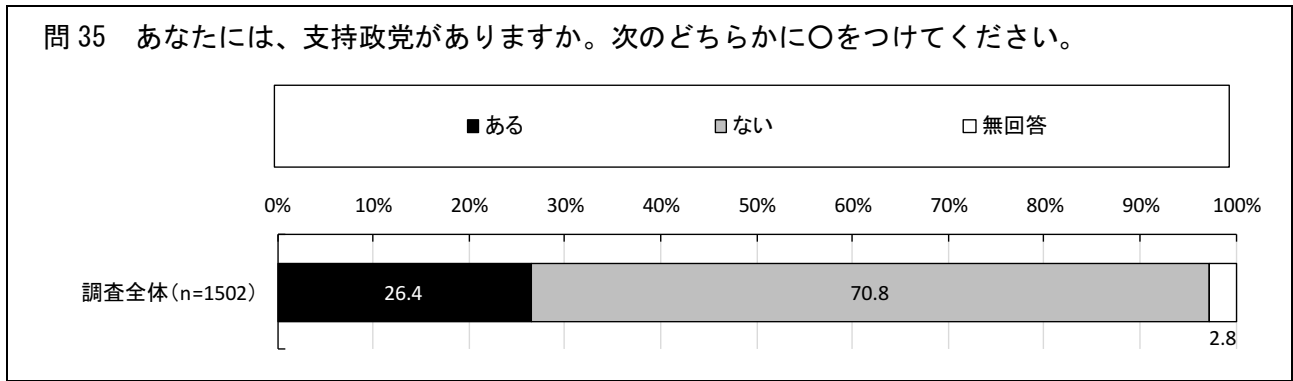


【経年比較】



※前回調査では平成23年4月24日の富士市議会議員選挙について尋ねている。

(2) 支持政党の有無

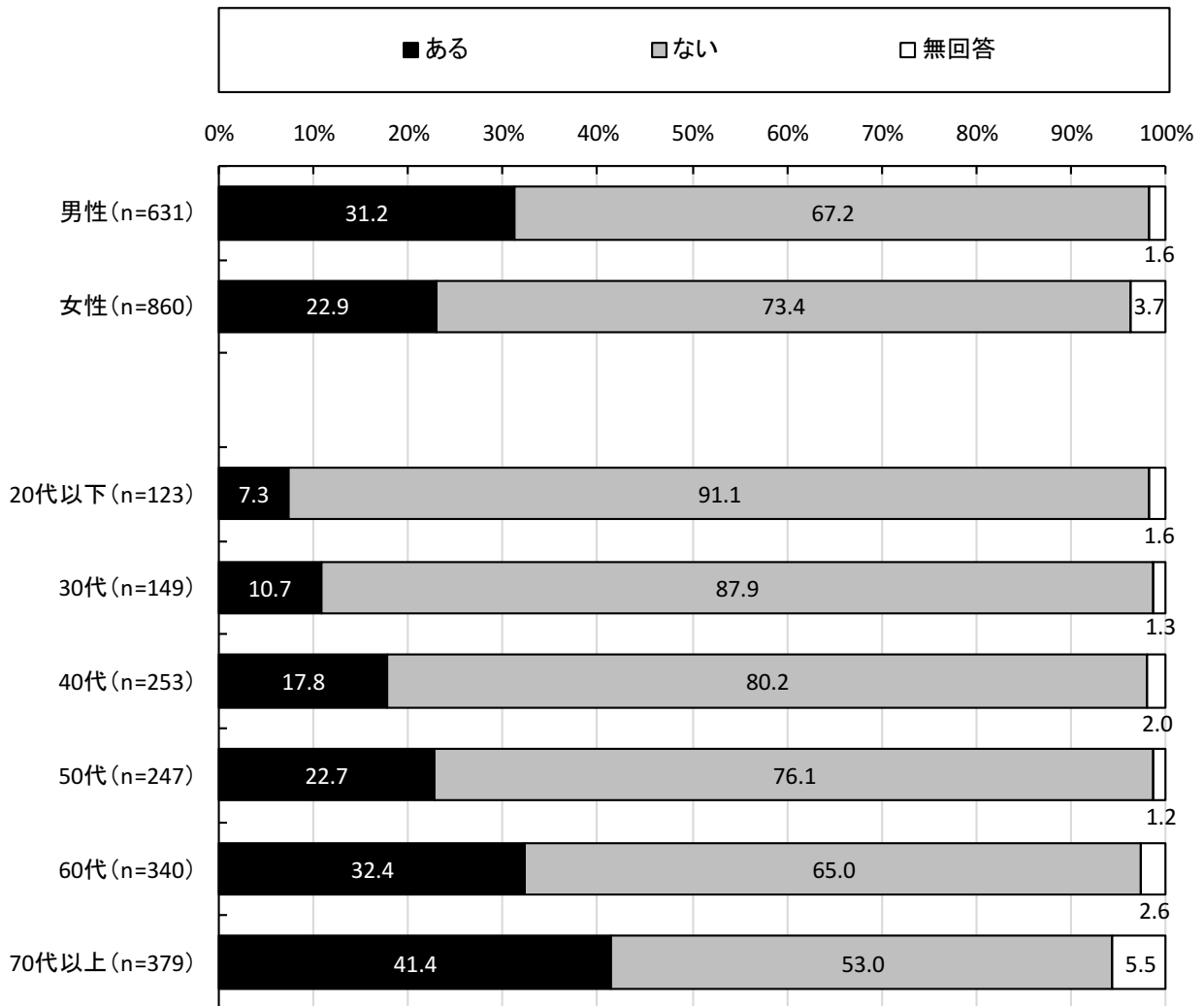


支持政党の有無について尋ねたところ、「ある」26.4%で「ない」70.8%となっており、「ない」がおよそ7割を占めている。

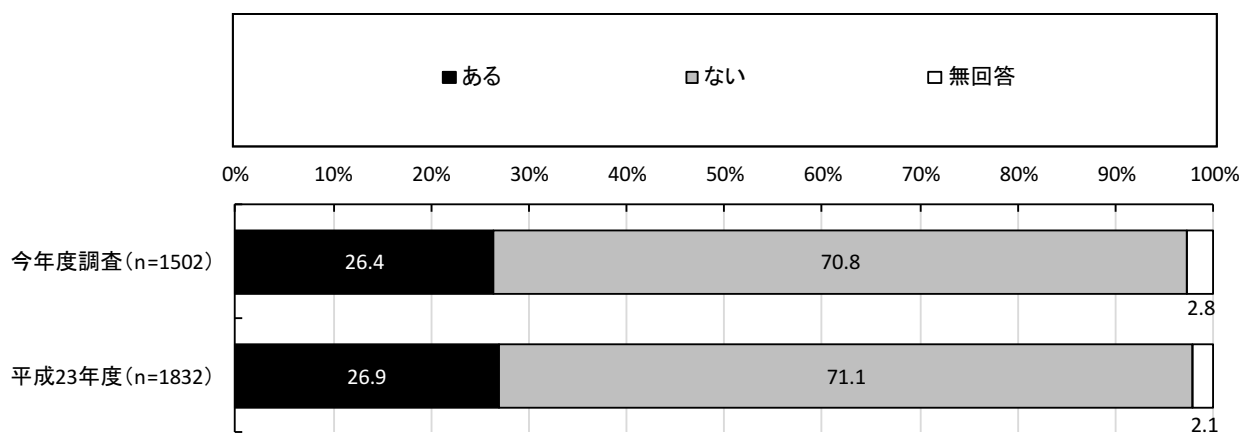
男女別に見ると、「ある」は男性31.2%、女性22.9%となっており、男性のほうが高い。

年代別に見ると、「ある」は年代を追うごとに高くなる傾向にある。また、20代以下では「ない」が9割以上と高い割合となっている。

【性別・年代別】

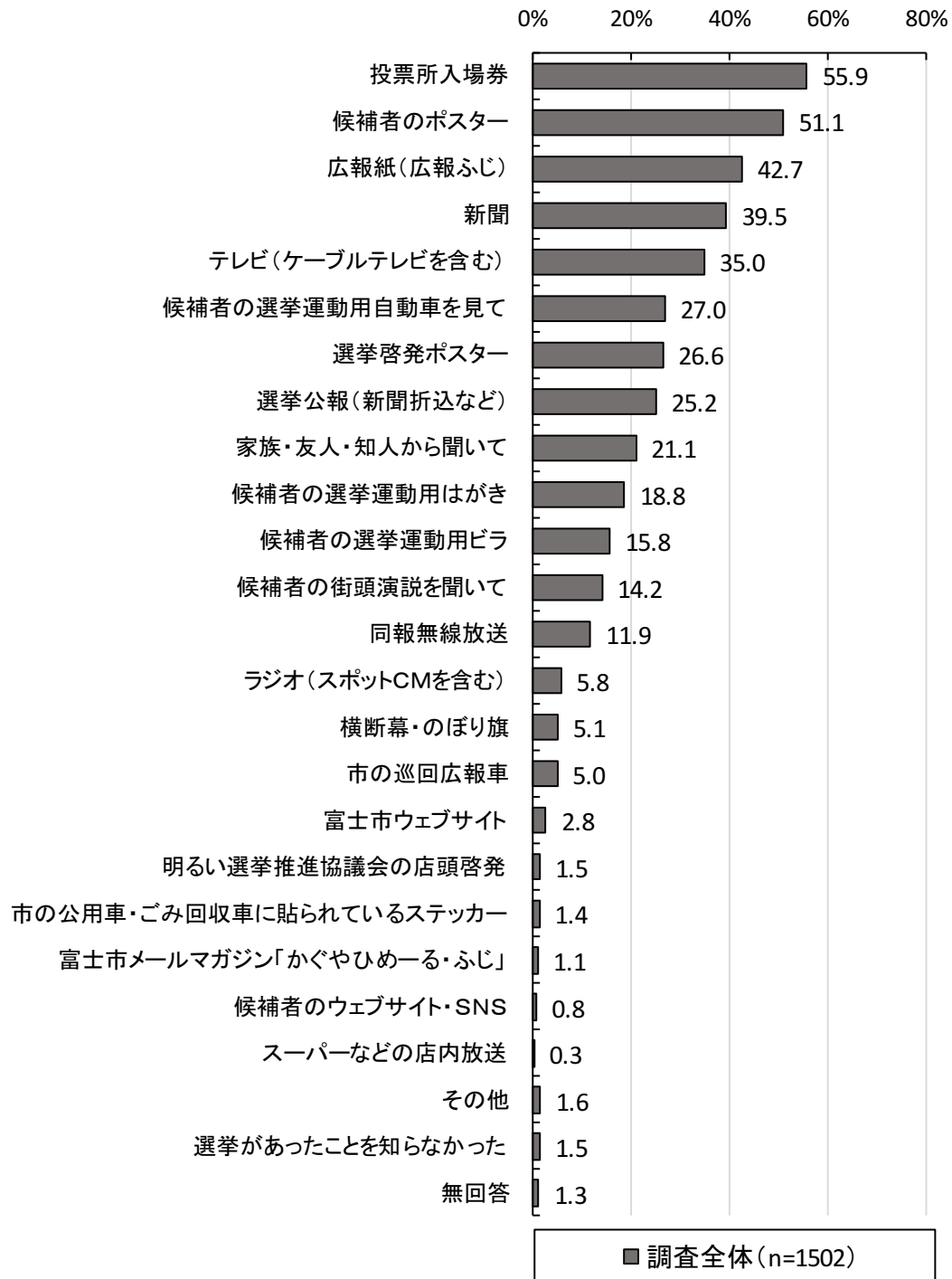


【経年比較】



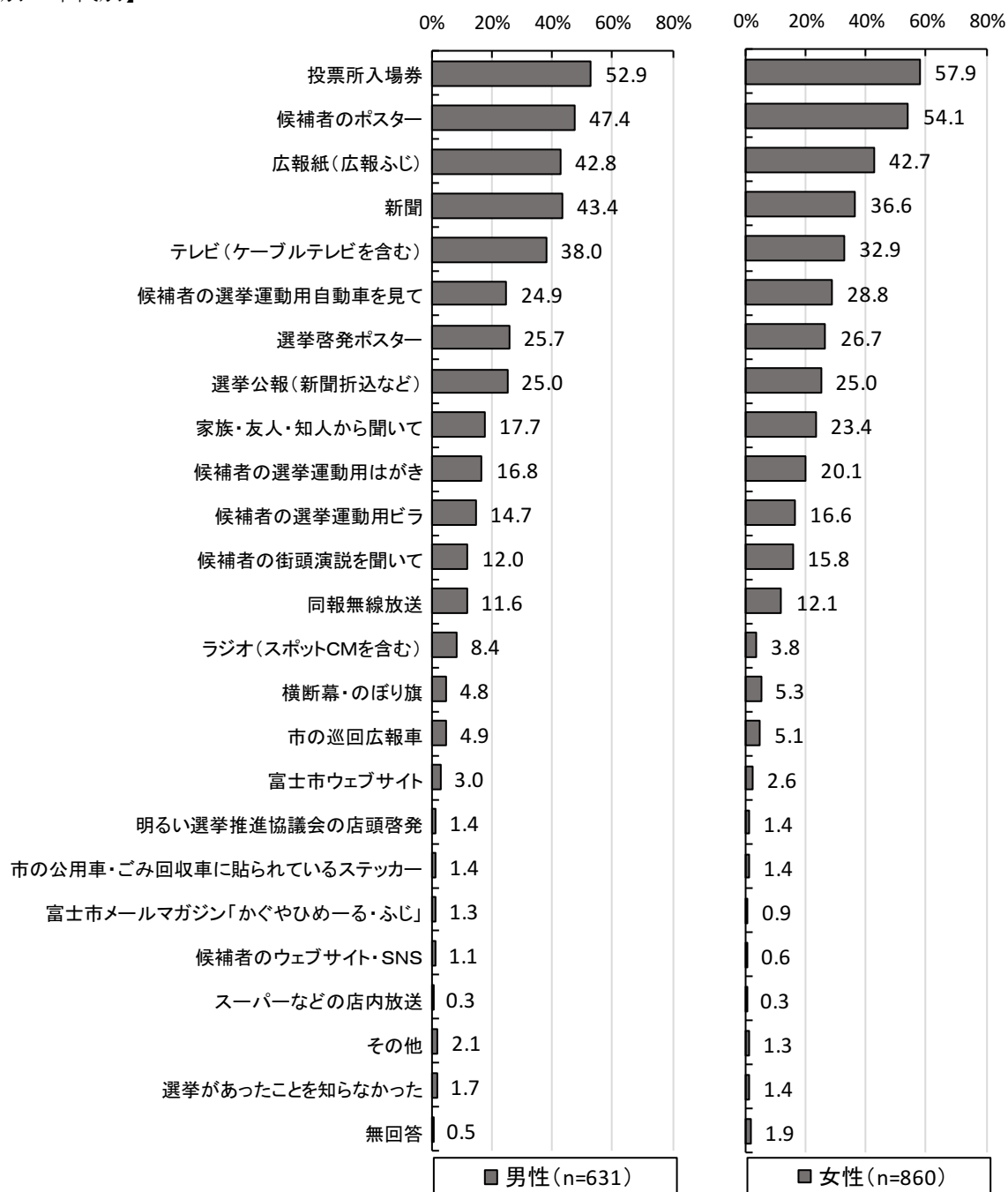
## (3) 富士市議会議員選挙の認知経路

問 36 あなたは、今回の富士市議会議員選挙が行われることを何で知りましたか。次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



富士市議会議員選挙の認知経路について尋ねたところ、「投票所入場券」が55.9%と最も高くなっている。次いで「候補者のポスター」が51.1%、「広報紙(広報ふじ)」が42.7%の順となっている。

## 【性別・年代別】

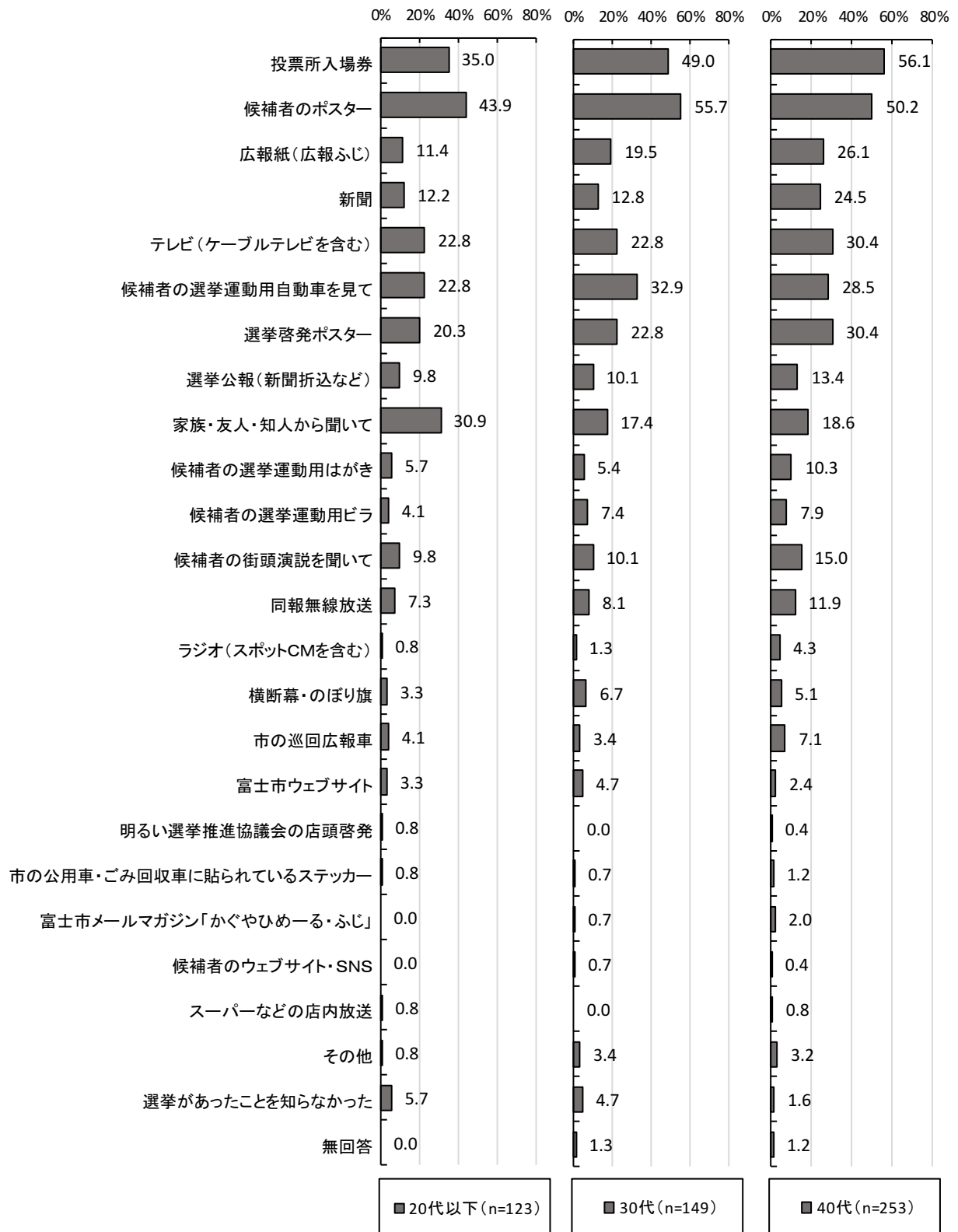


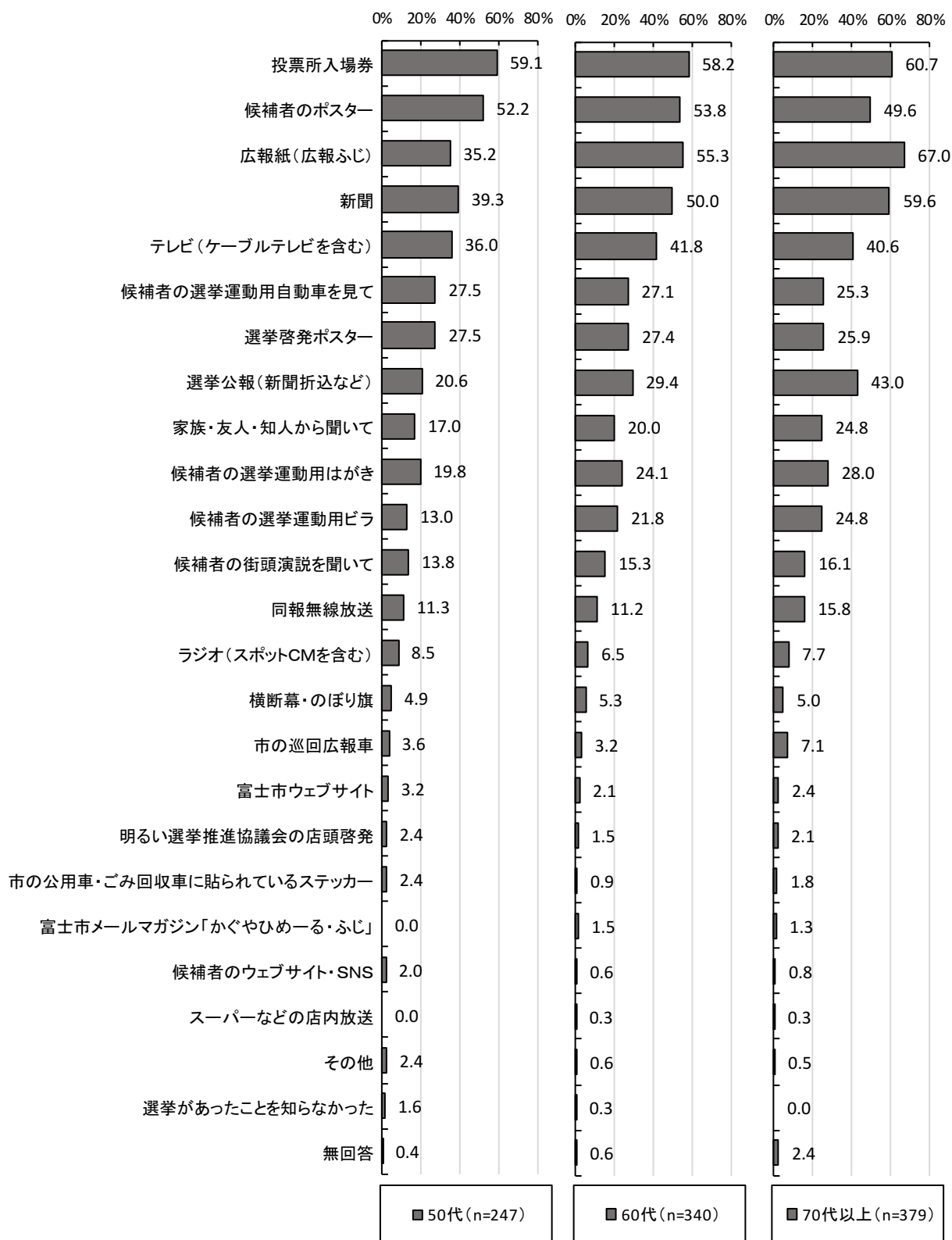
男女別に見ても、男女ともに「投票所入場券」が最も高くなっている。また、「候補者のポスター」は女性のほうが高く、「新聞」は男性のほうが高くなっている。

年代別に見ると、20代以下、30代では「候補者のポスター」、40代、50代、60代では「投票所入場券」、70代以上では「広報紙(広報ふじ)」の割合が最も高くなっている。また、20代以下では「家族・友人・知人から聞いて」の割合が30.9%と他の年代に比べて高くなっている。

IV 調査結果

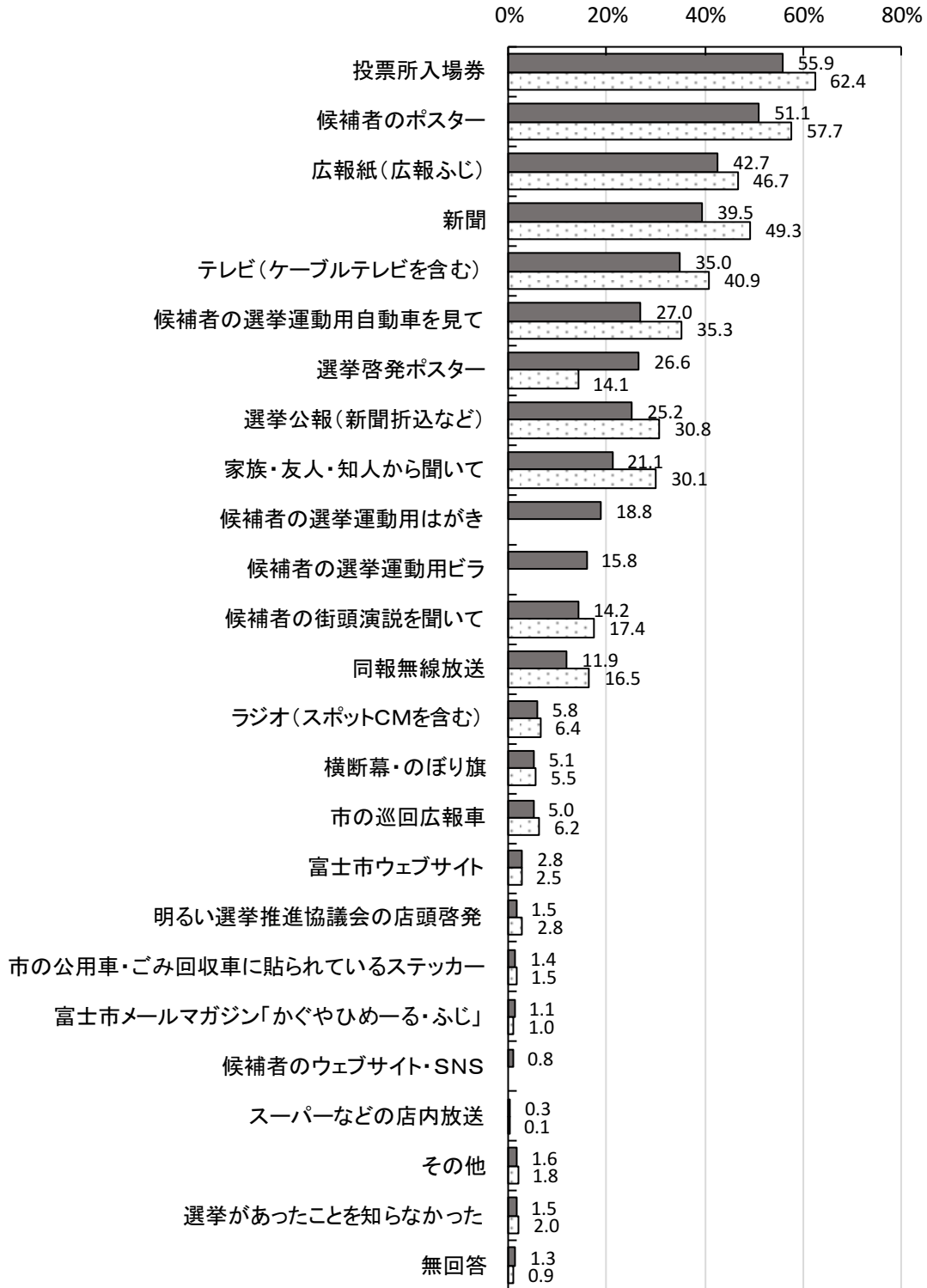
【年代別】



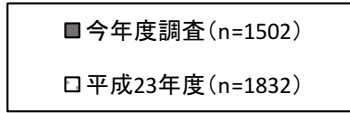


IV 調査結果

【経年比較】



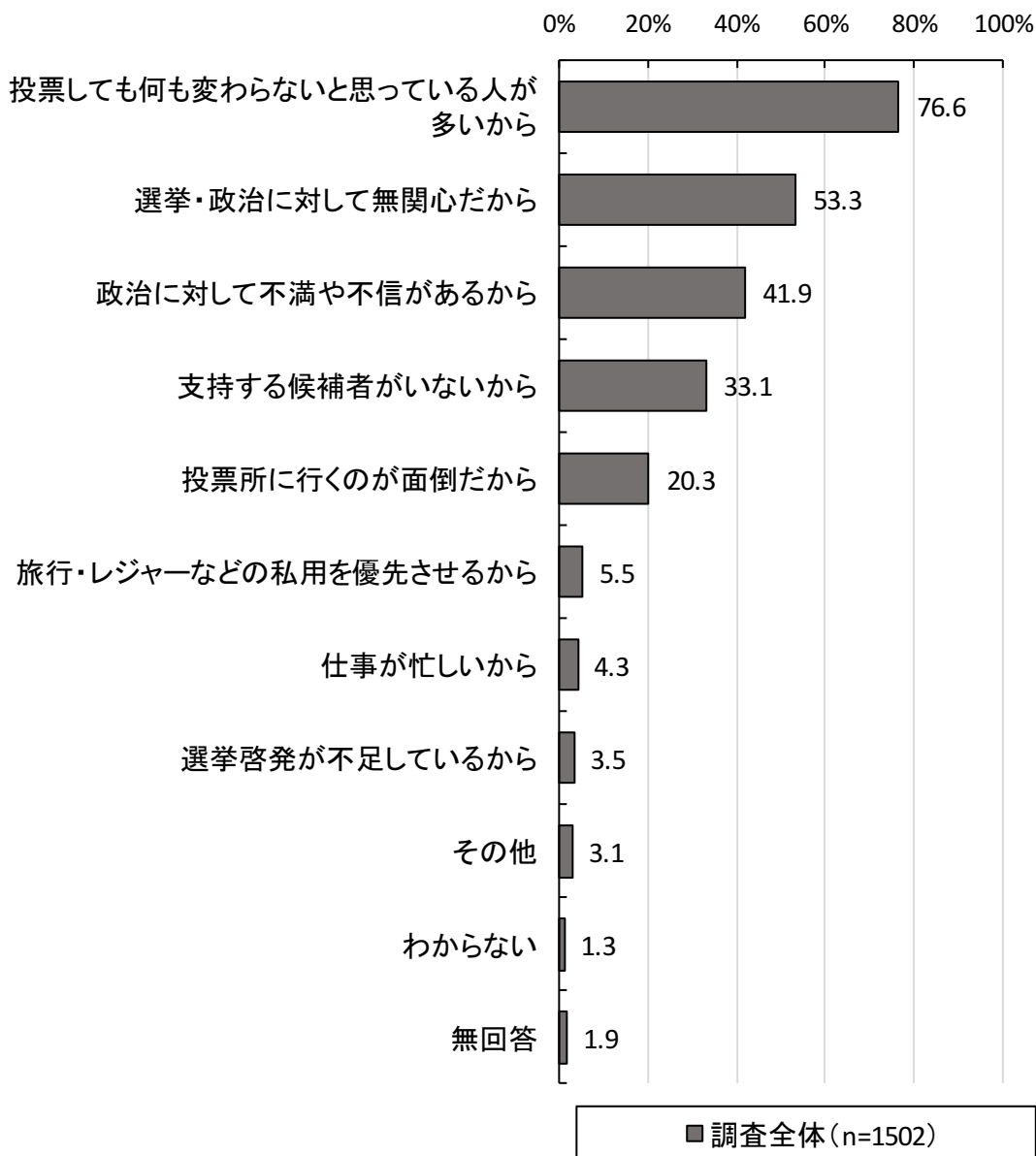
※「候補者の選挙運動用ビラ」「候補者のウェブサイト・SNS」は公職選挙法改正に伴う新設項目。また、前回調査から表現を若干変更した項目がある。





## (4) 投票率の低下原因

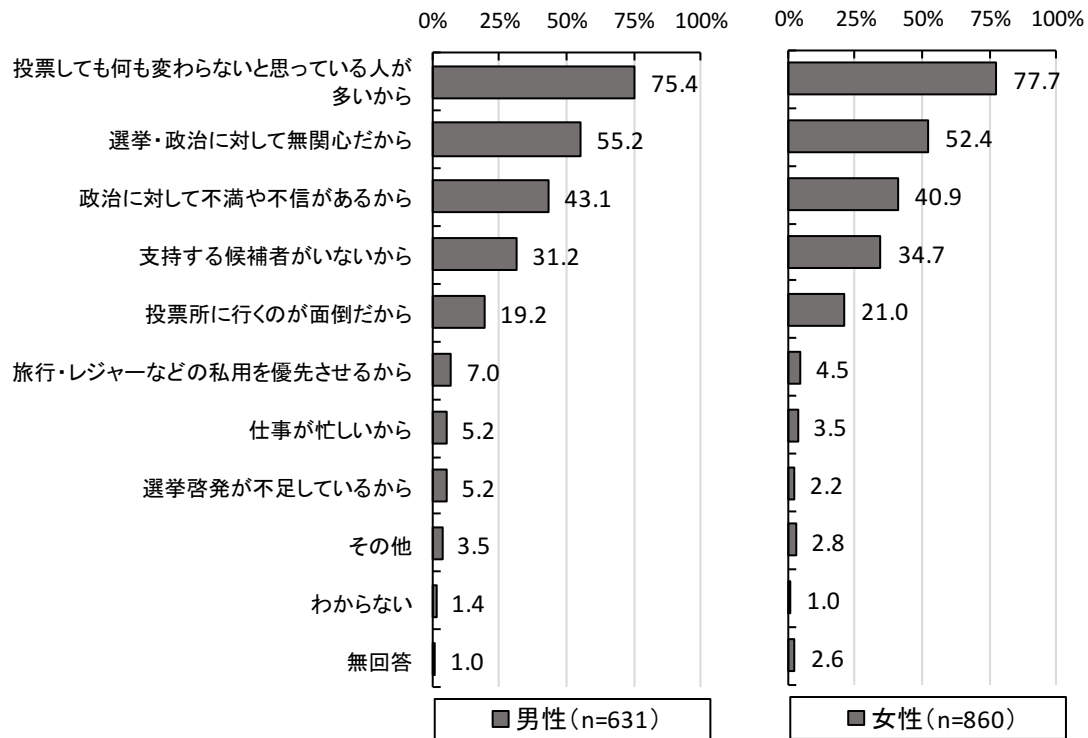
問 37 近年、選挙での投票率が低下傾向にあります。その原因が何にあると思いますか。あなたの考えに近いものを3つ以内で選んで○をつけてください。



投票率の低下原因として考えられるものについて尋ねたところ、「投票しても何も変わらないと思っている人が多いから」が76.6%と最も高くなっている。次いで「選挙・政治に対して無関心だから」が53.3%、「政治に対して不満や不信があるから」41.9%の順となっている。

IV 調査結果

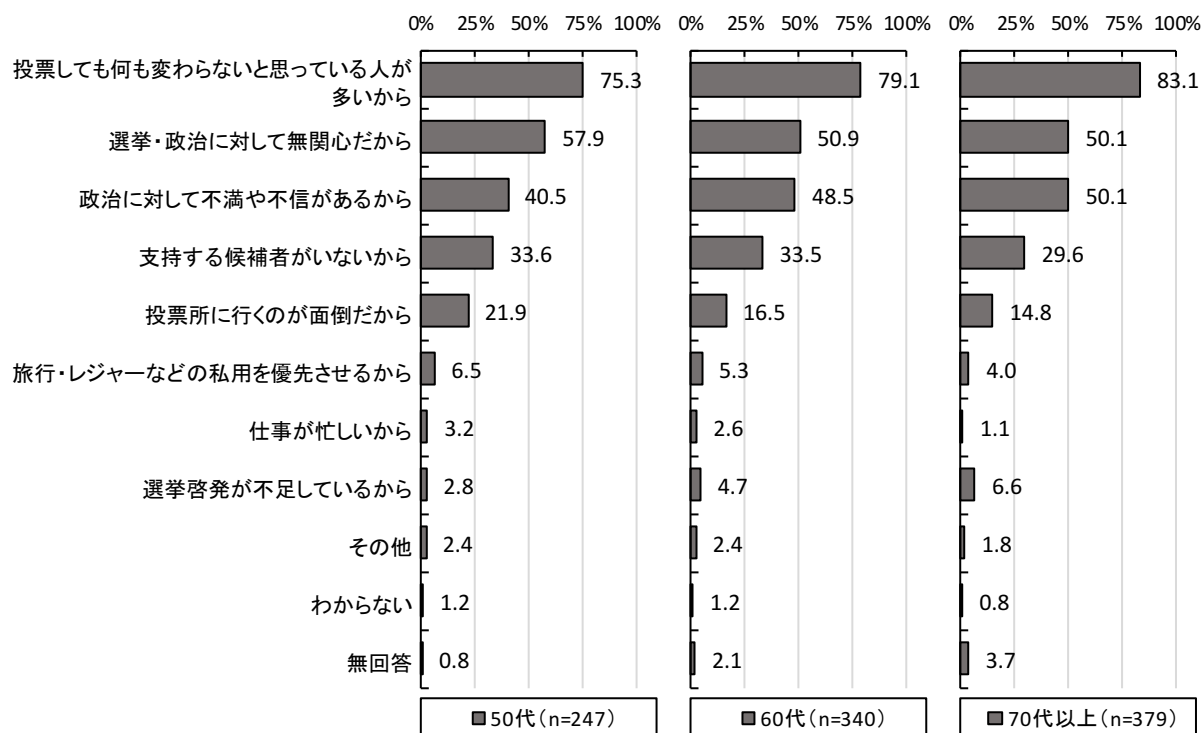
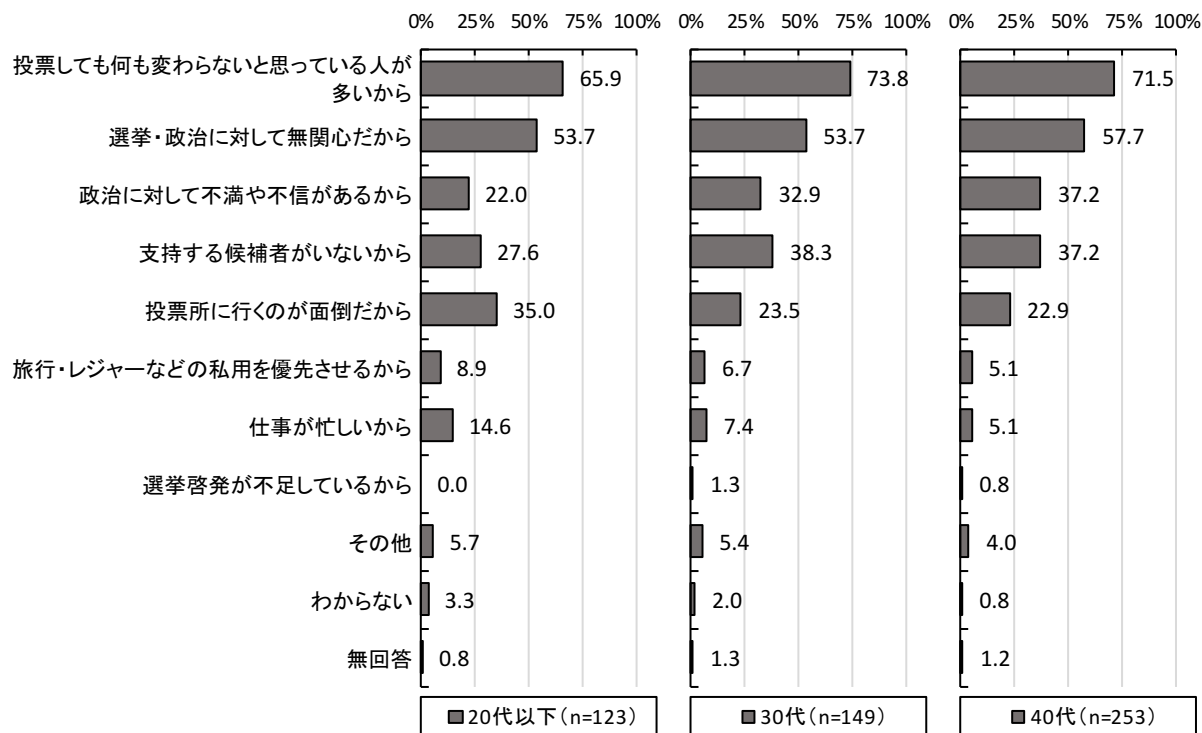
【性別】



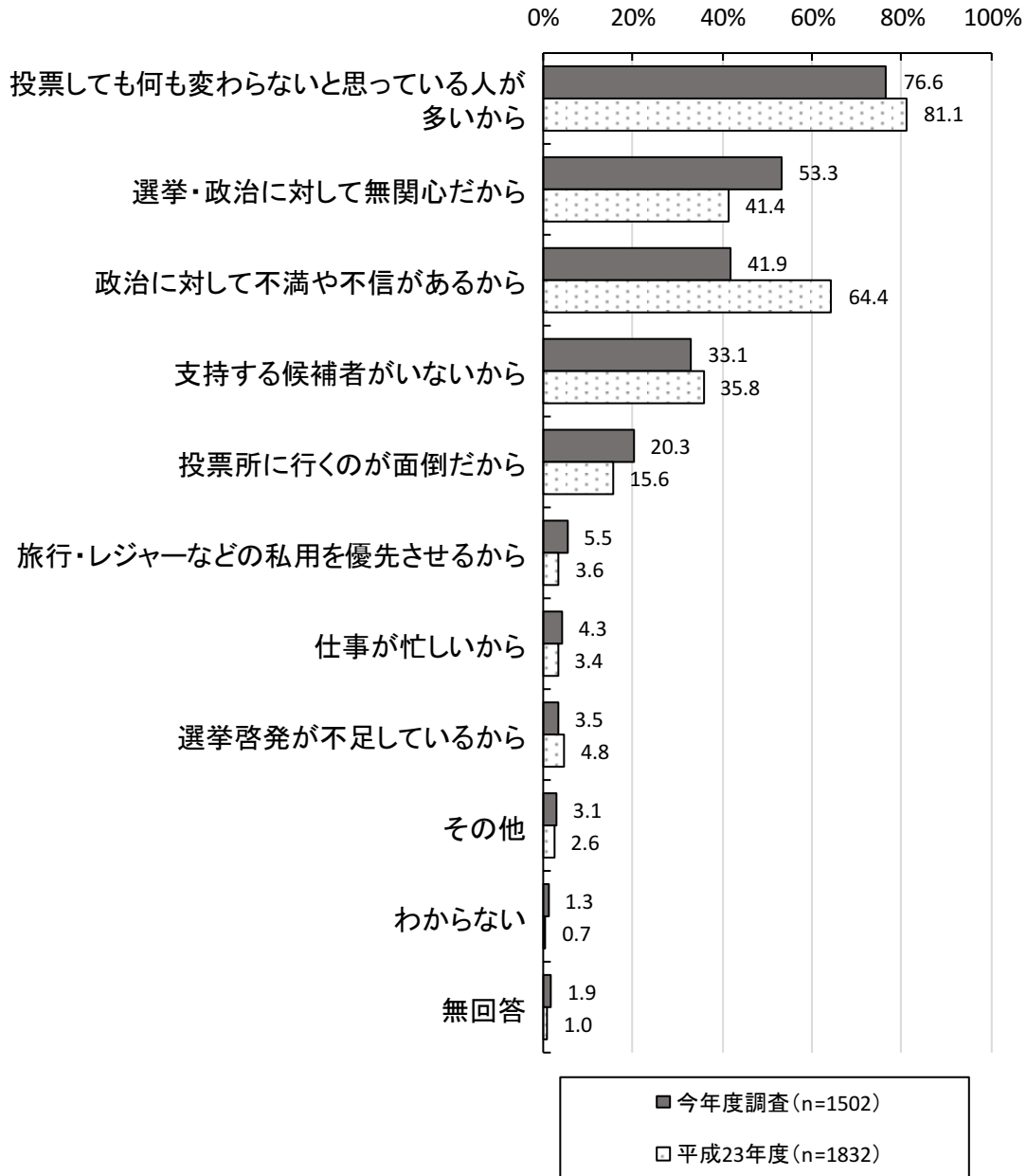
男女別に見ても、男女ともに上位の3項目の順位は変わらない。

年代別に見ると、「投票しても何も変わらないと思っている人が多いから」が全世代で最も高く、特に70代以上で83.1%と他の年代に比べて高い割合となっている。なお、「政治に対して不満や不信があるから」は年代を追うごとに割合が高くなる傾向にある。また、20代以下では、「投票所に行くのが面倒だから」の割合が他の年代に比べて高い。

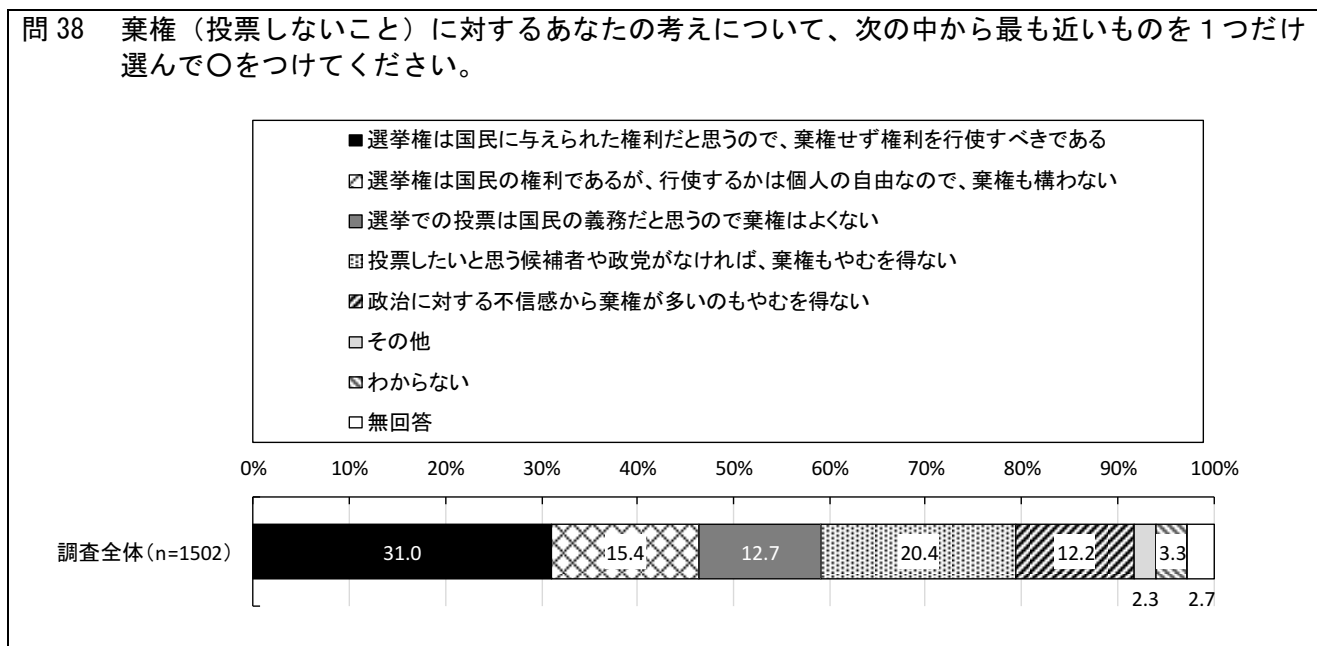
【年代別】



【経年比較】

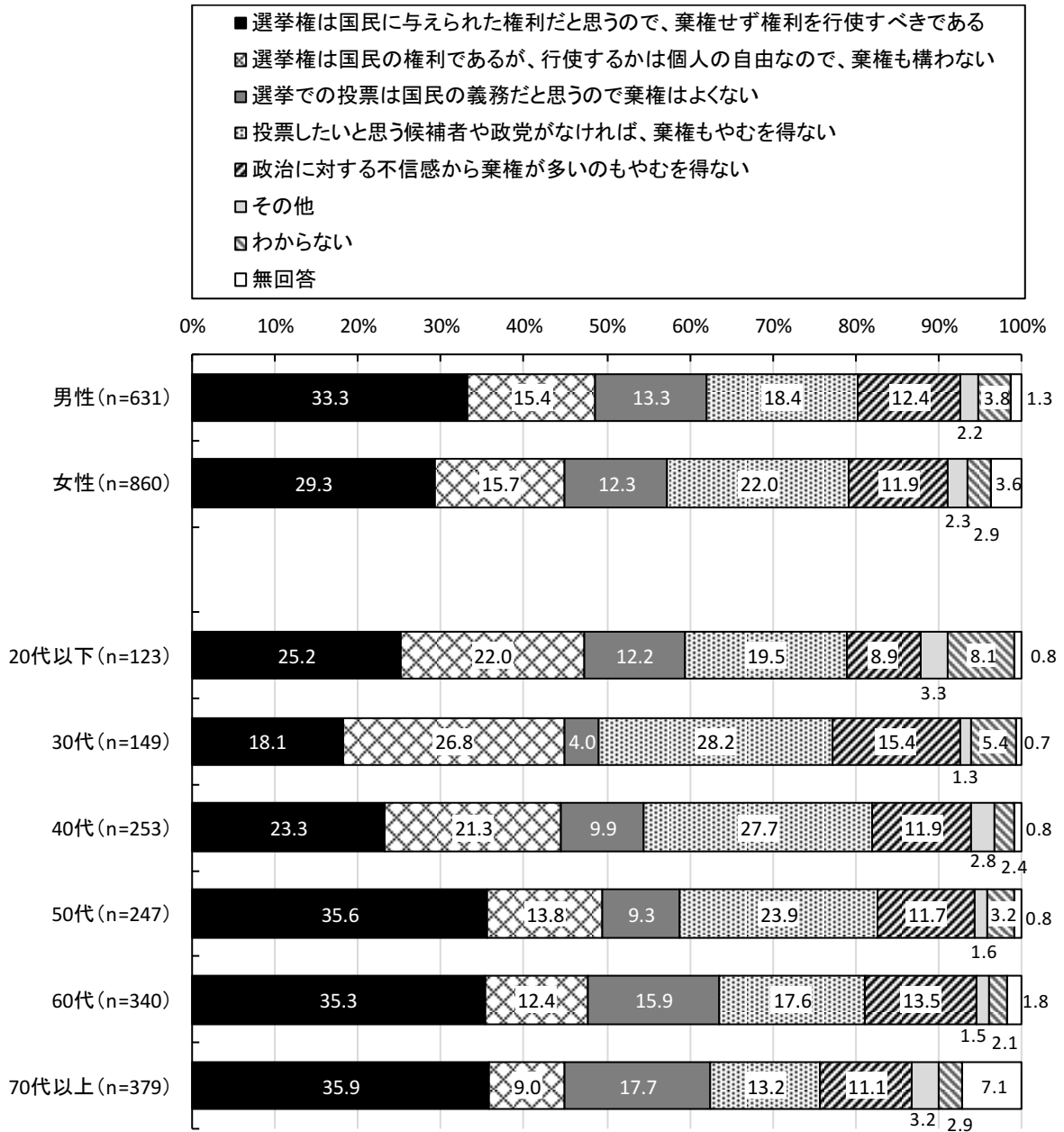


## (5) 棄権に対する意見



棄権に対する意見について尋ねたところ、「選挙権は国民に与えられた権利だと思うので、棄権せず権利を行使すべきである」が31.0%と最も高くなっている。次いで「投票したいと思う候補者や政党がなければ、棄権もやむを得ない」が20.4%、「選挙権は国民の権利であるが、行使するかは個人の自由なので、棄権も構わない」15.4%の順となっている。

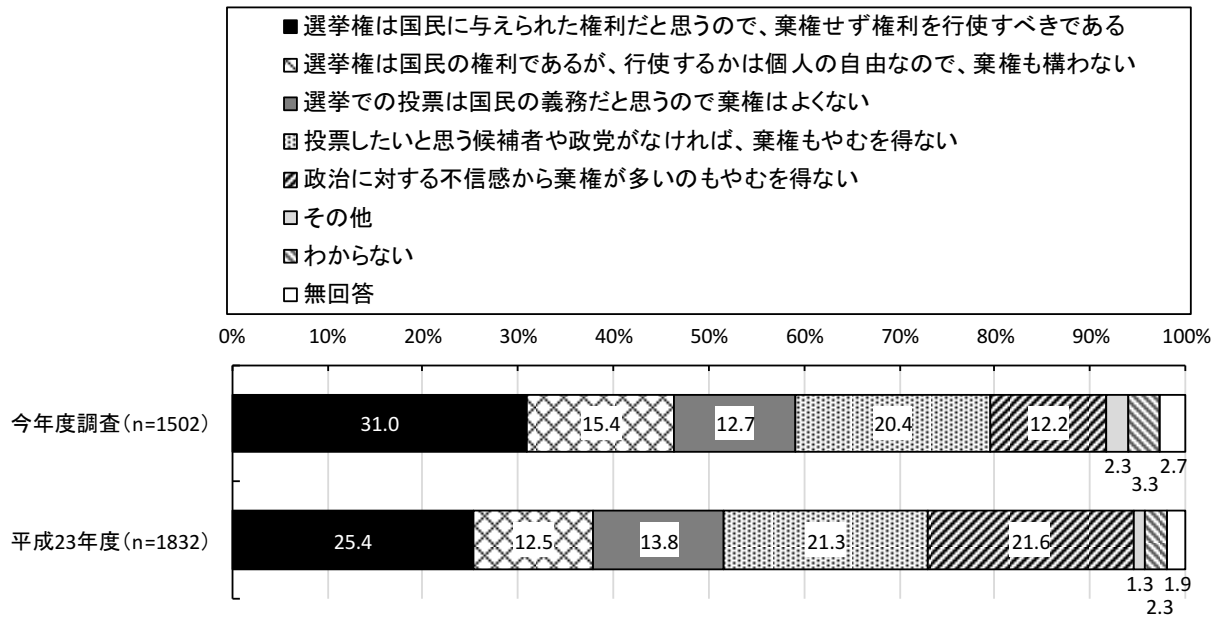
【性別・年代別】



男女別に見ても、男女ともに上位の3項目の順位は変わらない。

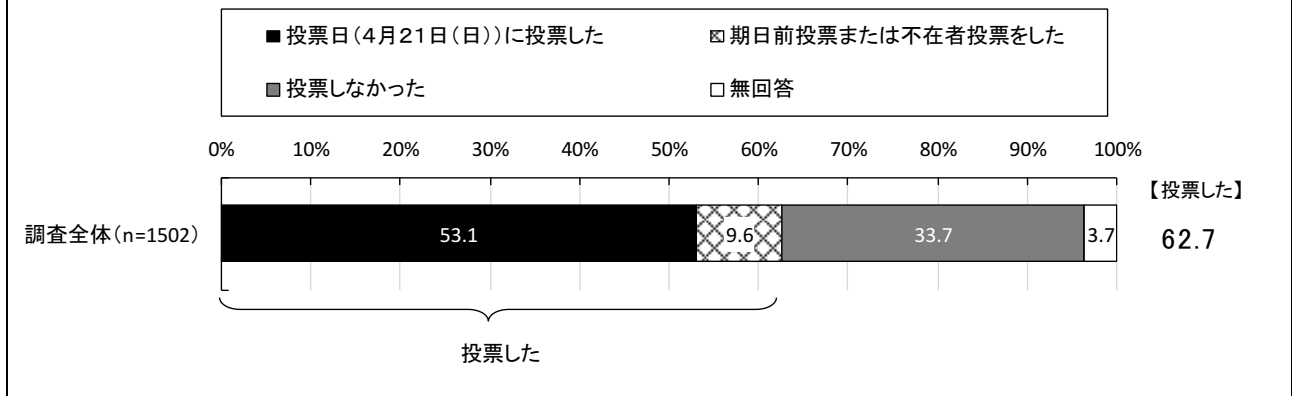
年代別に見ると、「選挙権は国民に与えられた権利だと思うので、棄権せず権利を行使すべきである」が20代以下と50代、60代、70代以上で最も高く、「投票したいと思う候補者や政党がなければ、棄権もやむを得ない」が30代、40代で最も高くなっている。

【経年比較】



(6) 今回の富士市議会議員選挙での投票状況

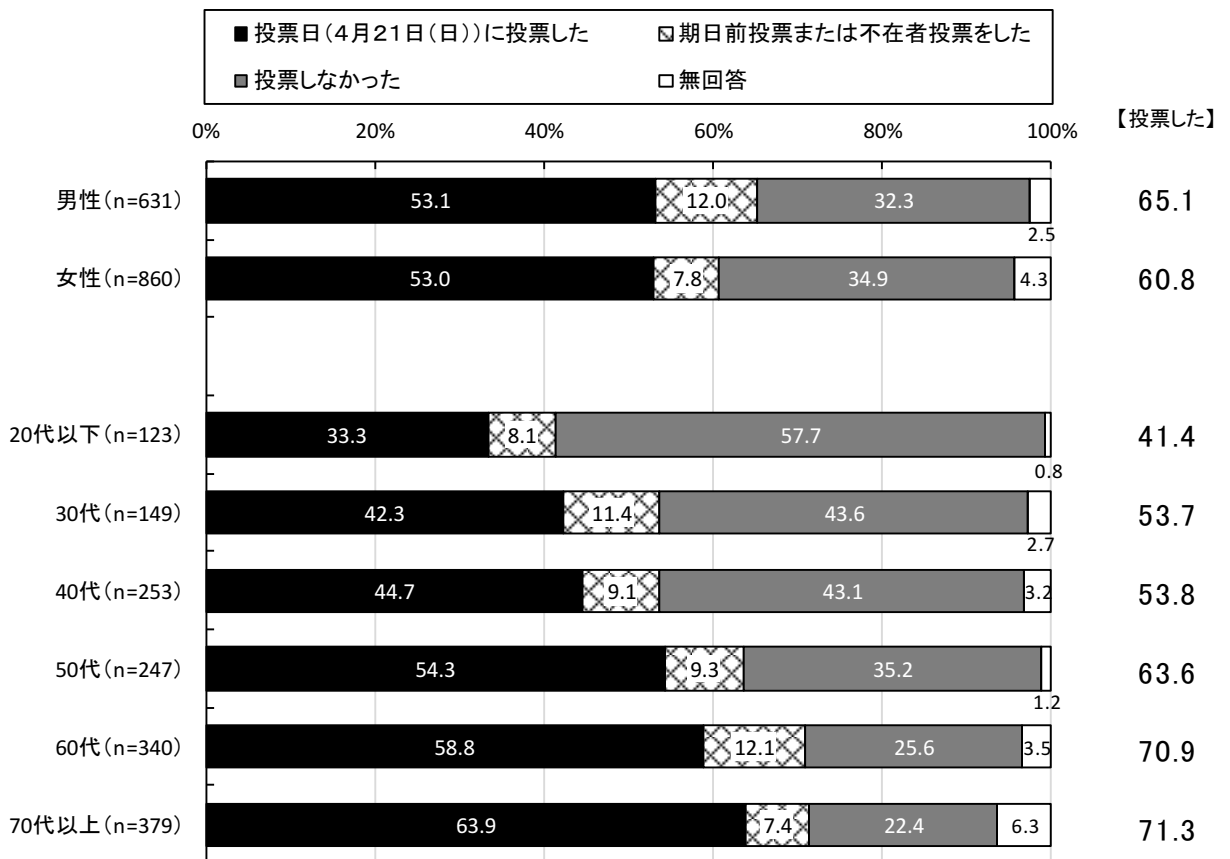
問 39 あなたは、今回の富士市議会議員選挙で投票しましたか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。



富士市議会議員選挙での投票状況について尋ねたところ、「投票日（4月21日（日））に投票した」が53.1%、「期日前投票または不在者投票をした」が9.6%で、それらを合わせた“投票率”の割合は62.7%となっている。

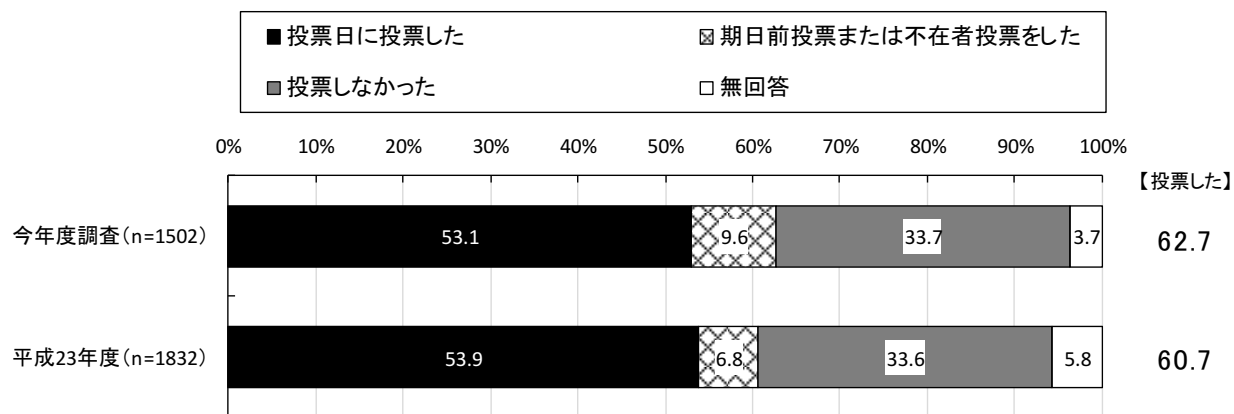
男女別に見ると、“投票率”の割合は、男性65.1%、女性60.8%で男性のほうが高い結果となった。年代別に見ると、“投票率”の割合は、年代を追うごとに高くなる傾向にあり、70代以上では71.3%と最も高くなっている。また、「投票日（4月21日（日））に投票した」の割合も同様に年代を追うごとに高くなる傾向にある。

【性別・年代別】

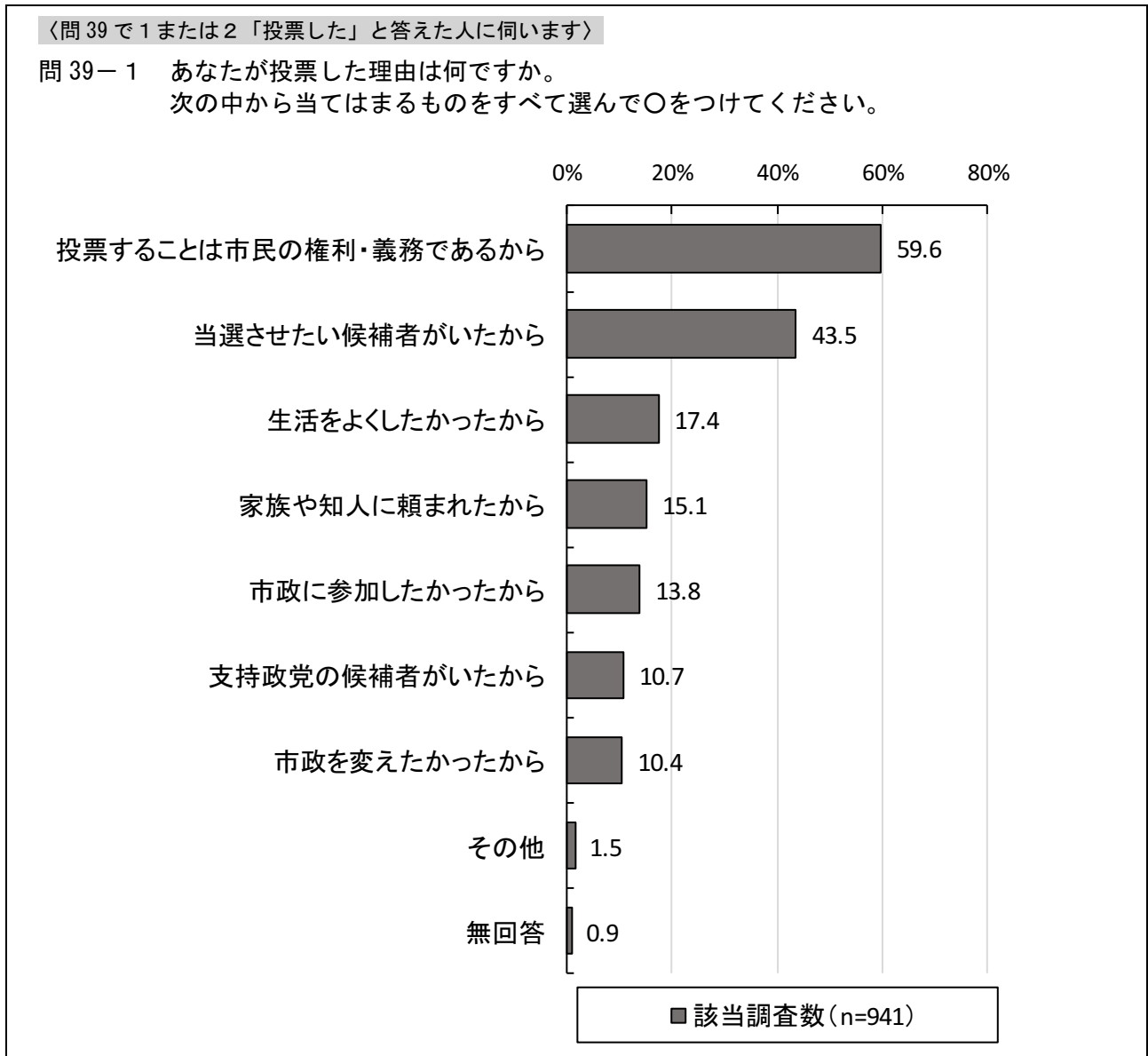




【経年比較】



(7) 投票した理由

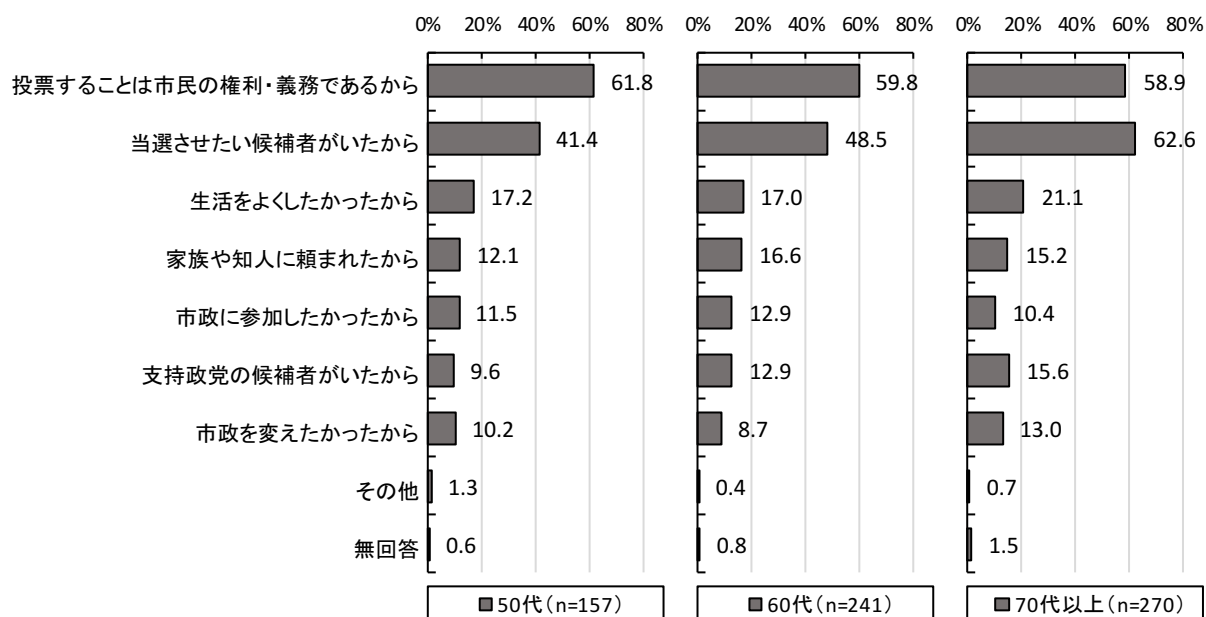
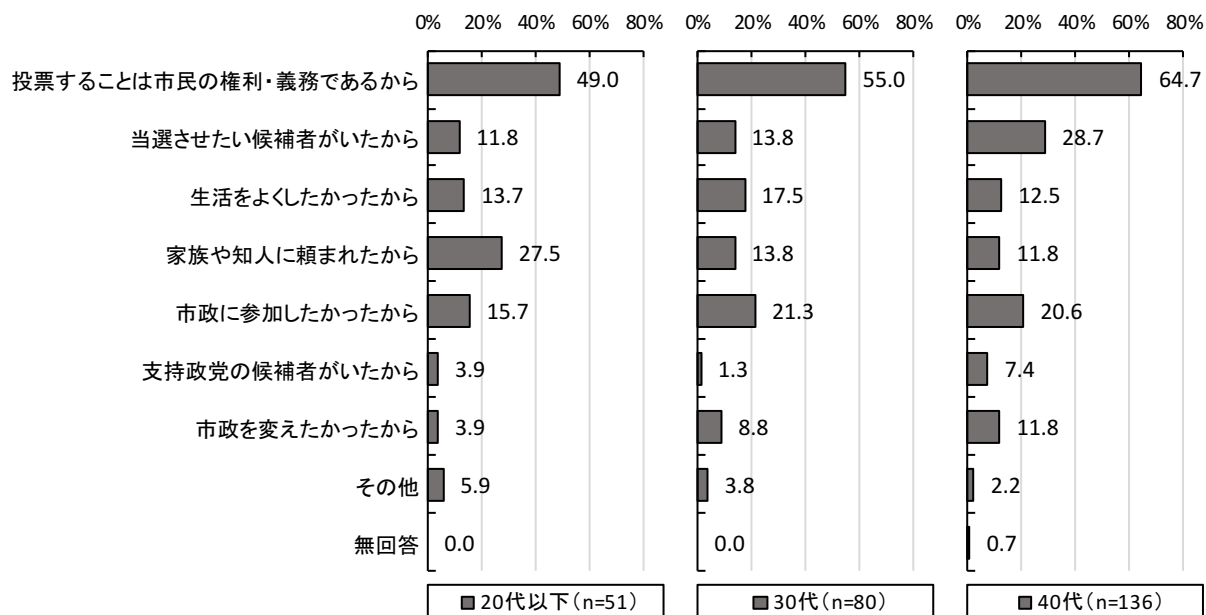
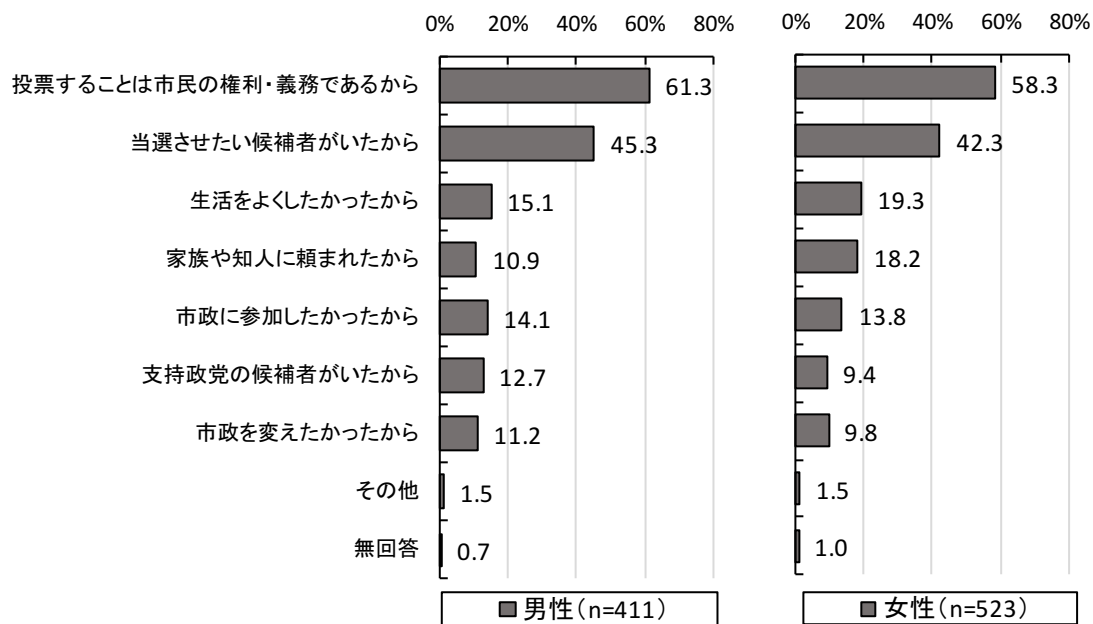


投票した理由について尋ねたところ、「投票することは市民の権利・義務であるから」が 59.6%と最も高く、次いで「当選させたい候補者がいたから」43.5%、「生活をよくしたかったから」17.4%の順となっている。

男女別に見ても、男女ともに上位 2 項目の割合は高い傾向にある。

年代別で見ると、「投票することは市民の権利・義務であるから」が 70 代以上を除いた全世代でトップとなっている。20 代以下では「家族や知人に頼まれたから」の割合が高く、30 代、40 代では「市政に参加したかったから」の割合が他の年代に比べて高い傾向にある。また、「当選させたい候補者がいたから」の割合が 50 代から年代を追うごとに高くなる傾向にあり、70 代以上では 62.6%と最も高くなっている。

【性別・年代別】



(8) 候補者を選んだ理由

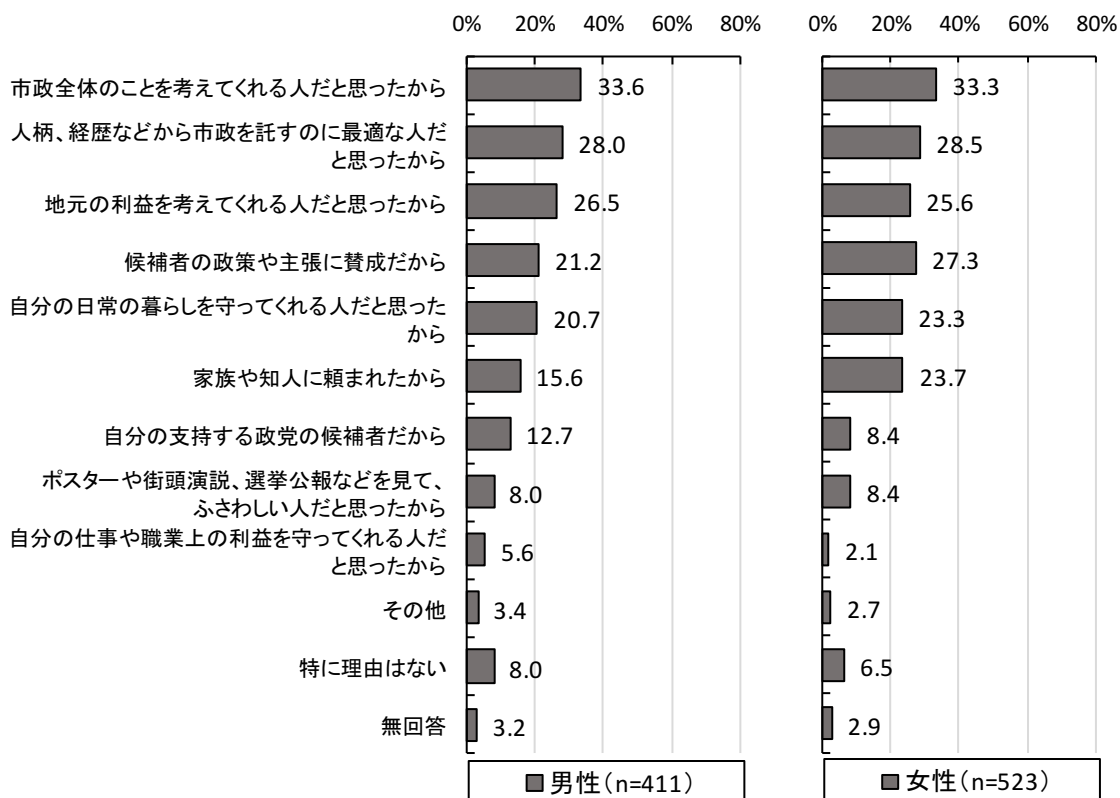
〈問 39 で 1 または 2 「投票した」と答えた人に伺います〉

問 39-2 あなたが投票した候補者を選んだ理由は何ですか。  
次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



候補者を選んだ理由について尋ねたところ、「市政全体のことを考えてくれる人だと思ったから」が 33.3%と最も高く、次いで「人柄、経歴などから市政を託すのに最適な人だと思ったから」28.4%、「地元の利益を考えてくれる人だと思ったから」25.8%となっている。

## 【性別】

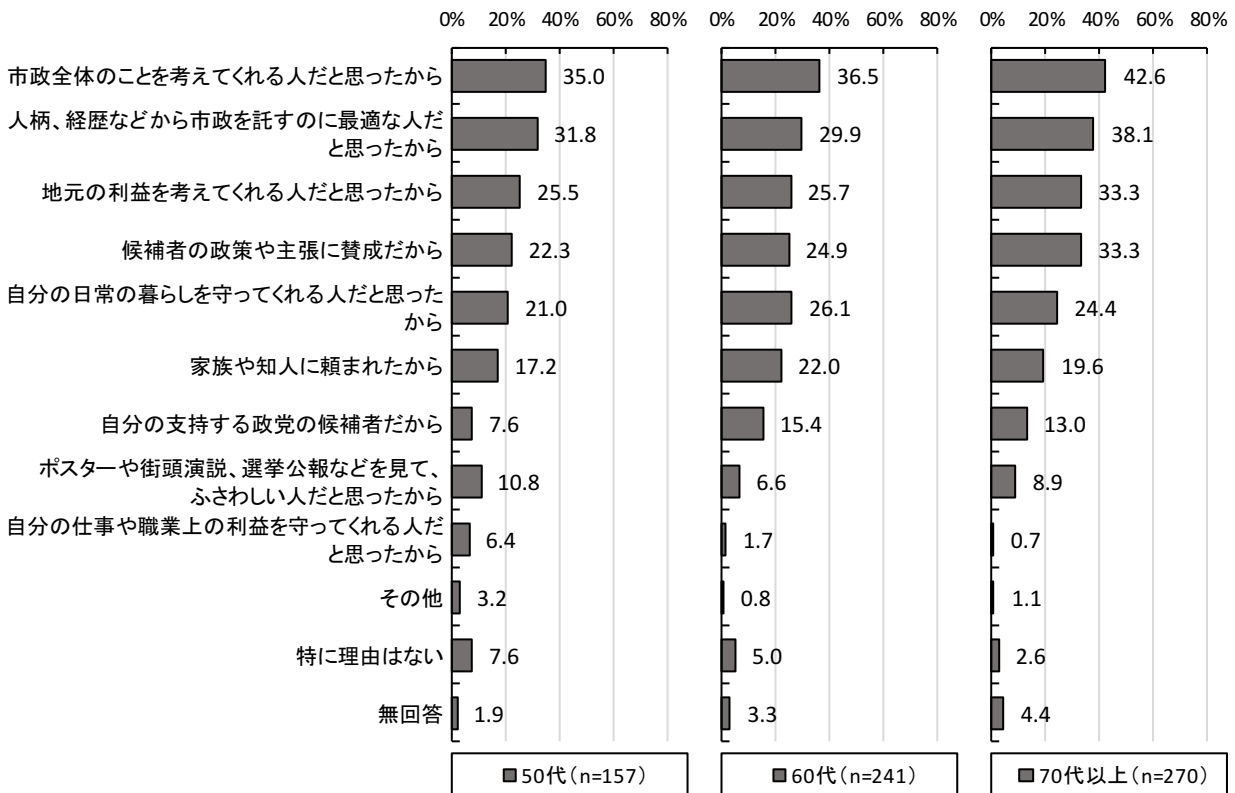
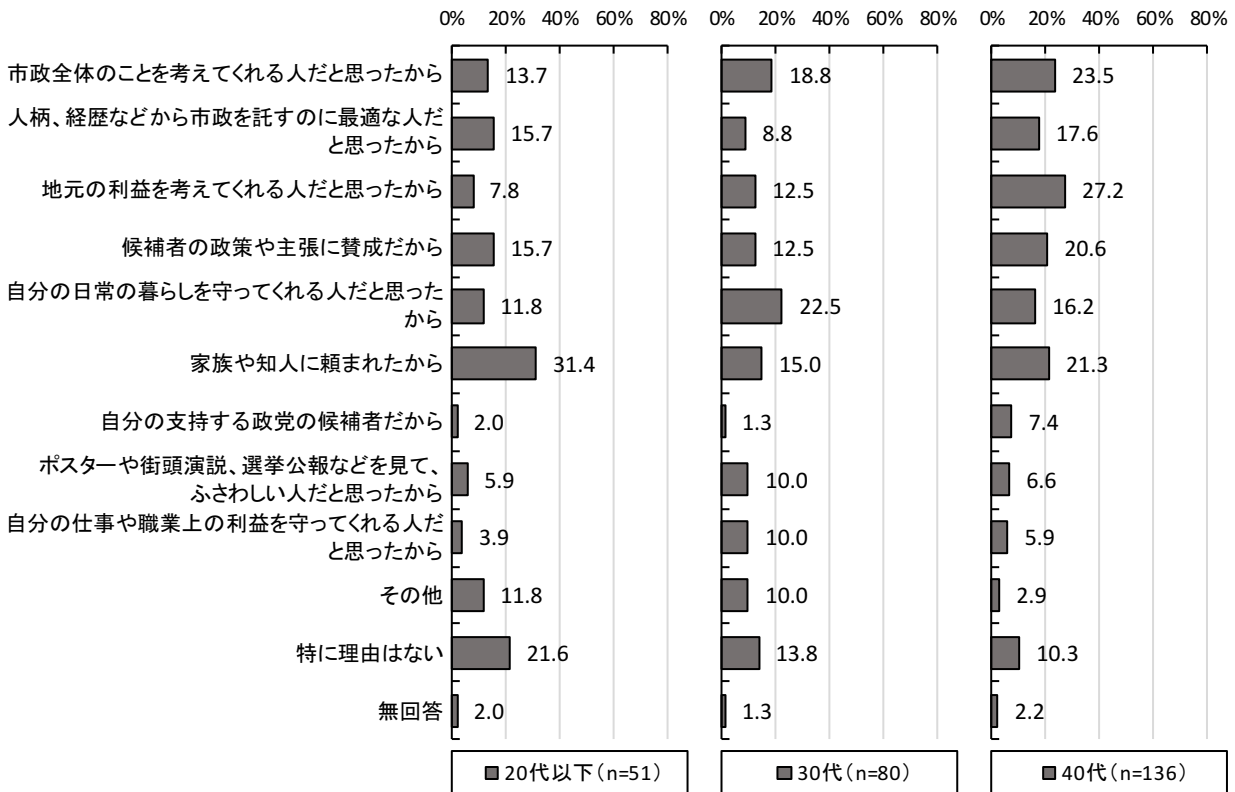


男女別に見ると、上位2項目に加えて、女性は「候補者の政策や主張に賛成だから」の割合が男性に比べて高い。

年代別で見ると、「市政全体のことを考えてくれる人だと思ったから」が50代、60代、70代以上で最も高くなっており、20代以下では「家族や知人に頼まれたから」、30代では「自分の日常の暮らしを守ってくれる人だと思ったから」、40代では「地元の利益を考えてくれる人だと思ったから」の割合が最も高くなっている。

IV 調査結果

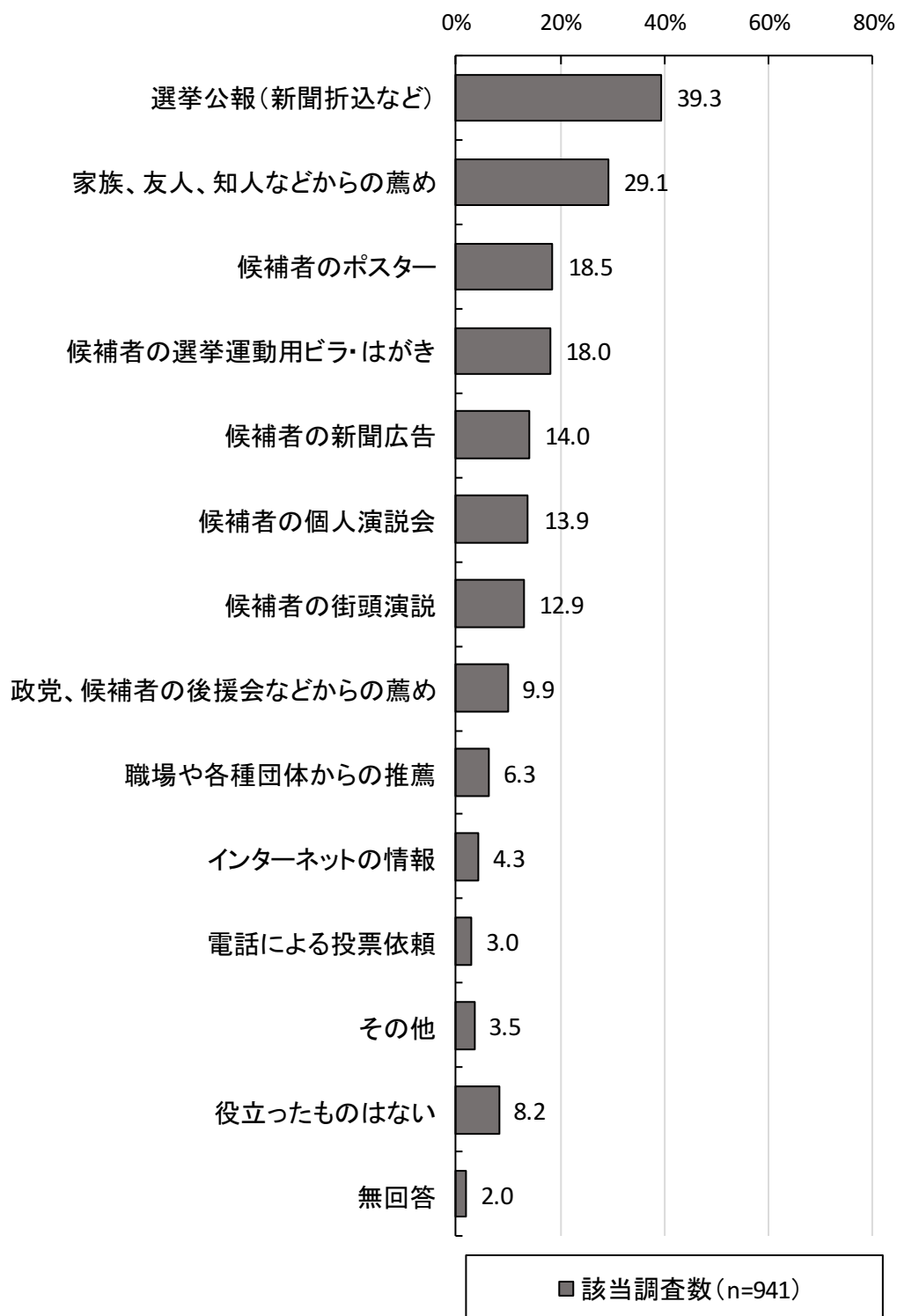
【年代別】



## (9) 候補者選びに役立ったもの

〈問 39 で 1 または 2 「投票した」と答えた人に伺います〉

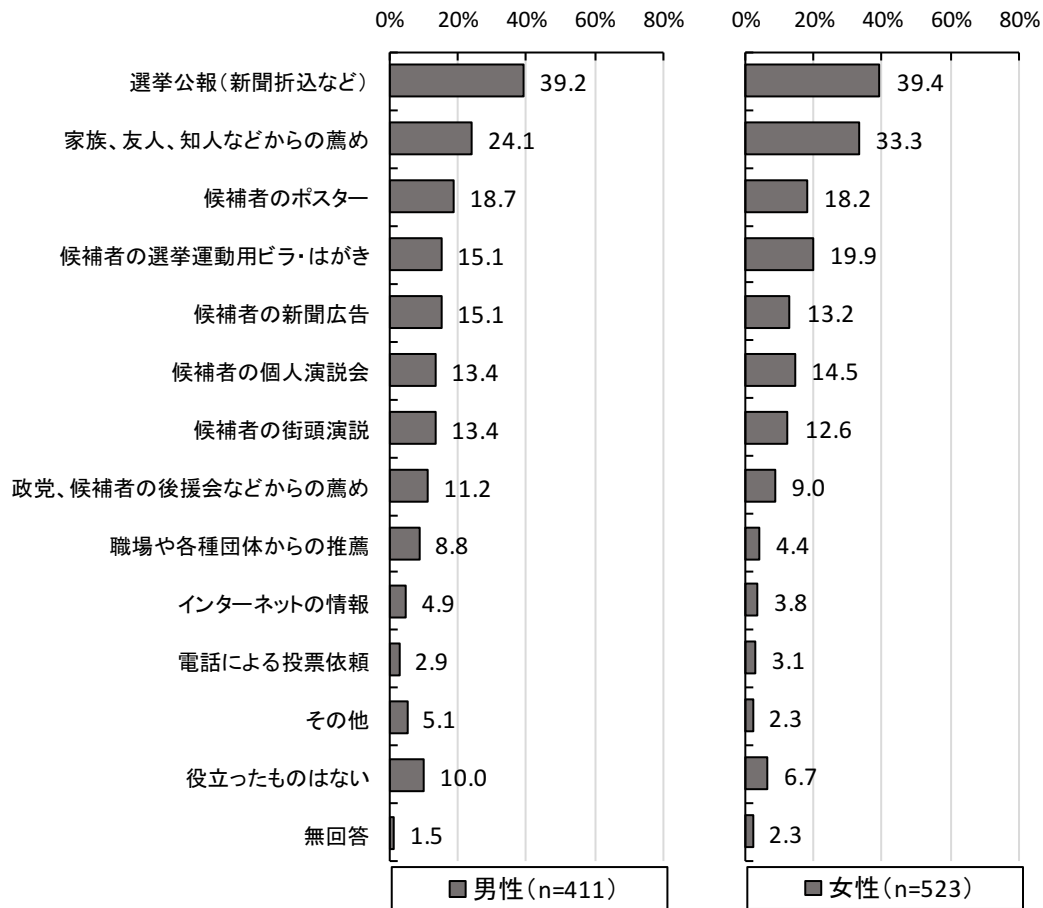
問 39-3 今回の選挙で、あなたが投票する候補者を決めるのに役立ったものは何ですか。次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



候補者選びに役立ったものについて尋ねたところ、「選挙公報(新聞折込など)」が39.3%と最も高く、次いで「家族、友人、知人などからの薦め」29.1%、「候補者のポスター」18.5%の順となっている。

IV 調査結果

【性別】

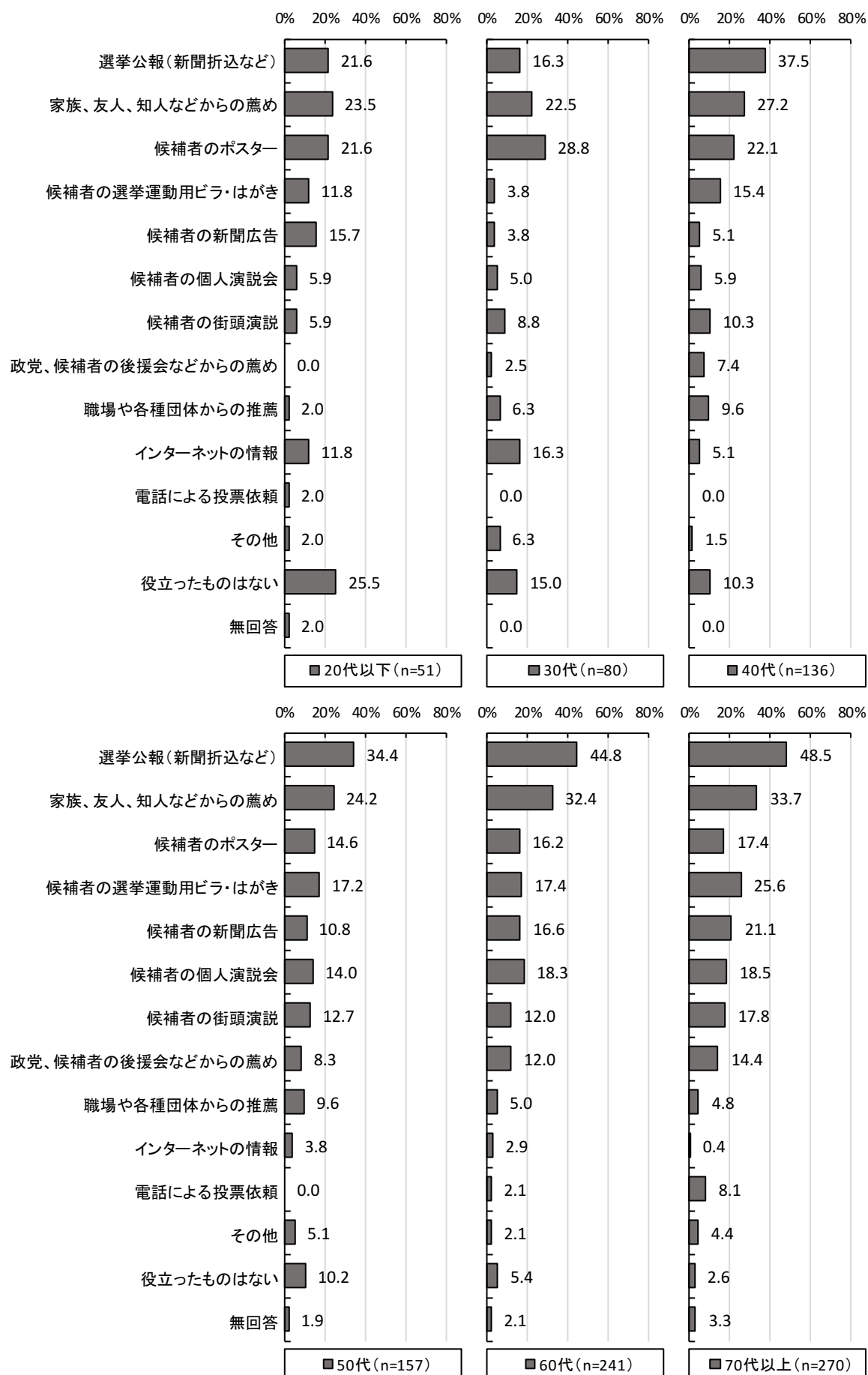


男女別に見ると、上位2項目に加えて、女性は「候補者の選挙運動用ビラ・はがき」の割合が男性に比べて高い。

年代別で見ると、「選挙公報(新聞折込など)」は40代~70代以上にかけて最も高くなっており、30代では「候補者のポスター」の割合が最も高くなっている。なお、20代以下では「役立ったものはない」が最も高くなっている。



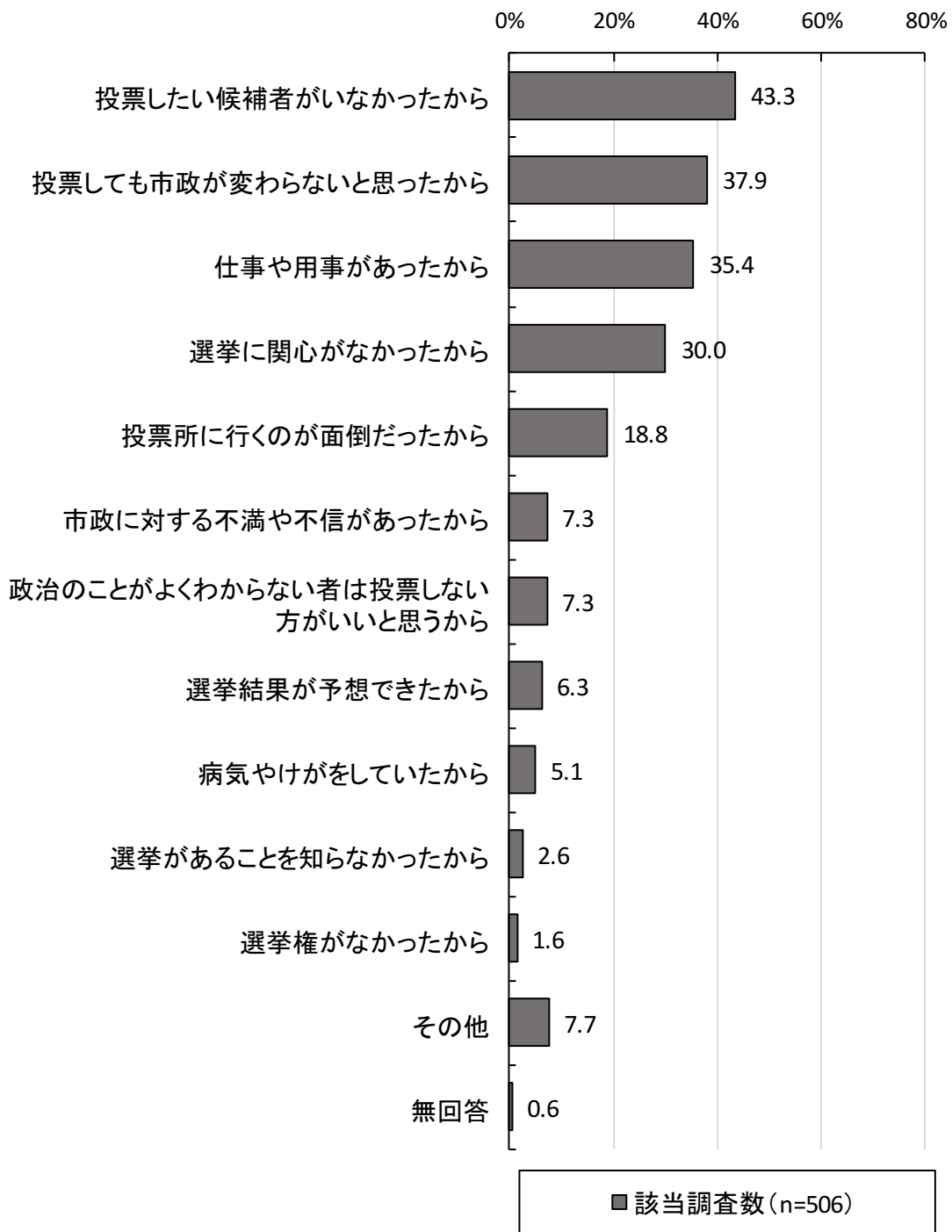
【年代別】



(10) 投票しなかった理由

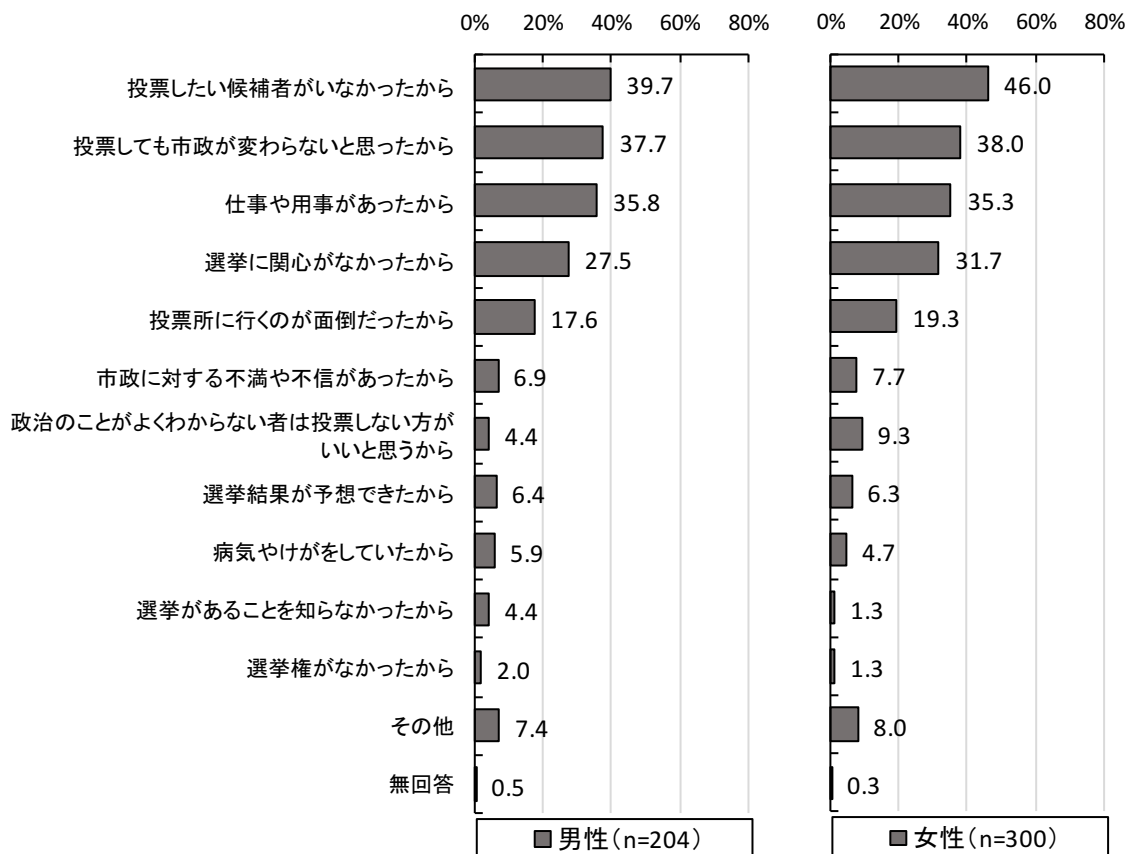
〈問 39 で 3 「投票しなかった」と答えた人に伺います〉

問 39-4 あなたが投票しなかった理由は何ですか。  
次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



投票しなかった理由について尋ねたところ、「投票したい候補者がいなかったから」が 43.3%と最も高く、次いで「投票しても市政が変わらないと思ったから」37.9%、「仕事や用事があったから」35.4%の順となっている。

## 【性別】

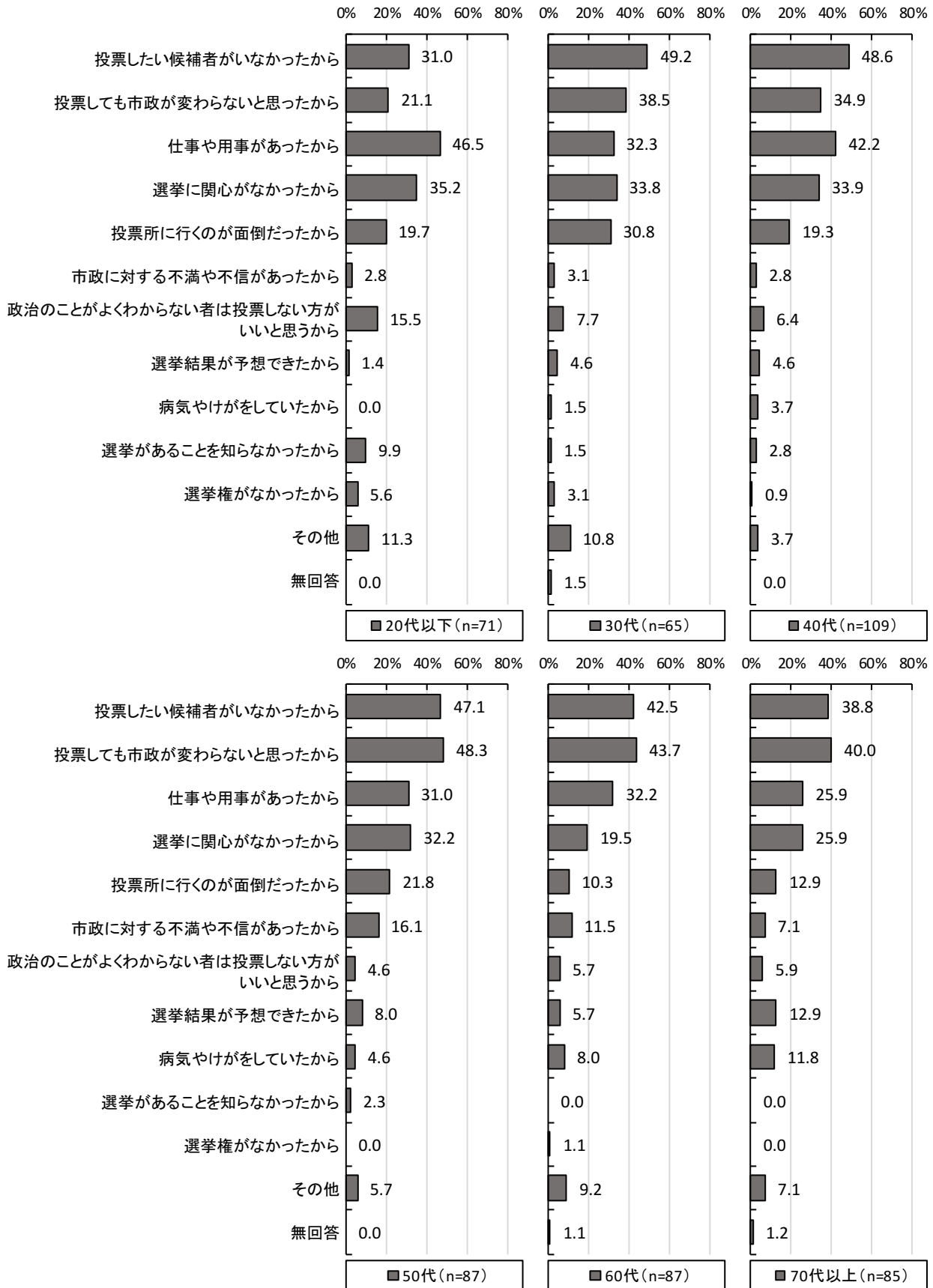


男女別に見ても、男女ともに上位3項目の順位は変わらない。

年代別で見ると、50代～70代以上にかけては「投票しても市政が変わらないと思ったから」、30代、40代では「投票したい候補者がいなかったから」、20代以下では「仕事や用事があったから」が最も高くなっている。なお、20代以下では「政治のことがよくわからない者は投票しない方がいいと思うから」、「選挙があることを知らなかったから」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

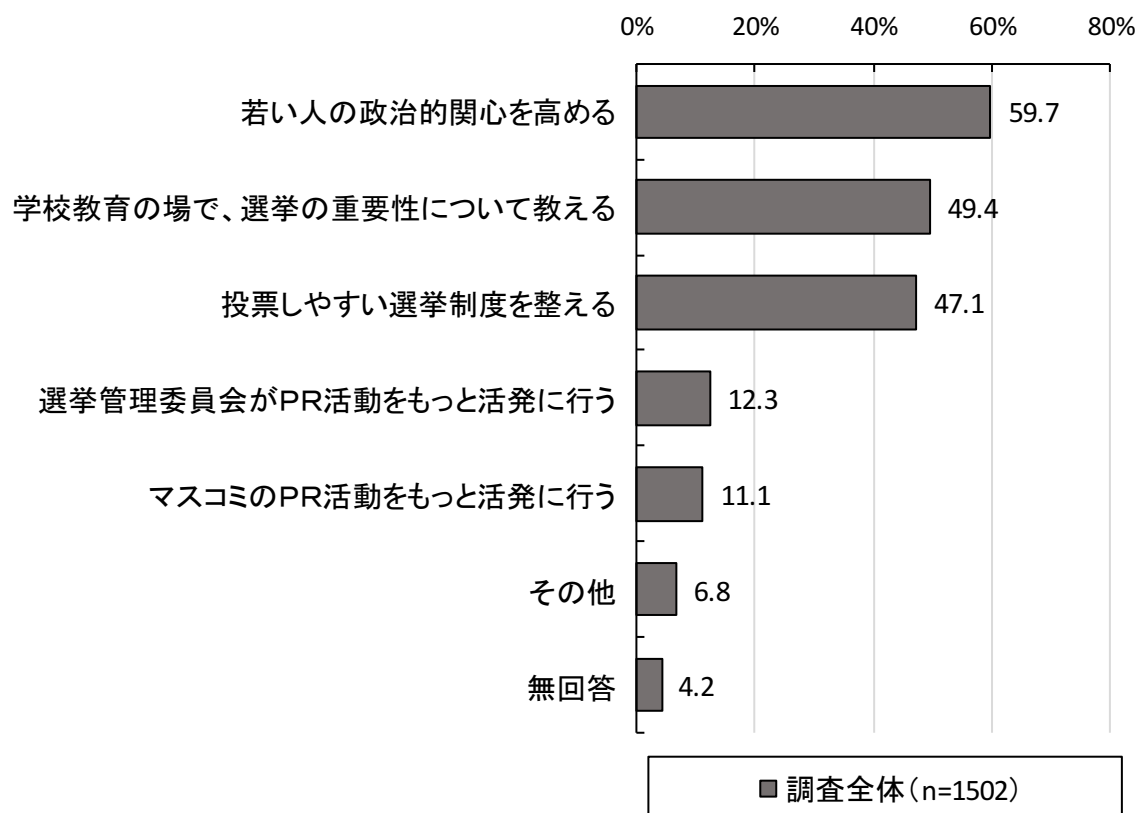
IV 調査結果

【年代別】



## (11) 若者の投票率向上のために必要なこと

問40 若者の投票率向上のためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。



若者の投票率向上のために必要なことを尋ねたところ、「若い人の政治的関心を高める」が 59.7% と最も高く、次いで「学校教育の場で、選挙の重要性について教える」49.4%、「投票しやすい選挙制度を整える」47.1%の順となっている。

男女別に見ると、「若い人の政治的関心を高める」が最も高かったことは男女ともに変わらないが、男性では「学校教育の場で、選挙の重要性について教える」が 51.2%、女性では「投票しやすい選挙制度を整える」が 48.7%と高くなっている。

年代別で見ると、「若い人の政治的関心を高める」が 40代を除いた全世代でトップとなった。特に 70代以上では 67.3%と最も高くなっている。

IV 調査結果

【性別・年代別】

